

# 田圃遺跡(Ⅱ)

1999. 12

長野県飯田市教育委員会

# 田圃遺跡(Ⅱ)

1999. 12

長野県飯田市教育委員会

# 序

田圃遺跡発掘調査は、平成7年度より始められました。それは、飯田市立緑ヶ丘中学校の改築事業に伴って着手をみたものであります。

当松尾地区は、歴史的にみると、地区内に先人たちがとどめた足跡が旧石器時代以来各所に刻まれており、弥生時代中期以降大規模な集落が多数営まれております。又、古墳時代においては、伊那谷最古と考えられる長野県史跡代田山狐塚古墳や眉庇付冑を出土した妙前大塚をはじめ、竜丘・座光寺とともにたくさんの古墳が築造されており、中世以降にあっては、信濃国守護職小笠原氏の居城松尾城が築かれております。

近時この松尾地区は、一般国道153号飯田バイパスの建設、飯田市立病院の移転新築、終末処理施設の建設等急速に住環境が整備され開発が進行している地域でもあります。

今回の調査により、弥生時代後期から中世にかけての集落址・墓址の一郭が調査され、多数の遺構が検出されました。特に、奈良時代から平安時代にかけての遺構には、礎石建ちの規模の大きな住居址や建物址が含まれるなど、飯田下伊那地区内でも中核的な集落があった様子がうかがわれますし、これまで知られていなかった古墳の他、円形周溝墓や大型の方形周溝墓各1基が調査されております。いずれも出土遺物から5世紀代に位置づけられ、墓の形態が短時間に変化する様子が把握されました。

更に、竜丘・座光寺地区と並んで古墳が多い地区ということの他、墳墓の変遷などからみても古墳時代の中心的地域であったことが、またひとつ裏づけられました。これに引き続く奈良時代以降も、基幹的な集落として飯伊地方で重要な位置を占めていたことが明らかになり、まだ決着のついていない問題ではありますが、東山道が天竜川右岸中位の段丘上を通過した可能性を示唆するものとも考えられます。

今回の発掘を契機に、更にこの時代の調査研究が、一層深化発展することを願わずにはられません。

最後になりましたが、この田圃遺跡発掘調査に関わっていただいた地元の皆様、又、この発掘調査に従事された作業員の方々に深甚なる感謝を捧げまして発刊の辞といたします。

平成11年12月

飯田市教育委員会

教育長 小林恭之助

# 例 言

1. 本書は飯田市立緑ヶ丘中学校の改築事業に先立って実施された、飯田市毛賀田圃遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 調査は、飯田市教育委員会が直営実施した。
3. 調査は、平成7・8年度に現地作業、平成9～11年度に整理作業及び報告書作成作業を行った。
4. 調査実施に当たり、基準点測量・航空測量・航空写真撮影・遺物写真撮影を株式会社ジャステックに委託した。
5. 発掘作業・整理作業に当たり、遺跡略号TNBを一貫して用いた。第1・3～5地点は地番470を、また、第2地点は地番432-1を略号に続けて付した。
6. 本報告書では以下の遺構略号を使用している。竪穴住居址－SB、掘立柱建物址－ST、古墳・周溝墓－SM、溝・溝状址－SD、集石－SI、土坑－SK
7. 本報告書の記載順は地点別を優先し、次いで遺構別とした。なお、竪穴住居址については時期別とした。遺構図は本文とあわせ挿図とした。
8. 土層の色調については、『新版標準土色帖』1995・1996年版の表示に基づいて示した。
9. 本書に関わる図面の整理は、調査員・整理作業員の協力により馬場保之が行なった。
10. 本書の執筆と編集は調査員の協議により馬場が行なった。
11. 本書の遺構図にのちに記した数字は、検出面・床面からそれぞれの穴の深さ(単位)を表している。
12. 本書に関連した出土遺物及び図面写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館に保管している。

# 本文目次

序

例言

目次

## 第I章 経過

第1節 調査の経過 .....	1
第2節 調査組織 .....	1

## 第II章 遺跡の環境

第1節 自然環境 .....	4
第2節 歴史環境 .....	5

## 第III章 調査結果

第1節 調査区の設定 .....	10
------------------	----

第2節 基本層序 .....	10
----------------	----

第3節 第1地点の遺構と遺物 .....	10
----------------------	----

(1) 竪穴住居址 .....	16
-----------------	----

1) 弥生時代後期～古墳時代前期 .....	16
------------------------	----

①SB02 ②SB03 ③SB04 ④SB05 ⑤SB07 ⑥SB12

2) 古墳時代中期～後期 .....	20
--------------------	----

①SB13 ②SB27

3) 奈良時代～平安時代前期 .....	23
----------------------	----

①SB08 ②SB21 ③SB22 ④SB24 ⑤SB28

4) 平安時代後期 .....	27
-----------------	----

①SB17 ②SB18 ③SB37

5) 中世 .....	28
-------------	----

①SB06

6) 時期不明 .....	29
---------------	----

①SB09 ②SB10 ③SB11 ④SB14 ⑤SB15 ⑥SB16 ⑦SB19 ⑧SB20

⑨SB23 ⑩SB25 ⑪SB26 ⑫SB29 ⑬SB30 ⑭SB32 ⑮SB33 ⑯SB35

⑰SB36 ⑱SB38 ⑲SB39 ⑳SB40 ㉑SB41 ㉒SB42 ㉓SB43

(2) 掘立柱建物址 .....	43
------------------	----

①ST01 ②ST02 ③ST03 ④ST04 ⑤ST05 ⑥ST06 ⑦ST07 ⑧ST08

⑨ST09 ⑩ST10 ⑪ST11 ⑫ST12 ⑬ST13

(3) 周溝墓 .....	59
---------------	----

①SM04 ②SM05 ③SM06 ④SM07 ⑤SM08 ⑥SM09 ⑦SM10 ⑧SM11

⑨SM12	
(4) その他の遺構	70
第4節 第2地点の遺構と遺物	98
(1) 竪穴住居址	98
1)古墳時代中期～後期	98
①SB44 ②SB46	
2)平安時代後期	100
①SB45 ②SB48	
3)時期不明	101
①SB47	
(2) その他の遺構	101
第5節 第3地点の遺構と遺物	105
(1) 竪穴住居址	105
1)奈良時代～平安時代前期	105
①SB49 ②SB50 ③SB59	
2)平安時代後期	108
①SB57	
3)時期不明	109
①SB54 ②SB55 ③SB56 ④SB58 ⑤SB60 ⑥SB61 ⑦SB62	
(2) 方形周溝墓	112
①SM13 ②SM18 ③SM19	
(3) その他の遺構	118
第6節 第4地点の遺構と遺物	118
(1) 竪穴住居址	119
1)古墳時代中期～後期	119
①SB74 ②SB76	
2)奈良時代～平安時代前期	120
①SB68 ②SB72 ③SB73 ④SB78 ⑤SB80 ⑥SB81 ⑦SB82	
3)平安時代後期	126
①SB70 ②SB71 ③SB75 ④SB77 ⑤SB79	
4)中世	131
①SB69	
5)時期不明	131
①SB67 ②SB83	
(2) 方形周溝墓	132
①SM20 ②SM21	
(3) その他の遺構	134

第7節 第5地点の遺構と遺物 .....	142
(1) 竪穴住居址 .....	142
1) 平安時代後期 .....	142
①S B51 ②S B64 ③S B65	
2) 時期不明 .....	145
①S B52 ②S B53 ③S B63	
(2) 方形周溝墓 .....	146
①SM14 ②SM15 ③SM16 ④SM17	
(3) その他の遺構 .....	151
第8節 遺構外出土遺物 .....	151
第IV章 総括 .....	165
引用参考文献 .....	173
報告書抄録 .....	225

## 挿 図 目 次

挿図1 調査遺跡位置図 .....	6	挿図21 S B23・26 .....	34
挿図2 調査遺跡および周辺遺跡位置図…	7	挿図22 S B29・30 .....	36
挿図3 調査位置図 .....	9	挿図23 S B32 .....	37
挿図4 基準メッシュ図区画調査位置 …	11	挿図24 S B33・35・36・38~40 .....	39
挿図5 調査地の地質概況 .....	12	挿図25 S B41~43 .....	42
挿図6 第1・2地点遺構全体図 .....	13・14	挿図26 S T01 .....	44
挿図7 第3~5地点遺構全体図 .....	15	挿図27 S T02 .....	45
挿図8 S B02 .....	16	挿図28 S T03 .....	46
挿図9 S B03~05 .....	18	挿図29 S T04 .....	47
挿図10 S B07 .....	19	挿図30 S T05 .....	48
挿図11 S B12・13 .....	20	挿図31 S T06 .....	49
挿図12 S B27 .....	21	挿図32 S T07A・B .....	50
挿図13 S B08・21 .....	22	挿図33 S T08 .....	51
挿図14 S B22 .....	23	挿図34 S T09A・B .....	52
挿図15 S B24・25 .....	24	挿図35 S T10 .....	53
挿図16 S B17・18・28 .....	26	挿図36 S T11 .....	54
挿図17 S B37 .....	27	挿図37 S T12 .....	55
挿図18 S B06 .....	28	挿図38 S T13 .....	56
挿図19 S B09~11・14・15 .....	30	挿図39 S M04 .....	57・58
挿図20 S B16・19・20 .....	32	挿図40 S M05 .....	59

挿図41	S M06・S D26	61	挿図78	S B49・50	106
挿図42	S M07	62	挿図79	S B59	107
挿図43	S M08	64	挿図80	S B57・60	108
挿図44	S M09	65	挿図81	S B54~56・58・61・62	109
挿図45	S M10	67	挿図82	S M13・18・19	112
挿図46	S M11	68	挿図83	S K45~49・51・52	114
挿図47	S M12	69	挿図84	S K53~56、S I07	115
挿図48	S K13~17	72	挿図85	S D36~42	116
挿図49	S K18~24	73	挿図86	周辺柱穴平面図(20)	117
挿図50	S K25~27・29~34	74	挿図87	S B74	119
挿図51	S K35~39	75	挿図88	S B76・80	120
挿図52	S D22~24・28・31・32	76	挿図89	S B68	121
挿図53	S D25・27・29・30	77・78	挿図90	S B72	122
挿図54	S I02~06	79	挿図91	S B73	123
挿図55	周辺柱穴平面図(1)	80	挿図92	S B78・81	124
挿図56	周辺柱穴平面図(2)	81	挿図93	S B82	125
挿図57	周辺柱穴平面図(3)	82	挿図94	S B70・71・75	127
挿図58	周辺柱穴平面図(4)	83	挿図95	S B79	128
挿図59	周辺柱穴平面図(5)	84	挿図96	S B67・69・77・83	130
挿図60	周辺柱穴平面図(6)	85	挿図97	S M20・21	133
挿図61	周辺柱穴平面図(7)	86	挿図98	S K60~68	135
挿図62	周辺柱穴平面図(8)	87	挿図99	S K69~77・82	136
挿図63	周辺柱穴平面図(9)	88	挿図100	S K78~81・84~87	137
挿図64	周辺柱穴平面図(10)	89	挿図101	S K88・89、S I08	138
挿図65	周辺柱穴平面図(11)	90	挿図102	S D44~50	139
挿図66	周辺柱穴平面図(12)	91	挿図103	周辺柱穴平面図(21)	140
挿図67	周辺柱穴平面図(13)	92	挿図104	周辺柱穴平面図(22)	141
挿図68	周辺柱穴平面図(14)	93	挿図105	S B51	143
挿図69	周辺柱穴平面図(15)	94	挿図106	S B52・53・63~65	144
挿図70	周辺柱穴平面図(16)	95	挿図107	S M14~17	147
挿図71	周辺柱穴平面図(17)	96	挿図108	S K57~59、S D43・44・52・53	149
挿図72	周辺柱穴平面図(18)	97	挿図109	周辺柱穴平面図(23)	150
挿図73	S B44	98	挿図110	周辺柱穴平面図(24)	151
挿図74	S B45~48	99	挿図111	時期別遺構変遷図 (弥生時代後期~古墳時代前期)	166
挿図75	S K40~44	102	挿図112	時期別遺構変遷図 (古墳時代中期~後期)	167
挿図76	S D33~35・51	103			
挿図77	周辺柱穴平面図(19)	104			



挿図113	時期別遺構変遷図（奈良時代～平安時代前期）	169
挿図114	時期別遺構変遷図（平安時代後期）	171
挿図115	時期別遺構変遷図（中世）	172

## 遺物図版目次

第1図	S B02～S B04 S B07 S B12 S B27 S B08 S B21	175
第2図	S B24 S B28 S B18 S B37 S B14 S B23 S B30 S B32	176
第3図	S B33 S M04～S M07	177
第4図	S M08 S M11 S K19 S K39 S D25 S D27 S B44 S B48 S K42	178
第5図	S B50 S B59	179
第6図	S B59 S B57 S K45 S D36 S B74 S B68	180
第7図	S B72 S B73 S B81 S B70	181
第8図	S B75 S B77 S B79 S B67 S M20 S K60 S B83	182
第9図	S B51 S B64 S M17 S D52 遺構外出土遺物（1）	183
第10図	遺構外出土遺物（2） S B44 S B72	184
第11図	遺構外出土遺物（3）	185
第12図	遺構外出土遺物（4）	186
第13図	遺構外出土遺物（5）	187
第14図	遺構外出土遺物（6）	188
第15図	遺構外出土遺物（7）	189
第16図	遺構外出土遺物（8）	190
第17図	遺構外出土遺物（9）	191
第18図	遺構外出土遺物（10）	192
第19図	S B08 S B30 S B32 S B36 S B74 S B73 S B78 S B70 S B77 S B79 S M20 S B52 遺構外出土遺物（11）	193

## 写真図版目次

図版1	S B02 S B22 S B24・25	図版7	S M06 S M08 S M09
図版2	S B28 S B37 S B26	図版8	S M11 S K19 S D25
図版3	S B38 S B39 S T01	図版9	S D30
図版4	S T03 S T04 S T05	図版10	第1 地点全景
図版5	S T06 S T09 S T10	図版11	S B44 S B45 第2 地点全景
図版6	S M04 S M05 同土器棺	図版12	S B59 同カマド 同遺物出土状況

図版13 S B57カマド 第3地点全景  
 図版14 S B74 S B72 S B78  
 図版15 S B82 S B70 S B77  
 図版16 S B79 同カマド 第4地点全景  
 図版17 S B51 S B52 S M14  
 図版18 S K17 S K57 S K59  
 図版19 第5地点全景  
 図版20 重機作業風景 発掘作業風景  
 図版21 発掘作業風景 現地見学会  
 図版22 S B02 S B07 S B08 S B21  
 S B24

図版23 S B23 S B33 S M05  
 図版24 S M06  
 図版25 S M08 S B44  
 図版26 S B59  
 図版27 S B59  
 図版28 S B59 S B74 S B68  
 図版29 S B77 S B79  
 図版30 S M20 遺構外

## 表 目 次

表1 遺構土層観察表(1) .....	152	表8 遺構土層観察表(8) .....	159
表2 遺構土層観察表(2) .....	153	表9 遺構土層観察表(9) .....	160
表3 遺構土層観察表(3) .....	154	表10 遺構土層観察表(10) .....	161
表4 遺構土層観察表(4) .....	155	表11 遺構土層観察表(11) .....	162
表5 遺構土層観察表(5) .....	156	表12 遺構土層観察表(12) .....	163
表6 遺構土層観察表(6) .....	157	表13 遺構土層観察表(13) .....	164
表7 遺構土層観察表(7) .....	158		

# 第Ⅰ章 経 過

## 第1節 調査の経過

平成6年度に、飯田市毛賀における飯田市立緑ヶ丘中学校改築計画が具体化し、計画地内に埋蔵文化財包蔵地田圃遺跡の一部がかかることが判明した。平成3年に行なわれた計画地に隣接する同校プール建設に先立つ発掘調査では、周溝の内法に貼り石をもつ方形周溝墓等が調査されている。そこで、平成6年9月29日、長野県教育委員会文化課・飯田市教育委員会学校教育課・同社会教育課の三者が現地で保護協議を行ない、試掘調査を実施して本発掘調査の要否を判断するとともに、重要な遺構等が発見された場合にはその取り扱いについて改めて協議することとなった。

平成7年3月22・23日に本校舎建設部分（第1地点）について試掘調査を実施した。その結果、弥生時代から平安時代にかけての竪穴住居址・方形周溝墓等の遺構および遺物が確認され、本発掘調査の実施が必要であると判断された。そこで、試掘調査に引き続き、平成7年4月3日発掘調査に着手した。

重機により表土剥ぎを行ない、続いて作業員を入れて遺構検出・掘り下げ・精査を行なった。写真撮影・細部の実測作業の後、重機により土の返しを行なった。同様の二度の作業実施を経て、6月20日現地での作業を終了した。なお、基準点設置・地形測量・航空写真撮影・航空遺構測量作業を株式会社ジャステックに委託実施した。5月21日には現地見学会を開催し、地域の歴史を皆で考える場を提供した。

本校舎建設の結果、市道付替えの必要が生じ、第2地点の調査を7年8月7日から8月11日まで行ない、竪穴住居址・溝址等が調査された。

引き続き、飯田市考古資料館において、現地で記録された図面・写真類等の基礎的な整理作業を行ない、概要報告書の作成にあたった。

平成8年度は、新しい本校舎の完成と同時に旧校舎を解体し、同位置に理科・音楽・技術科棟を9年度にかけて建設することが計画された。旧本校舎部分については基礎工事に際して壊されている可能性が極めて高いことから、本校舎の周囲の第3～5地点について本発掘調査を実施することとなった。8年9月9日から9年2月12日にかけて、断続的に本発掘調査を行なった。

平成9～11年度は、飯田市考古資料館において出土遺物の水洗・注記・接合・復元作業、遺物の実測・写真撮影作業、遺構図等の作成・トレース作業、版組み等行ない、本報告書作成作業にあたった。

## 第2節 調査組織

### (1) 調 査

調査主体者	飯田市教育委員会	教育長	小林恭之助
調査担当者	馬場保之・下平博行		
調 査 員	佐々木嘉和・山下誠一・吉川 豊・渋谷恵美子・吉川金利・伊藤尚志・福澤好晃		

坂井勇雄

上沼由彦（財団法人長野県埋蔵文化財センターより派遣、平成7・8年度）

西山克己（財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センターより派遣、平成10年度）・藤原直人（同前、平成11年度）

作業員

新井幸子・新井幸子・池戸智恵子・市瀬長年・市瀬房吉・伊坪 節・伊藤安正

伊東裕子・井上恵資・今村勝次・太田沢男・岡島 亘・岡田紀子・奥村栄子

尾曾ちぶき・川上一子・北川 彰・北澤兼男・北原久美子・北原 裕・吉地武虎

木下貞子・木下 傳・木下義男・木下力弥・久保田定男・熊谷義章・熊崎三代吉

黒川嘉雄・小池金太郎・小池千津子・小島妙子・小林定雄・齊藤 薫・榊原政夫

榊山さとゑ・坂下やすゑ・桜井かのへ・佐々木阜・佐々木文茂・斯波幸枝・清水三郎

清水恒子・下田芙美子・代田和登・鈴木尊子・瀬古郁保・高橋セキ子・滝上正一

竹本常子・田中 薫・田中博人・塚原次郎・仲田昭平・中平隆雄・仲村 信・中山敏子

鳴海紀彦・西山あい子・服部光男・林 員子・林 悟史・林 政人・原田四郎八

久田きぬゑ・久田 誠・樋本宣子・平松正子・古林登志子・星本初子・細田七郎

牧内 修・牧内住子・牧田許江・正木実重子・松井明治・松沢美和子・松沢 豊

松島 保・松下成司・松下節子・松下友彦・松下直市・松下寛美・松下光利・森 章

森本かおり・柳沢謙二・山田康夫・吉川和夫・吉川正実・吉沢佐紀子・依田時子

新井ゆり子・池田幸子・金井照子・金子裕子・唐沢古千代・木下早苗・木下玲子

小平晴美・小平不二子・小平まなみ・小林千枝・齊藤徳子・佐々木真奈美

佐々木美千枝・佐藤知代子・関島真由美・高木純子・高橋恭子・筒井千恵子・中沢温子

中田 恵・中平けい子・林勢紀子・林ひとみ・原 昭子・平栗陽子・福沢育子

福沢幸子・古根素子・牧内喜久子・牧内八代・松下博子・松島直美・松本恭子

三浦厚子・南井規子・宮内真理子・森藤美知子・森山律子・吉川悦子・吉川紀美子

## (2) 指 導

長野県教育委員会文化財・生涯学習課

## (3) 事務局

飯田市教育委員会

社会教育課（～平成8年6月）

横田 穆 （社会教育課長）

小林正春 （ “ 文化係長）

吉川 豊 （ “ 文化係）

山下誠一 (社会教育課文化係)  
馬場保之 ( " " )  
吉川金利 ( " " )  
福澤好晃 ( " " )  
伊藤尚志 ( " " )  
下平博行 ( " " )  
岡田茂子 ( " 社会教育係)

博物館課 (平成8年7月～)

矢澤与平 (博物館課長)  
小畑伊之助 (博物館課長、平成9年4月～)  
小林正春 ( " 埋蔵文化財係長)  
吉川 豊 ( " 埋蔵文化財係、～平成11年3月)  
山下誠一 ( " " 、～平成11年3月)  
馬場保之 ( " " )  
渋谷恵美子 ( " " 、平成11年4月～)  
吉川金利 ( " " )  
福澤好晃 ( " " )  
伊藤尚志 ( " " )  
下平博行 ( " " )  
坂井勇雄 ( " " 、平成11年4月～)  
牧内 功 ( " 庶務係)  
松山登代子 ( " " 、平成11年4月～)

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 自然環境

飯田市松尾地区は、飯田市街地から南東に約2～5kmに位置し、飯田市全域から見ればほぼ中央部にあたる。東は天竜川を挟み下久堅地区に、北は松川で上郷地区と境を接する。南は毛賀沢川をはさみ竜丘地区となり、西は河岸段丘上で鼎地区と接する。

飯田市は赤石山脈と木曾山脈に挟まれた伊那谷の南端にあたり、両山脈の間を天竜川が南流する。天竜川による典型的な河岸段丘が見られるとともに、山脈の形成に関わる断層地塊運動に伴ない盆地・大きな段丘崖が形成されており、複雑な段丘地形を呈している。伊那谷の基本的な地形は、天竜川の流れに沿ったほぼ南北方向への断層段丘地形を特徴としているが、後述するように天竜川の浸食作用も影響していることが考えられる。

松尾地区はこの天竜川が東端を南流し、その氾濫原を含め8の段丘面で形成されている(下伊那地質誌編集委員会編 1976)。それらは、中位と低位とに大別でき、その境は鳩ヶ峯八幡宮の社叢を中心とした段丘崖である。各段丘面は、松川北岸の飯田市街地・上郷地区の段丘面とよく対応しており、松川により開析されたことがわかる。

中位段丘の八幡原面は小河川によりいくつかに開析され、北から南に、上の城・茶柄山、妙見山、八幡山、代田山、御射山原、松尾城跡とそれぞれに名前が付いている。その標高は480m前後でローム層に覆われた台地である。中位段丘の土壌については、「花崗岩の基盤の上に古生層・花崗岩の砂・砂礫・礫の互層が蓋い、その上に厚さ1～2mの安山岩質火山灰が堆積している」(松尾村誌編纂委員会 1982)。

低位の段丘は前述の段丘崖下から天竜川氾濫原までの間の松尾地区の大半で、低位段丘Ⅰと低位段丘Ⅱがある。低位段丘Ⅰは主に八幡町から毛賀諏訪神社にかけて、低位段丘ⅡはほぼJR飯田線軌道敷東側で、両者の比高差は約10mを測る。この中に各3面の小段丘があり、それぞれ2～5mの比高差がある。標高は380～430m程度である。田圃遺跡は低位段丘Ⅱの最上段に位置している。それぞれの段丘面の広さは一様ではないが、いずれも南北方向の段丘崖が確認でき、東向きに湾曲している。これについては「松川の押し出しと妙前台地基盤の花崗岩の抵抗によって、天竜川が河道を東に移動させながら側侵蝕することにより作ったもの」(同前)と考えられる。低位段丘上には、中位段丘を開析する小河川が小扇状地を形成している箇所があり、その部分では段丘崖の把握は困難となっている。「段丘の縁辺部が高く、上位段丘の基部に向かってやや低く成っている。そして縁辺部は礫が多く土層の薄い浅層相で、基部は湧水の存在と相まって湿田が多い」(同前)。次に、土壌についてみると、田圃遺跡周辺の土壌統は今次調査地点付近が清水統とされ、「母材はほとんど火山灰から成っているが、この火山灰は二次的に八幡山方面から運ばれたものらしい。」(同前)とされるが、その起源については疑問があり、むしろ天竜川上流部からの供給を考慮した方がよかろう。また、JR飯田線毛賀駅付近から段丘崖下にかけては寺所統が分布し、「松尾統の母材(補注…天竜川の古い沖積物で、洪積層の物質や火山灰をほとんどまじえない)と同じであるが、断面(0～100cm)中に黒泥が主要部分を占めるもの」(同前)である。

明河原付近は天竜川の氾濫原で、低位段丘と同様、内湾状を呈している。

気候面でみれば、伊那谷は比較的温和であり、松尾地区は飯田市の中でもさらに温暖である。平均気温は、13℃に近く、降水量も年間1,600mm程度である。低位段丘は後ろに段丘崖を背負っているため、冬の北風から守られる格好になっていることも温和な要因のひとつにあげられる。

## 第2節 歴史環境 (挿図1)

松尾地区の遺跡を概観すると、天竜川氾濫原及び段丘崖を除いてほぼ全域が包蔵地である。松尾地区での埋蔵文化財発掘調査は近年になって増大してきた。学術調査は、おかん塚古墳(昭和41年)・毛賀がにが原遺跡(昭和42年)・寺所遺跡(昭和43・46年)・妙前大塚(3号)古墳(昭和46年)・上溝天神塚古墳(平成3年)があるが、近年は、諸開発に先立つ緊急調査が主になっている。天竜川護岸工事と一般国道152号付替に伴う清水遺跡の調査(昭和49・50年)、工場建設に先立つ南ノ原遺跡調査(昭和50年)・毛賀御射山遺跡調査(昭和53年)、長野県飯田長姫高等学校建設に先立つ猿小場遺跡の調査(昭和53・54年度)、都市計画公園整備に伴う松尾城跡の調査(昭和54・55年)、集会所建設に先立つ上溝遺跡・上溝天神塚古墳の調査(昭和58年)、同じく集会所建設に先立つ八幡町古墳の調査(昭和63年)、松尾公民館移転新築に伴う城遺跡調査(平成元年)、市立病院建設に先立つ物見塚古墳の調査(同年)、雇用促進住宅の建設に伴う清水遺跡の調査(平成2年)、一般国道153号飯田バイパス建設に伴う八幡原遺跡・松尾北の原遺跡・茶柄山古墳群・上の城城跡の調査(平成2～7年)、事務所兼住宅建設に先立つ八幡原遺跡・妙見山古墳の調査(平成2・3年)、市立緑ヶ丘中学校プール建設に先立つ本遺跡の調査(平成3年)、送電線建設に先立つ久井遺跡の調査(同年)、都市計画道路飯田下山線建設に先立つ猿小場遺跡の調査(同年)、集会所建設に先立つ寺所遺跡の調査(平成5・8年)、同集会所建設に先立つ水城遺跡の調査(平成9年)がある。

松尾地区の歴史を概観すると、縄文時代以前の遺構・遺物は低位段丘では断片的に報告されているにすぎない。上溝遺跡では縄文時代草創期の有舌尖頭器が(下伊那誌編纂会 1991)、清水遺跡・明集会所付近(八幡 1972他)・寺所遺跡では早期前半の押型文土器が出土しており、上郷・座光寺地区と同様、相当早くからこうした低地で人々が生活した様子が確認できる。本遺跡では、中期後葉と考えられる小竪穴が調査されている(飯田市教委 1993)。これに対して、中位段丘上の遺跡では、それよりも古い旧石器時代の遺物の出土が報告されている。猿小場遺跡ではナイフ形石器、八幡原遺跡では彫器が出土している。また、縄文時代前期の八幡原遺跡では竪穴住居址・土坑が確認されている(同 1992)し、中期の遺構が猿小場遺跡にある。しかし、後期・晩期についてはいまだ報告がされていない。弥生時代では、中期前葉の寺所式の標式遺跡、寺所遺跡が著名である。さらに後期には低位段丘の本遺跡・城遺跡・清水遺跡のほか、猿小場遺跡・茶柄山遺跡など中位段丘上への進出がみられる。

古墳時代前期には、城遺跡・清水遺跡など前時代から継続した集落の姿がある。古墳時代後期の集落址は、久井遺跡・上溝遺跡など調査例は少ないが、現存する古墳の数から推察すればかなりの規模の集落が複数あったと考えるのが妥当である。

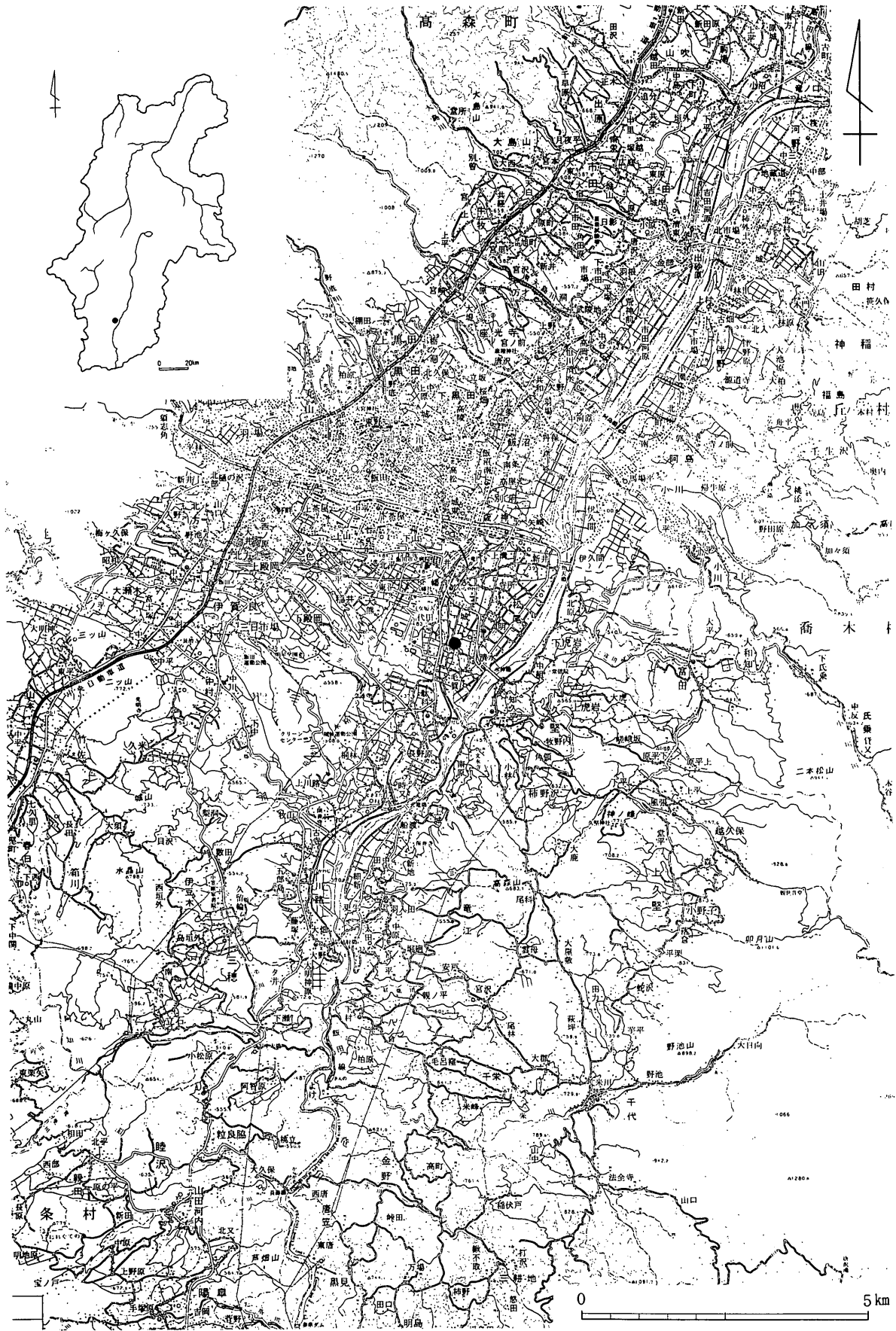


插图1 調査遺跡位置図





1. 田圃遺跡
2. 猿小堀遺跡
3. 物見塚古墳
4. 八幡原遺跡・妙見山古墳
5. 松尾北の原遺跡
6. 茶柄山遺跡・茶柄山古墳群
7. 上の城遺跡
8. おかん塚古墳
9. 上満天神塚古墳
10. 羽場獅子塚古墳
11. 妙前大塚古墳
12. 寺所遺跡
13. 水佐代獅子塚古墳
14. 久井遺跡
15. 八幡町古墳
16. 鳩ヶ嶽八幡宮
17. 八幡山古墳
18. 松尾城遺跡
19. 代田山狐塚古墳
20. 南の原遺跡
21. 松尾城跡
22. 毛賀御射山遺跡
23. 代田獅子塚古墳
24. 下毛賀3号古墳
25. 清水遺跡

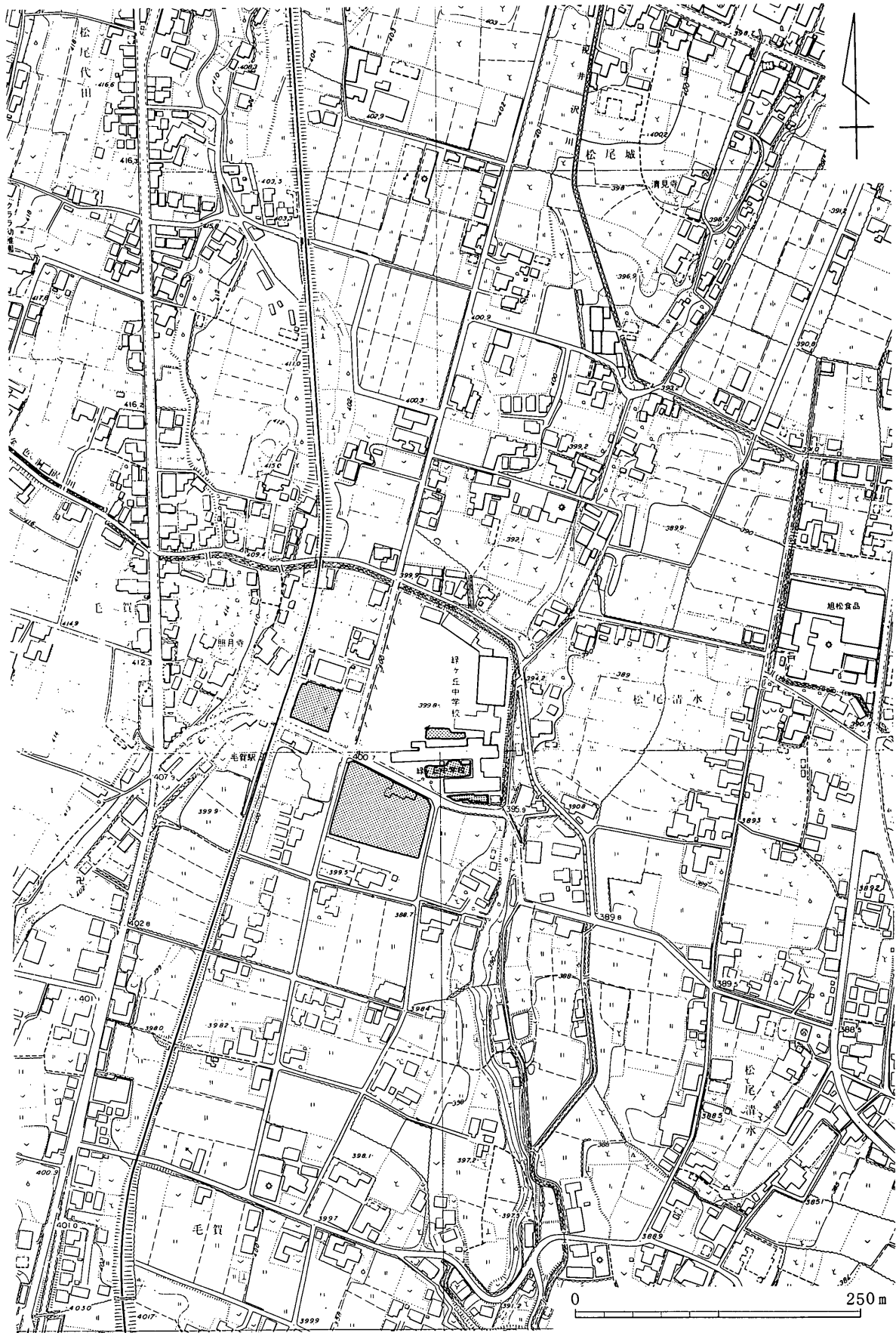
挿図2 調査遺跡および周辺遺跡位置図

松尾地区に現存する古墳の数は、座光寺地区・竜丘地区と並んで多い。松尾地区にある古墳の中で最も古い古墳は、代田山に現存する前方後方墳、長野県史跡代田山狐塚古墳（平成6年2月17日指定、飯田市教委 1994）である。長野県内最古に属する古墳で、県内ではほぼ同時期に古墳が築造され始めたことが判ってきている。土器などの流れからみると、南信地方は弥生時代後期から東海地方との交流が活発になってきたようで、さらに弥生時代の終末にかけて全県下へと交流が拡大していく。こうした時代的な背景のもとに代田山狐塚古墳が築造されたと考えられる。続く5世紀代には、眉庇付冑が出土した妙前大塚（同 1971）、馬の副葬を伴う茶柄山古墳群など多くの古墳が築造される。地形と古墳群の関係をみると、中位段丘の縁辺には、帆立貝型古墳と見られる八幡山古墳、八幡原に物見塚古墳・妙見山古墳があった。八幡原の一段下位の北の原には、前方後円墳である御射山獅子塚古墳・茶柄山3号古墳とその周辺に点在する茶柄山古墳群がある。低位段丘Ⅰでは、天神塚古墳・おかん塚古墳・姫塚古墳・羽場獅子塚古墳の前方後円墳を中心とした上溝古墳群、代田獅子塚古墳を中心とした代田・上毛賀古墳群がある。低位段丘Ⅱでは、上溝古墳群の下位の妙前古墳群や水佐代・城古墳群、代田・上毛賀古墳群の下位に下毛賀古墳群があり、氾濫原を除く松尾地区全域に古墳が見られる。今次調査地点の周辺には、下毛賀1号古墳（無名塚）・同2号古墳（黄金塚あるいはかんのん塚）・同3号古墳（大塚あるいは塚廻り）が知られているが（下伊那誌編纂會 1955）、いずれも現存していない。一方で、この時代には城遺跡（飯田市教委 1991）・八幡原遺跡（同 1992）・寺所遺跡などで、方形周溝墓・円形周溝墓といった墳墓群が営まれている。各遺跡では、貼石をもつ方形周溝墓が確認されており、当時の墓制を研究する上で注目される。

奈良時代から平安時代にかけては、久井遺跡で2棟の掘立柱建物址が検出されている（同 1993）。もし、これが奈良時代のものとすれば、古代官衙址に関連する建物の可能性があり、伊那郡小村郷の郷庁もしくは東山道育良駅に比定することができるかもしれない。この他、猿小場遺跡・八幡原遺跡・清水遺跡で、平安時代の遺構が確認されている。猿小場遺跡では、25軒の住居址が調査され相当規模の大きな集落が営まれている。清水遺跡でも住居址や掘立柱建物址が確認されている。毛賀御射山遺跡は、布目瓦や瓦塔片が出土しており、古代寺院が存在した場所である。

中世には、松尾城跡を信濃守護職である小笠原氏が本拠としており、毛賀沢川を挟んで対峙する鈴岡城跡とともに、県の史跡に指定されている。さらに松尾地区の東端に「城」という地名が残っており、松尾城移動前の小笠原氏の居館跡があったと言われている。松尾城跡や南ノ原遺跡では、陶磁器や建物址が確認されている。この他、調査された城跡として上の城跡があり、土塁などが把握されたが、築造・廃絶の時期や城主などについては不明な点が多い。また、茶柄山遺跡では中世から近代に至るまでの墳墓群が調査されている。

松尾地区の中央に鬱蒼とした社叢に囲まれた鳩ヶ嶺八幡宮があり、鎌倉時代には名がみえる。八幡町はその門前町として発達してきた。本尊として奉られている菅田別尊坐像は重要文化財に指定されている。八幡町には旧街道が2本通っていた。そのうち一本が秋葉街道と呼ばれるもので、現在の一般国道256号である。この街道は武田信玄の遠州侵攻により整備されたものである。もう一本は遠州街道で、現在の一般国道151号である。この道は中馬道として江戸時代に発達した。この2本の街道の分岐点は鳩ヶ嶺八幡宮の前であり、現在でも飯田市指定史跡の道標が立っており、交通の要所であることを示している。



挿図3 調査位置図

## 第Ⅲ章 調査結果

### 第1節 調査区の設定（挿図4）

調査区の設定は、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図（以下、基準メッシュ図と略す。）に基づいて、株式会社ジャステックに委託実施した（設定方法については、飯田市教育委員会 1998 『美女遺跡』参照）。今次調査では、LC-85 21-45をⅠ区、同21-46をⅡ区、LC-95 1-5をⅢ区、同1-6をⅣ区とした。

### 第2節 基本層序（挿図5）

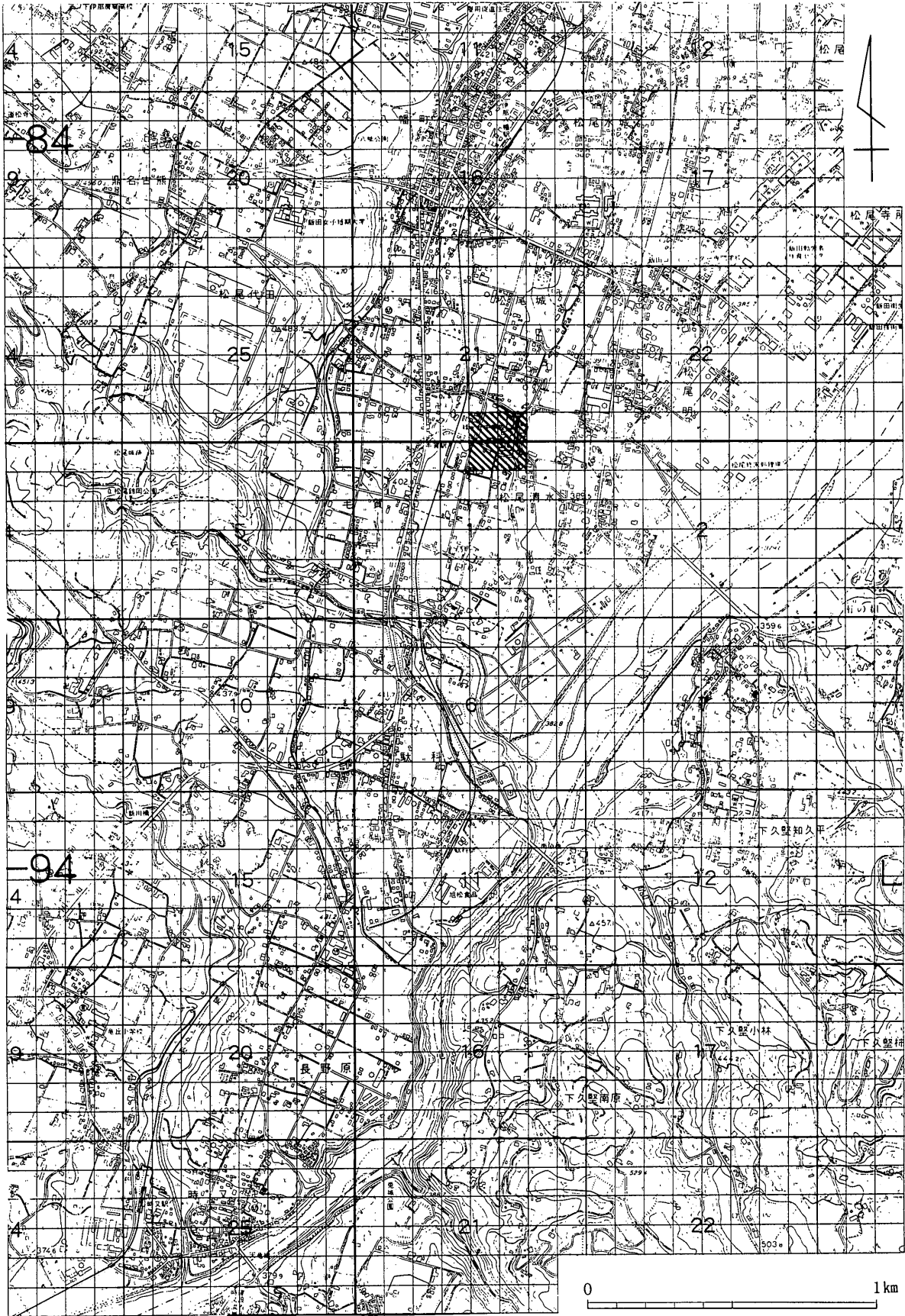
各地点とも、現校舎建設やグラウンド造成に際して上部を削平・整地しており、ほとんどの遺構が整地層の直下で検出されている。ただ、第3地点（SM18のセクション部分）では、耕土下に黒褐色土が堆積していた。

なお、平成6年度に実施した地質調査では、北から南への変化として、表土・盛土が厚くなること、段丘堆積層が薄くなることを指摘できる。後者については、No.2-No.1の変化は上記所見と反するように見えるが、No.2-No.1の軸がNo.8-No.6の軸よりやや西側に振るため、後述の西から東への変化に類似すると考えられる。同様に、西から東への変化として、表土・盛土が薄くなること、段丘堆積層が厚く基底が深くなることを指摘できる。

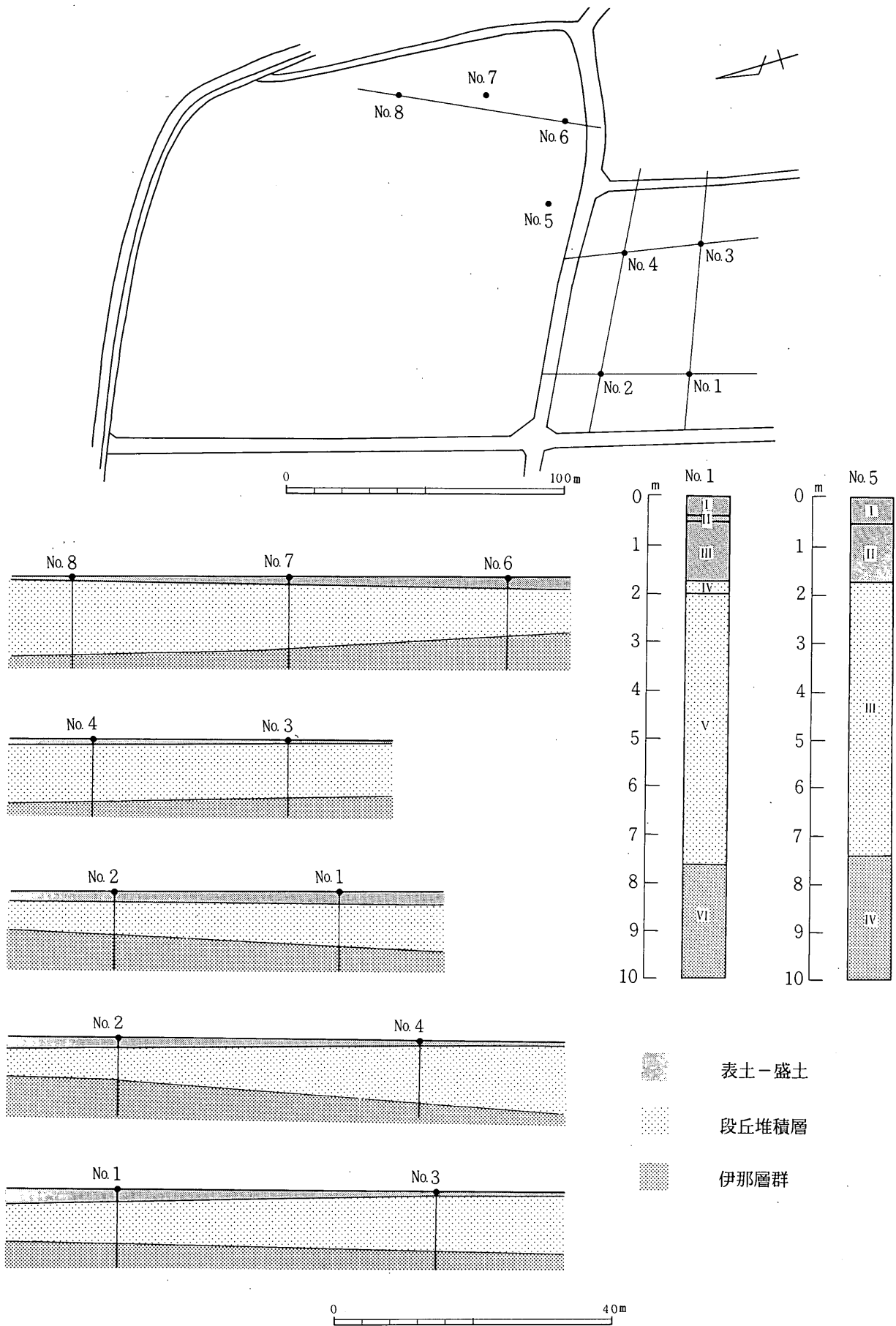
### 第3節 第1地点の遺構と遺物

第1地点で調査された遺構は、

竪穴住居址	40棟
掘立柱建物址	13棟
古墳・周溝墓	9基
土坑	26基
溝址・溝状址	11条
集石	5基
その他小柱穴	多数がある。



挿図4 基準メッシュ図区画調査位置



挿図5 調査地の地質概況

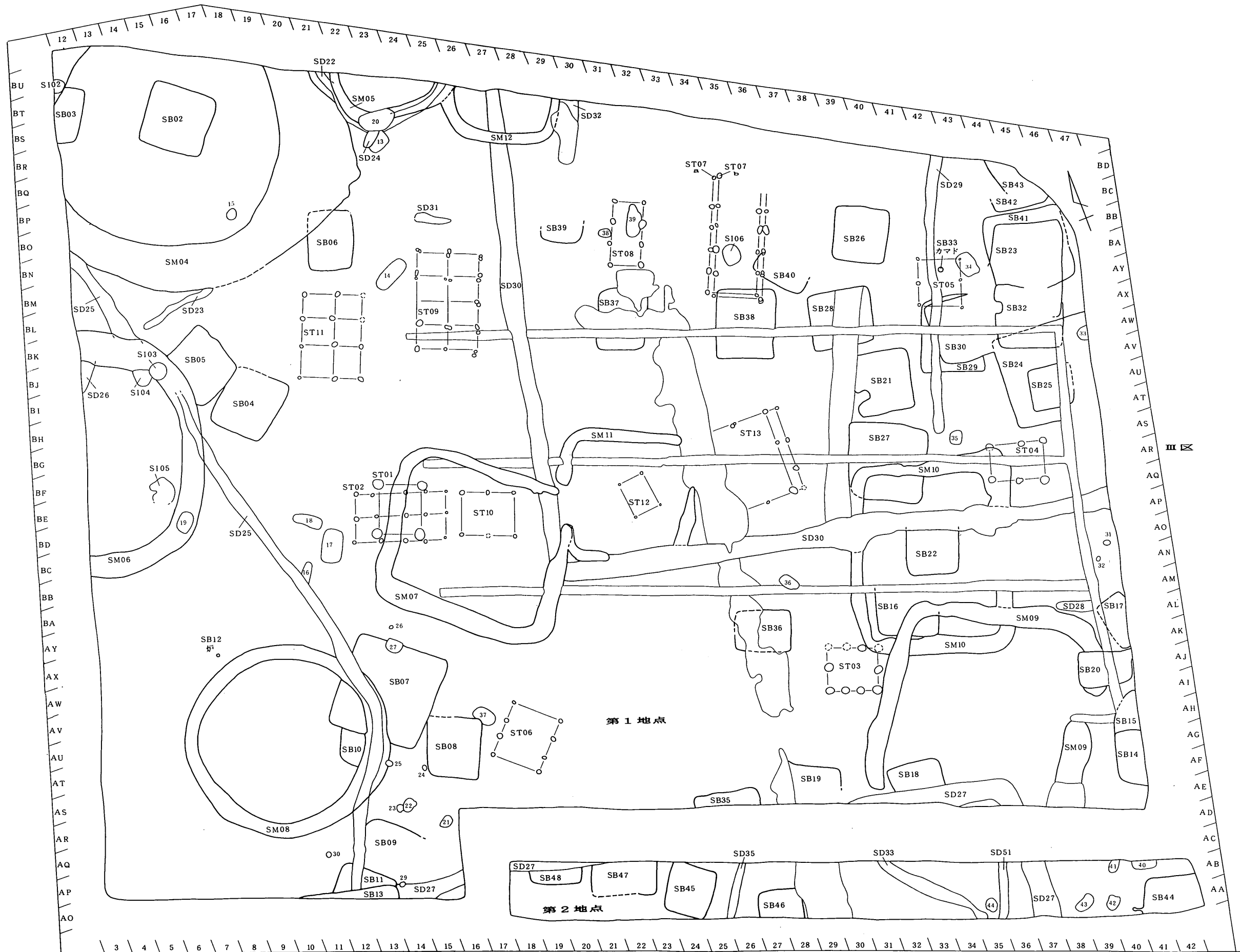
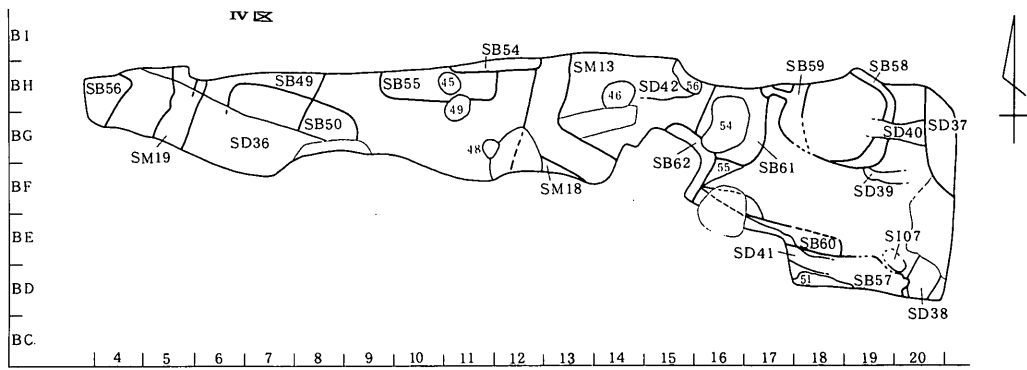
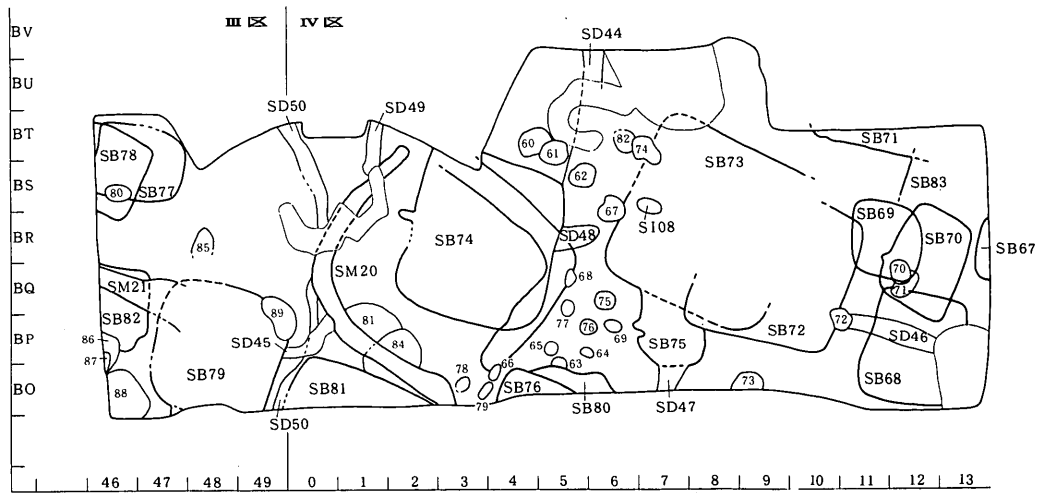


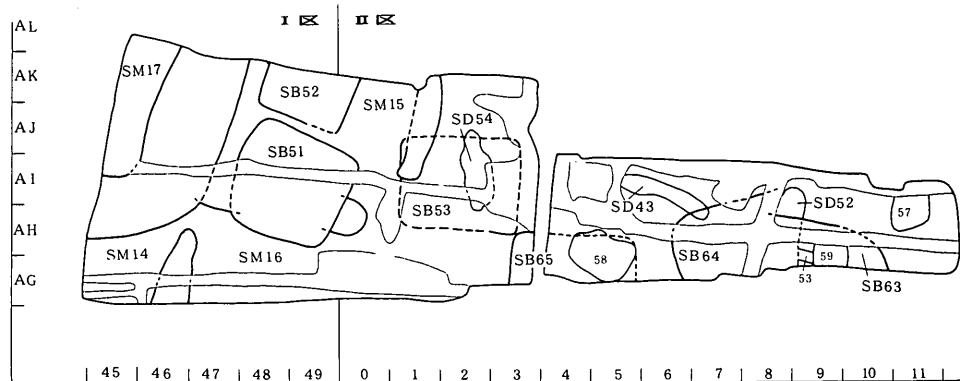
插图6 第1・2地点遺構全体図



第3地点



第4地点



第5地点



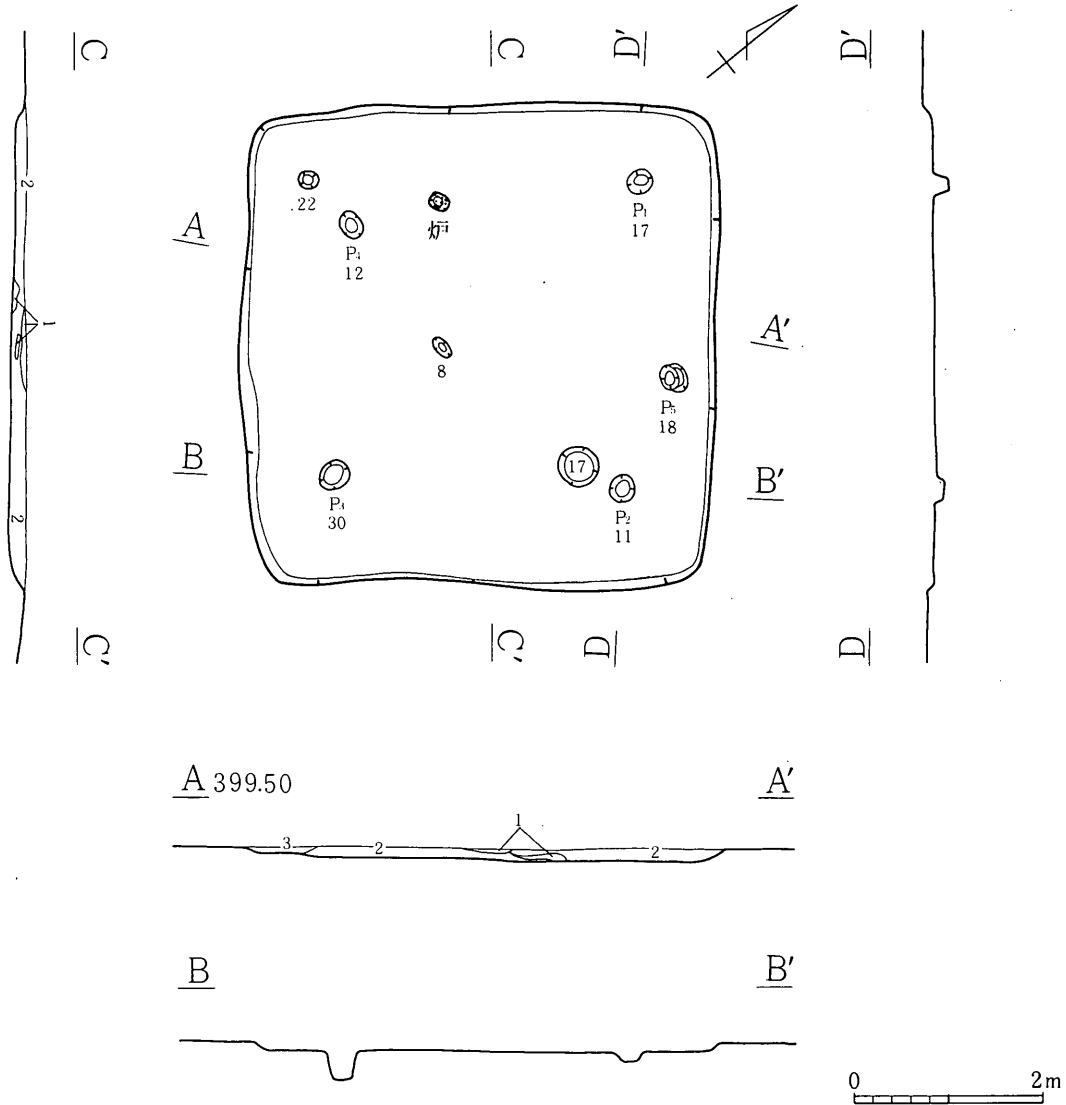
插图7 第3~5地点遺構全体図



(1) 竪穴住居址

1) 弥生時代後期～古墳時代前期

遺構番号	S B02	検出位置	第1地点 III区BR15		床面積	22.9㎡
規模	500×510×10cm	長軸	N49.5° E	平面形	方形	
検出状況	埋土が地山とやや異なり、不明確ながら検出された。					
重複関係	SM04に切られる。					
壁	やや不明確で、緩やかな立ち上りを示す。					
床	堅固で貼床はない。					
柱穴	主柱穴P1～P4、補助柱穴あり。					
炉	P1・P4の間P4寄りに地床炉。					
付属施設	なし。					
遺物	埋土中全般から出土したが遺物量は少ない。破片が多い。壺・甕・高坏。					
その他	北東壁際中央付近床面に朱。自然埋没と考えられる。					



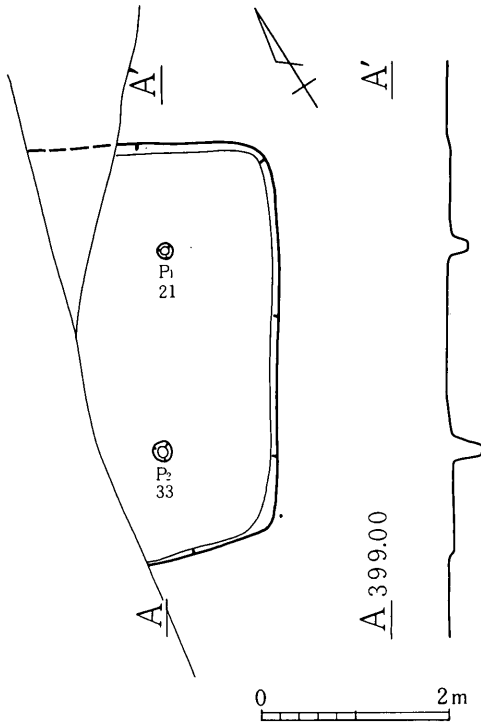
挿図8 SB02

遺構番号	S B03	検出位置	第1地点 Ⅲ区B S11		
規 模	420× - × 5cm	長 軸	(N31.0° E)	平面形	方形
検出状況	貼床が不明確ながら検出され、把握された。約1/2は調査区外にかかる。				
重複関係	S M04・S I02に切られる。				
壁	削平されて遺存せず。掘り方のみ把握された。				
床	貼床中で検出されたため、床面の状況は不明。				
柱 穴	主柱穴P1・P2を検出。				
炉	調査された範囲では確認できず。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物はほとんどなく、破片が多い。壺・甕。				
そ の 他					

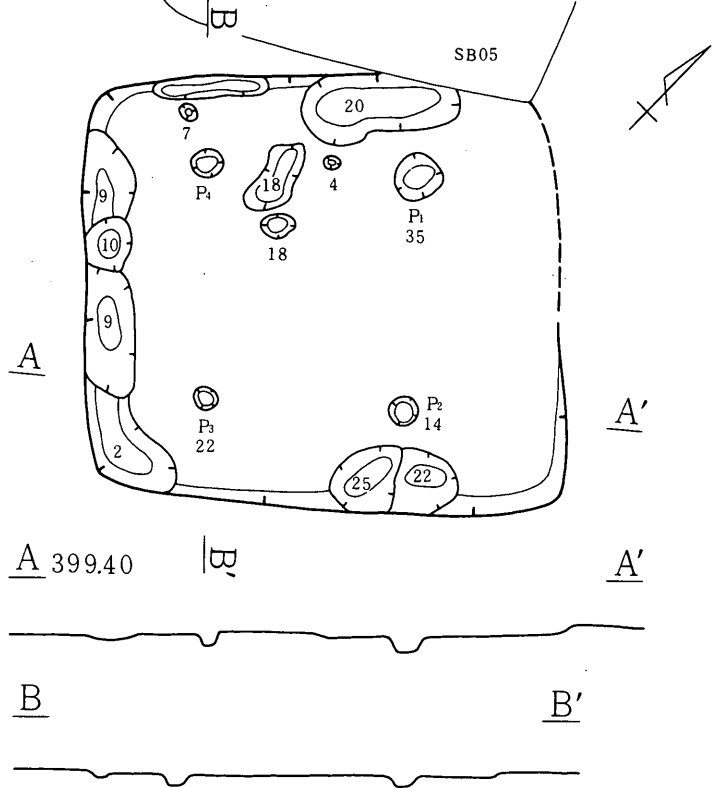
遺構番号	S B04	検出位置	第1地点 Ⅲ区B F14	床面積	(19.7㎡)
規 模	450× 500× 8cm	長 軸	N41.5° W	平面形	不整形
検出状況	貼床中で検出され、地山と異なり明確に検出された。				
重複関係	S B05と重複するが、新旧関係は不明である。遺物からみる限り、S B05が新しい。				
壁	削平により不明である。				
床	貼床されたと考えられるが、大部分削平され不明である。中央にやや硬い部分あり。				
柱 穴	主柱穴P1～P4、補助柱穴あり。				
炉	不明。P1・P4の中間の小柱穴より炭が出土し、あるいは地床炉かもしれない。				
付属施設	南西壁・北西壁際に30～50cm程度周溝状に掘り込む。P5は入口の可能性あり。				
遺 物	遺物量は少なく、破片が多い。甕・器台。				
そ の 他	P3・P4の周囲床面に炭が多い。				

遺構番号	S B05	検出位置	第1地点 Ⅲ区B H13	床面積	(17.6㎡)
規 模	480× (440)× 35cm	長 軸	N27.5° W	平面形	不整形
検出状況	プランの一部が把握された。				
重複関係	S M06に切られる。				
壁	明確でやや緩やかに立ち上がる。				
床	貼床されており、堅固である。				
柱 穴	主柱穴P1～P4、補助柱穴あり。P2はやや深い。				
炉	P1・P4の中間やや内側に地床炉。外側に炭が広がる。炉の上に大きな礫が置かれる。				
付属施設	南東半中央に溝状の部分あり。間仕切りと考えられる。				
遺 物	遺物量は僅少で、土師器甕等あり。				
そ の 他	2ヶ所に焼土の集積あり。				

SB 03



SB04



SB 05

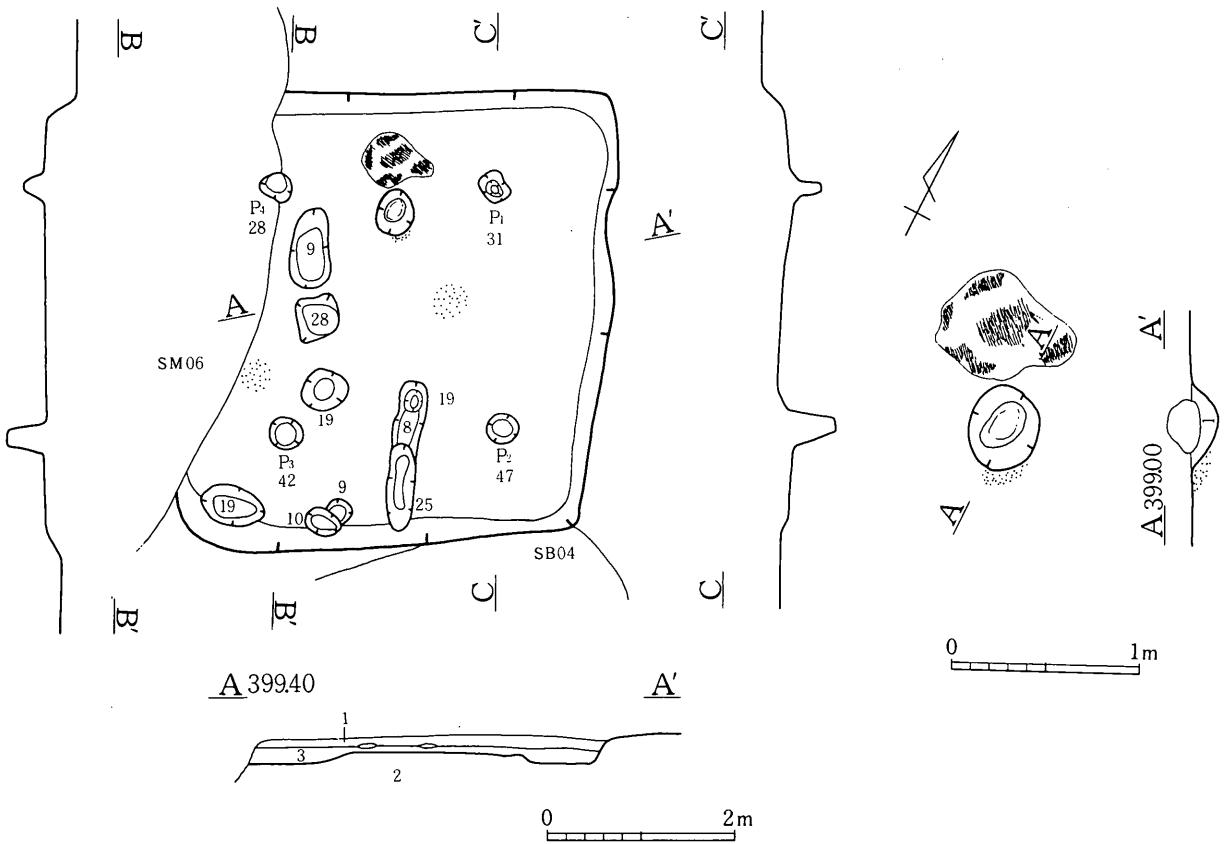
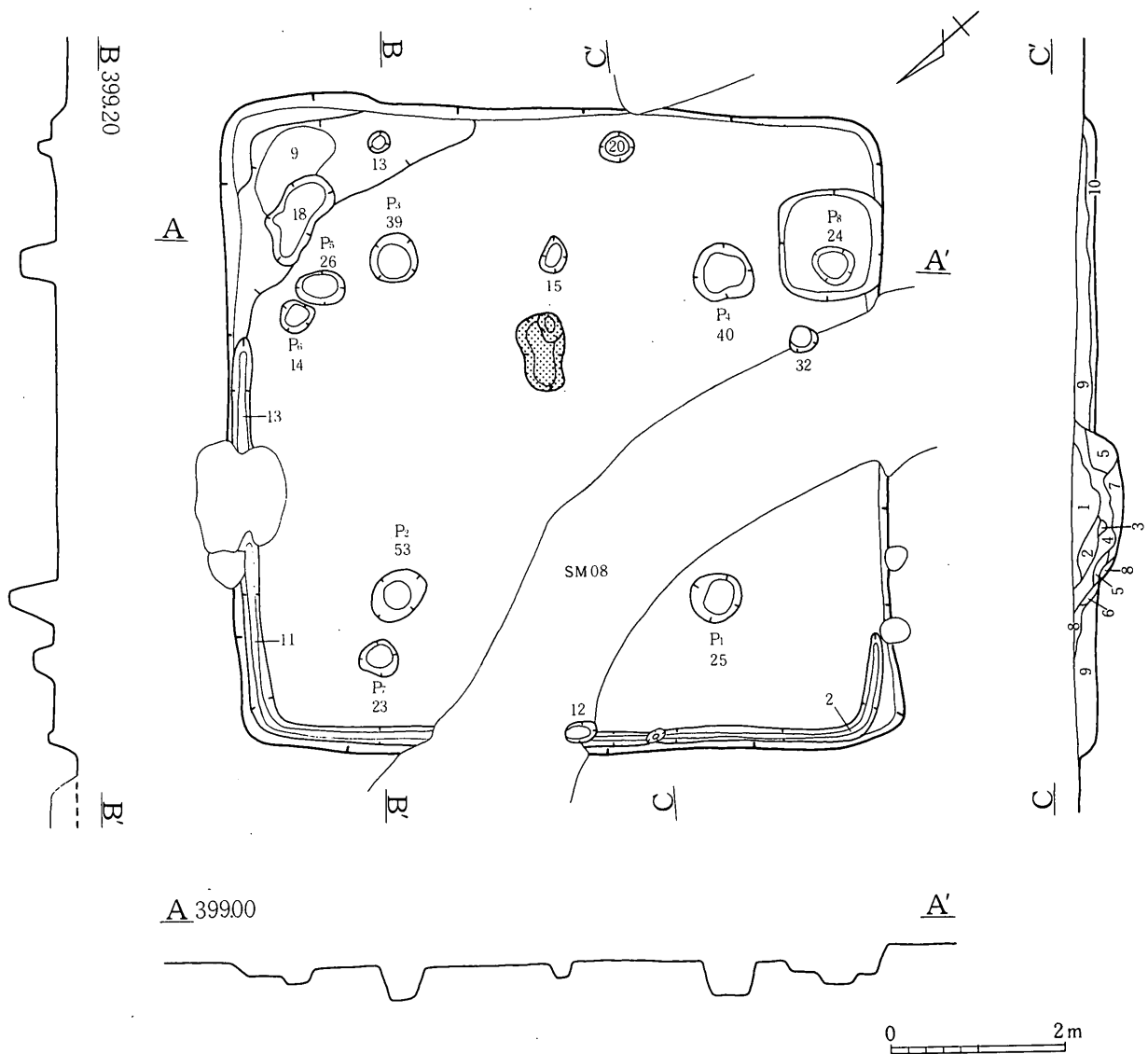


插图9 SB03~05

遺構番号	S B07	検出位置	第1地点 Ⅲ区AR15		
規模	730×740×25cm	長軸	N 129.0° E	平面形	方形
検出状況	貼床が不明確ながら検出され、把握された。約1/2は調査区外にかかる。				
重複関係	S M08・S D25に切られ、S B10を切る。				
壁	南東辺は攪乱のために不明瞭であるが、やや緩やかな立ち上りを示す。				
床	軟弱であり、わずかに貼床と考えられる部分あり。				
柱穴	主柱穴P1~P4、その他小柱穴を検出。P1は他に比して浅い。				
炉	P3・P4中間内側に地床炉あり。周囲に厚さ3~5cmの炭が広がる。				
付属施設	北隅に貯蔵穴(P8)あり。周溝約1/2残存。				
遺物	遺物は少なく、床面遺物は壁際に分布する。弥生土器壺・甕・高坏、土師器台付甕？				
その他					

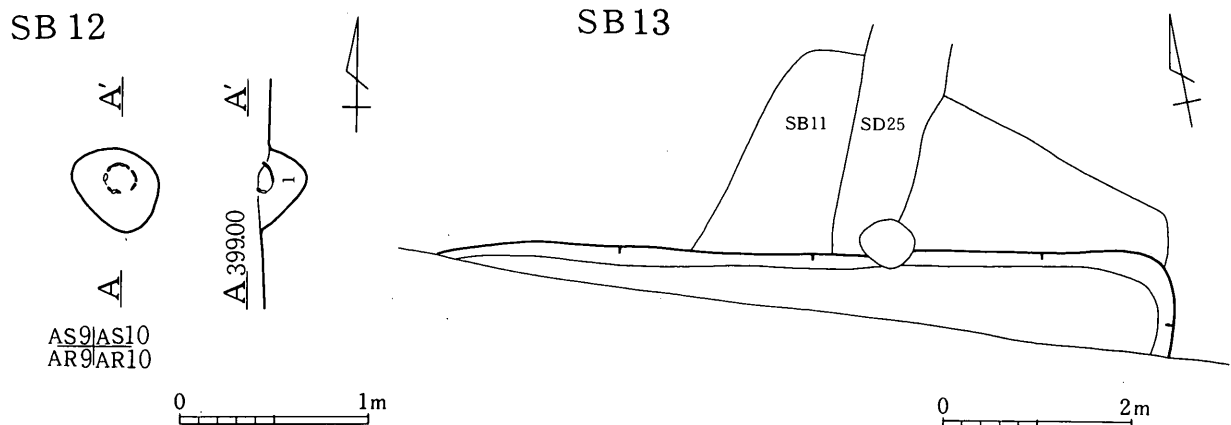


挿図10 SB07

遺構番号	S B12	検出位置	第1地点 Ⅲ区A S10		
規 模	- × - × - cm	長 軸	-	平面形	不明
検出状況	土器埋設炉が検出され、S Bとした。				
重複関係	不明。				
壁	削平されて遺存せず。				
床	不明。				
柱 穴	支柱穴も把握できず。				
炉	土器埋設炉。				
付属施設	なし。				
遺 物	炉体の弥生土器甕。				
そ の 他					

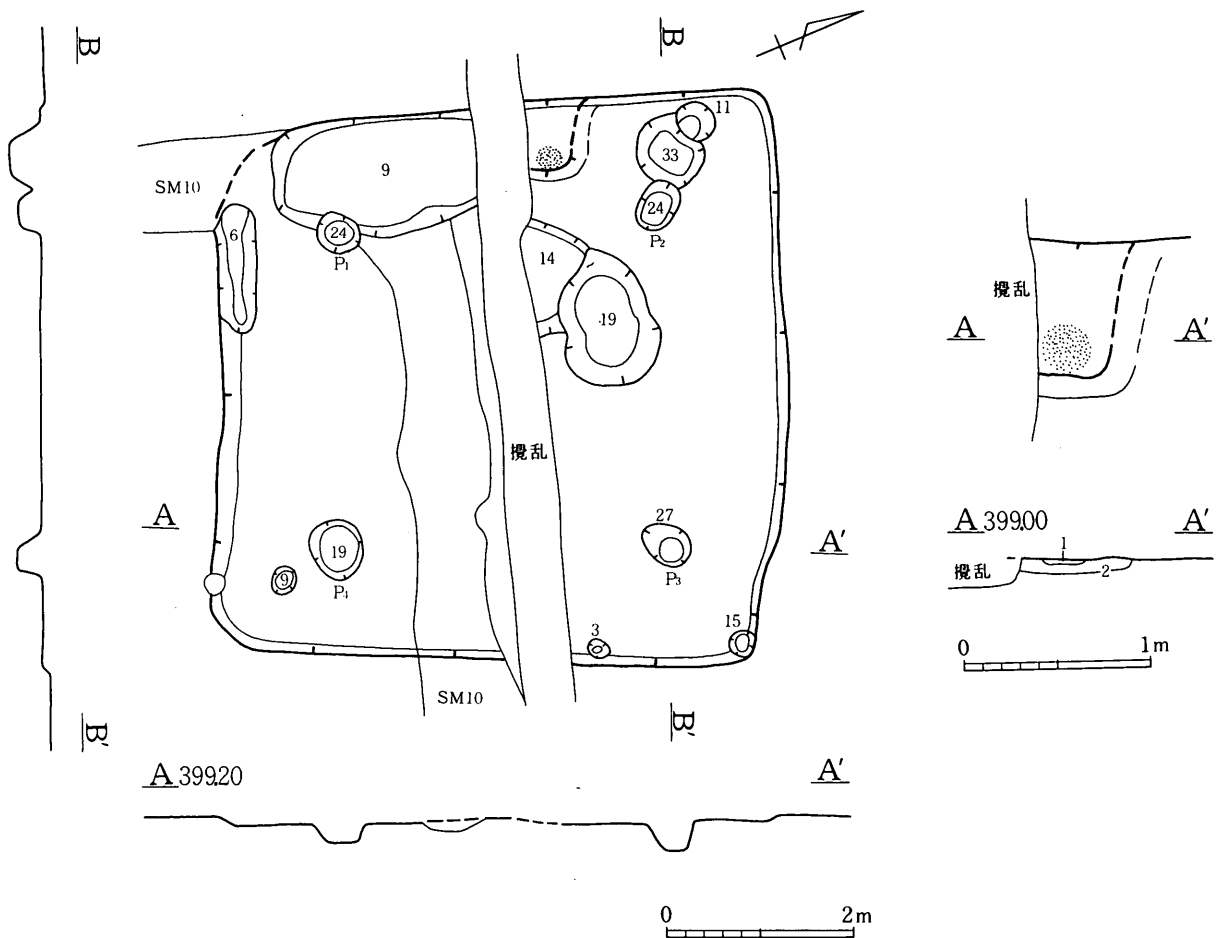
2)古墳時代中期～後期

遺構番号	S B13	検出位置	第1地点 Ⅲ区A L12		
規 模	- × - × 30cm	長 軸	(N76.5° W)	平面形	方形と考えられる。
検出状況	埋土が地山とやや地山と異なり、検出された。				
重複関係	S B11を切り、S D25に切られる。S D27と重複するが、新旧関係は不明である。				
壁	やや緩やかに立ち上がる。				
床	明確に把握されたが、軟弱である。貼床はない。				
柱 穴	不明。				
炉	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量僅少。土師器高坏・器台、須恵器甕・坏。				
そ の 他					



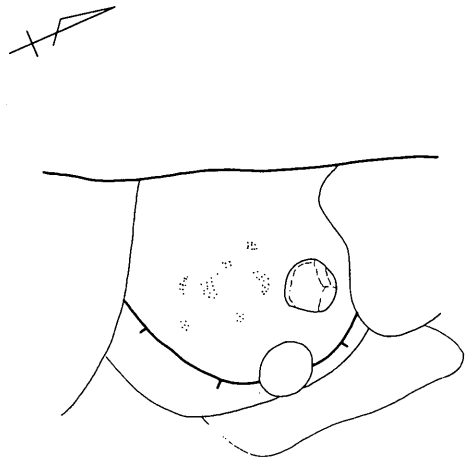
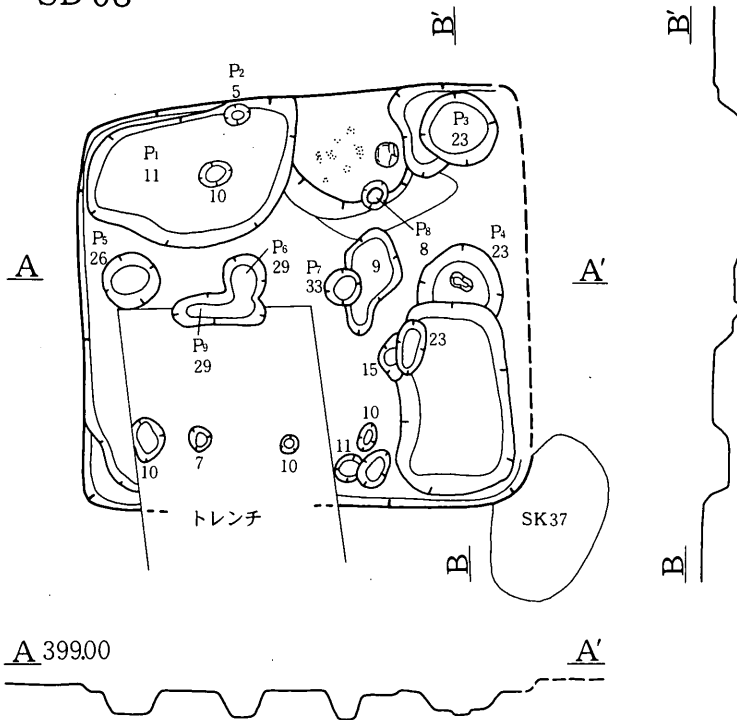
挿図11 SB12・13

遺構番号	S B 27	検出位置	第1地点 Ⅲ区AU36	床面積	31.7㎡
規模	570×590×10cm	長軸	N67.5° W	平面形	不整形
検出状況	貼床が明確に地山と異なり、把握された。中央をグランド暗渠により壊される。				
重複関係	SM10を切る。平面および本址床面の状況で新旧関係を把握した。				
壁	削平されて遺存せず。掘り方のみ把握された。				
床	貼床中で検出されたため、床面の状況は不明。				
柱穴	主柱穴P1～P4、小柱穴を検出。				
カマド	西壁やや北寄りに火床が確認された。詳細は不明。				
付属施設	南西壁際に周溝状の部分あり。				
遺物	遺物量は僅少である。土師器甕・坏、須恵器坏・器台。				
その他					

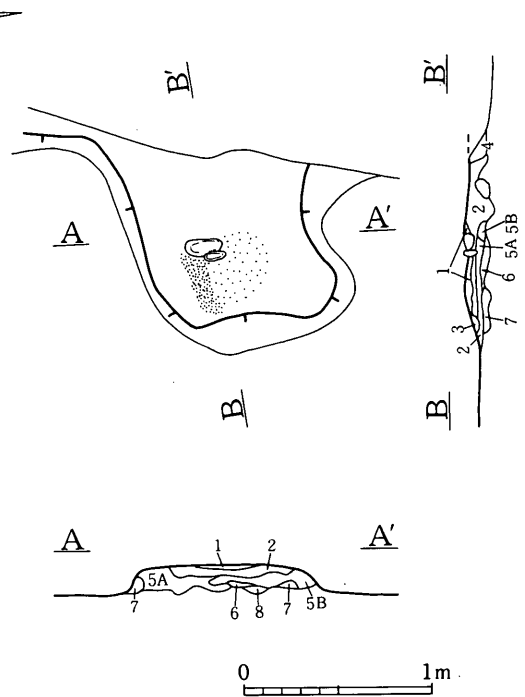
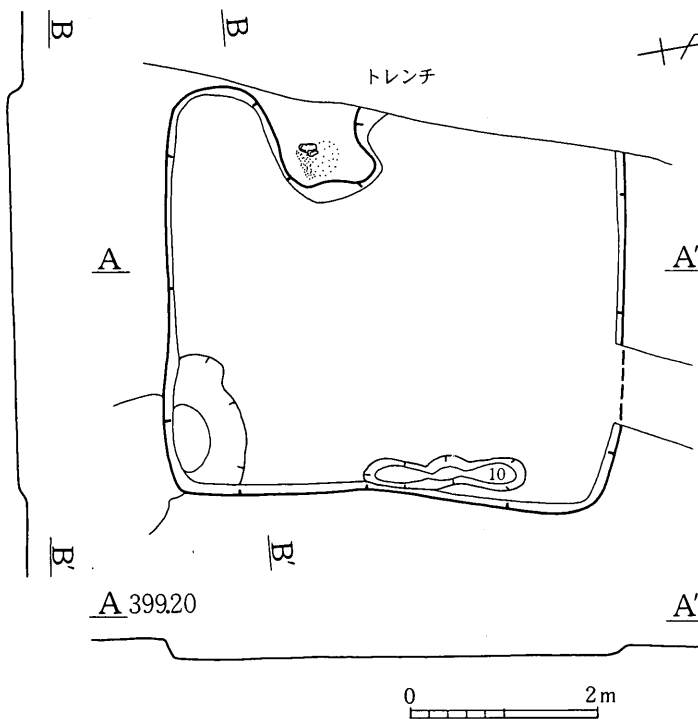


挿図12 SB27

SB 08



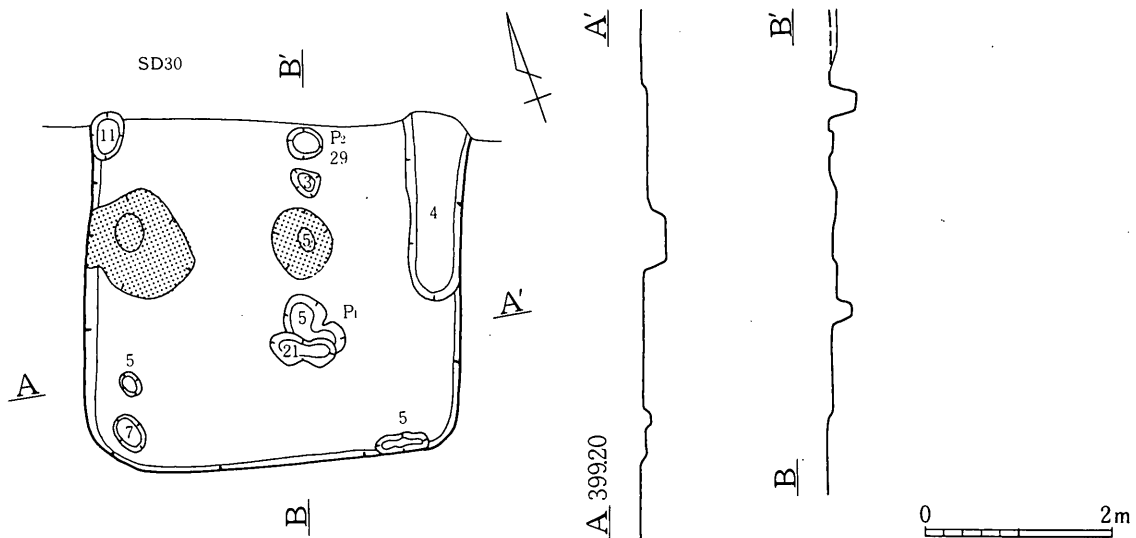
SB 21



挿図13 SB 08・21

3)奈良時代～平安時代前期

遺構番号	S B 08	検出位置	第1地点 III区A Q17		床面積	18.4㎡
規模	420×470×10cm	長軸	N69.0° W	平面形	不整形	
検出状況	埋土が地山と異なり明確に検出。南東部約1/4は試掘時に削平。北壁はグラウンド暗渠により破壊される。					
重複関係	S K 37を切る。					
壁	やや緩やかな立ち上りを示す。					
床	全体に硬く、掘り方あり。					
柱穴	主柱穴は把握できず。					
カマド	西壁中央に石芯(粘土?)カマド。焚き口全面に炭が分布。					
付属施設	なし。					
遺物	遺物量は少なく、破片が多い。床面遺物はカマド右袖脇より出土。土師器甕・甑、須恵器甕・坏・蓋。					
その他	P3～P7はあるいは掘立柱建物址の可能性もあるが、本址の周囲には柱穴を検出できず。					
遺構番号	S B 21	検出位置	第1地点 III区A X37		床面積	(19.5㎡)
規模	430×480×20cm	長軸	N80.0° W	平面形	不整形	
検出状況	埋土が地山とやや異なり、不明確ながら検出された。試掘トレンチにより西壁の一部を破壊					
重複関係	なし。					
壁	明確で、ほぼ垂直に立ち上がる。					
床	堅固で貼床はない。南半は良好に遺存する。					
柱穴	主柱穴等不明。					
カマド	西壁中央より南側に構築。袖前面に1対の石を立て、袖は地山を掘り残す。火床が良好に残る。					
付属施設	南東隅に貯蔵穴と考えられる掘り込みがある。					
遺物	遺物量は少ない。カマド脇に須恵器坏、貯蔵穴より土師器甕出土。土師器甕、須恵器甕・坏・蓋。					
その他	カマドの位置から若干時期が下る可能性もある。					



挿図14 SB22



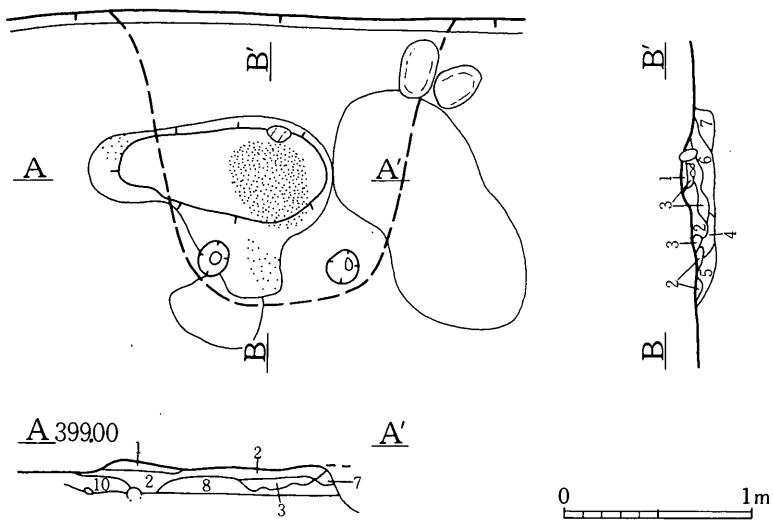
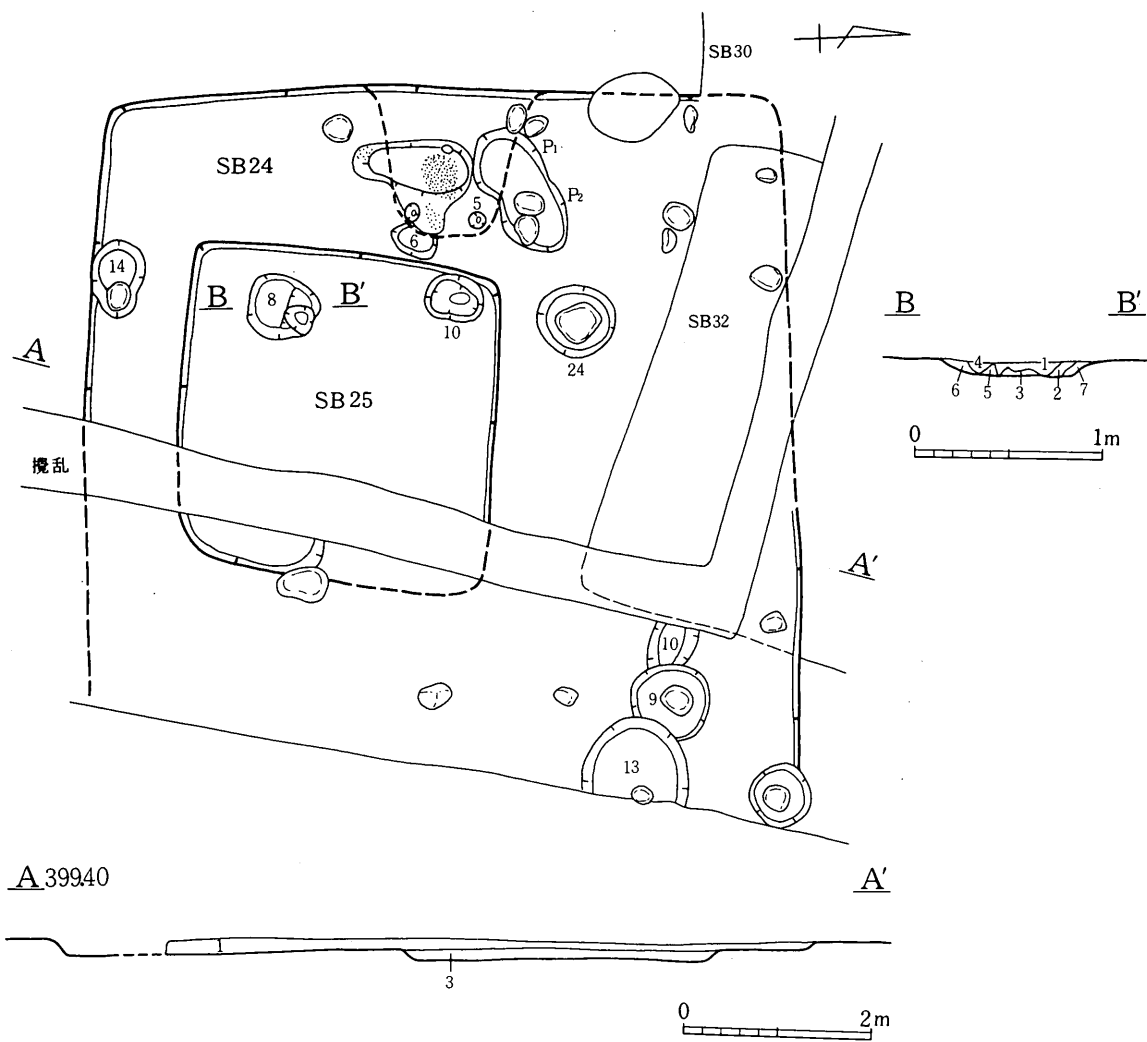
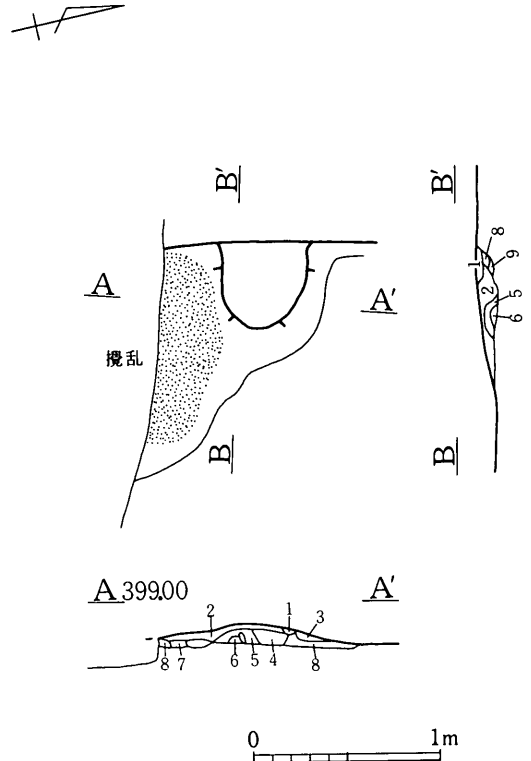
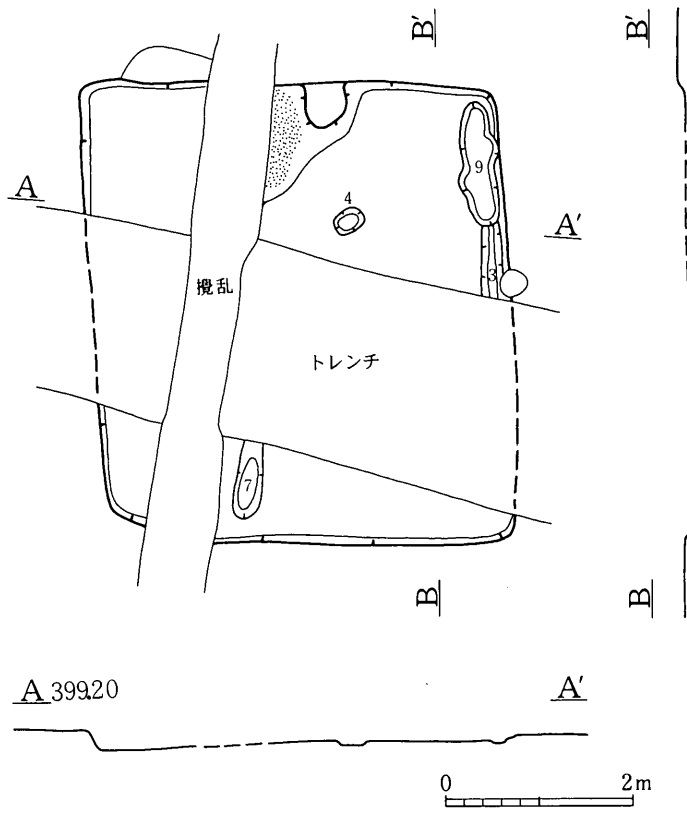


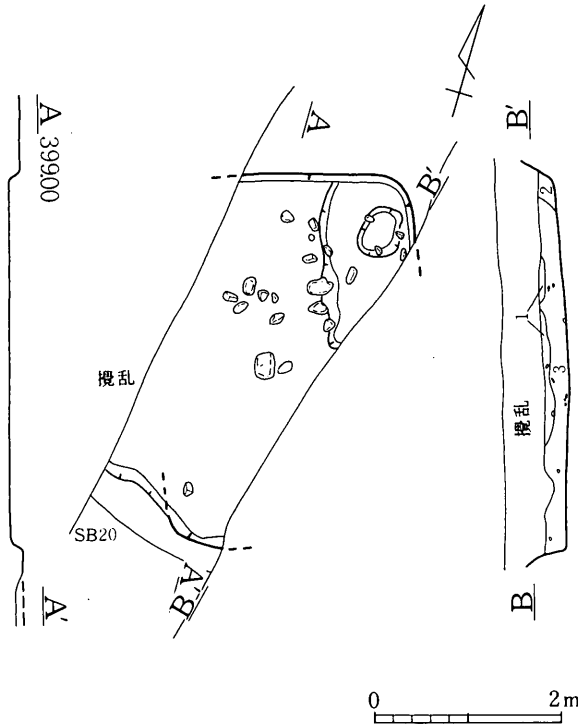
插图 15 SB24·25

遺構番号	S B 22	検出位置	第1地点 Ⅲ区A Q37		
規 模	400× - × 5cm	長 軸	(N70.0° W)	平 面 形	隅丸長方形と考えられる。
検出状況	ほぼ全面に焼土・炭化物が分布し、明確に検出された。				
重複関係	S D 30に切られる。				
壁	上部を削平されて不明。				
床	硬い貼床が明確に把握された。				
柱 穴	小柱穴を検出したのみ。				
カ マ ド	西壁際に焼土・炭化物が混じる部分があり、カマドの可能性はある。				
付属施設	東壁下に周溝状の掘り込みあり。				
遺 物	遺物は全体に散らばり、少なく、破片が多い。床面遺物はカマド前面が多い。土師器甕・坏、須恵器甕・坏・蓋。				
そ の 他	P1・P2中間に焼土の厚い集積あり。焼失住居と考えられる。				
遺構番号	S B 24	検出位置	第1地点 Ⅲ区A V44		
規 模	- × 750×15cm	長 軸	N86.0° W	平 面 形	不整形と考えられる。
検出状況	埋土が地山と明確に異なり、把握された。				
重複関係	S B 25を切り、S B 32に切られる。S B 30と重複するが、新旧関係は不明である。S B 25との新旧関係は、セクションおよびS B 25上部床面が硬いことによる。				
壁	削平により、不明である。				
床	明確で、中央部分は部分的に堅固である。				
柱 穴	礎石立ちであると考えられるが、他遺構との重複のため、遺存状態はよくない。				
カ マ ド	西壁中央に火床および袖石掘り方が確認された。袖石1対の石芯粘土カマドと考えられるが上部を削平されており、詳細は不明である。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物量は少ない。土師器甕・坏、須恵器甕・坏・蓋。				
そ の 他	南西隅に焼土あり。				
遺構番号	S B 28	検出位置	第1地点 Ⅲ区B B36	床面積	19.4㎡
規 模	480× 440×20cm	長 軸	N82.0° W	平 面 形	不整形
検出状況	試掘トレンチにかかり、また、南半をグランド暗渠に壊される。				
重複関係	なし。				
壁	明確でほぼ垂直に立ち上がる。				
床	明確であるが、硬い部分は検出できず。				
柱 穴	小柱穴1基を検出したのみ。				
カ マ ド	西壁中央に火床および左袖の一部を検出した。袖構築材等は不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量は少なく、埋土全般からの出土で、破片が多い。土師器甕、須恵器甕・坏・蓋。				
そ の 他					

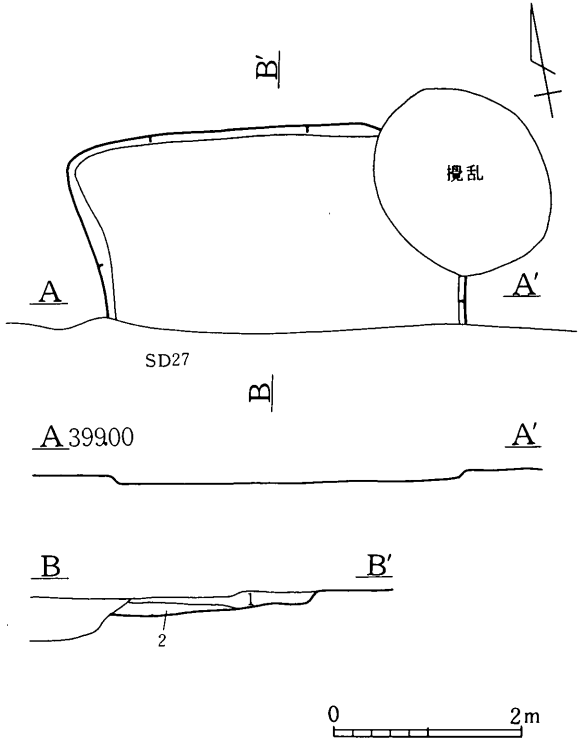
SB 28



SB 17



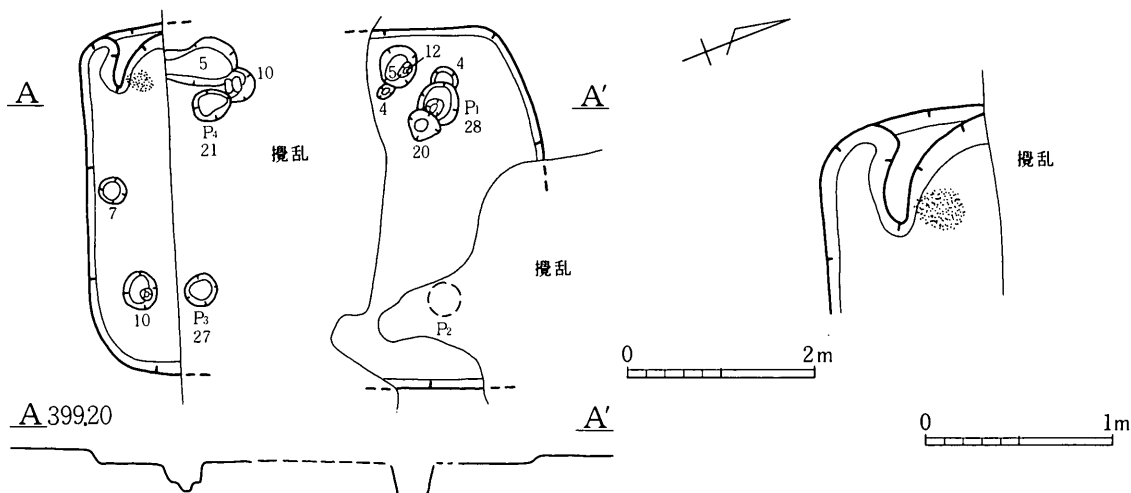
SB 18



挿図16 SB17・18・28

4)平安時代後期

遺構番号	S B 17	検出位置	第1地点 III区AM43		床面積	(9.3㎡)
規 模	(400)×(310)×25cm	長 軸	N20.0° W	平面形	隅丸長方形	
検出状況	地山と明確に異なり把握された。約1/4 が調査区外にかかり、西側はグランド暗渠に壊される。					
重複関係	S D 28と重複するが、断面でもグランド整地のため把握できなかった。					
壁	明確で、ほぼ垂直に立ち上がる。					
床	不明確で、北側に検出された礫の底面で把握した。					
柱 穴	小柱穴あり。					
カ マ ド	北東隅に炭混じりの焼土が検出され、カマド跡と考えられる。焼土がかなり広範囲に広がることから破却された可能性がある。					
付属施設	なし。					
遺 物	遺物は少なく、破片が多い。床面遺物はカマド全面に多い。土師器甕・坏、須恵器坏・蓋。					
そ の 他	人為的に埋め戻されたと考えられる。					
遺構番号	S B 18	検出位置	第1地点 III区A I 33			
規 模	380× - ×20cm	長 軸	N89.5° W	平面形	不整形と考えられる。	
検出状況	貼床中で検出され、地山と異なり明確に検出された。					
重複関係	S D 27に切られる。本址の上にS D 27の礫が被る。					
壁	削平により不明である。					
床	貼床されたと考えられるが、大部分削平され不明である。平面図は掘り方部分。					
柱 穴	主柱穴等不明である。					
カ マ ド	不明。攪乱の南西側に炭混じりの焼土が分布しており、この付近にカマドがあった可能性がある。					
付属施設	不明。					
遺 物	遺物量は僅少。土師器甕、須恵器甕。					
そ の 他						

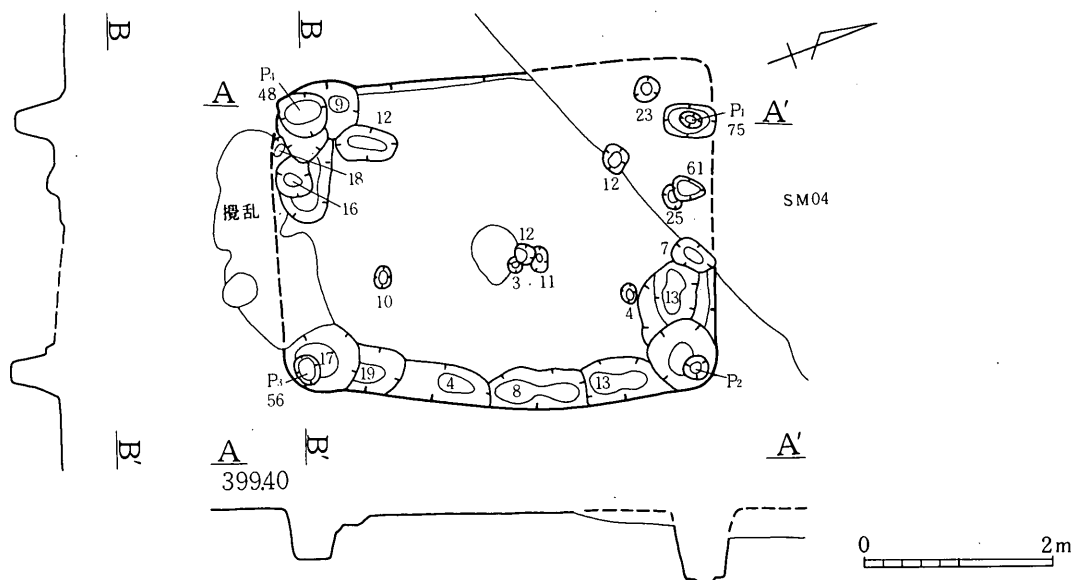


挿図17 SB37

遺構番号	S B37	検出位置	第1地点 III区B E29		床面積	16.1㎡
規 模	370×480×15cm	長 軸	N70.0° W	平面形	隅丸長方形	
検出状況	貼床が地山と明確に異なり、把握された。攪乱に大きく壊される。					
重複関係	S T08と重複する。					
壁	削平されて遺存せず。掘り方のみ把握された。					
床	貼床中で検出されたため、床面の状況は不明。					
柱 穴	支柱穴P1・P3・P4を検出。他の1本は攪乱に壊される。他に小柱穴あり。					
カマド	南西隅に火床および右袖の一部を把握。					
付属施設	なし。					
遺 物	遺物はほとんどなく、破片が多い。土師器甕、羽釜。					
そ の 他						

5)中世

遺構番号	S B06	検出位置	第1地点 III区B K19		床面積	(14.3㎡)
規 模	360×460×15cm	長 軸	N72.0° E	平面形	不整隅丸長方形	
検出状況	埋土が地山と異なり、明確に検出された。					
重複関係	S M04を切る。					
壁	削平により上部は不明であるが、緩やかな立ち上りを示す。					
床	中央部西側が部分的に硬い。周囲を周溝状に掘り込んでおり、この上部は貼床される。					
柱 穴	四隅に支柱穴P1～P4、他に若干の小柱穴あり。					
カマド	検出できず。					
付属施設	なし。					
遺 物	周溝状の部分から陶器破片が出土しているのみで、時期の決め手はない。					
そ の 他	自然埋没と考えられる。					



挿図18 SB06

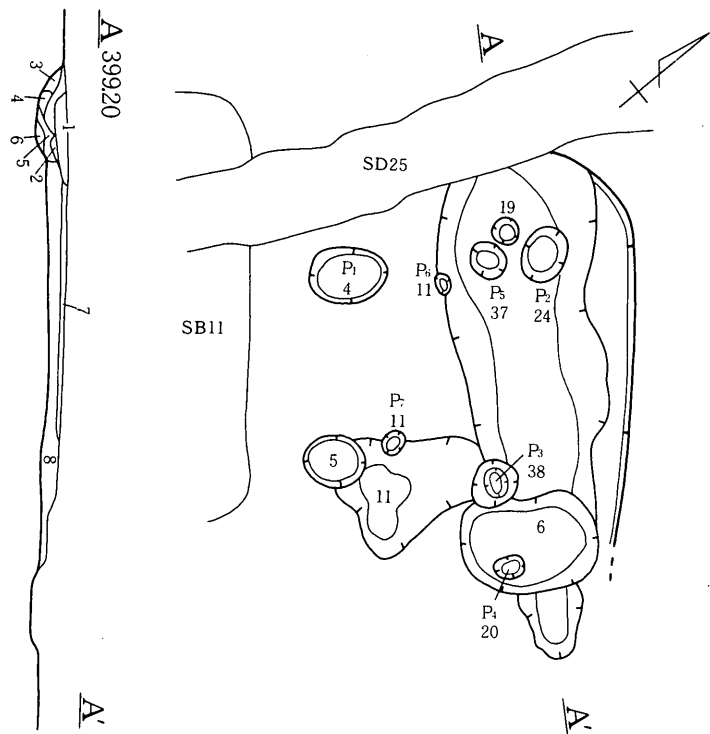
## 6) 時期不明

遺構番号	S B 09	検出位置	第1地点 Ⅲ区A N13		
規 模	— × — × 20cm	長 軸	(N42.0° W)	平面形	不明
検出状況	プランの一部が把握された。				
重複関係	S D25に切られる。S B11・S D27と重複するが、新旧関係不明である。				
壁	他の遺構に切られてほとんど遺存しないが、緩やかに立ち上がると考えられる。				
床	貼床されており、堅固である。掘り方は中央が高く、壁際が低い。				
柱 穴	柱穴は検出されたが、支柱穴は不明。				
炉 等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量は少なく、床面遺物はない。土師器壺・甕。				
そ の 他	なし。				

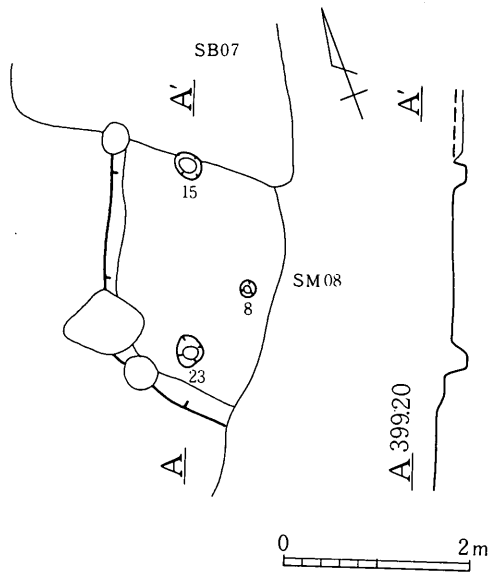
遺構番号	S B 10	検出位置	第1地点 Ⅲ区A S13		
規 模	— × — × 12cm	長 軸	(N24.5° W)	平面形	不明
検出状況	埋土が地山とやや異なり把握された。				
重複関係	S B07・S M06・S D25に切られる。				
壁	緩やかな立ち上がりを示す。				
床	軟弱であり、掘り方はない。				
柱 穴	小柱穴あり。				
炉 等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量は少なく、床面遺物はない。土師器壺・甕。				
そ の 他	南西辺と北西辺がほぼ直交し、底面が平坦なためS Bとした。				

遺構番号	S B 11	検出位置	第1地点 Ⅲ区A M12		
規 模	450× — × 5cm	長 軸	(N51.5° W)	平面形	方形と考えられる。
検出状況	S D25掘り下げ中に確認した。埋土はやや地山と異なるが、平面形は最終的に周溝により把握した。				
重複関係	S B13・S D25に切られる。				
壁	壁の遺存部分のごく僅かで、立ち上がりの状態は不明である。				
床	中央部が部分的に堅固で、明確ではないが貼床されたと考えられる。				
柱 穴	小柱穴があるが、支柱穴は不明である。				
炉 等	不明。				
付属施設	周溝はほぼ全周すると考えられる。				
遺 物	床面遺物はなく、埋土中央から出土したが、遺物量は少ない。破片が多い。土師器甕・器台				
そ の 他					

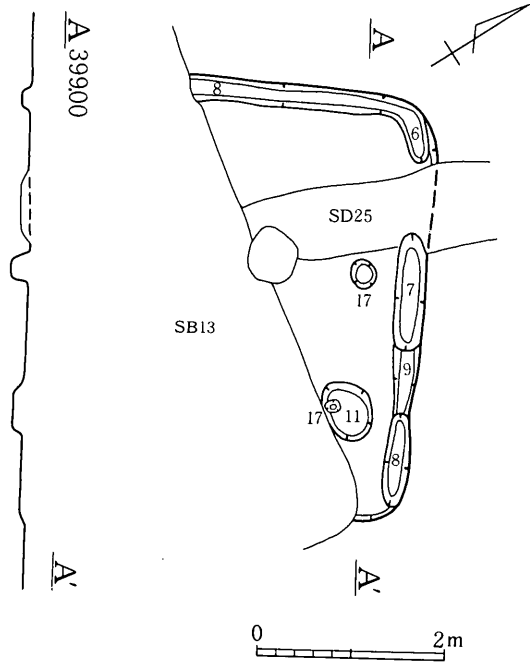
SB 09



SB 10



SB 11



SB 14·15

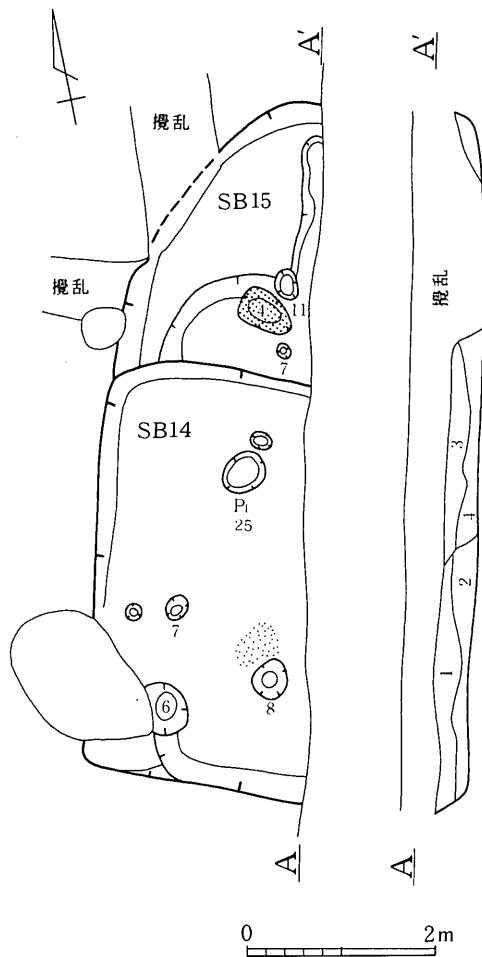


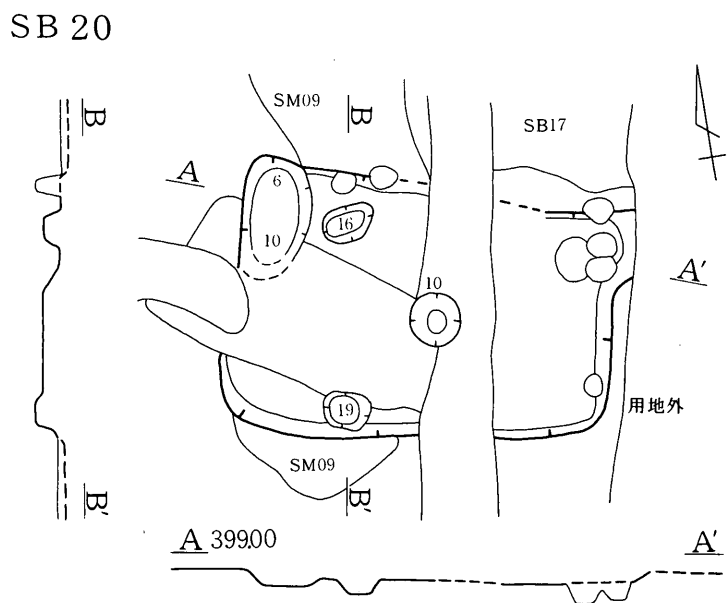
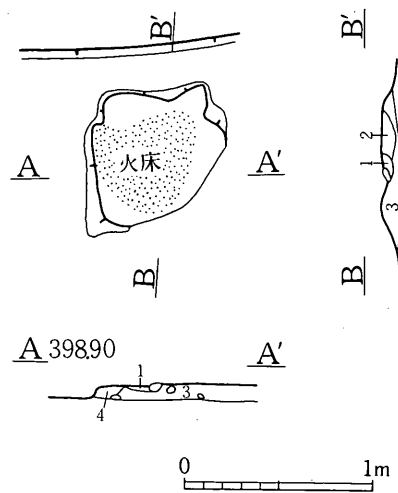
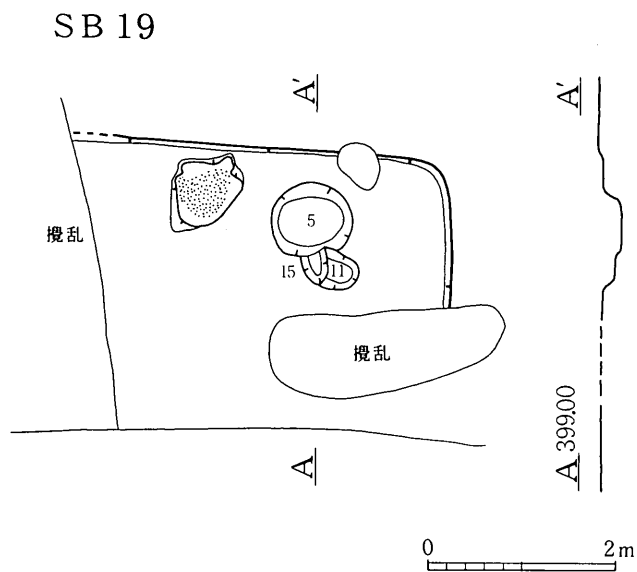
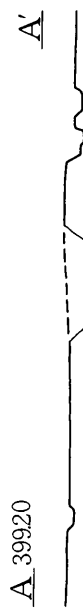
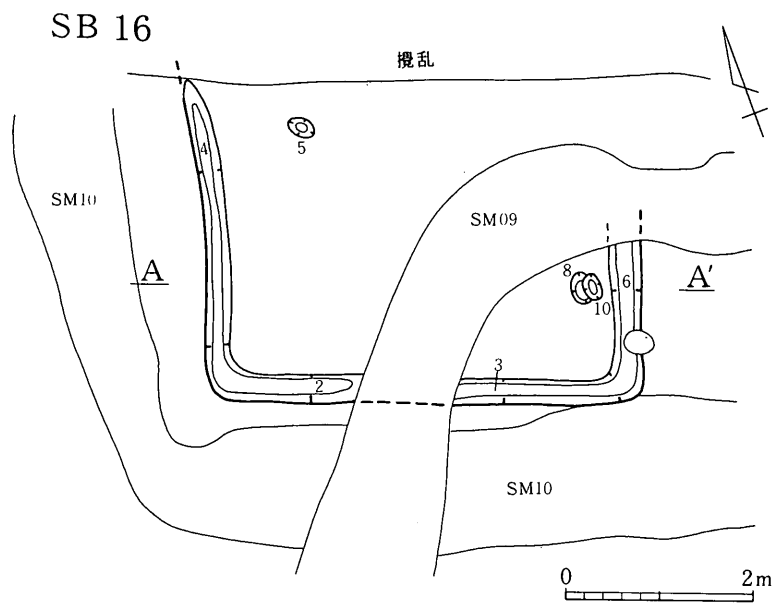
插图19 SB09~11·14·15

遺構番号	S B 14	検出位置	第1地点 Ⅲ区A G42		
規 模	440× - ×30cm	長 軸	N15.0° E	平 面 形	不整形と考えられる。
検出状況	埋土が地山と明確に異なり把握された。約1/2 が調査区外にかかる。				
重複関係	S B 15を切る。新旧関係は、断面により把握。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	貼床されており、南側約1/3 は堅固である。中央やや南側に焼土・炭・灰が散らばる。				
柱 穴	主柱穴P1、補助柱穴あり。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量は少ない。土師器甕・台付甕、須恵器甕・坏。				
そ の 他					

遺構番号	S B 15	検出位置	第1地点 Ⅲ区A H42		
規 模	- × - ×25cm	長 軸	-	平 面 形	不明。
検出状況	S B 14調査中に検出された。約1/2 が調査区外にかかる。グラウンド暗渠に壊される。				
重複関係	S B 14に切られる。新旧関係は、断面により把握。				
壁	やや緩やかに立ち上がる。				
床	貼床はなく、内部が1段凹む。S B 14寄りに焼土あり。				
柱 穴	小柱穴あり。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量は少ない。土師器甕、須恵器甕・坏。				
そ の 他					

遺構番号	S B 16	検出位置	第1地点 Ⅲ区A O35		
規 模	460× - ×-cm	長 軸	(N19.0° E)	平 面 形	方形と考えられる。
検出状況	周溝が検出され、S Bとした。				
重複関係	S M09に切られる。				
壁	やや不明確で、緩やかな立ち上がりを示す。				
床	堅固で貼床はない。				
柱 穴	主柱穴P1～P4、補助柱穴あり。				
炉	P1・P4の間P4寄りに地床炉。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物出土はない。				
そ の 他	出土遺物がなく時期不明としたが、S M09との新旧関係から古墳時代以前である。 囲溝址の可能性もある。				





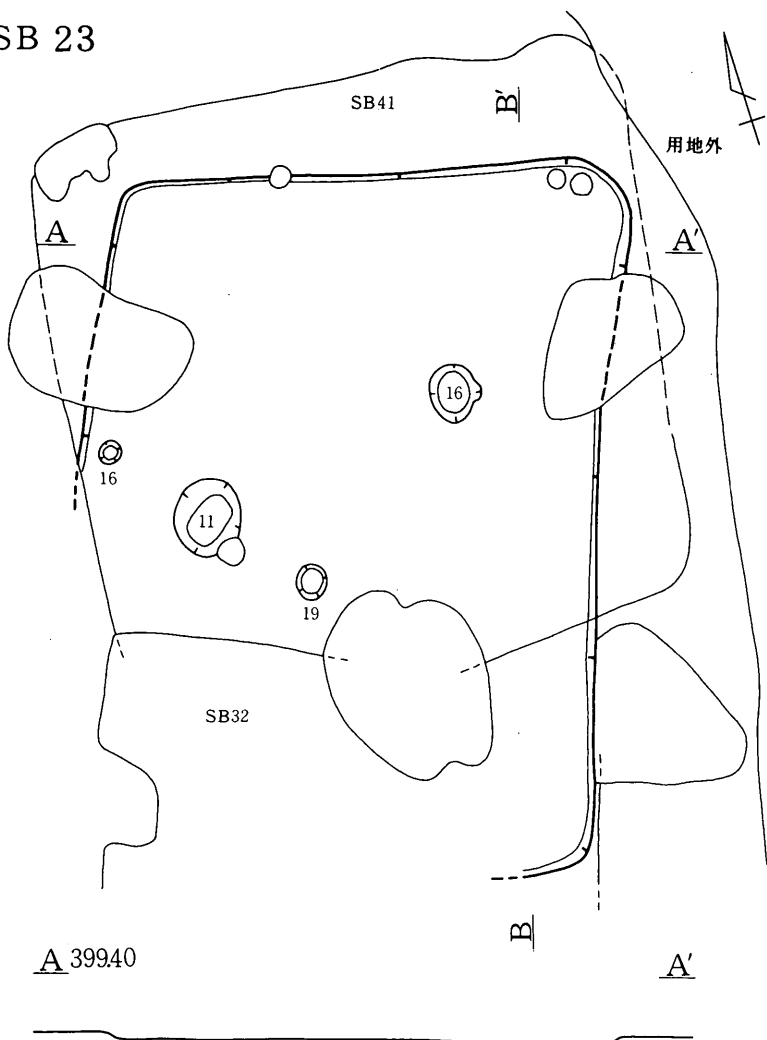
挿図20 SB16・19・20

遺構番号	S B 19	検出位置	第1地点 III区A K 29		
規 模	— × — × 5cm	長 軸	(N19.5° W)	平 面 形	不整形とされる。
検出状況	貼床中で掘り方の一部が把握された。一部は攪乱に、また約1/2は調査区外にかかる。				
重複関係	なし。				
壁	削平され不明である。				
床	貼床されているが、状態は不明である。				
柱 穴	支柱穴は不明。				
カ マ ド	北壁寄りに火床あり。削平を受けて詳細は不明である。				
付属施設	火床脇の柱穴は灰溜まりと考えられる。				
遺 物	遺物量は僅少で、大半は灰溜まりからの出土である。土師器甕等あり。				
そ の 他					

遺構番号	S B 20	検出位置	第1地点 III区A K 42	床面積	9.0㎡
規 模	— × — × 5cm	長 軸	(N19.5° W)	平 面 形	不整形丸長方形。
検出状況	埋土が地山と明確に異なり把握された。中央部をグランド暗渠に壊される。				
重複関係	S M 09を切る。北西隅に溝状の遺構が重複する可能性がある。				
壁	削平され不明である。				
床	貼床されているが、状態は不明である。				
柱 穴	不明。				
カ マ ド	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量僅少。土師器甕等あり。				
そ の 他					

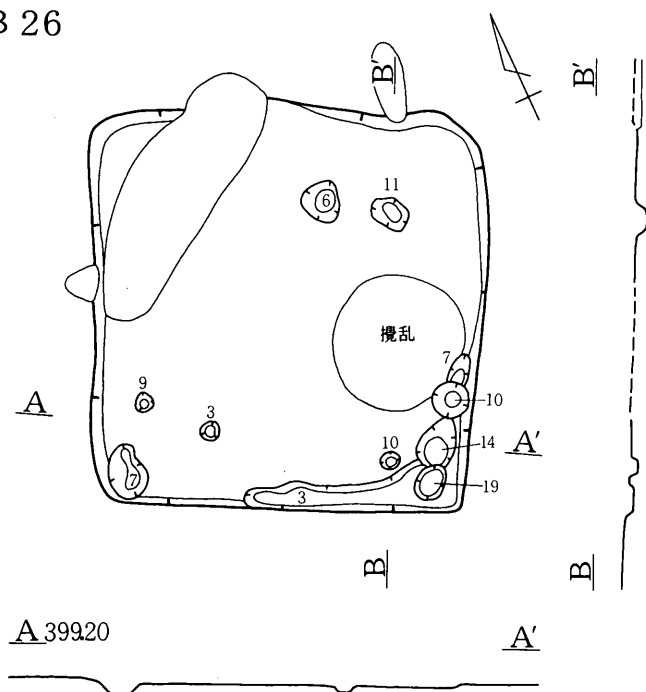
遺構番号	S B 23	検出位置	第1地点 III区B B 44	床面積	(38.7㎡)
規 模	740× 550× 5cm	長 軸	N22.0° E	平 面 形	不整形長方形とされる。
検出状況	貼床中で検出され、地山と異なり明確に検出された。				
重複関係	S B 41を切る。S B 32と重複し、新旧関係把握ためのセクションを設定したが、重複位置に柱穴があり、新旧は不明である。				
壁	不明確である。				
床	掘り方は一部礫層に達するため、貼床されたと考えられるが、大部分削平され不明である。				
柱 穴	支柱穴等不明である。				
カ マ ド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量は少ない。土師器甕・坏、須恵器甕・坏・蓋。				
そ の 他					

SB 23



0 2m

SB 26

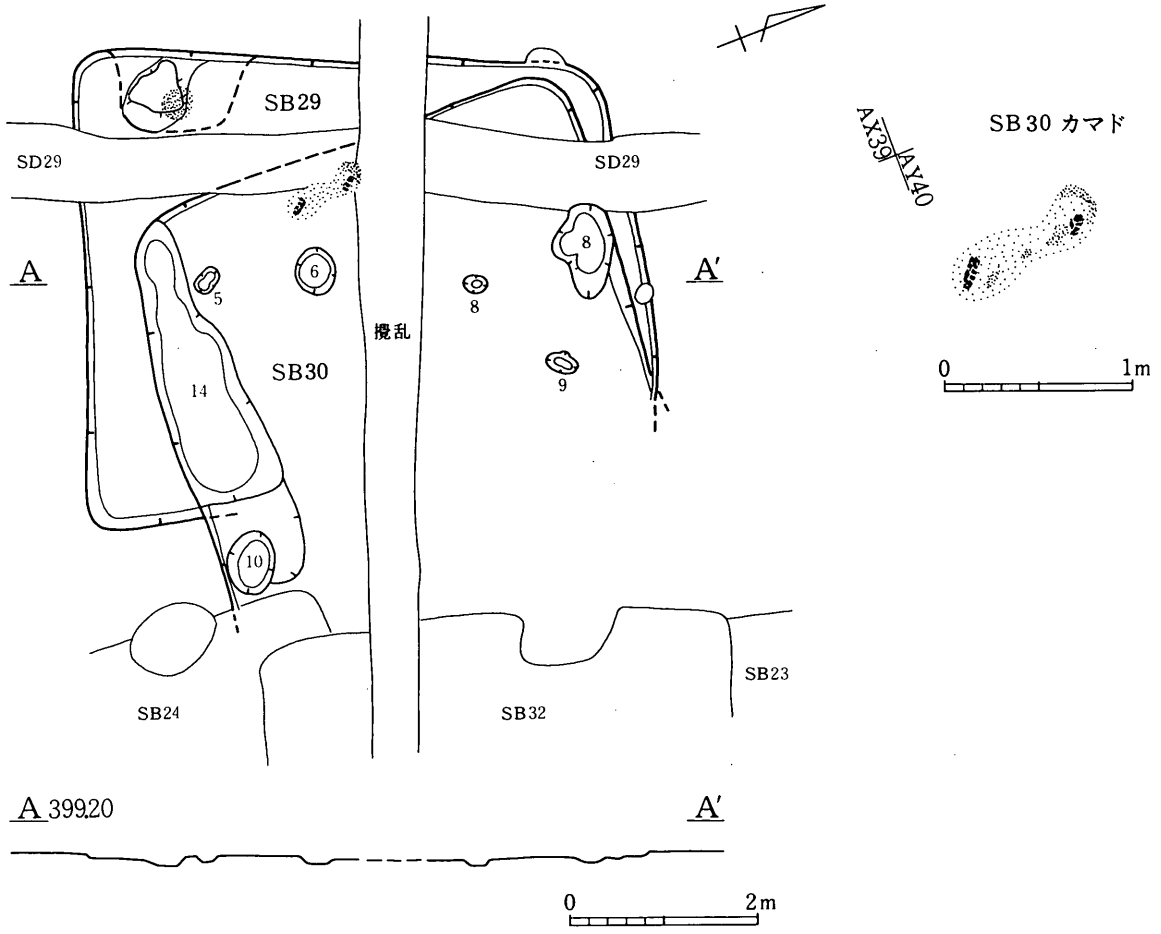


0 2m

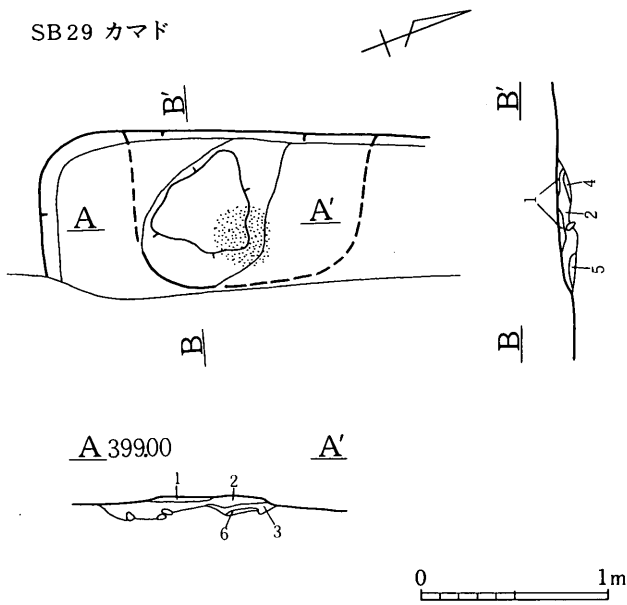
插图 21 SB 23 · 26

遺構番号	S B 25	検出位置	第1地点 III区A V 44			床面積	10.2㎡
規 模	330× 340×10cm	長 軸	N 9.0° E	平 面 形	不整形		
検出状況	S B 24床面で検出された。						
重複関係	S B 24に切られる。						
壁	明確でほぼ垂直に立ち上がる。						
床	不明確で軟らかい。礫が底面より浮いていることから、セクションでは確認できなかったものの、貼床があった可能性がある。						
柱 穴	不明。						
カマド等	不明。						
付属施設	なし。						
遺 物	遺物量は僅少で、土師器甕・坏、須恵器甕・坏・蓋等あり。						
そ の 他	埋土中全面に礫が入る。						
遺構番号	S B 26	検出位置	第1地点 III区B E 38			床面積	15.3㎡
規 模	430× 410× 5cm	長 軸	N23.0° E	平 面 形	不整形		
検出状況	埋土が地山と異なり、明確に検出された。東壁寄りに近代の井戸が掘り込まれる。						
重複関係	なし。						
壁	床面まで浅く、立ち上がりの状態は不明である。						
床	中央部分が堅固で、貼床はない。						
柱 穴	浅い小柱穴はあるが、主柱穴は不明である。						
カマド等	不明。						
付属施設	南東隅に周溝。						
遺 物	埋土中全般から少量出土。土師器甕、須恵器甕・坏・盤。						
そ の 他							
遺構番号	S B 29	検出位置	第1地点 III区A Y 40			床面積	26.1㎡
規 模	490× 600× 5cm	長 軸	N72.0° W	平 面 形	不整形と考えられる。		
検出状況	埋土が地山とやや異なることから、不明確ながら把握された。						
重複関係	S B 30を切る。貼床およびS B 30カマドの遺存状況から新旧関係を判断。S D 29に切られ、S T 05と重複する。						
壁	削平され、立ち上がりの状態は不明である。						
床	貼床されており、堅固である。						
柱 穴	主柱穴等不明。						
カ マ ド	南西隅に火床および右袖の一部を検出。袖石の抜き取り痕があり、袖石1対の粘土カマドであったと考えられる。						
付属施設	なし。						
遺 物	遺物量は僅少で、土師器甕等あり。						
そ の 他							

SB 29・30



SB 29 カマド



挿図 2 2 SB 2 9 ・ 3 0

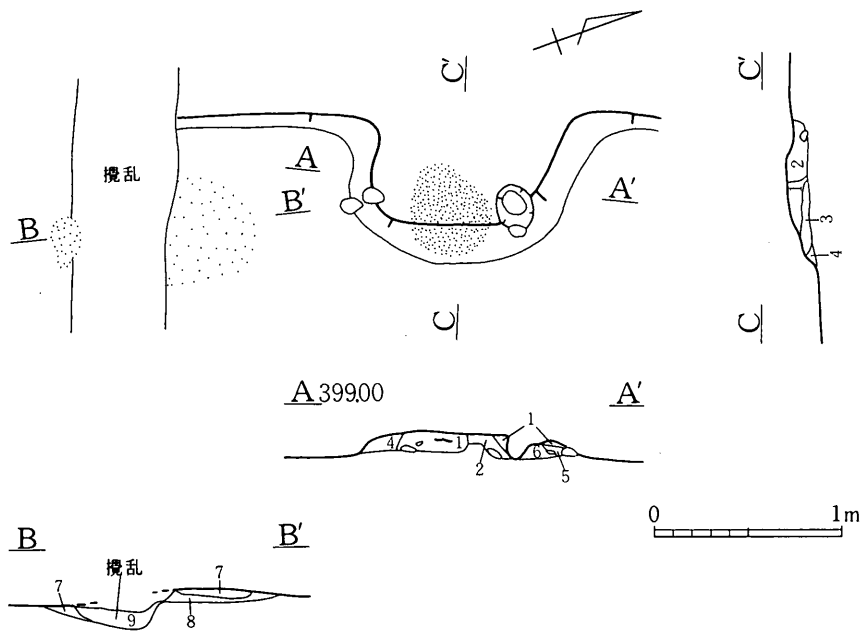
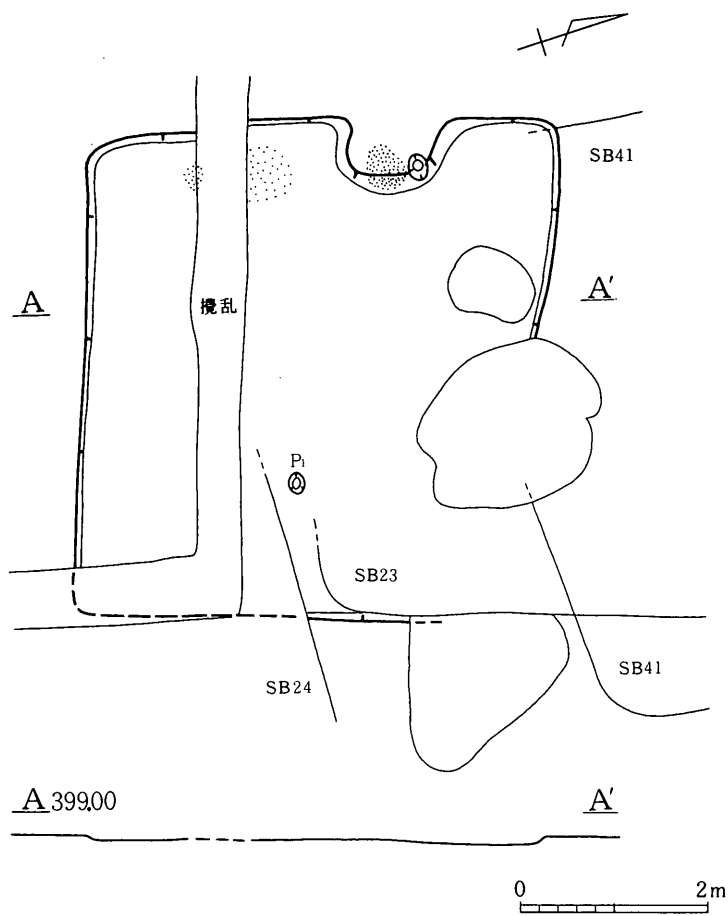


插图 23 SB32

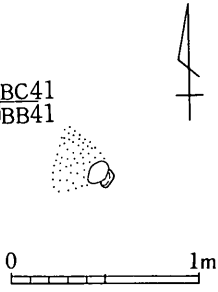
遺構番号	S B 30	検出位置	第1地点 Ⅲ区A Y 40		
規 模	— × 510 × 5cm	長 軸	N88.5° W	平 面 形	不整隅丸方形と考えられる。
検出状況	S B 29床面で明確に把握された。北東側は削平される。				
重複関係	S B 29・S D 29に切られ、S B 24・S B 32と重複する。				
壁	S B 29に切られて不明。				
床	貼床されているが、状態は不明。				
柱 穴	小柱穴はあるが、いずれの遺構に伴うか不明。				
カ マ ド	西壁中央に焼土および炭化物があり、カマドの残骸と判断された。詳細は不明。				
付属施設	南壁際に周溝状の部分あり。				
遺 物	遺物量は僅少で、土師器甕、須恵器坏等あり。				
そ の 他					

遺構番号	S B 32	検出位置	第1地点 Ⅲ区A Y 43	床面積	(23.8㎡)
規 模	530 × 490 × 10cm	長 軸	N69.0° W	平 面 形	不整方形
検出状況	埋土が地山とやや異なり、不明確ながら検出された。				
重複関係	S B 24・41を切り、S B 23に切られる。				
壁	不明確である。				
床	堅固で貼床が明確に把握された。貼りかえはなしと考えられる。				
柱 穴	不明。				
カ マ ド	西壁中央やや北寄りに焼土と袖の粘土があり、カマドと判断された。				
付属施設	なし。				
遺 物	埋土中全般から出土したが遺物量は少ない。破片が多い。土師器甕・高坏、須恵器甕・蓋・坏。				
そ の 他					

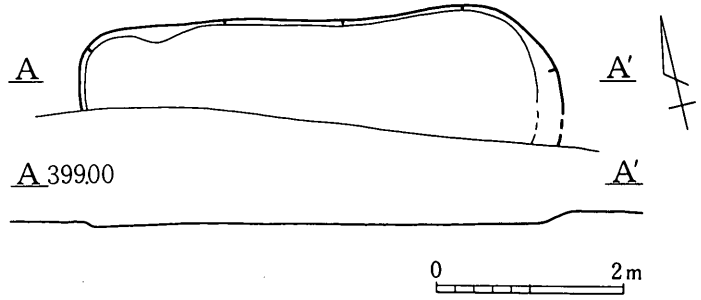
遺構番号	S B 33	検出位置	第1地点 Ⅲ区B B 41		
規 模	— × — × — cm	長 軸	—	平 面 形	不明
検出状況	カマド火床および遺物が検出され、把握された。S T 05には伴わないと判断。				
重複関係	S T 05				
壁	不明。				
床	不明。				
柱 穴	不明。				
カ マ ド	火床以外の詳細は不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物僅少。須恵器坏（転用硯）。				
そ の 他					

SB 33

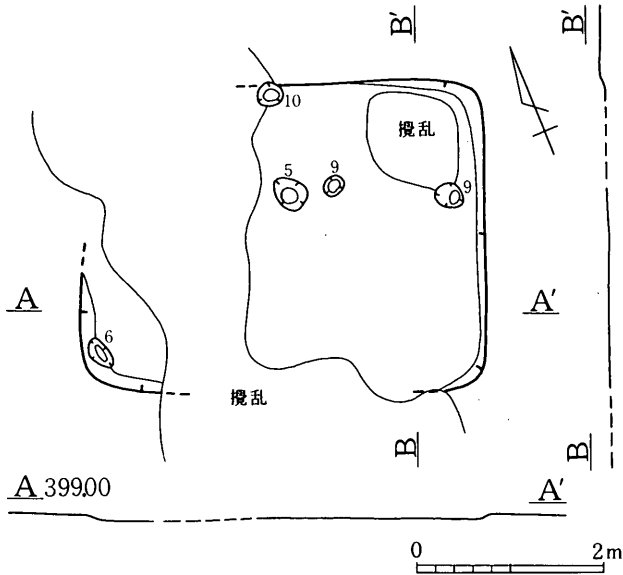
BC40|BC41  
BB40|BB41



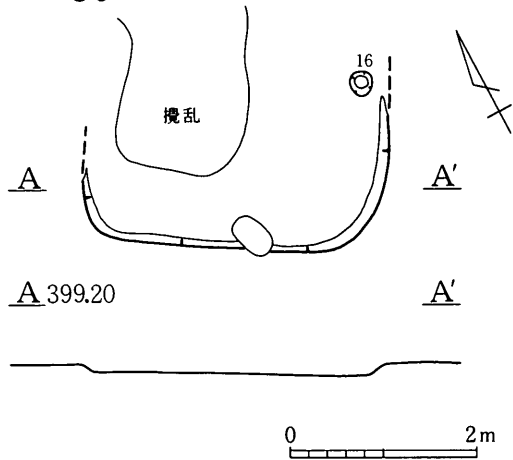
SB 35



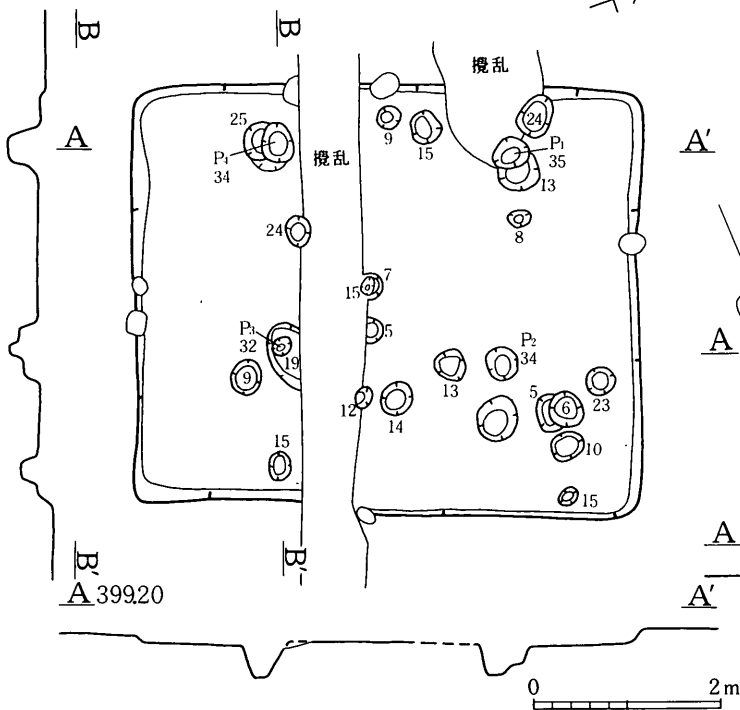
SB 36



SB 39



SB 38



SB 40

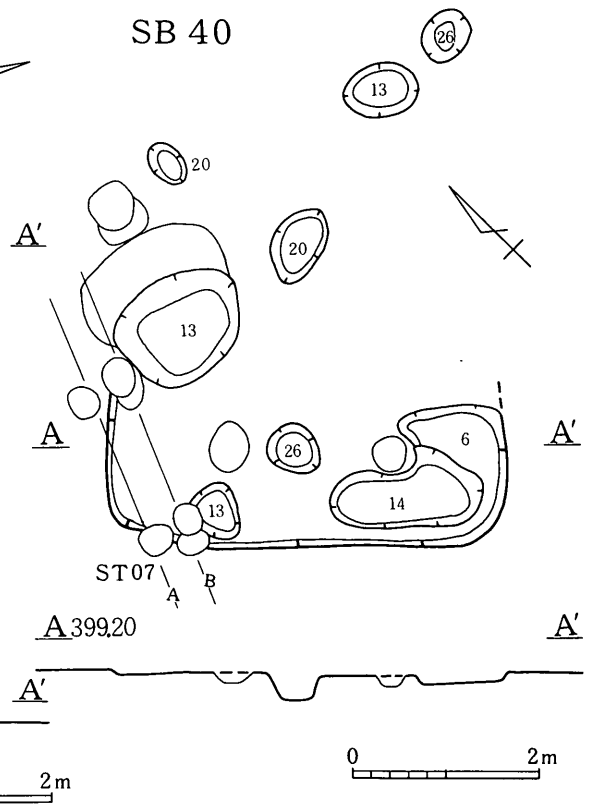


插图 24 SB 33 · 35 · 36 · 38 ~ 40



遺構番号	S B 35	検出位置	第1地点 Ⅲ区A K 26		
規 模	510× - ×10cm	長 軸	(N81.5° W)	平 面 形	不整隅丸方形と考えられる。
検出状況	埋土が地山とやや異なり、不明確ながら検出された。約1/4 が調査区外にかかる。				
重複関係	なし。				
壁	削平により不明である。				
床	貼床されており、全体的に硬い。掘り方は礫層中に達する。				
柱 穴	不明。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	なし。				
そ の 他					

遺構番号	S B 36	検出位置	第1地点 Ⅲ区A P 30	床面積	12.6㎡
規 模	320× 420× 5cm	長 軸	N19.0° E	平 面 形	長方形と考えられる。
検出状況	地山とやや異なる貼床が検出された。西半が攪乱に壊される。				
重複関係	なし。				
壁	不明。				
床	貼床あり。				
柱 穴	小柱穴あり。				
カマド等	不明。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物僅少。土師器甕、須恵器甕。				
そ の 他					

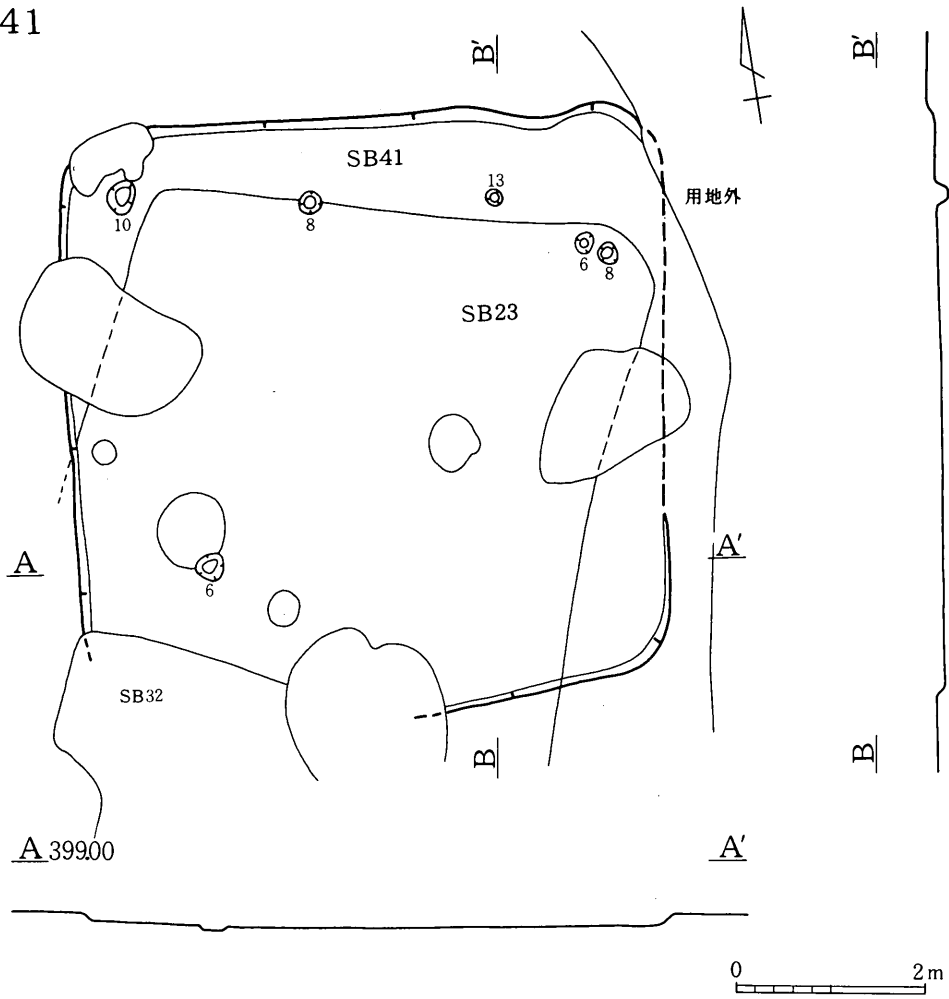
遺構番号	S B 38	検出位置	第1地点 Ⅲ区B C 33	床面積	22.1㎡
規 模	440× 530× 15cm	長 軸	N71.5° W	平 面 形	長方形
検出状況	貼床中で検出され、地山と異なり明確に検出された。ほぼ中央をグラウンド暗渠に壊される。				
重複関係	S T 07と重複するが、新旧関係は不明である。				
壁	削平により不明である。				
床	貼床されるが、削平されて床面の状態は不明である。				
柱 穴	支柱穴P1～P4、補助柱穴あり。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量は少なく、破片が多い。須恵器甕・坏、陶器碗・擂鉢。				
そ の 他					

遺構番号	S B 39	検出位置	第1地点 III区B I 28		
規 模	320× - ×10cm	長 軸	(N62.0° W)	平面形	隅丸長方形と考えられる。
検出状況	貼床中で確認され、地山と明確に異なる。約1/2 が攪乱により壊される。				
重複関係	なし。				
壁	削平を受けており、立ち上がりの状態は不明である。				
床	貼床あり。床面の状態は不明である。				
柱 穴	小柱穴あり。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量は僅少で、いずれも小破片、器種不明。土師器、須恵器、陶器。				
そ の 他					

遺構番号	S B 40	検出位置	第1地点 III区B E 35		
規 模	430× - × 5cm	長 軸	(N42.0° W)	平面形	不整隅丸方形と考えられる。
検出状況	貼床中で確認され、地山と明確に異なる。北東半約1/2 は把握できず。				
重複関係	S T 07と重複する。				
壁	削平を受けており、立ち上がりの状態は不明である。				
床	貼床あり。床面の状態は不明である。				
柱 穴	小柱穴あり。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	なし。				
そ の 他					

遺構番号	S B 41	検出位置	第1地点 III区B B 45	床面積	36.5㎡
規 模	620× 610×13cm	長 軸	N 5.0° E	平面形	不整形と考えられる。
検出状況	埋土が地山と明確に異なり、検出された。西半が攪乱に壊される。				
重複関係	S B 23に切られる。				
壁	不明。				
床	貼床あり。				
柱 穴	不明。				
カマド等	不明。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物僅少。土師器甕、須恵器蓋。				
そ の 他					

SB 41



SB 42·43

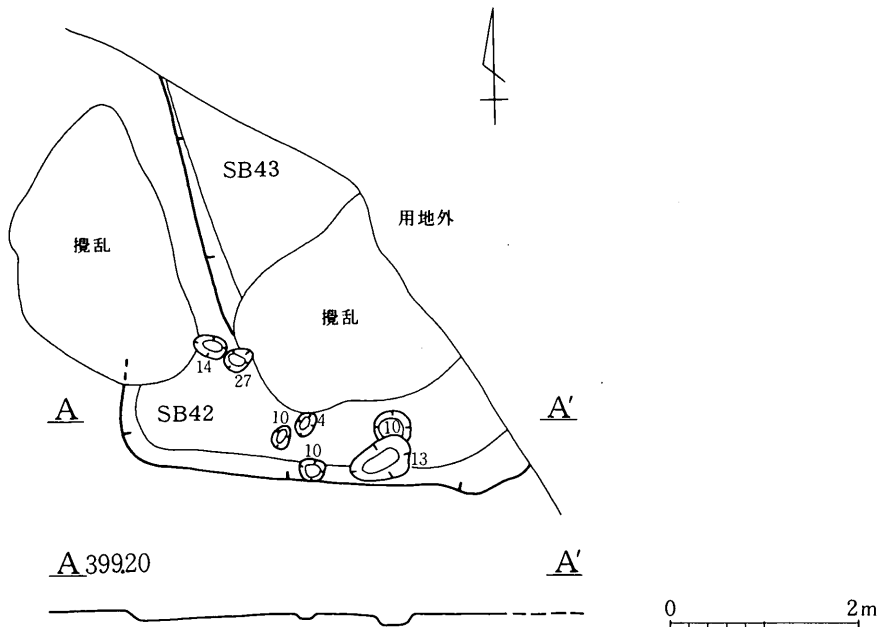


插图 25 SB 41~43

遺構番号	S B 42	検出位置	第1地点 Ⅲ区B E 45		
規 模	- × - × 5cm	長 軸	(N83.0° W)	平面形	不明
検出状況	埋土が地山と明確に異なり、把握された。攪乱に大きく壊される。約1/2が調査区外。				
重複関係	S B 43に切られる。				
壁	検出面から浅く、状態は不明。				
床	軟弱で、貼床はない。				
柱 穴	小柱穴あり。				
カマド等	不明。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物なし。				
そ の 他					

遺構番号	S B 43	検出位置	第1地点 Ⅲ区B E 45		
規 模	- × - × 5cm	長 軸	(N14.0° W)	平面形	不明
検出状況	S B 42床面で検出された。攪乱に壊される。大半が調査区外にかかる。				
重複関係	S B 42を切る。				
壁	検出面から浅く、状態は不明。				
床	軟弱で、貼床はない。				
柱 穴	不明。				
カマド等	不明。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物なし。				
そ の 他					

(2) 掘立柱建物址

遺構番号	S T 01	検出位置	第1地点 Ⅲ区A Y 18他	主軸方向	N 22.5° E
規模 (m)	4.6 × 4.2	心心 (m)	桁 3.6 × 梁 3.3	床面積	12.3㎡
重複関係	S T 02、S M 07				
柱 穴	径70~90cmの不整円ないし楕円形、深さ20~56cm、柱痕25~30cm。				
出土遺物	各柱穴より土師器甕片が出土。	備 考			
時 期	奈良時代と考えられる。	根 拠	形態および重複関係から。		

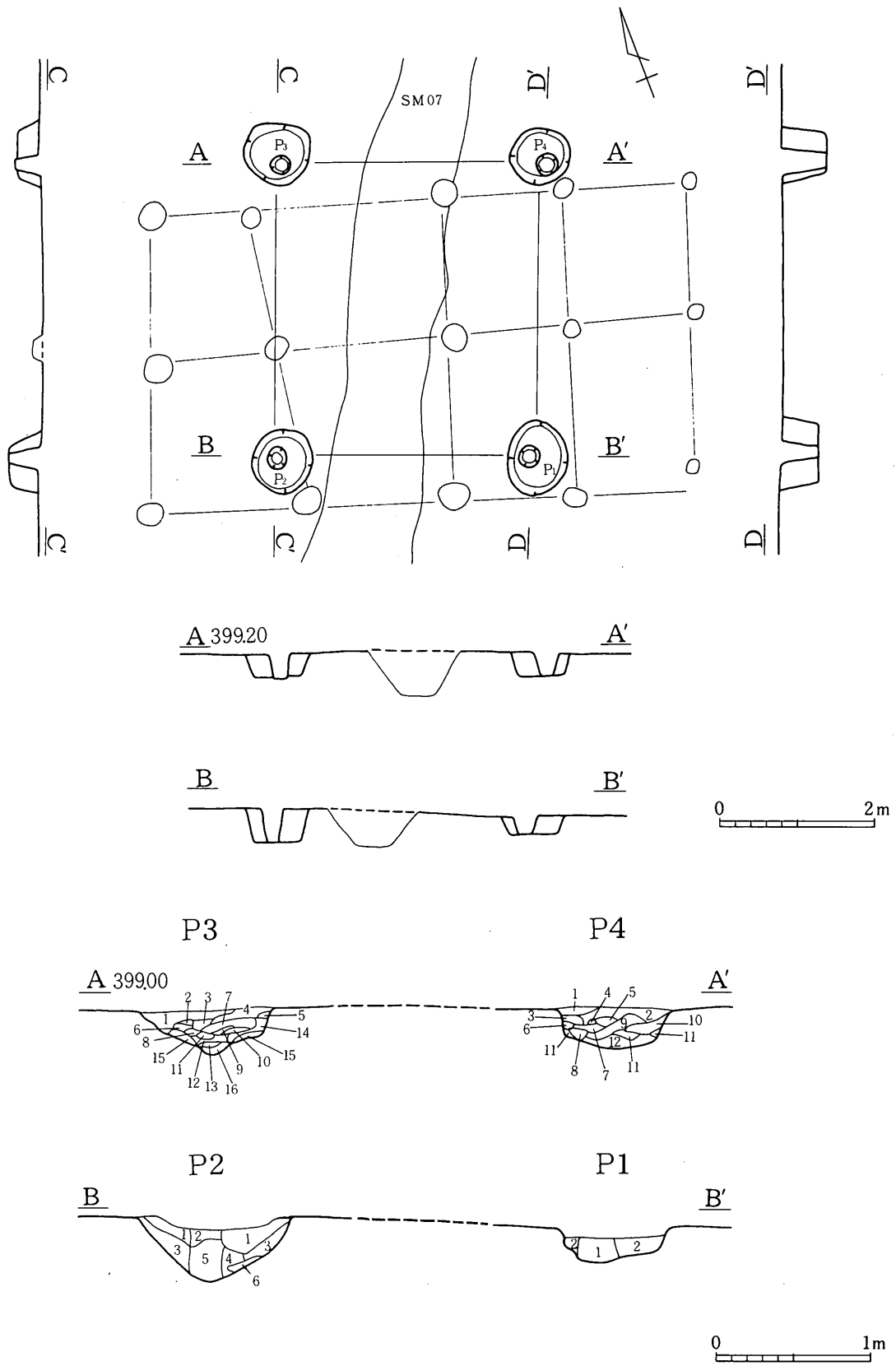
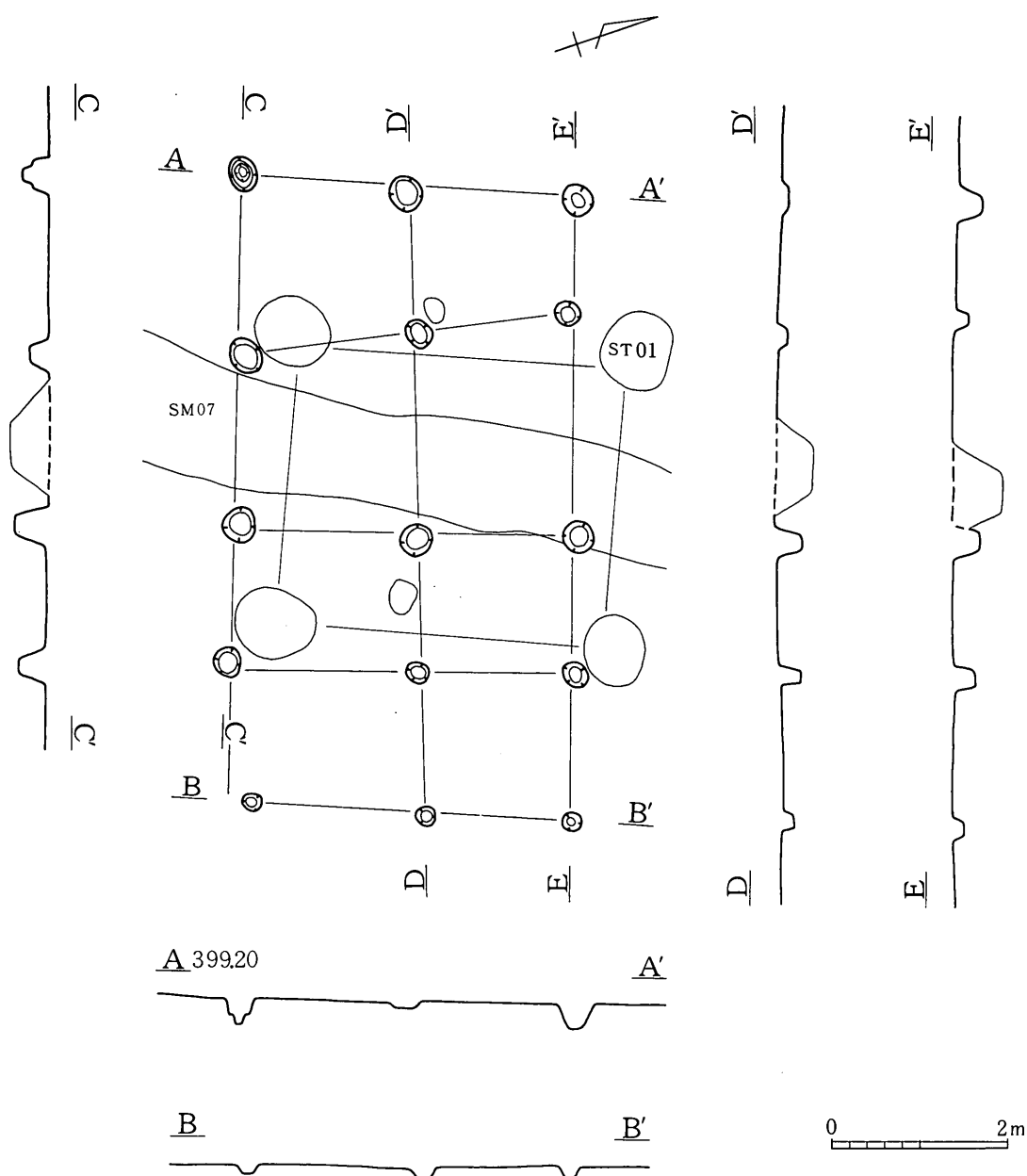


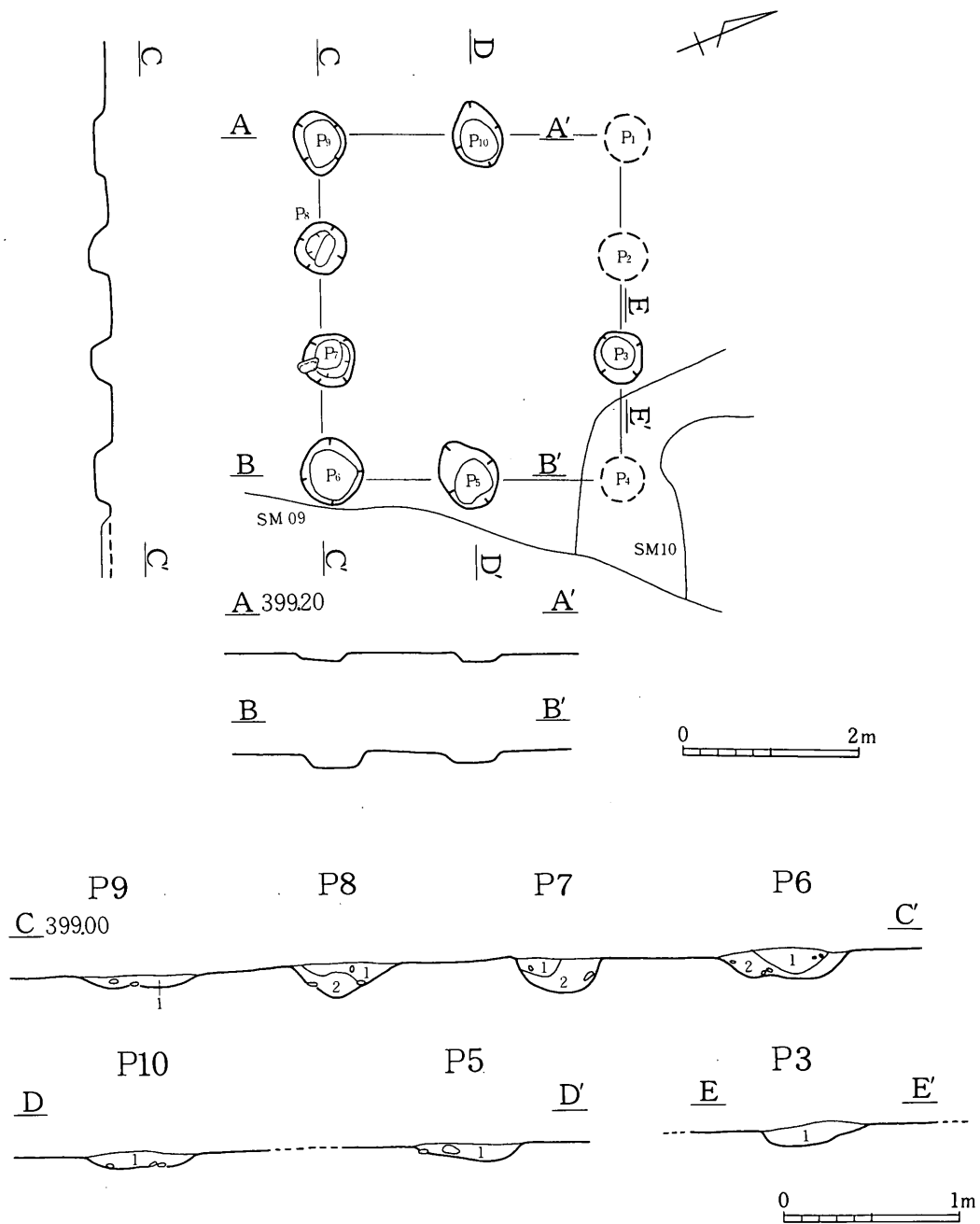
插图 26 ST01

遺構番号	ST02	検出位置	第1地点 Ⅲ区AY18他	主軸方向	N71.0° W
規模 (m)	7.2× 4.1	心心 (m)	桁 1.3~ 2.5×梁 1.6~ 1.9	床面積	26.3㎡
重複関係	ST01、SM07				
柱 穴	径20~30cmの不整円ないし楕円形、深さ10~37cmで中央の梁が深い。				
出土遺物	なし。	備考			
時 期	中世と考えられる。	根拠	形態および重複関係から。		



挿図27 ST02

遺構番号	ST03	検出位置	第1地点 Ⅲ区AN32他	主軸方向	N69.0° W
規模 (m)	4.4× 3.8	心心 (m)	桁 3.1× 3×梁 4.2× 2	床面積	13.1㎡
重複関係	SM10				
柱 穴	径50~75cmの不整円ないし楕円形、深さ10~22cm。				
出土遺物	P3・P6・P7より土師器甕片	備考	P1・P2は試掘トレンチにかかり確認できず。		
時 期	古墳時代後期と考えられる。	根拠	形態および重複関係から。		



挿図28 ST03

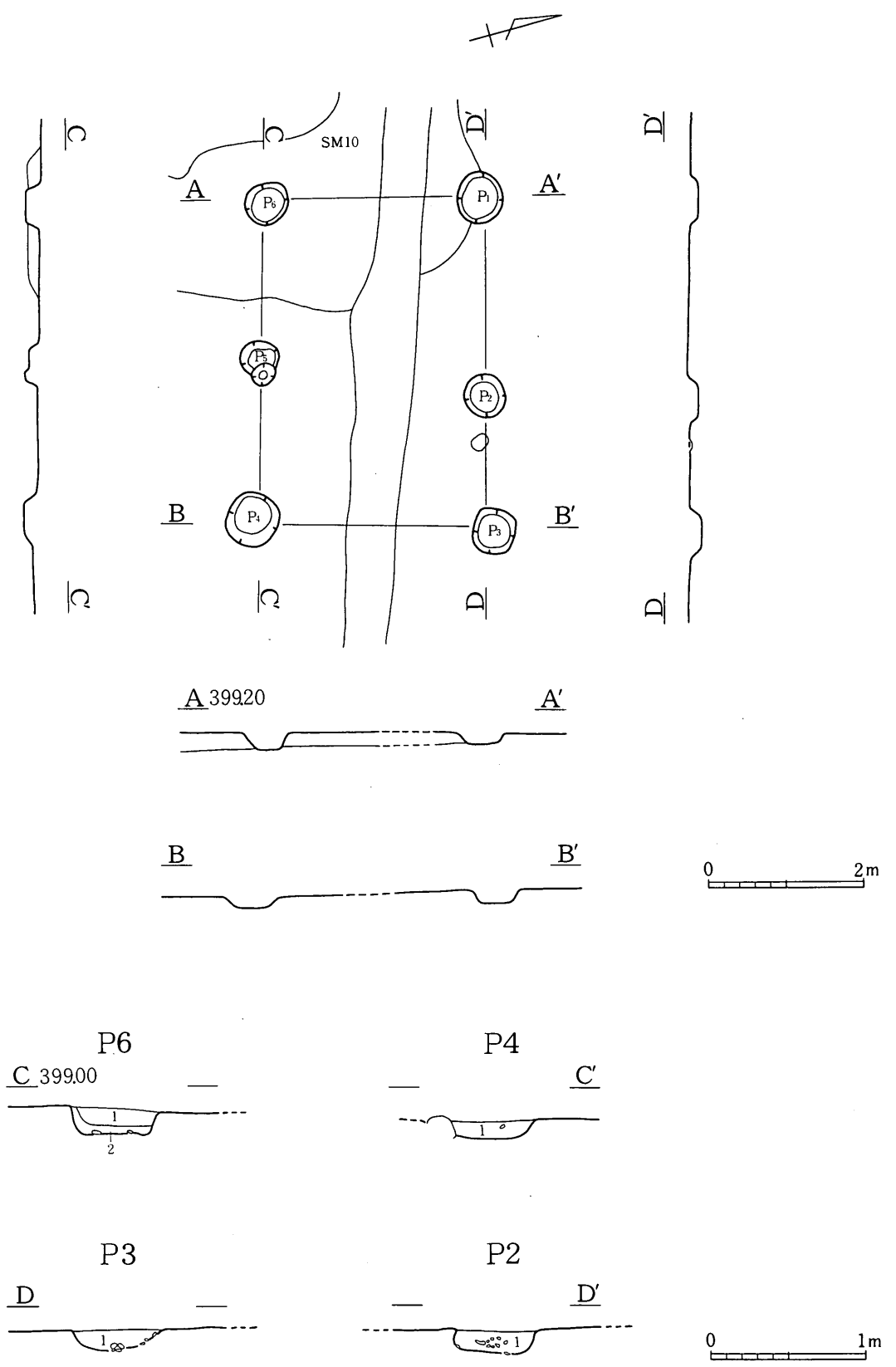
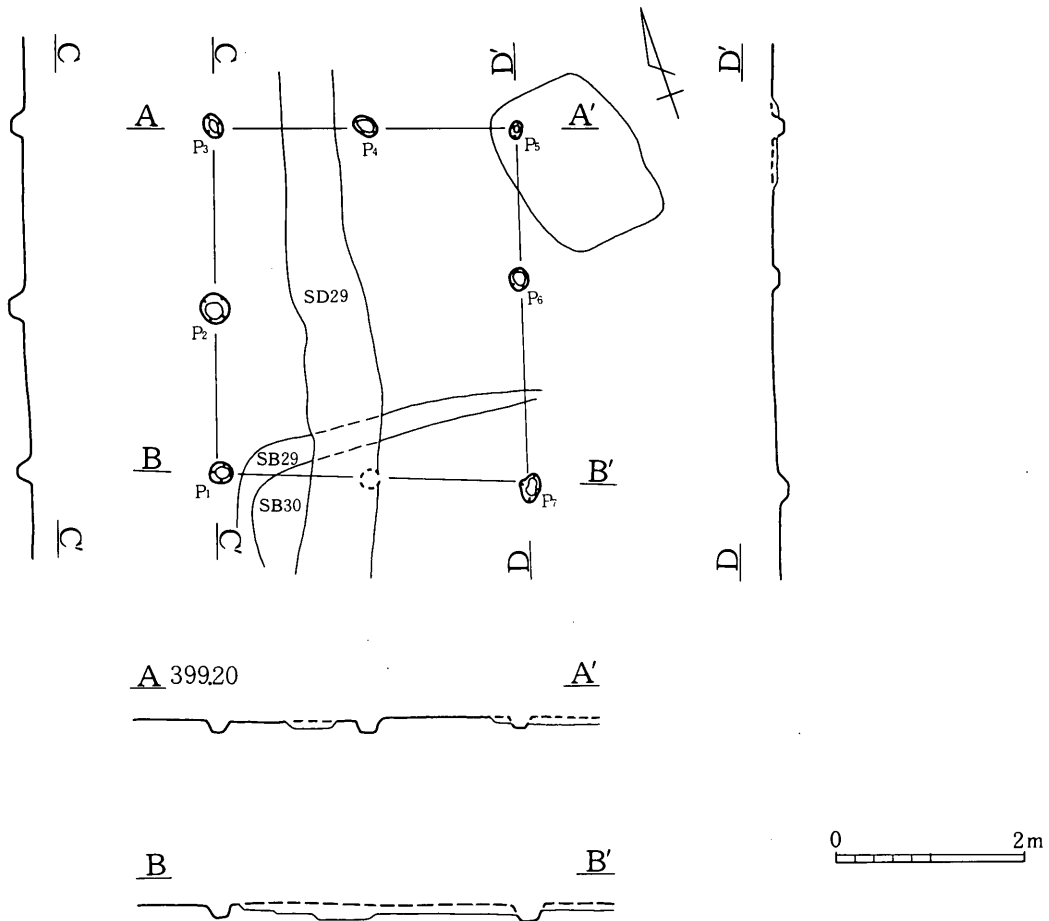


插图29 ST04



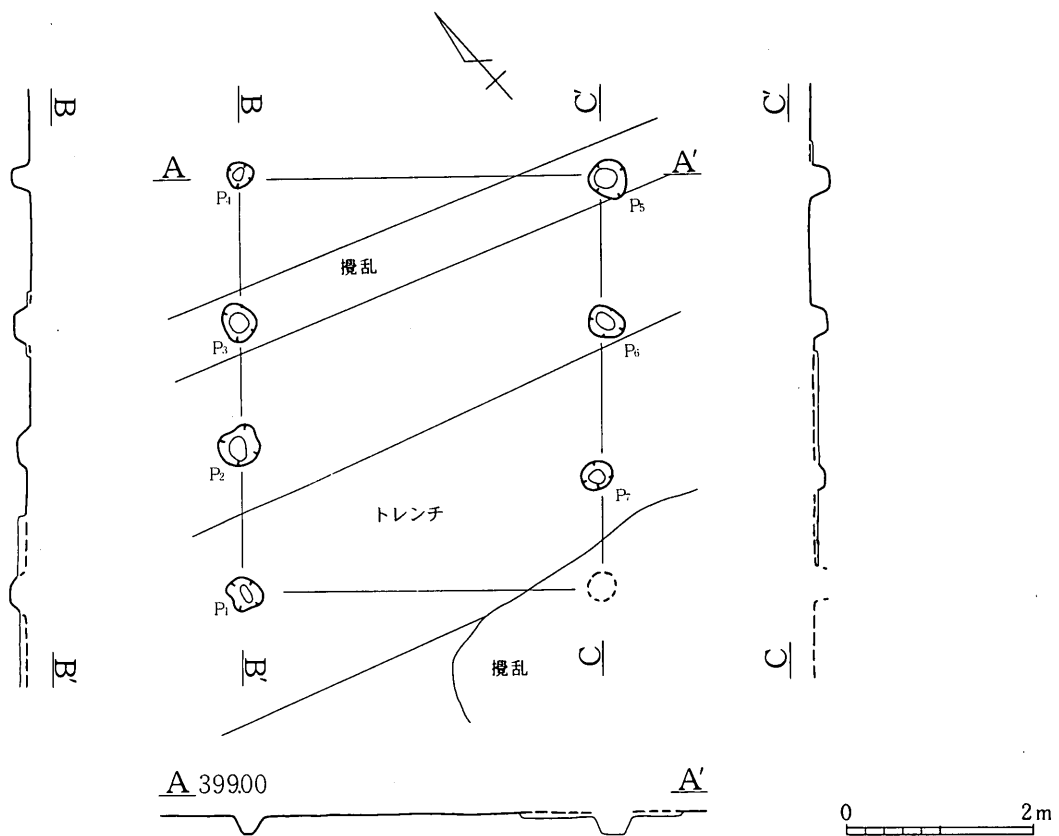
遺構番号	S T04	検出位置	第1地点 Ⅲ区A S41他	主軸方向	N76.0° W
規模 (m)	4.6× 3.7	心心 (m)	桁 1.8~ 2.4×梁 2.8	床面積	11.8㎡
重複関係	SM10を切る。				
柱 穴	径50~70cmの不整円形、深さ10~20cm。				
出土遺物	なし。	備考			
時 期	古墳時代後期と考えられる。	根 拠	形態および重複関係から。		

遺構番号	S T05	検出位置	第1地点 Ⅲ区B B41	主軸方向	N18.0° E
規模 (m)	3.9× 3.5	心心 (m)	桁 1.5~ 2.1×梁 1.6× 2	床面積	11.8㎡
重複関係	S B29・30、S D29				
柱 穴	径15~30cmの不整円ないし楕円形を呈し、深さ10~20cmを測る。				
出土遺物	なし。	備考			
時 期	中世と考えられる。	根 拠	形態および重複関係から。		



挿図30 ST05

遺構番号	S T06	検出位置	第1地点 III区A P20他	主軸方向	N43.0° E
規模 (m)	4.7× 4.2	心心 (m)	桁 3.7× 3×梁 4.2	床面積	16.6㎡
重複関係	なし。				
柱 穴	径25~40cmの不整円ないし楕円形、深さ10~20cm。				
出土遺物	なし。	備考			
時 期	中世と考えられる。	根 拠	形態から。		



挿図31 ST06

遺構番号	S T07A(西側)	検出位置	第1地点 III区B E34他	主軸方向	N22.5° E
規模 (m)	9.3以上× 4.0	心心 (m)	桁 1.6× 4+ 2.5×梁 3.7		
重複関係	S B38を切る。建て替えS T07B。				
柱 穴	径30~70cmの不整円ないし楕円形、深さ15~30cm。礎石および栗石を伴なう。				
出土遺物	なし。	備考	S T07B に抜取痕と考えられる部分があることから、S T07Bより新か。		
時 期	中世と考えられる。	根 拠	形態および重複関係から。		

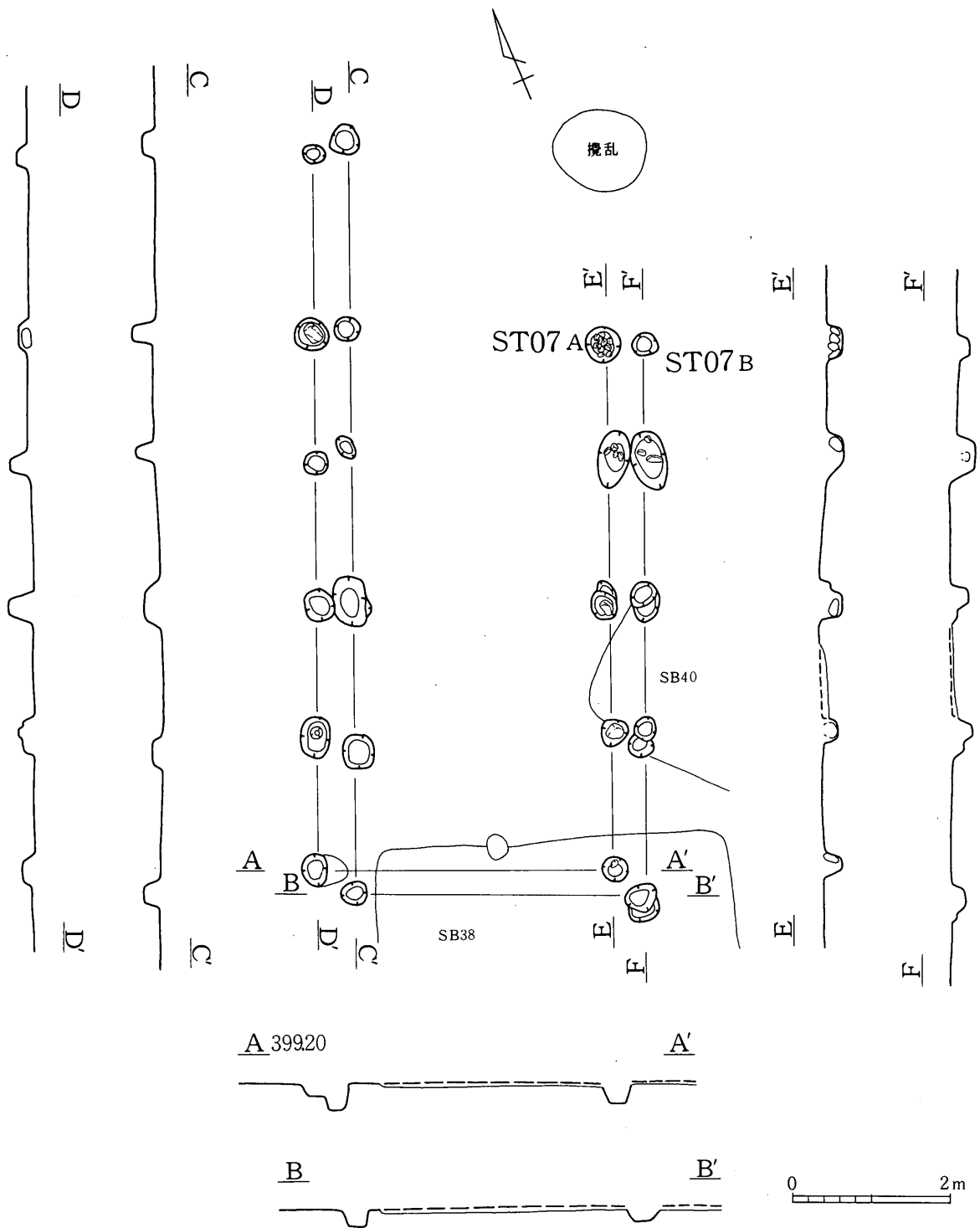
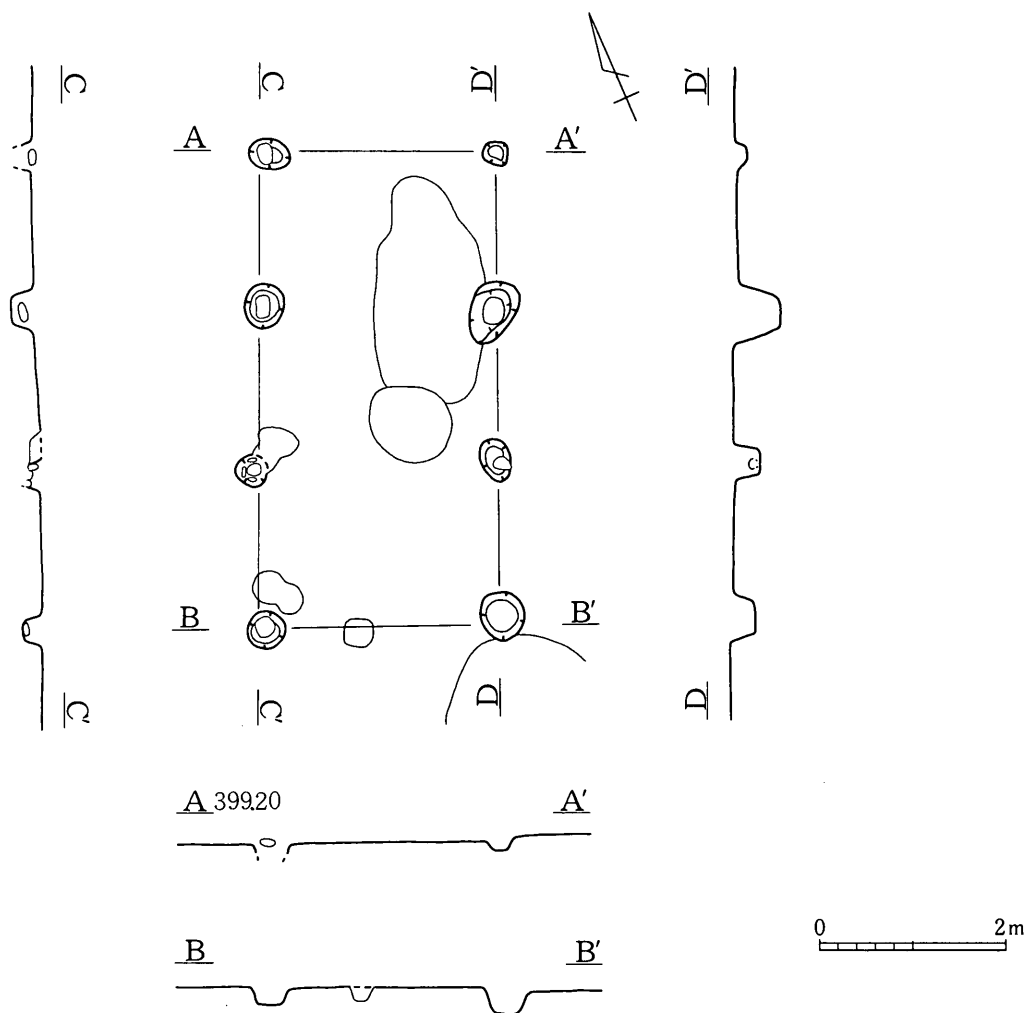


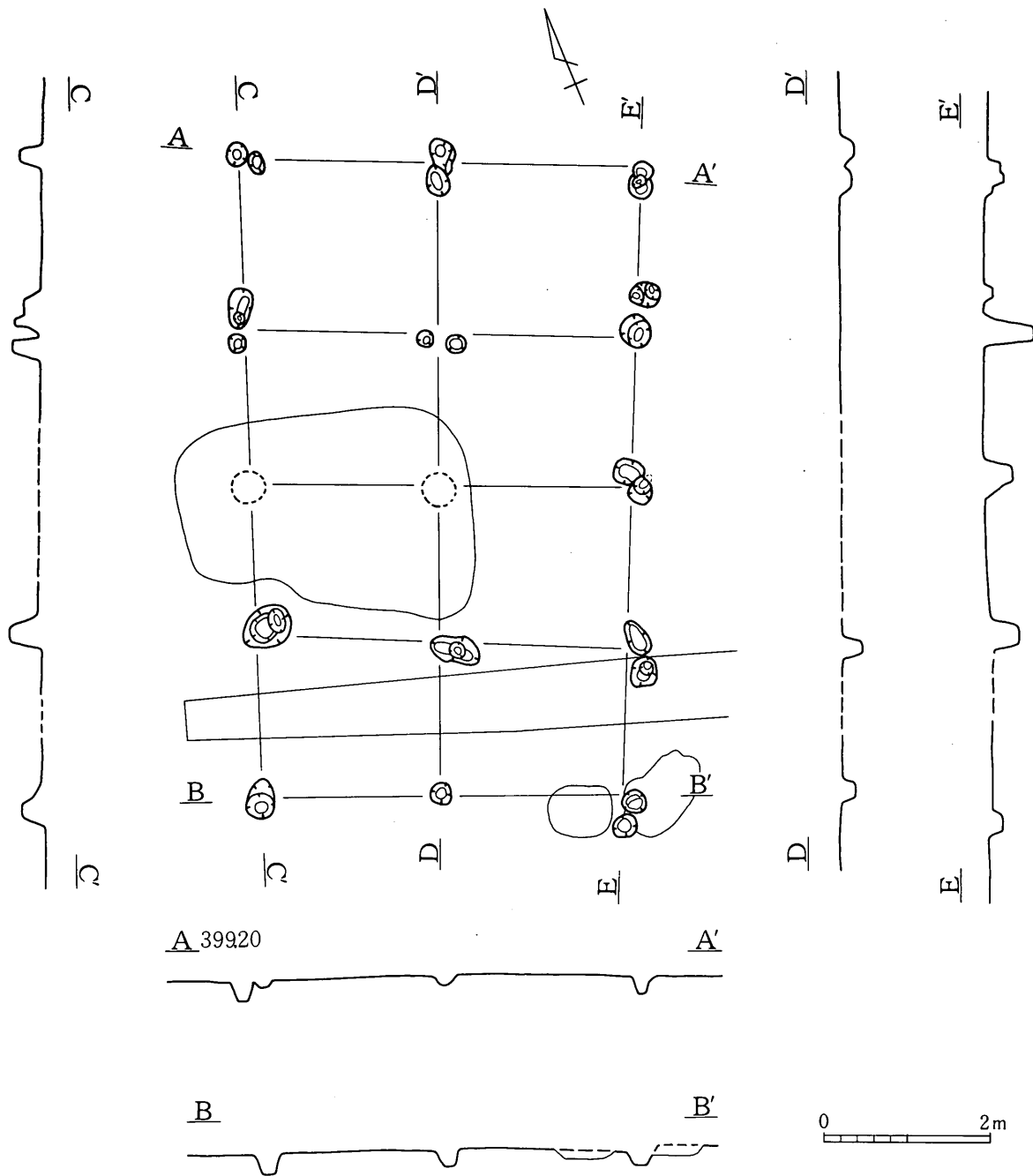
插图 3 2 ST07 A·B

遺構番号	S T07B(東側)	検出位置	第1地点Ⅲ 区B E34他	主軸方向	N22.5° E
規模 (m)	9.7以上× 4.1	心心 (m)	桁 1.5~2.4×梁 3.6		
重複関係	S B38を切る。建て替えS T07A。				
柱 穴	径30~70cmの不整円ないし楕円形、深さ15~30cm。				
出土遺物	なし。	備考	東辺の柱穴に抜取痕と考えられる部分あり。		
時 期	中世と考えられる。	根 拠	形態および重複関係から。		

遺構番号	S T08	検出位置	第1地点 Ⅲ区A H29他	主軸方向	N23.5° E
規模 (m)	5.3× 2.9	心心 (m)	桁 1.6× 3×梁 2.5	床面積	12.6㎡
重複関係	なし。				
柱 穴	径30~60cmの不整円ないし楕円形、深さ20~50cm。栗石を伴なう。				
出土遺物	なし。	備考			
時 期	中世と考えられる。	根 拠	形態から。		



挿図33 ST08

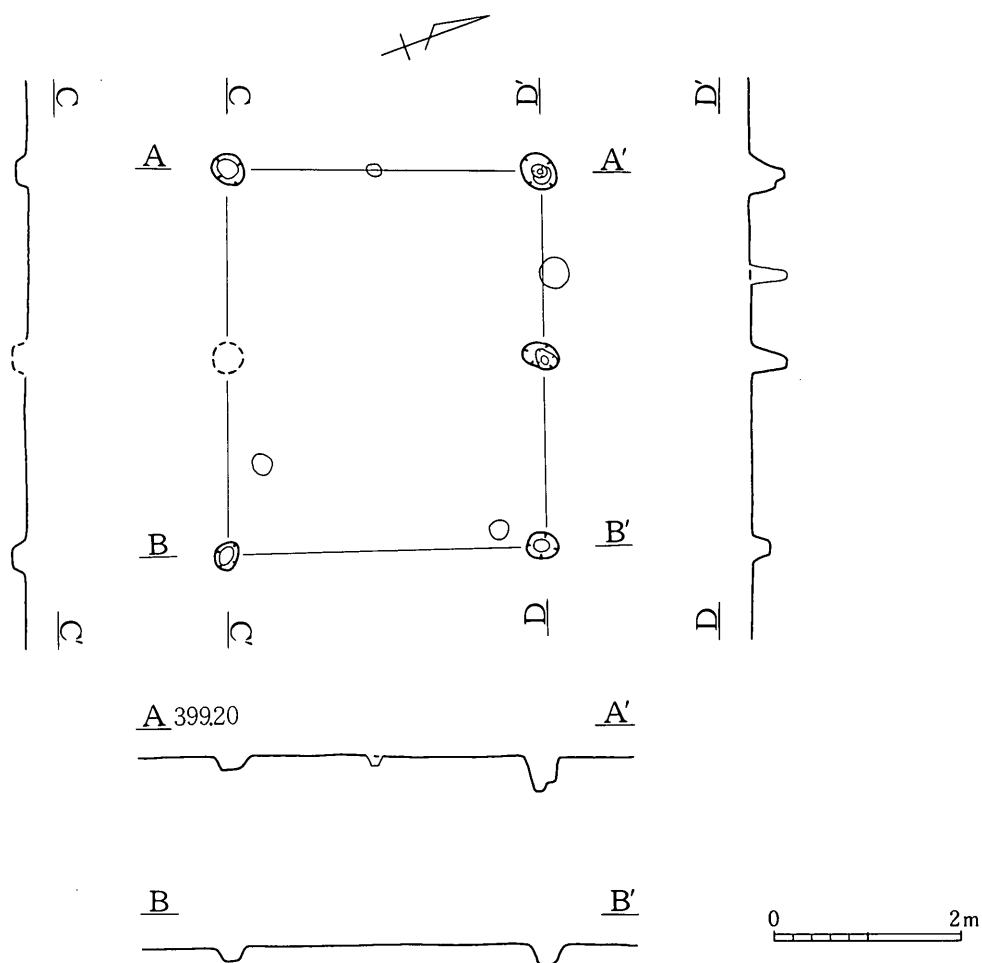


挿図 34 ST09 A・B

遺構番号	S T09A(南側)	検出位置	第1地点 Ⅲ区BH23他	主軸方向	N22.5° E
規模 (m)	7.8× 4.8	心・心 (m)	桁 1.8~ 2.2×梁 2.3+ 2.5	床面積	34.1㎡
重複関係	建て替えS T09B。西辺および中央列は A・Bどちらに柱穴が組み合うか判断できず。				
柱 穴	径25~40cmの不整円ないし楕円形、深さ18~62cm。				
出土遺物	なし。	備考	抜取痕と考えられる部分あり。S T09Bよりも古いか。		
時 期	中世と考えられる。		根拠	形態から。	

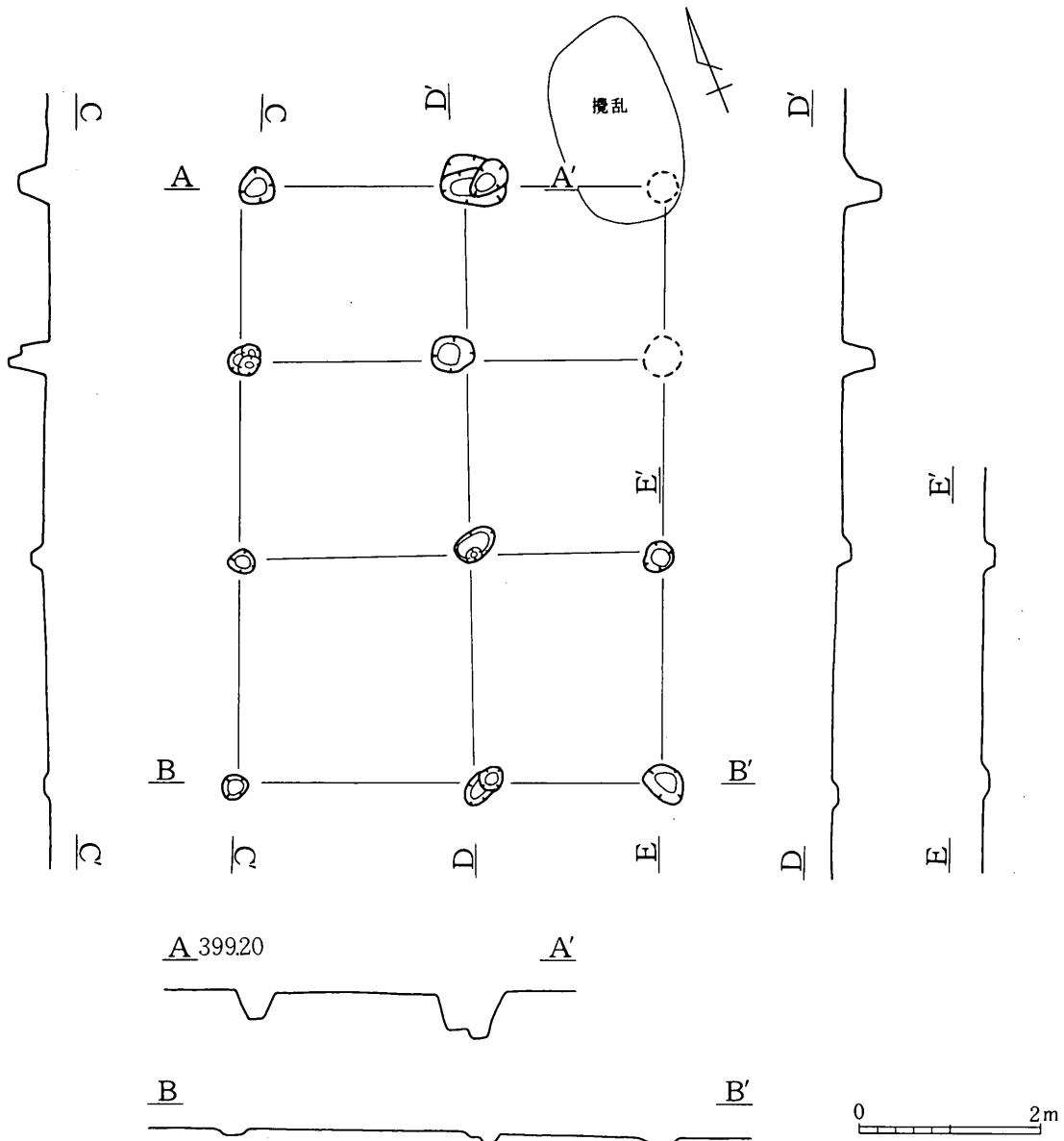
遺構番号	S T09B(北側)	検出位置	第1地点 Ⅲ区BH23他	主軸方向	N22.5° E
規模 (m)	7.7× 4.8	心心 (m)	桁 1.4~ 2.1×梁 2.3+ 2.5	床面積	34.1㎡
重複関係	建て替えS T09A				
柱 穴	径20~40cmの不整円ないし楕円形、深さ10~38cm。				
出土遺物	なし。	備考			
時 期	中世と考えられる。	根 拠	形態から。		

遺構番号	S T10	検出位置	第1地点 Ⅲ区AX21他	主軸方向	N71.5° W
規模 (m)	4.4× 3.7	心心 (m)	桁 2.0× 2×梁 3.3	床面積	13.3㎡
重複関係	なし。				
柱 穴	径30~40cmの不整円ないし楕円形を呈し、深さ10~40cmを測る。				
出土遺物	なし。	備考	2間× 1間の建物址。		
時 期	中世と考えられる。	根 拠	形態から。		



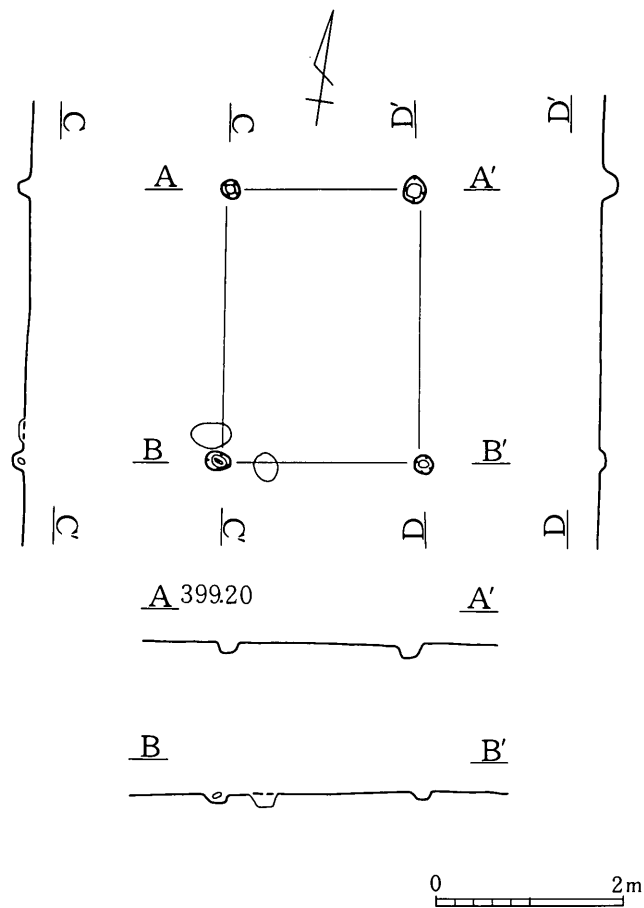
挿図35 ST10

遺構番号	ST11	検出位置	第1地点 III区BH18他	主軸方向	N22.0° E
規模 (m)	7.0× 5.0	心心 (m)	桁 1.9+ 2.2+ 2.4×梁 2.0+ 2.5	床面積	30.1㎡
重複関係	なし。				
柱 穴	径20~70cmの不整円ないし楕円形、深さ10~50cm。				
出土遺物	なし。	備考			
時 期	中世と考えられる。	根 拠	形態から。		



挿図36 ST11

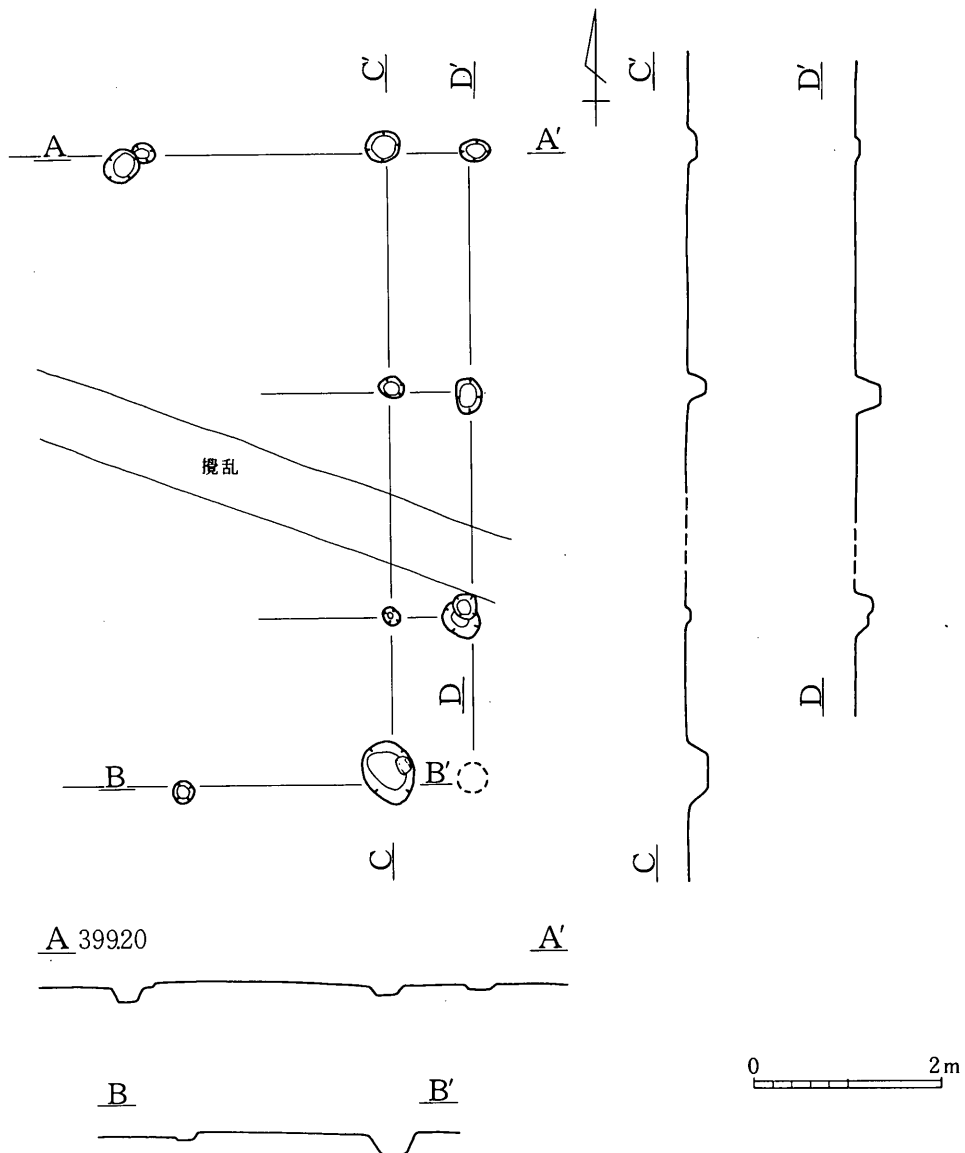
遺構番号	S T12	検出位置	第1地点 Ⅲ区AW27他	主軸方向	N 8.0° W
規模 (m)	3.0× 2.4	心心 (m)	桁 2.9×梁 2.1	床面積	5.9㎡
重複関係	なし。				
柱 穴	径15~20cmの不整円ないし楕円形、深さ10~15cm。				
出土遺物	なし。	備考			
時 期	中世と考えられる。	根 拠	形態から。		



挿図37 ST12



遺構番号	S T13	検出位置	第1地点 Ⅲ区A W32他	主軸方向	N 0.0° W
規模 (m)	7.0× 4.0以上	心心 (m)	桁 2.5+ 2.4+ 1.7×梁 2.8+ 1.0		
重複関係	なし。				
柱 穴	径15~65cmの不整円ないし楕円形、深さ 5~25cm。				
出土遺物	なし。	備考	庇付きの建物と考えられる。		
時 期	中世と考えられる。	根拠	形態から。		



挿図38 ST13

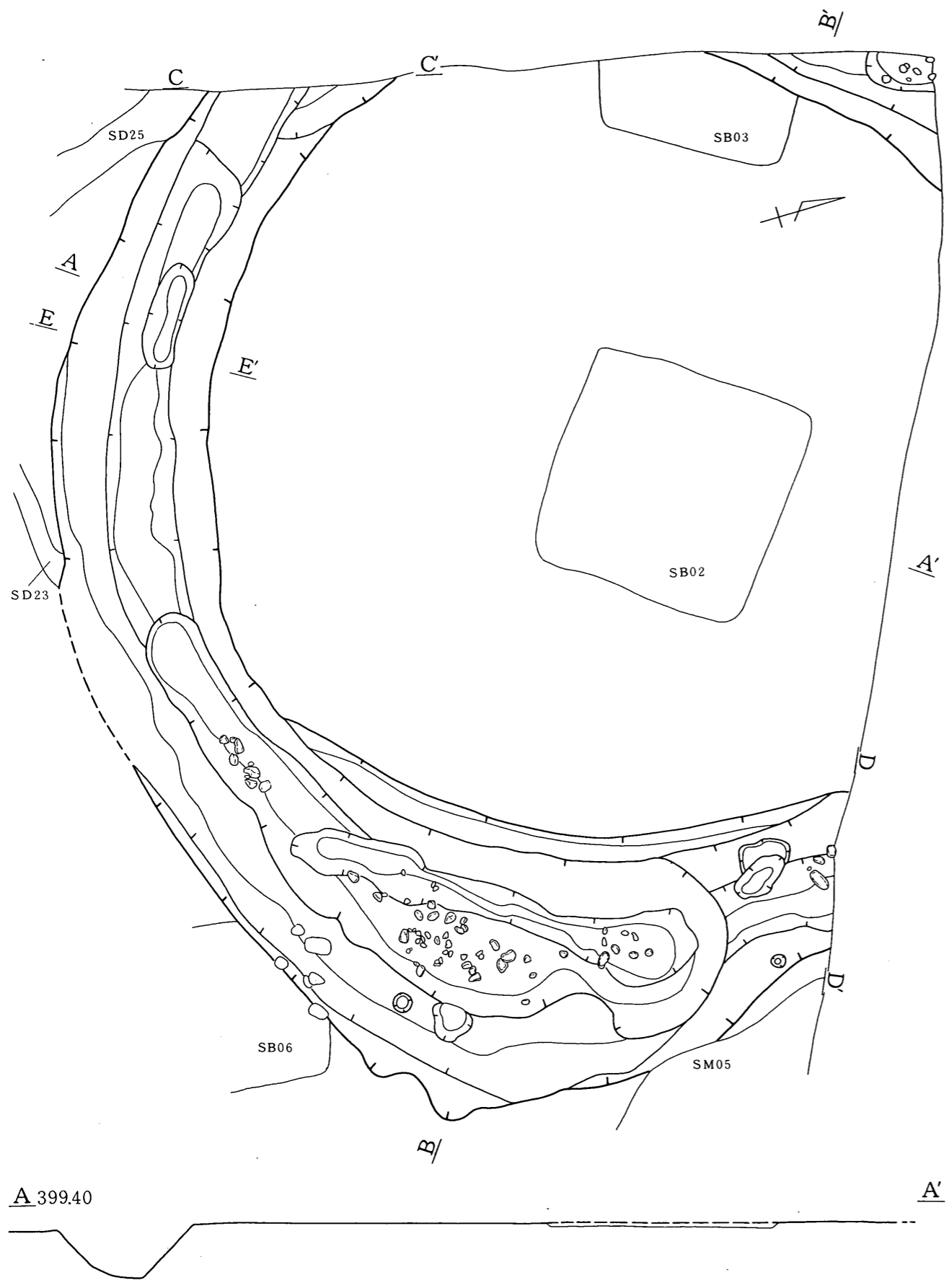
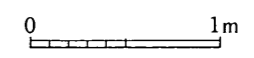
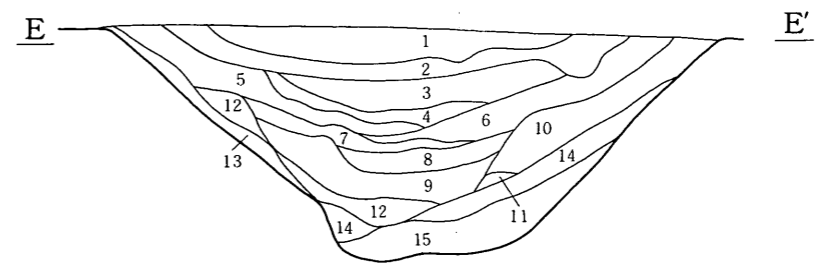
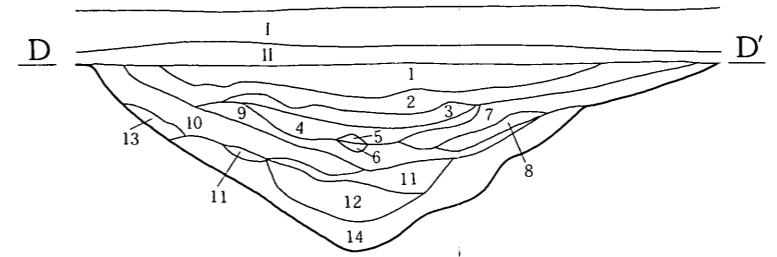
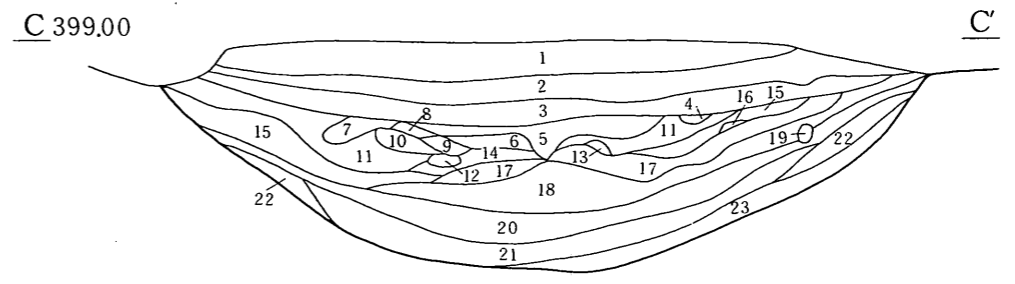
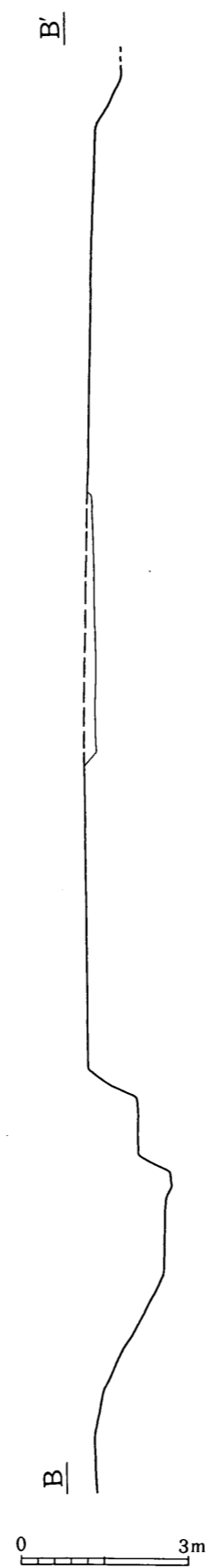


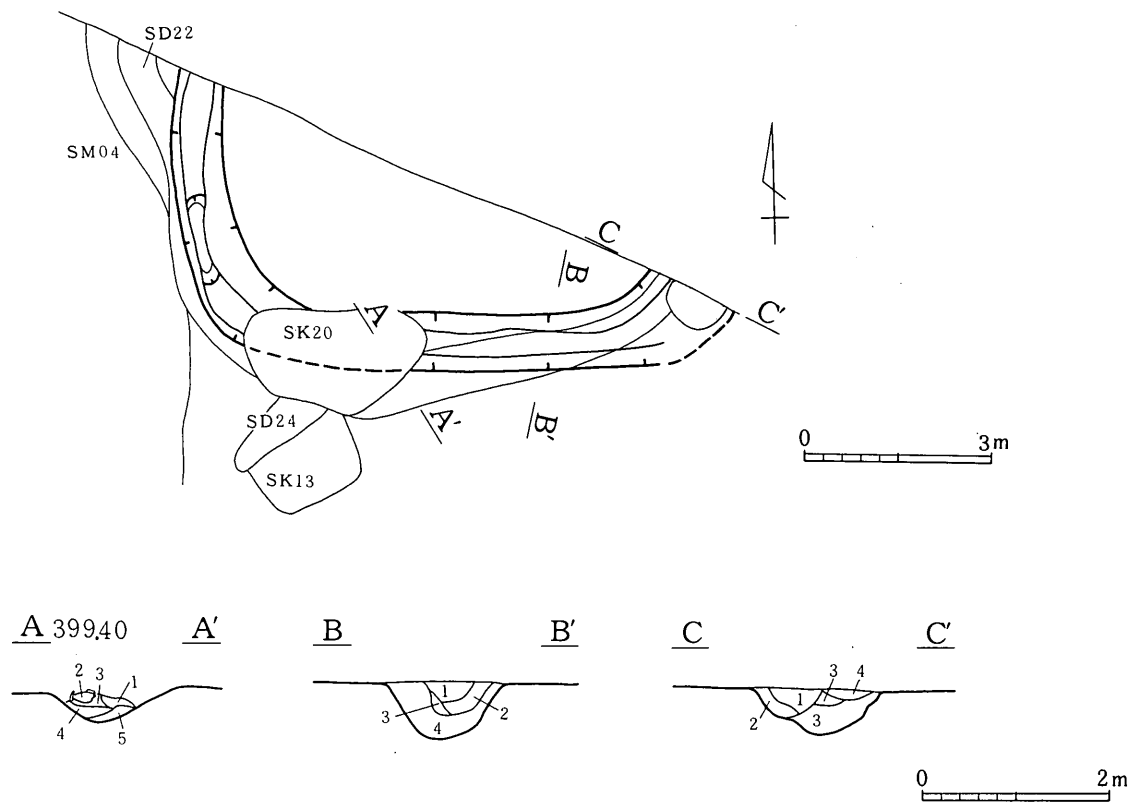
插图39 SM04



(3) 周溝墓

①SM04 (挿図39)

検出位置	第1地点 III区BQ15他	主	規模m	削平されて確認できず。
重	切る	体	主軸	—
	切られる		形態	—
周溝規模・形状	規模m	部	覆土	—
	主軸		施設	—
	形態	その他	土橋	—
	覆土		墳丘	埋土上層ににぶい黄褐色土があることから、墳丘があったと考えられる。
	幅cm			
	深さcm			
	断面形			
出土遺物 土師器甕・坏・高坏・壺・甌 須恵器甕・蓋 鉄斧		特記事項・張出部の埋土中に底面より浮いた状態で礫が含まれる。		
時期	5世紀末～6世紀初頭	根拠	出土遺物による。	



挿図40 SM05

②SM05 (挿図40)

検出位置	第1地点 Ⅲ区BP23他		主	規模m	削平されて遺存せず。
重複	重切られる	SK02・SD22	主	主軸	—
	新旧不明	SK13・SK24		形態	—
周溝規模・形状	規模m	周溝内側(6.8)×—、外側(8.8)×—	部	覆土	—
	主軸	(N3.5° E)		施設	—
	形態	方形と考えられる。	その他	土橋	—
	覆土	別表のとおり		墳丘	—
	幅 cm	80~100			
	深さ cm	50~60			
	断面形	U字状			
出土遺物 弥生土器壺・甕			特記事項・南側周溝内に土器棺墓(壺棺)あり。		
時期	弥生時代後期後葉		根拠	出土遺物による。	

③SM06 (挿図41)

検出位置	第1地点 Ⅲ区BD8他		主	規模m	—
重複	重切る	SD26	主	主軸	—
	切られる	SI03・SI04・SD25		形態	—
周溝規模・形状	規模m	周溝内側14.6×—、外側19.3×—	部	覆土	—
	主軸	(N14.5° E)		施設	—
	形態	方形と考えられる。	その他	土橋	—
	覆土	別表のとおり		墳丘	—
	幅 cm	150~270			
	深さ cm	45~70			
	断面形	逆台形に近い。			
出土遺物 土師器壺・甕・高坏 須恵器甕・甕・甗			特記事項・周溝とSK19が重複する。周溝底面に て検出され、新旧関係等不明である。 位置から周溝内土坑の可能性が考えられる。		
時期	5世紀中葉		根拠	出土遺物による。	

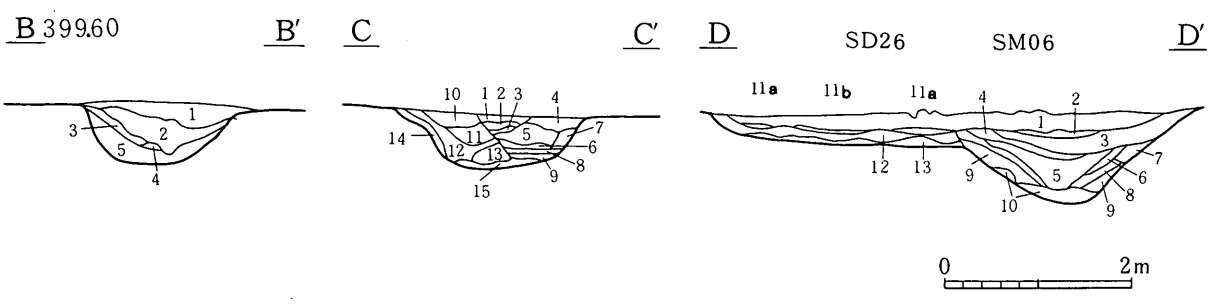
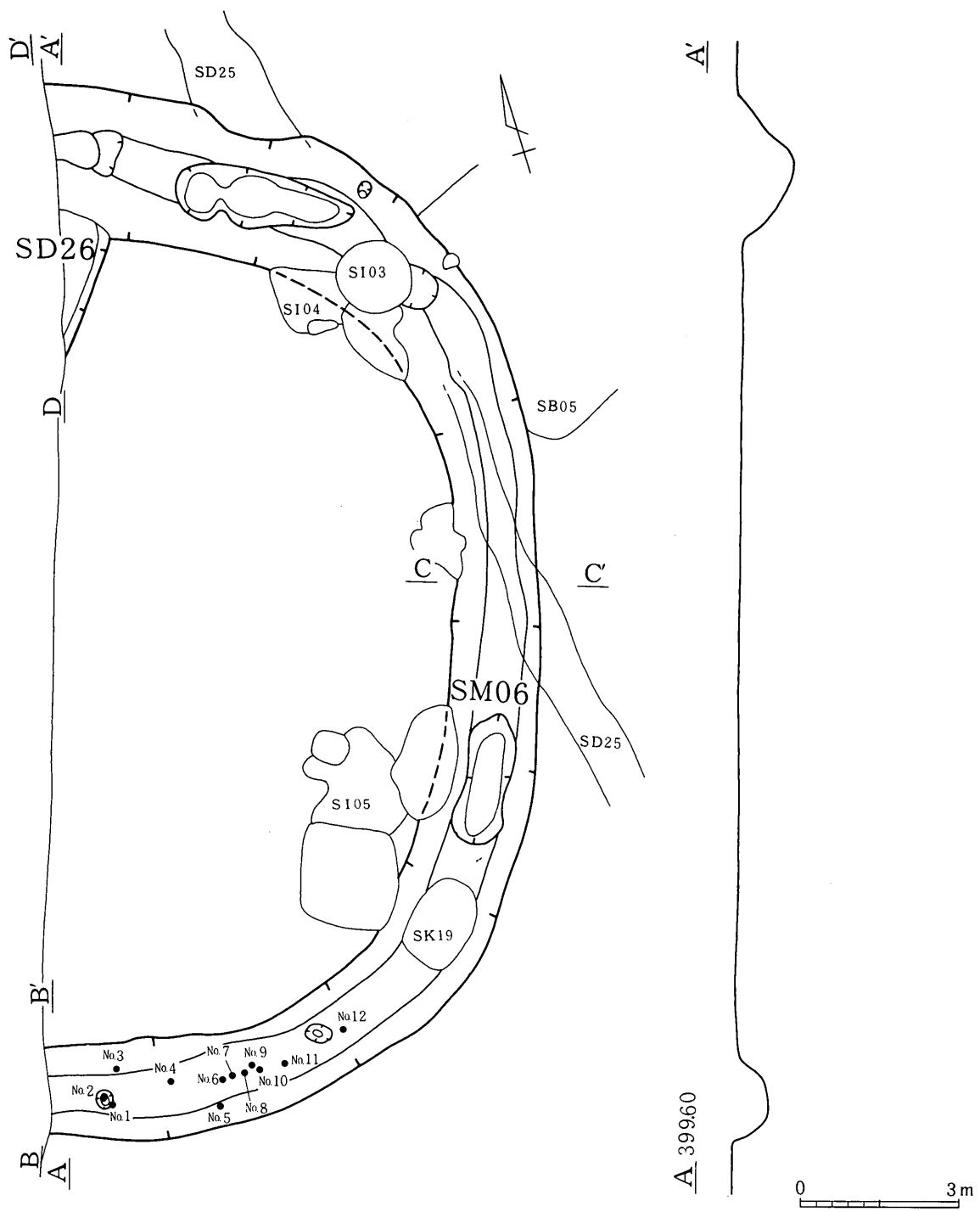
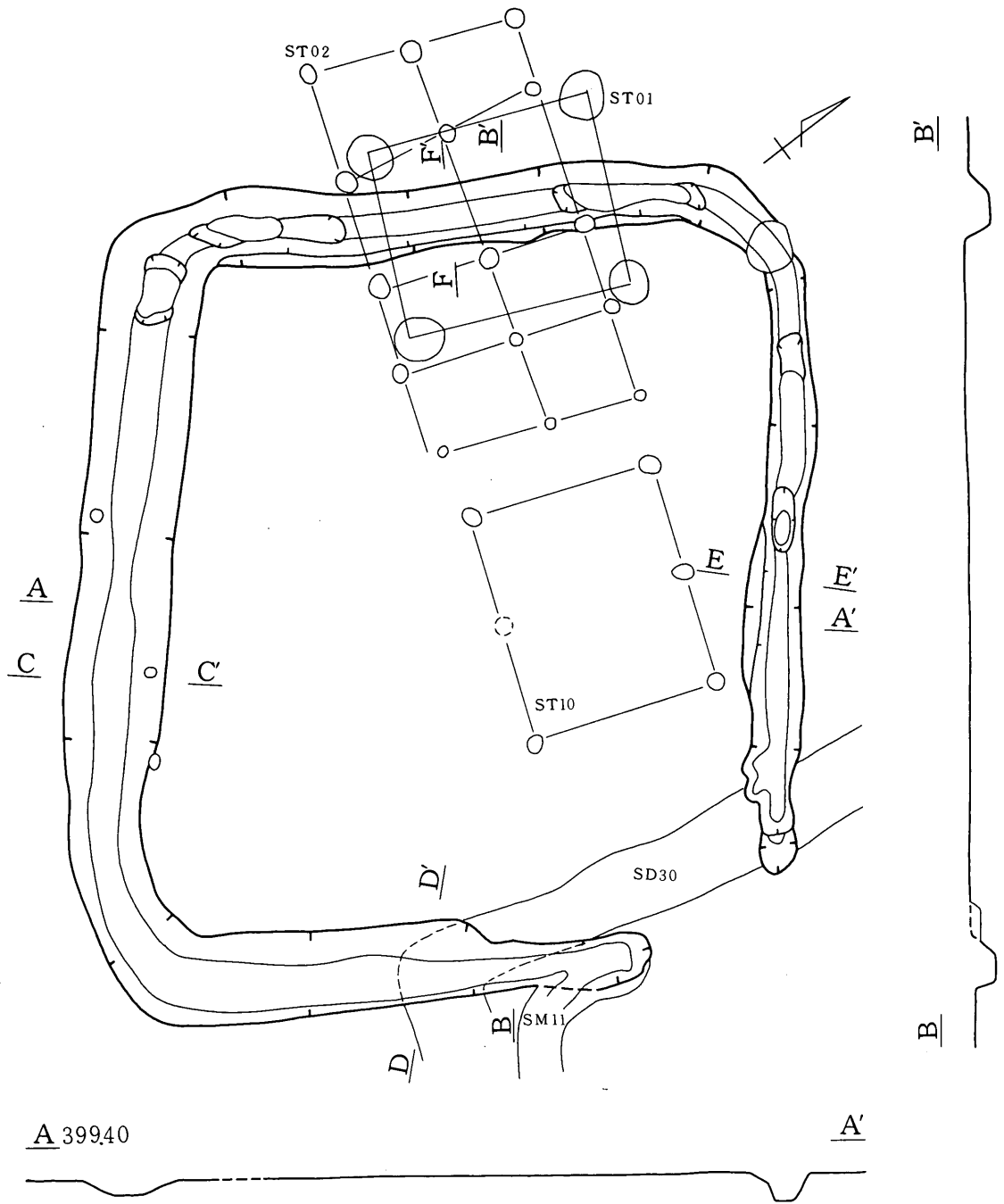


插图 41 SM06 · SD26



A 39940

A'

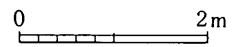
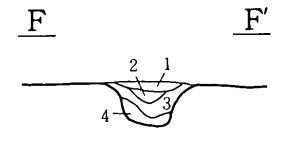
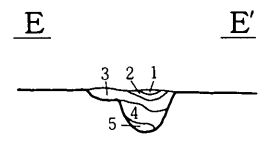
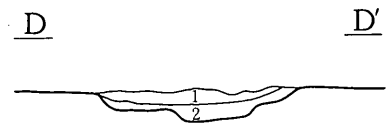
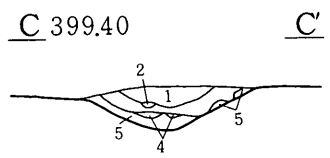
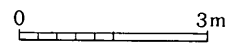


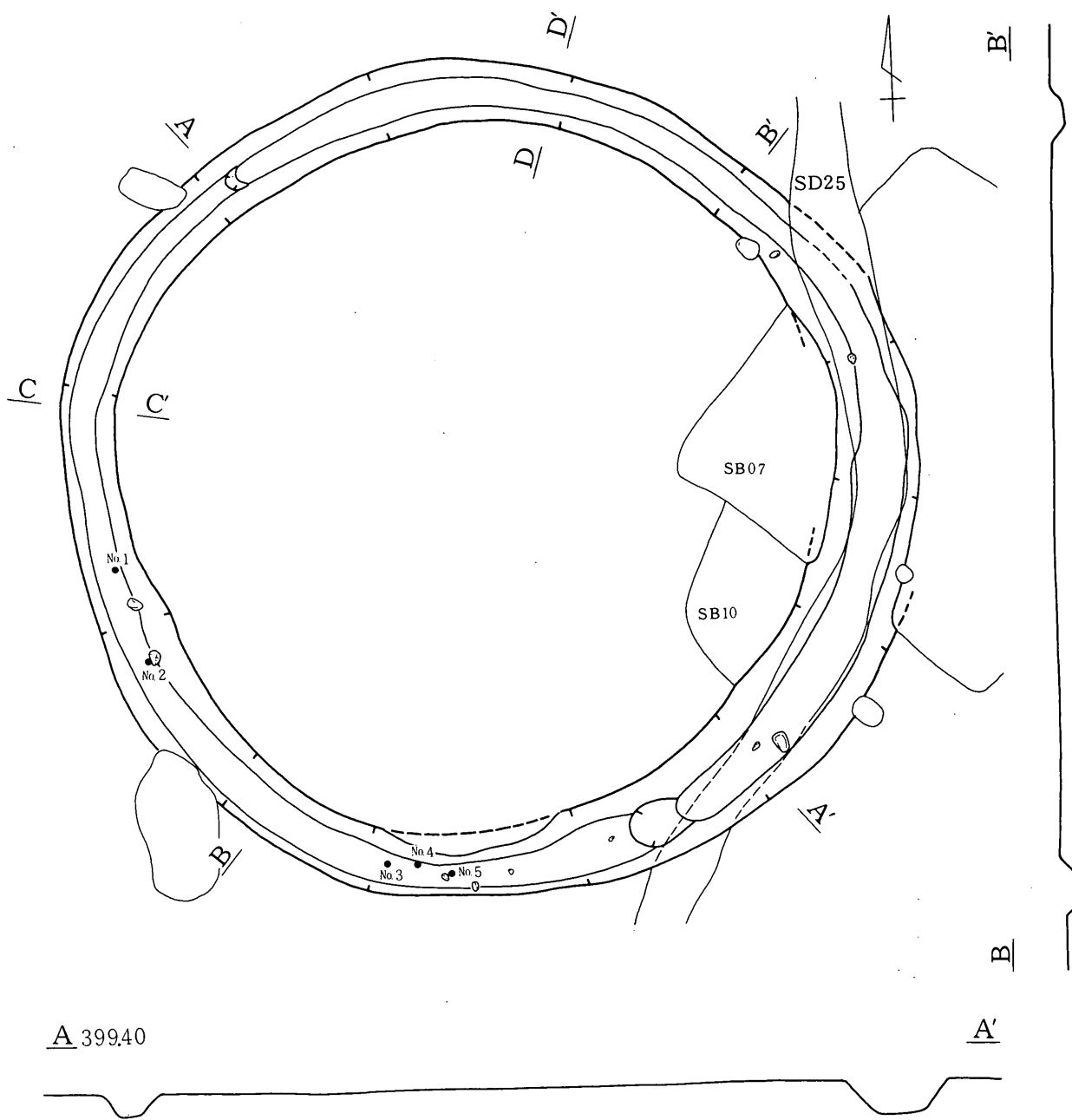
插图 42 SM07

④SM07 (挿図42)

検出位置	第1地点 Ⅲ区AX20他	主	規模m	削平されて遺存せず。	
重複	切られる ST01・ST02・ST10・SD30		主軸	—	
周溝規模・形状	新旧不明	体	形態	—	
	規模m		周溝内側11.4×10.0、外側14.2×12.8	覆土	—
	主軸	(N50.5° W)	施設	—	
	形態	不整形。	その他	土橋	東隅
	覆土	別表のとおり		墳丘	—
	幅 cm	70~165	の		
	深さ cm	30~50	他		
	断面形	全体は逆台形、一部皿状			
出土遺物 弥生土器甕 土師器壺・甕・台付甕 須恵器甕・坏		特記事項			
時期	5世紀代	根拠	重複関係及び出土遺物による。		

⑤SM08 (挿図43)

検出位置	第1地点 Ⅲ区AQ11他	主	規模m	削平されて遺存せず。	
重複	切れる SB07・SB10		主軸	—	
周溝規模・形状	切られる	体	形態	—	
	SD25		覆土	—	
	規模m	周溝内側径12.4~12.8、外側径15.0~15.4	施設	—	
	主軸	—	その他	土橋	なし
	形態	円形。		墳丘	—
	覆土	別表のとおり	の		
	幅 cm	100~200	他		
	深さ cm	25~60			
断面形	逆台形				
出土遺物 土師器壺・甕・坏・高坏		特記事項			
時期	5世紀後葉	根拠	出土遺物による。		



A 39940

A'

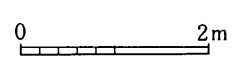
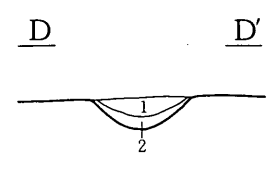
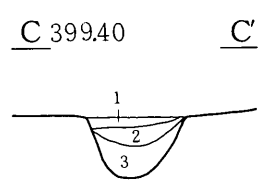


插图 43 SM08



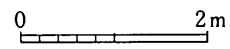
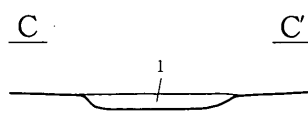
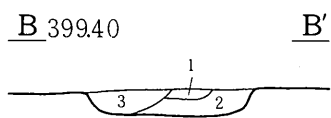
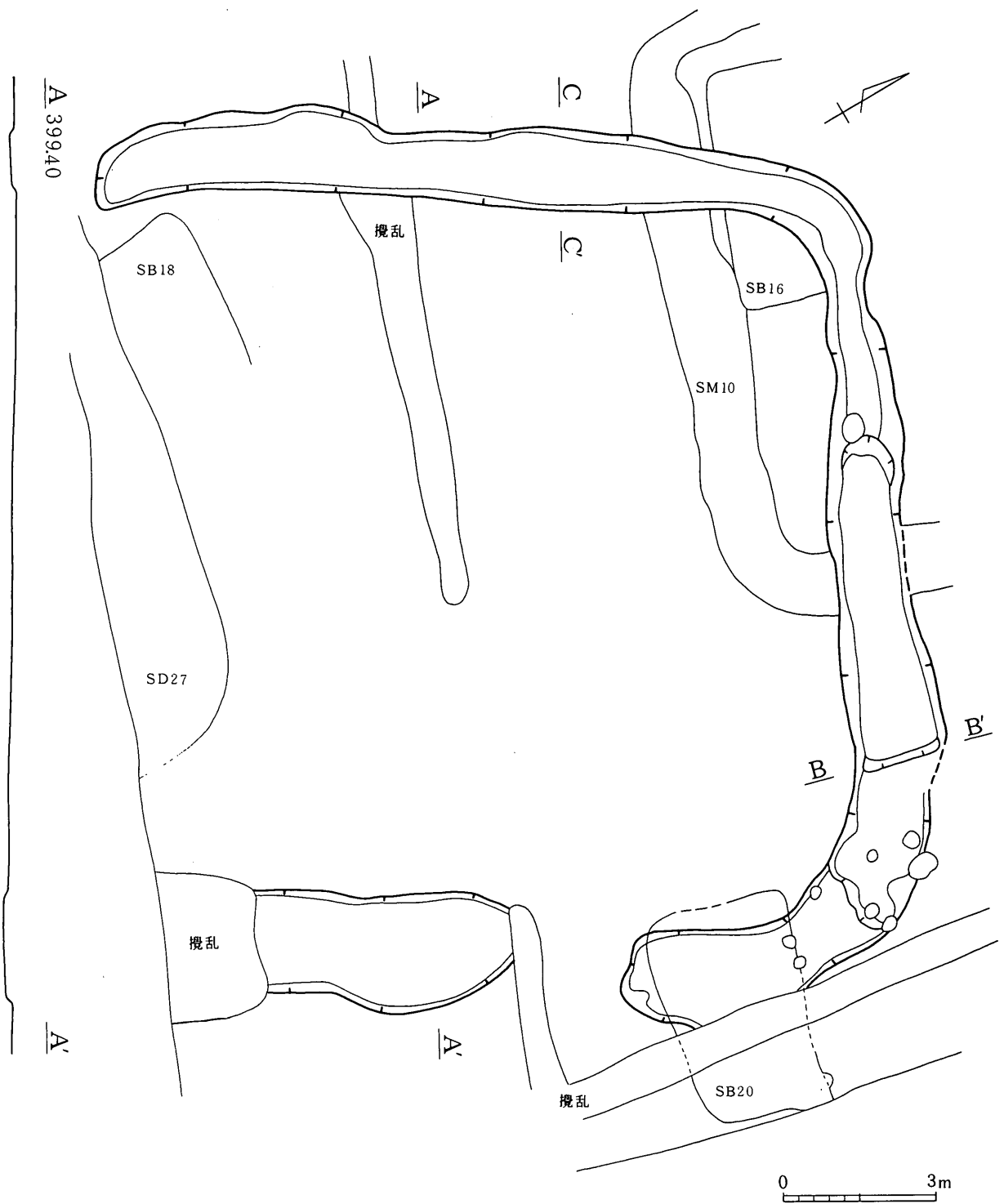


插图 4 4 SM09

⑥SM09 (挿図44)

検出位置	第1地点 Ⅲ区AK37他			主	規模m	削平されて確認できず。	
重切る	SB16	切られる	SB20		主軸	—	
複	新旧不明	SM10			体	形態	—
周溝	規模m	周溝内側13.1×—、外側16.8×—				部	覆土
	主軸	N65.0° W			施設		—
規模・形状	形態	方形。			その他	土橋	東辺中央
	覆土	別表のとおり				墳丘	—
幅	cm	120~220			の		
	深さ	cm	10~30				
断面形	削平されて形状は不明。						
出土遺物 弥生土器壺・甕 土師器壺・甕				特記事項・確認面から周溝底まで浅い。 ・南西隅は周溝底が特に浅く、周溝が確認できなかったが、土橋ではないと考えられる。			
時期	古墳時代?			根拠	出土遺物による。		

⑦SM10 (挿図45)

検出位置	第1地点 Ⅲ区BP23他			主	規模m	削平されて遺存せず。	
重切られる	SB22・SB27・ST04・SD30				主軸	—	
複	新旧不明	SM09			体	形態	—
周溝	規模m	周溝内側12.3×10.1、外側15.6×12.5				部	覆土
	主軸	(N16.5° E)			施設		—
規模・形状	形態	方形と考えられる。			その他	土橋	—
	覆土	別表のとおり				墳丘	—
幅	cm	60~230			の		
	深さ	cm	10~40				
断面形	削平されて形状不明。						
出土遺物 土師器甕 須恵器甕・坏				特記事項・東辺中央部の周溝はやや深く土取りされて確認できず。			
時期	古墳時代			根拠	出土遺物による。		

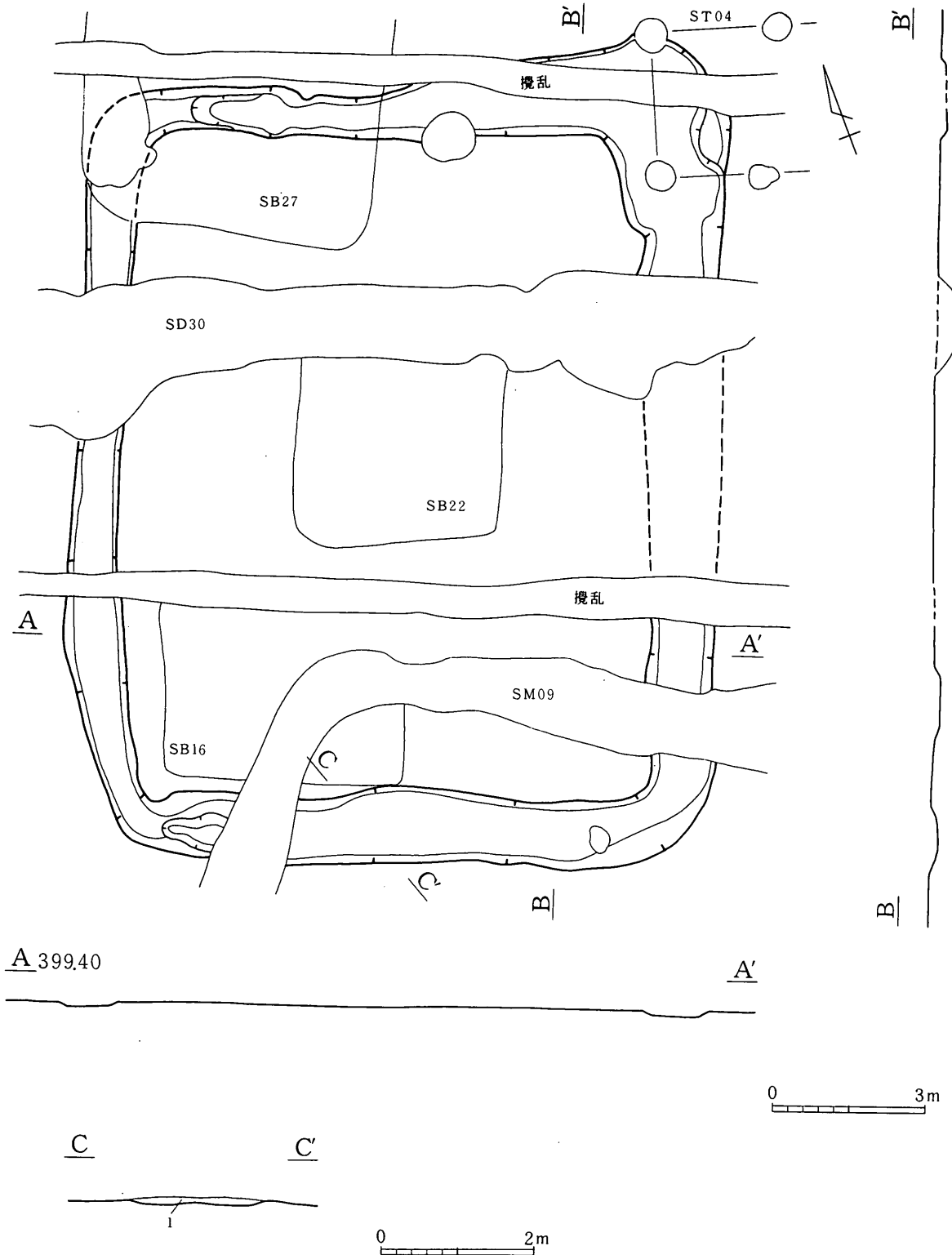


插图 45 SM10

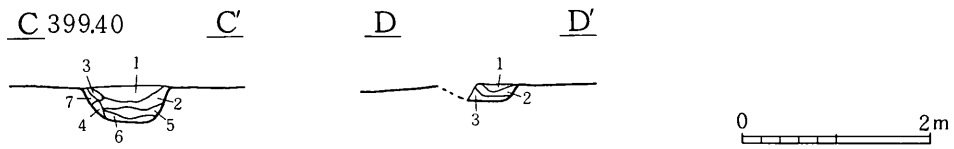
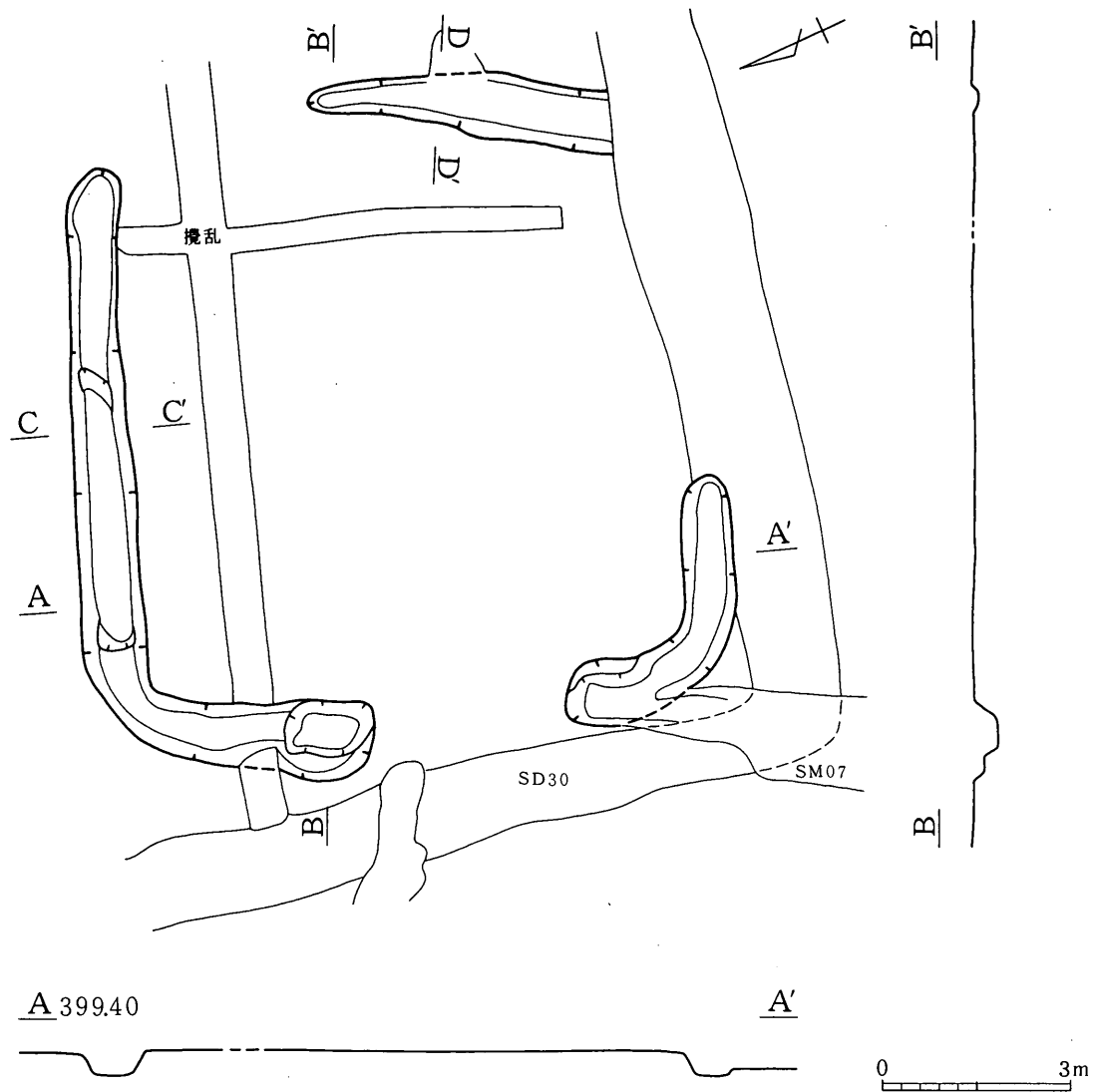
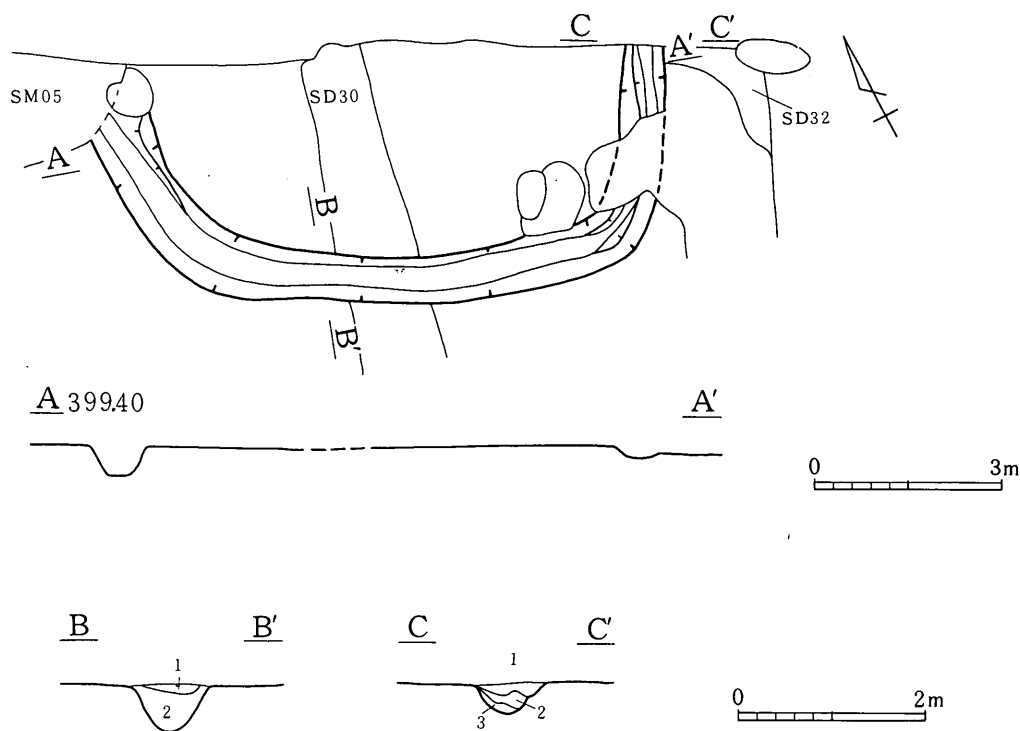


插图 4 6 SM 1 1

⑧ SM11 (挿図46)

検出位置	第1地点 Ⅲ区AW26他	主	規模m	削平されて遺存せず。
重複	切られる	SD30	主軸	—
	新旧不明	SM07	形態	—
周溝	規模m	周溝内側8.8×8.6、外側11.1×10.4	覆土	—
	主軸	N109.5° E	施設	—
規模・形状	形態	方形と考えられる。	土橋	西辺中央やや南寄り。
	覆土	別表のとおり	墳丘	—
	幅 cm	70~100	の	
	深さ cm	10~40	他	
断面形	逆台形。			
出土遺物	土師器甕	特記事項		
時期	古墳時代	根拠	出土遺物による。	



挿図47 SM12

⑨ SM12 (挿図47)

検出位置	第1地点 Ⅲ区BN27他		主	規模m	調査区外にかかると思われる。
重複	新旧不明	SM05		主軸	—
			体	形態	—
周溝規模・形状	規模m	周溝内側7.4×—、外側9.0×—		部	覆土
	主軸	(N50.5°W)	施設		—
	形態	不整形。	そ	土橋	—
	覆土	別表のとおり		墳丘	—
	幅cm	70~90	の		
	深さcm	50			
	断面形	U字状			
出土遺物			特記事項		
時期			根拠		

(4) その他の遺構

遺構名	挿図№	検出位置	規模(長×短×深cm)	形態	長軸	時代	重複遺構	出土遺物	備考
SK13	48	ⅢBN22	160×—×40	方形?	—	—	SD24	土師器甕	
14	48	ⅢBI21	285×105×22	長楕円形	N63.5°E	—	—	土師器甕	
15	48	ⅢBM16	95×75×18	不整楕円	N45.0°E	—	—	—	
16	48	ⅢAX13	—×72×15	長楕円?	N36.5°E	—	SD25	土師器甕	
17	48	ⅢAY15	260×150×30	長方形	N27.0°E	—	—	土師器甕・須恵器甕	
18	49	ⅢBA15	220×80×20	長楕円形	N55.0°W	—	—	—	
19	49	ⅢBC10	160×110×12	長方形	N44.5°E	古墳中期	SM06	土師器甕・坏・鉢	周溝内土坑?
20	49	ⅢBO22	290×160×80	不整楕円	N90.0°W	—	SM05・SD22	—	
21	49	ⅢAN16	100×70×40	不整形	N68.0°E	—	—	土師器甕・坏	
22	49	ⅢAO14	105×85×35	不整形	—	—	SK23	須恵器甕	
23	49	ⅢAO14	55×50×22	不整円形	—	—	SK22	土師器甕	
24	49	ⅢAP15	40×40×35	円形	—	—	—	土師器甕	
25	50	ⅢAP14	55×45×97	不整楕円	N57.5°W	—	SM08	土師器甕	
26	50	ⅢAU16	30×30×30	円形	—	—	—	須恵器甕	
27	50	ⅢAU16	125×105×35	不整形	N41.0°W	—	SB07	—	
29	50	ⅢAL14	35×30×28	不整円形	—	—	—	土師器甕	
30	50	ⅢAN11	45×40×20	不整形	—	—	—	土師器坏	
31	50	ⅢAO43	60×45×23	楕円形	N77.0°W	—	—	土師器甕・須恵器坏	
32	50	ⅢAO43	45×30×30	楕円形	N30.0°E	—	—	土師器甕	
33	50	ⅢAW45	115×—×15	—	—	—	—	土師器甕・須恵器甕	一部調査区外

遺構名	挿図No.	検出位置	規模(長×短×深cm)	形態	長軸	時代	重複遺構	出土遺物	備考	
	34	50	Ⅲ B B 42	180×135× 10	不整形	N16.0°W	--	ST05	土師器甕・須恵器坏	
	35	51	Ⅲ A U 39	110× 95× 30	不整形	N26.5°E	--	--	土師器甕・須恵器甕・蓋	内部が一段凹む
	36	51	Ⅲ A R 31	160× 90× 13	不整形	N46.5°W	--	--	--	
	37	51	Ⅲ A Q 18	180×115× 15	不整形	N44.0°W	--	SB08	縄文土器・土師器甕	
	38	51	Ⅲ B H 29	100× 68× 63	不整形	N64.5°W	--	--	土師器甕	
	39	51	Ⅲ B H 30	245×115× 47	不整形	N22.0°E	--	ST08	土師器甕・陶器摺鉢	
S D 22	52		Ⅲ B O 23	1260× 70× 20	屈折	N18.0°W N83.0°E	--	SM05・SK20・ SD24		SM05周溝が埋まらない うちに重ねて掘られている
	23	52	Ⅲ B K 13	600× 50× 5	直線状	N80.0°E	--	SM04	土師器甕	SD24に連続するか
	24	52	Ⅲ B O 23	160× 60× 15	直線状?	N50.0°E	--	SM05,SK13・20	弥生土器壺・甕・土師器甕	SD23に連続するか
	25	53	--	5480× 80× 30	屈折	N15.0°W N27.0°E	--	SB07・09・10他 SM04・06・08等	土師器甕・壺・坏・高坏 須恵器甕・壺・蓋等	周溝の周溝が埋まらない うちに重ねて掘られている
	26	41	Ⅲ B I 9	-- × -- × --	--	--	--	SM06	土師器甕	調査区外にかかる
	27	53	--	5850×185× 55	屈折	N101.0°E N 0.0°W	中世	SB11・13・18、 SM09	白磁碗・段皿、陶器甕 天目碗	
	28	52	Ⅲ A M 41	280× 80× 20	直線状	N72.0°W	--	--	土師器台付甕・甕	攪乱に切られる
	29	53	--	2160× 80× 20	直線状	N19.5°E	--	SB29・30、ST05	土師器甕・須恵器坏	
	30	53	--	8100×200× 25	屈折	N11.0°E N79.0°W	中世	SB22 SM07・10~11	天目碗・摺鉢	
	31	52	Ⅲ B K 23	280× 65× 20	直線状	N63.0°W	--	--	--	
	32	52	Ⅲ B M 23	-- × -- × --	--	--	--	SM12	--	
S I 02	54		Ⅲ B T 11	80× 60	散在	--	近世	SB03・SM04	鉛玉他	墓?
	03	54	Ⅲ B I 11	155×150×235	不整形	--	近代?	SI04	陶器甕・木片	竪井戸。SE01に変更
	04	54	Ⅲ B I 11	165×140× 20	不整形	--	--	SI03	--	
	05	54	Ⅲ B D 10	180×160	不整形	--	近代?	--	瓦片等	住居の下水施設か
	06	54	Ⅲ B F 33	170×150× 20	不整形	--	--	--	土師器甕・須恵器甕	

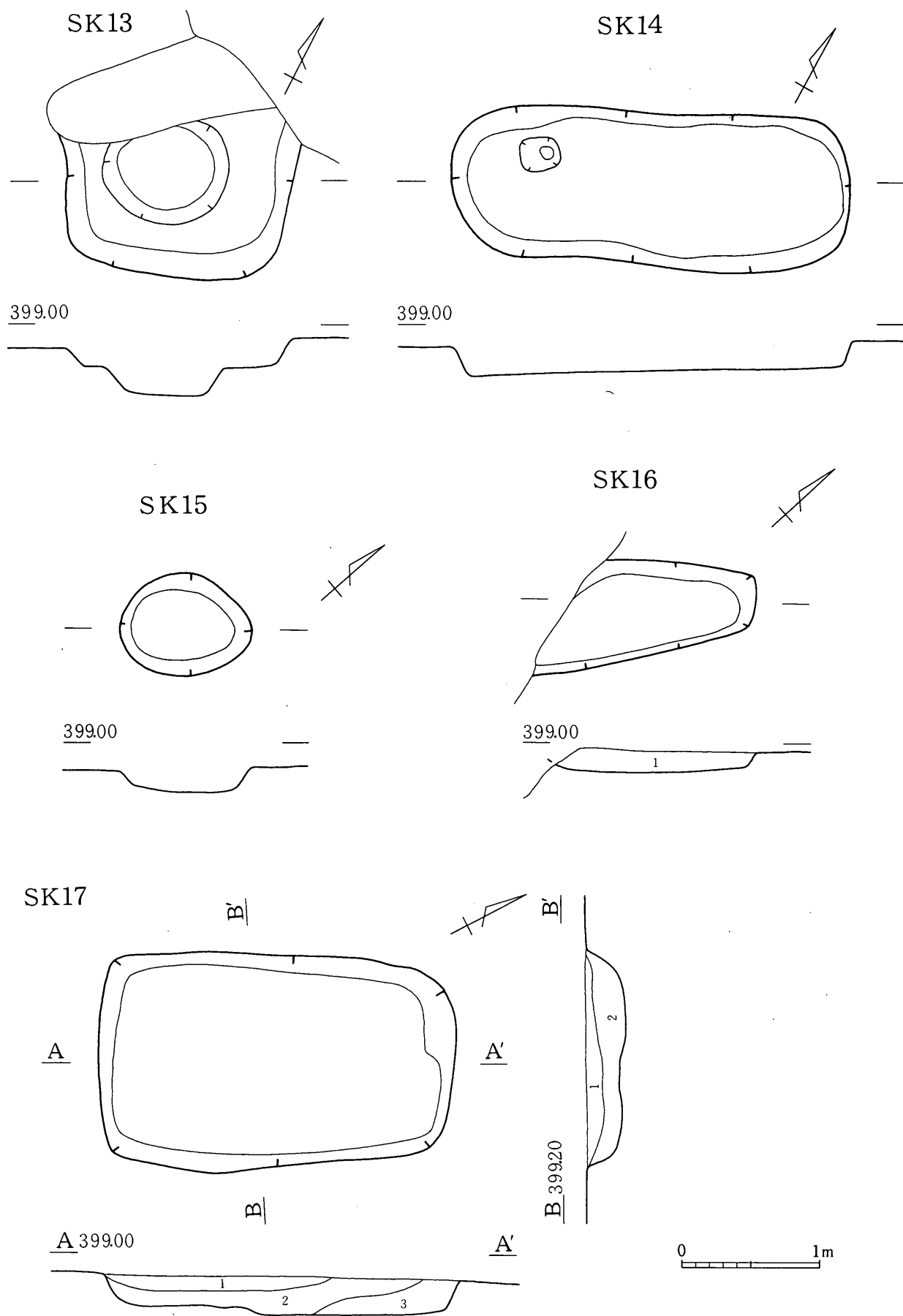


插图48 SK13~17



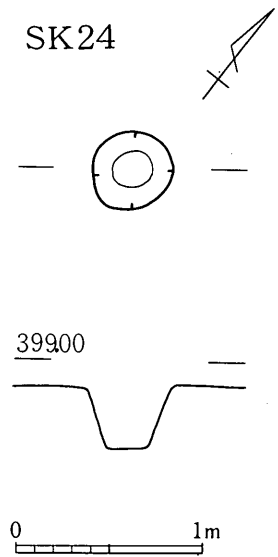
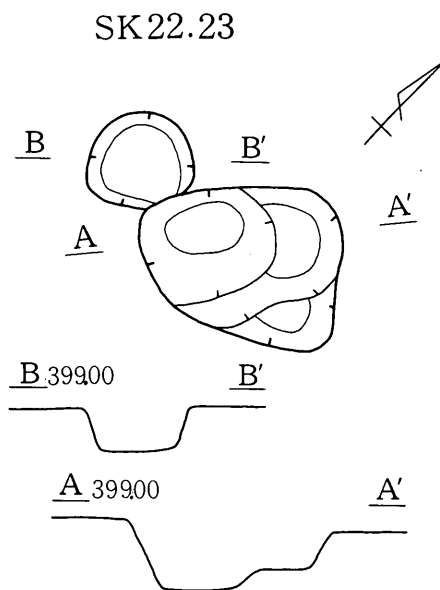
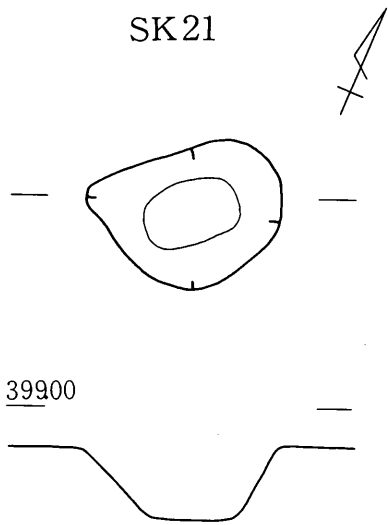
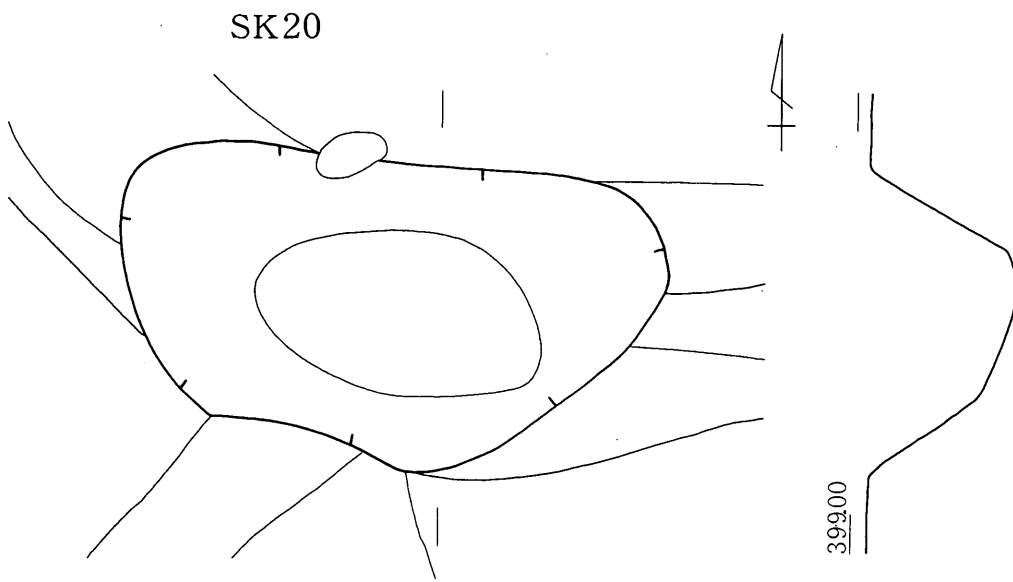
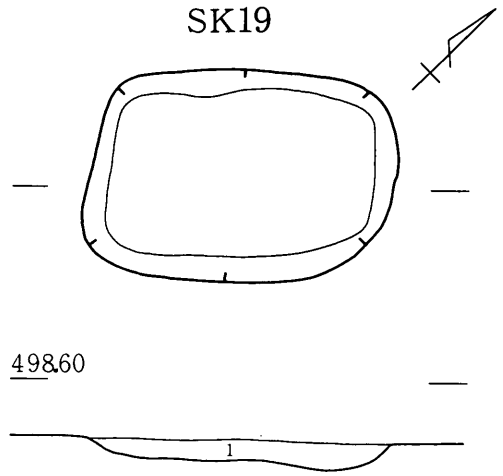
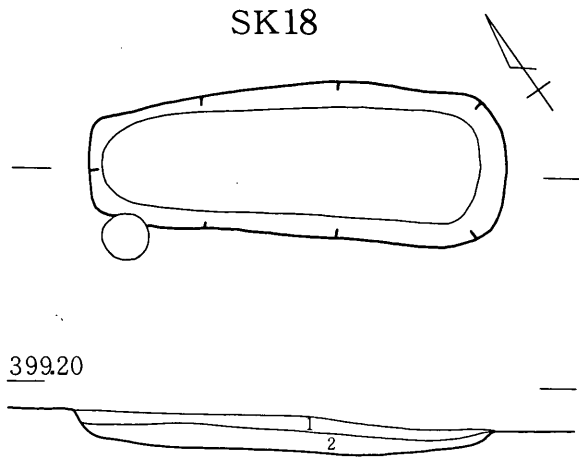


插图 49 SK18~24

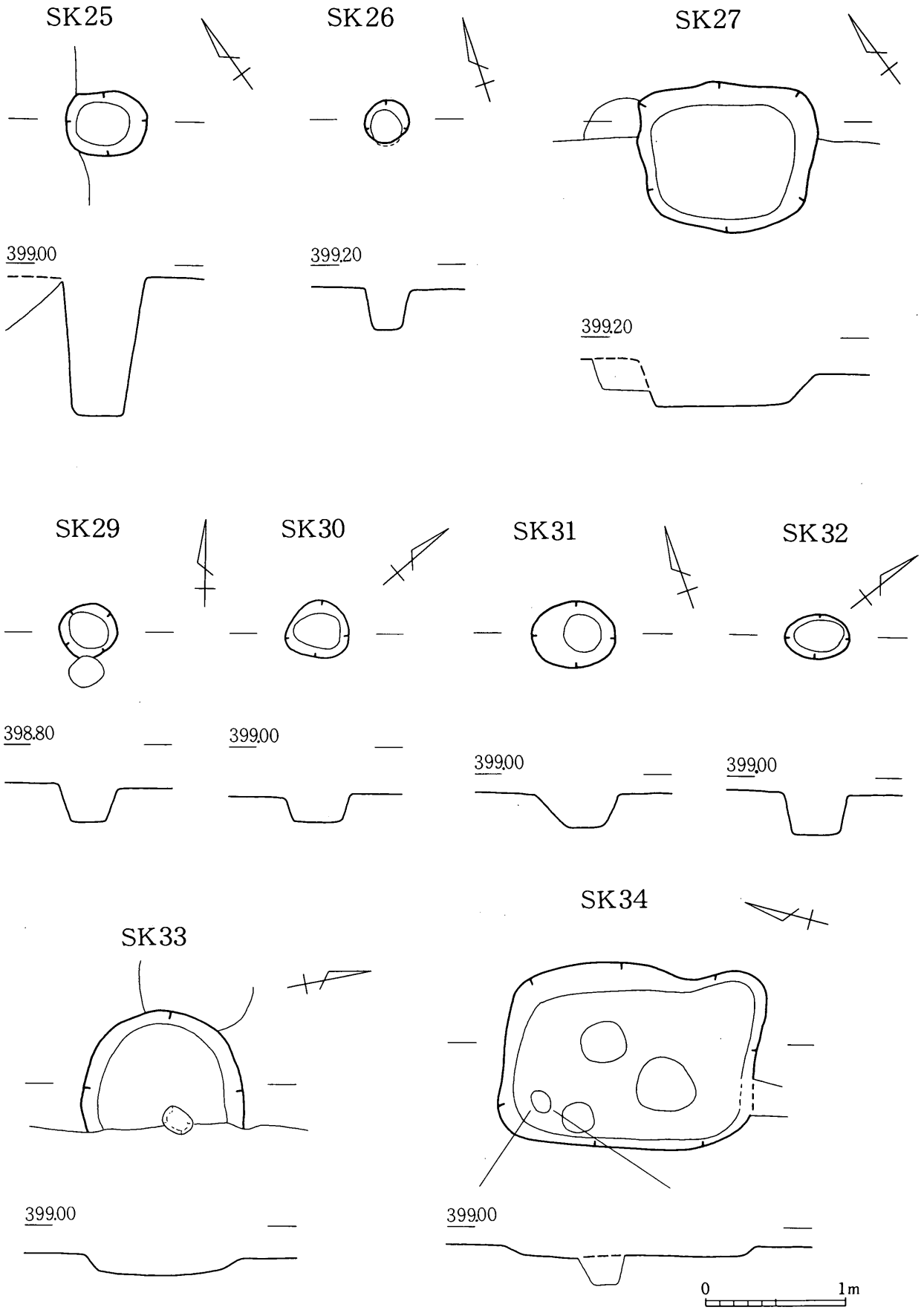


插图50 SK25~27、29~34

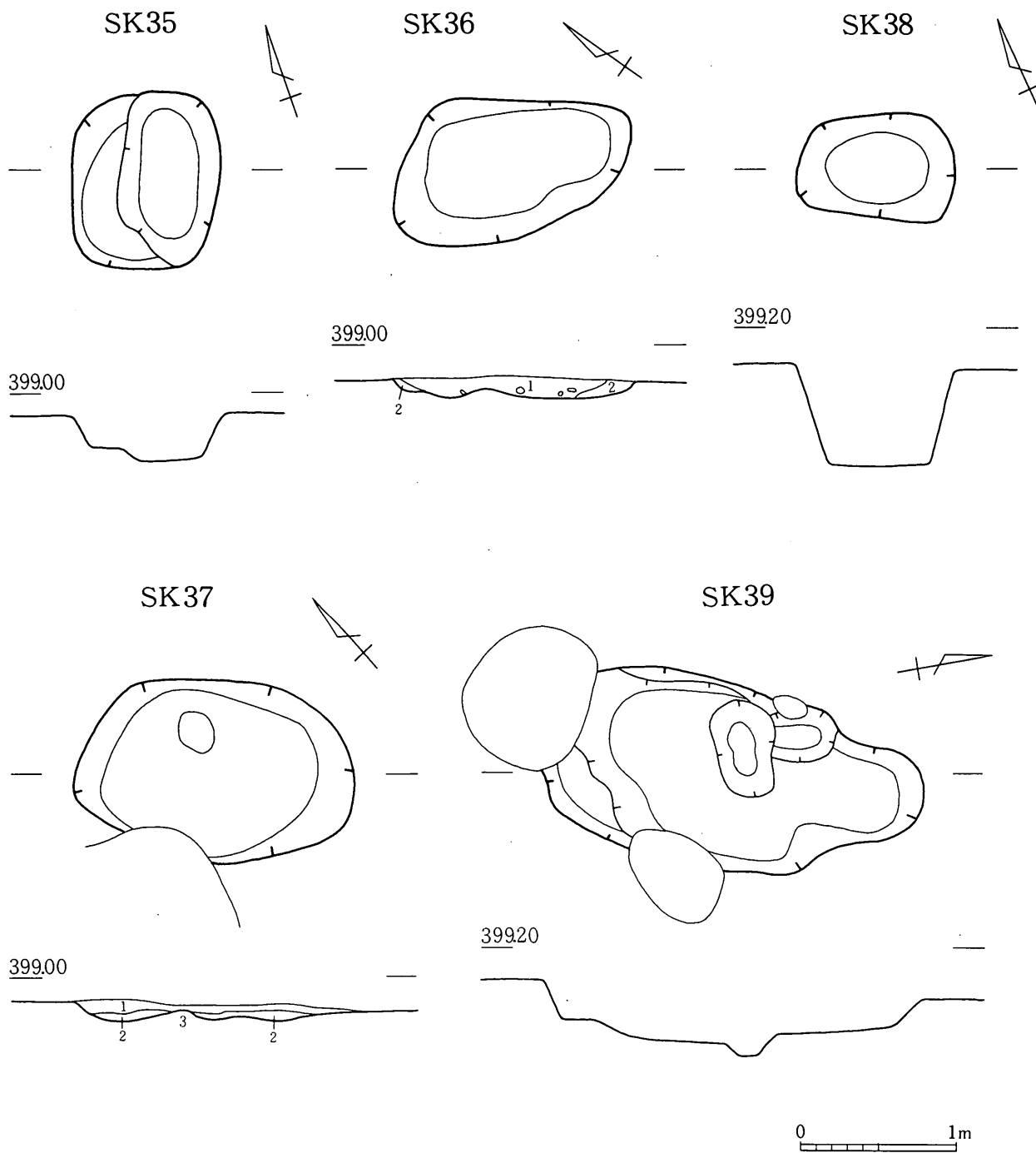


插图51 SK35~39

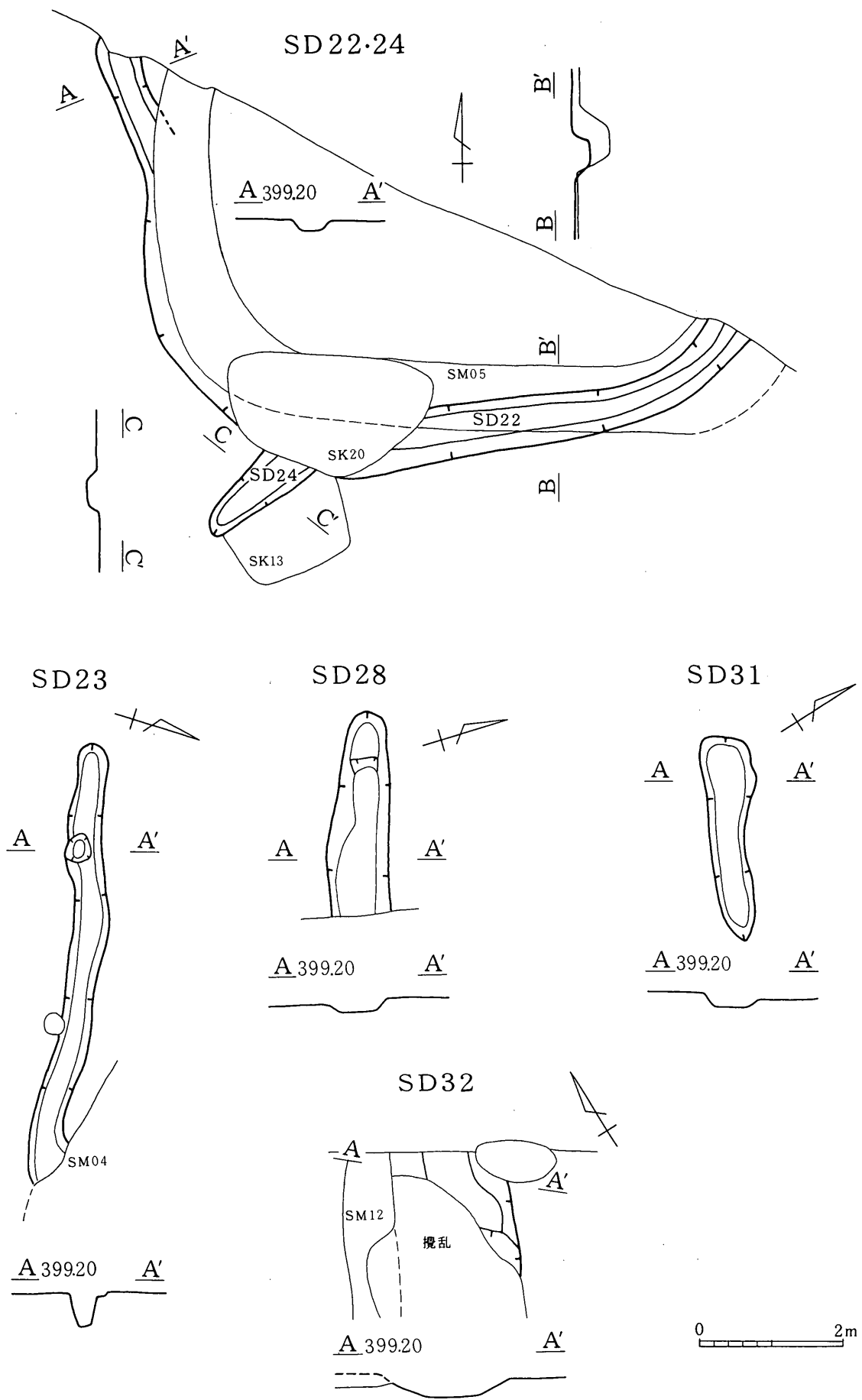
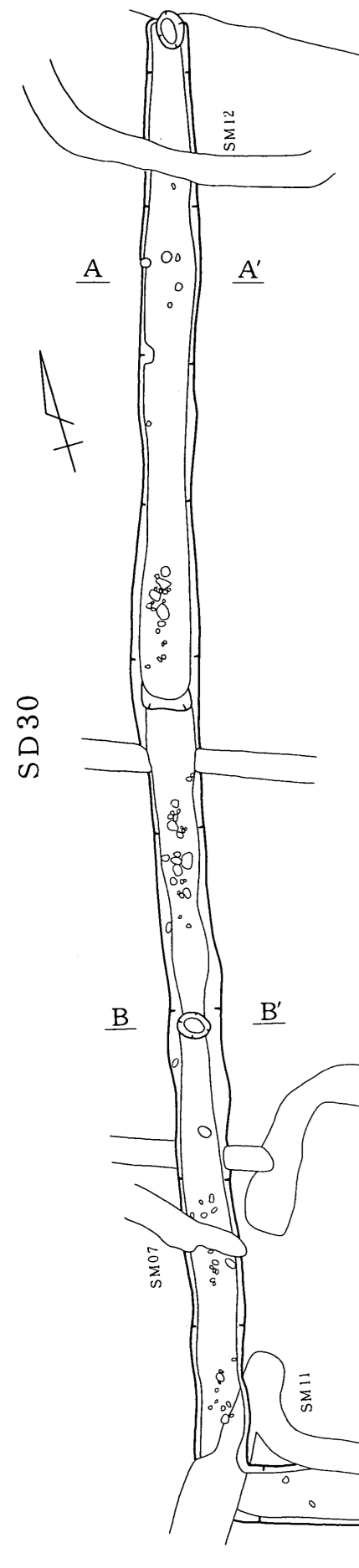
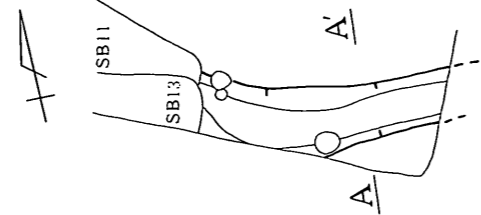


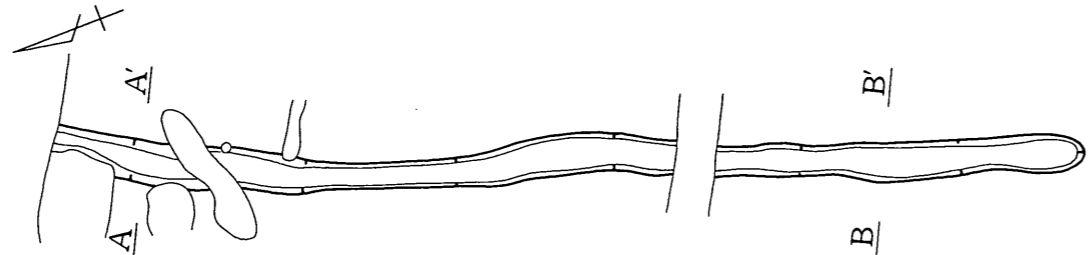
插图52 SD22~24·28·31·32



SD27



SD29



SD25

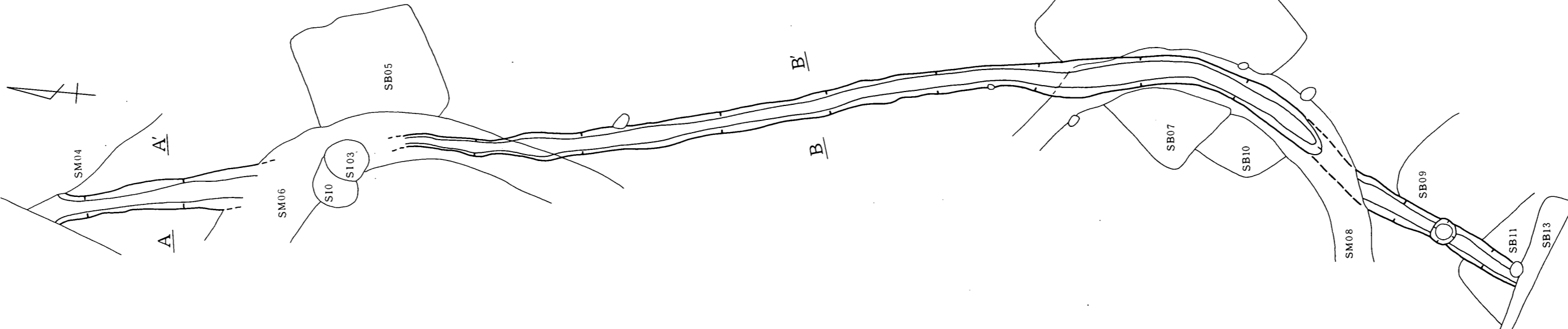
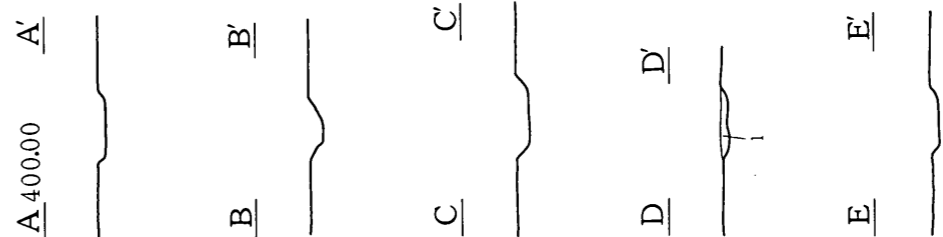


插图53 SD25·27·29·30

SD30



A 400.00 A'

A 400.00 A', B', C', D'



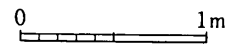
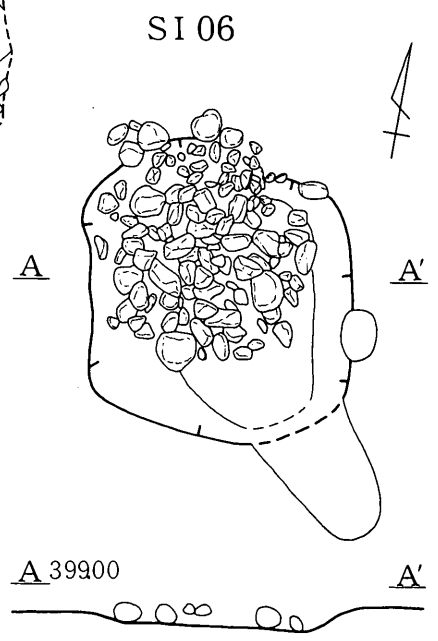
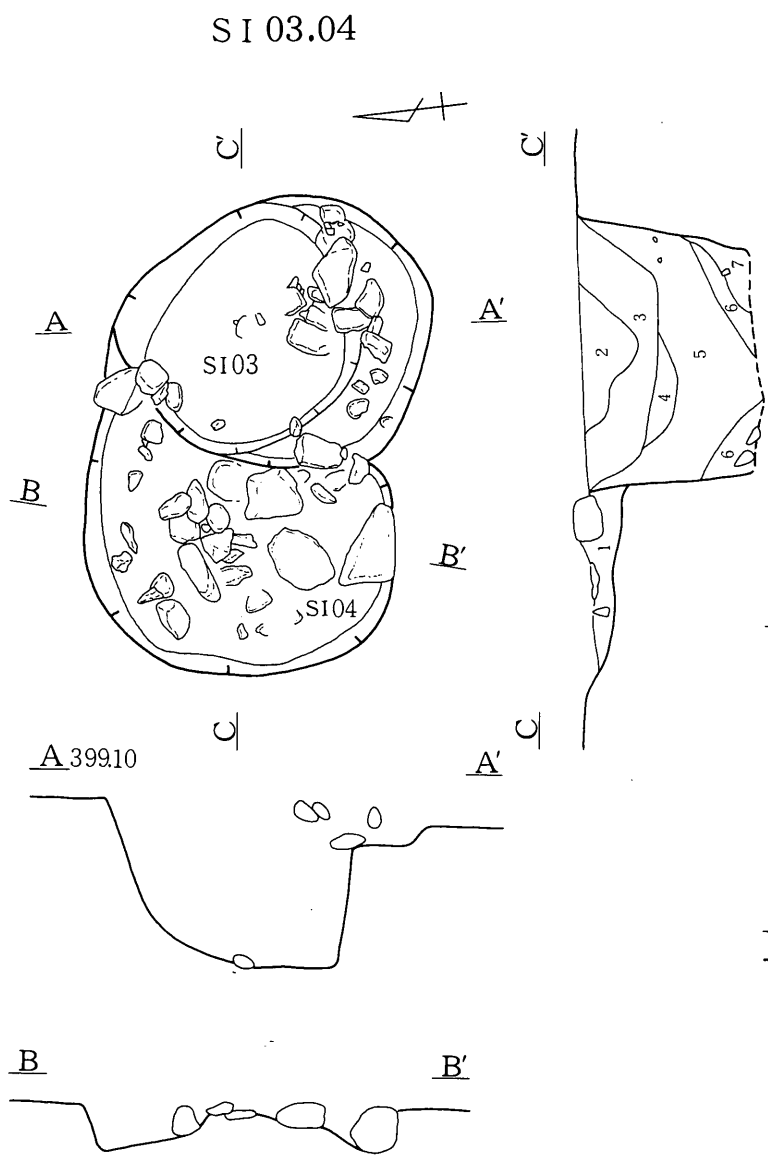
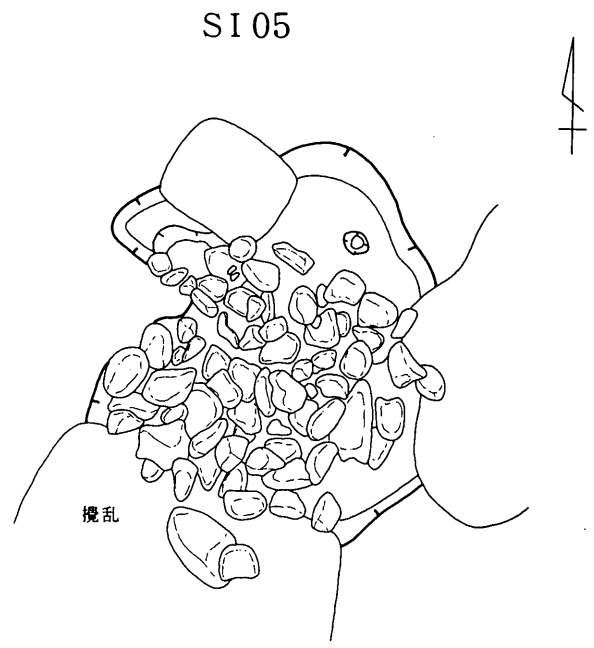
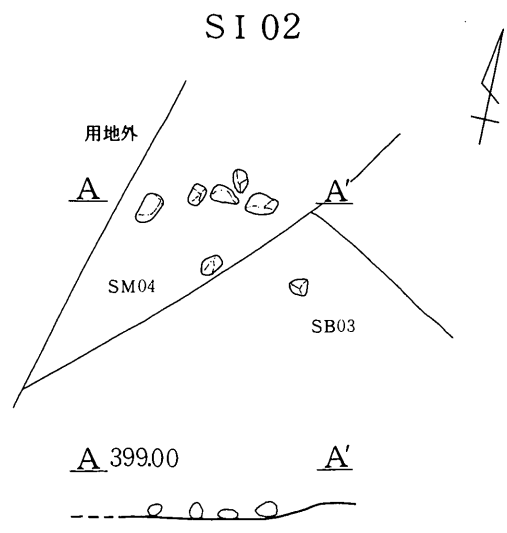


插图54 SI 02~06

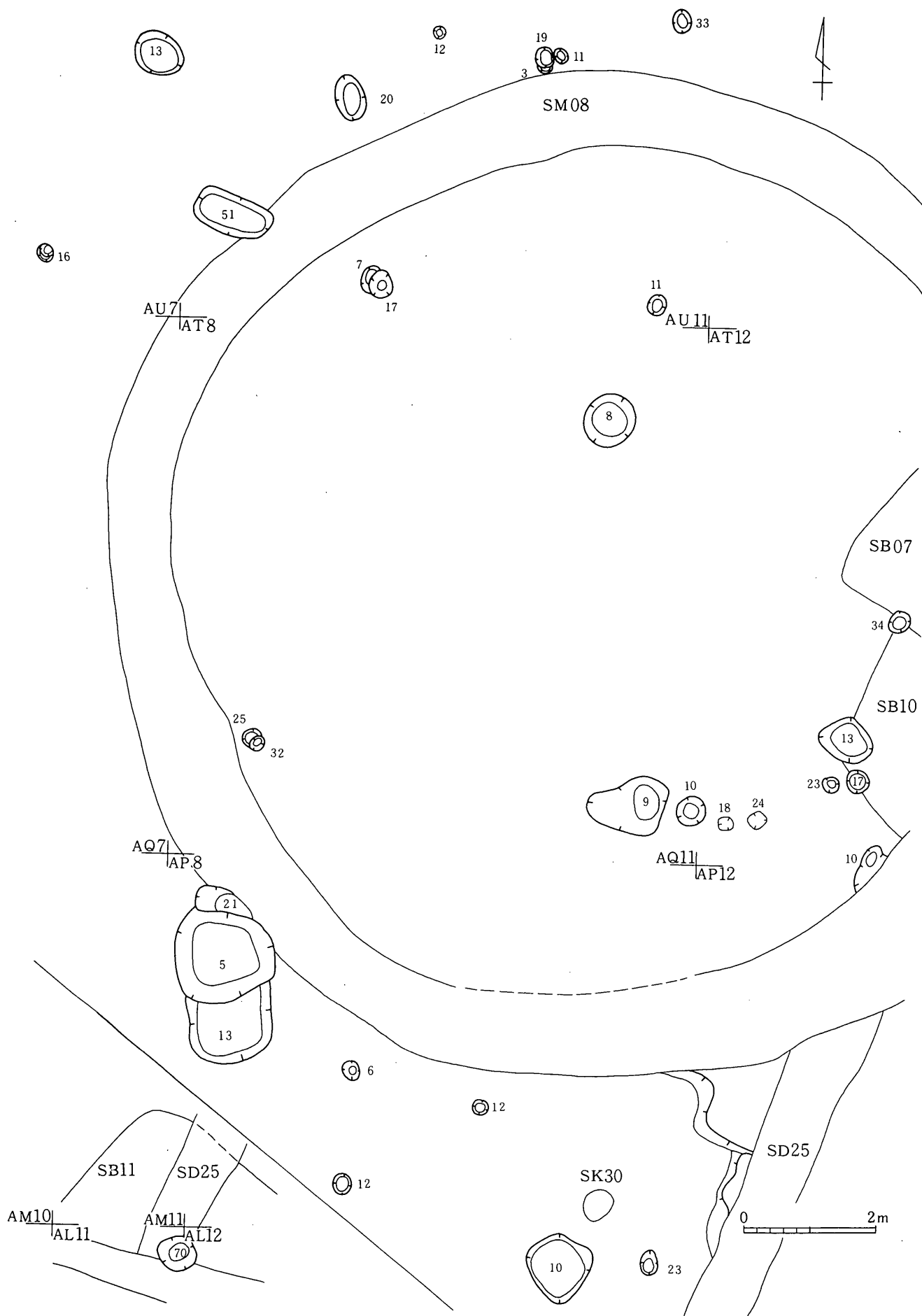


插图 5 5 周边柱穴平面图 (1)

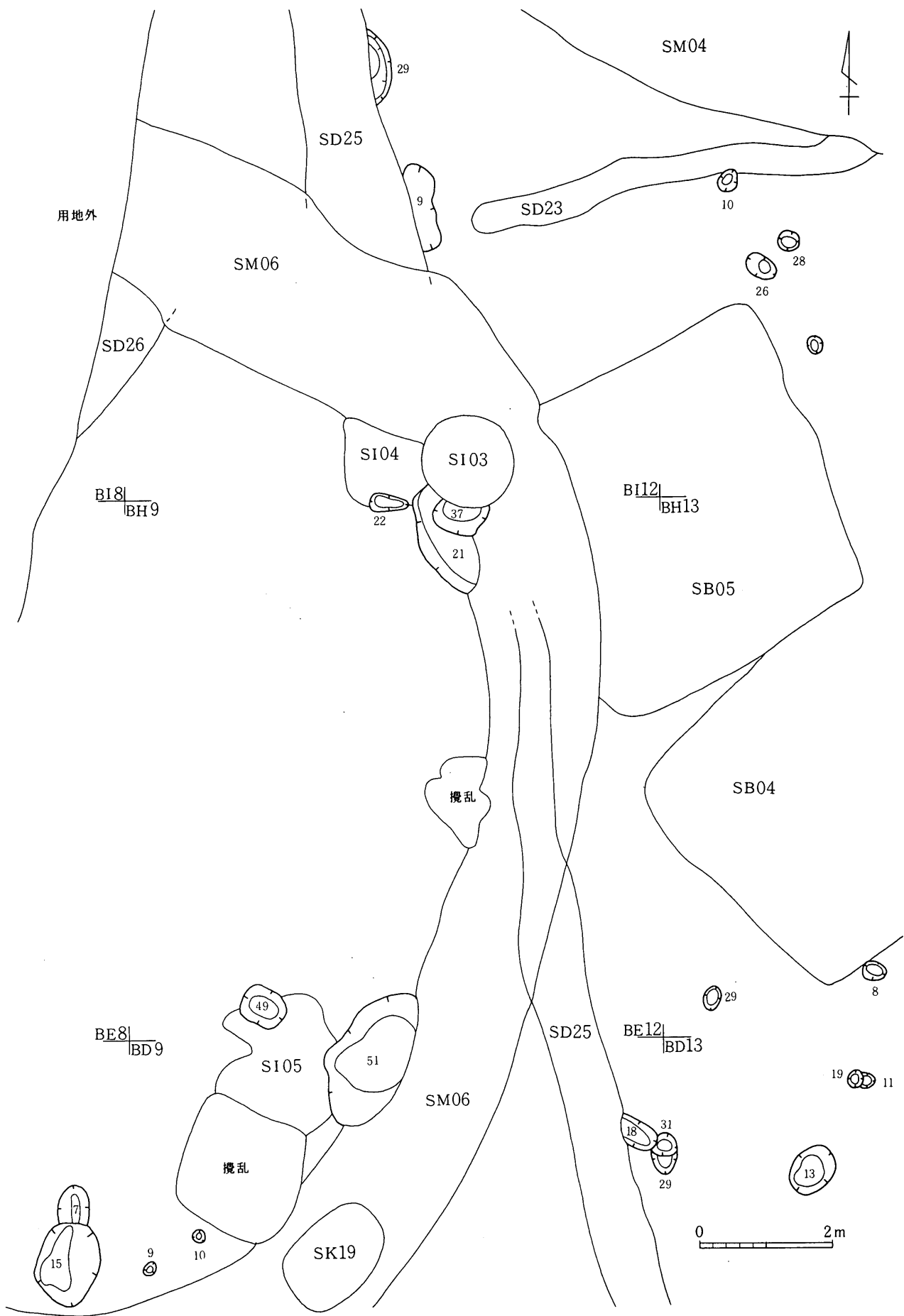


插图 5 6 周边柱穴平面图 (2)





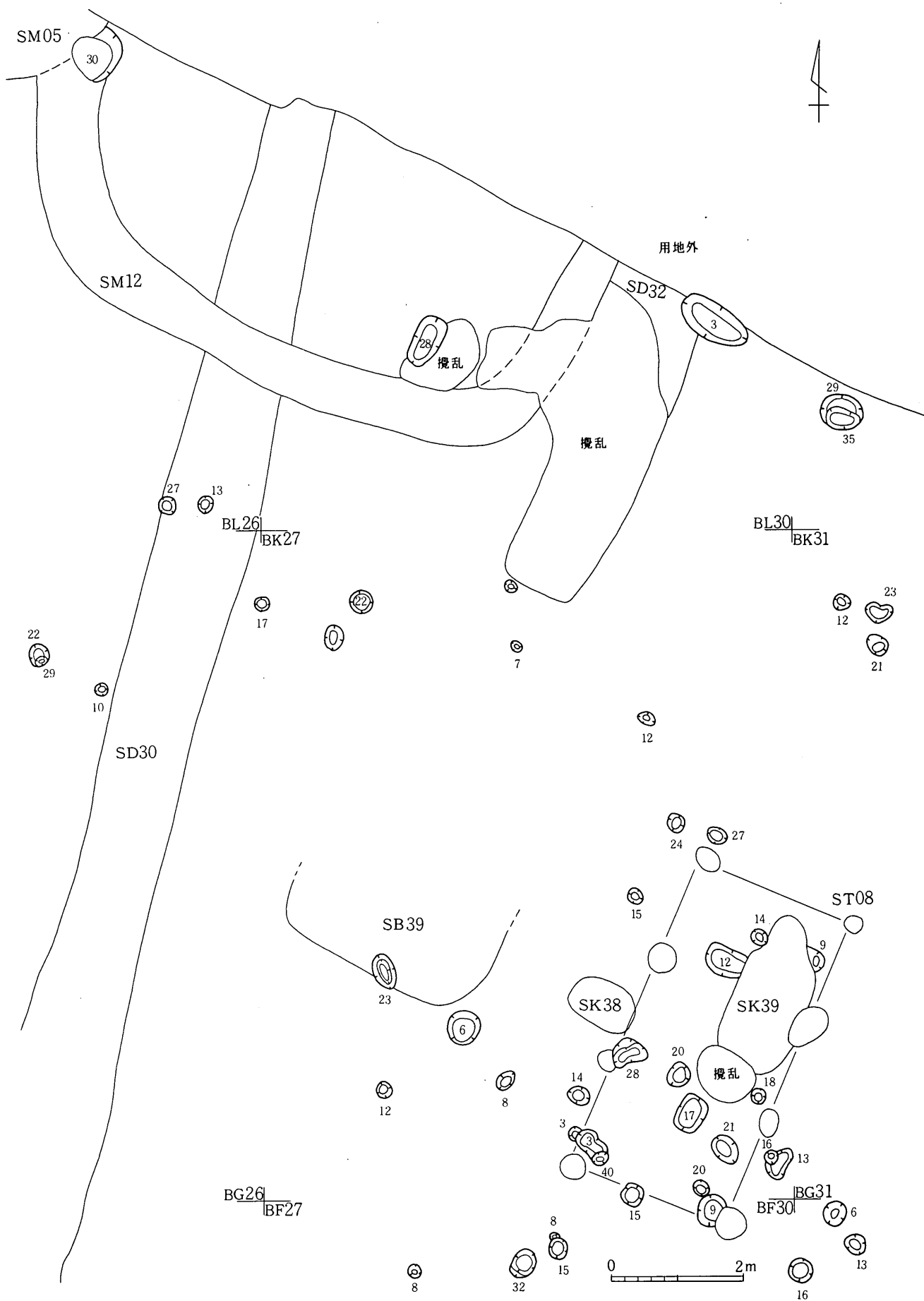


插图 5 8 周边柱穴平面图 (4)

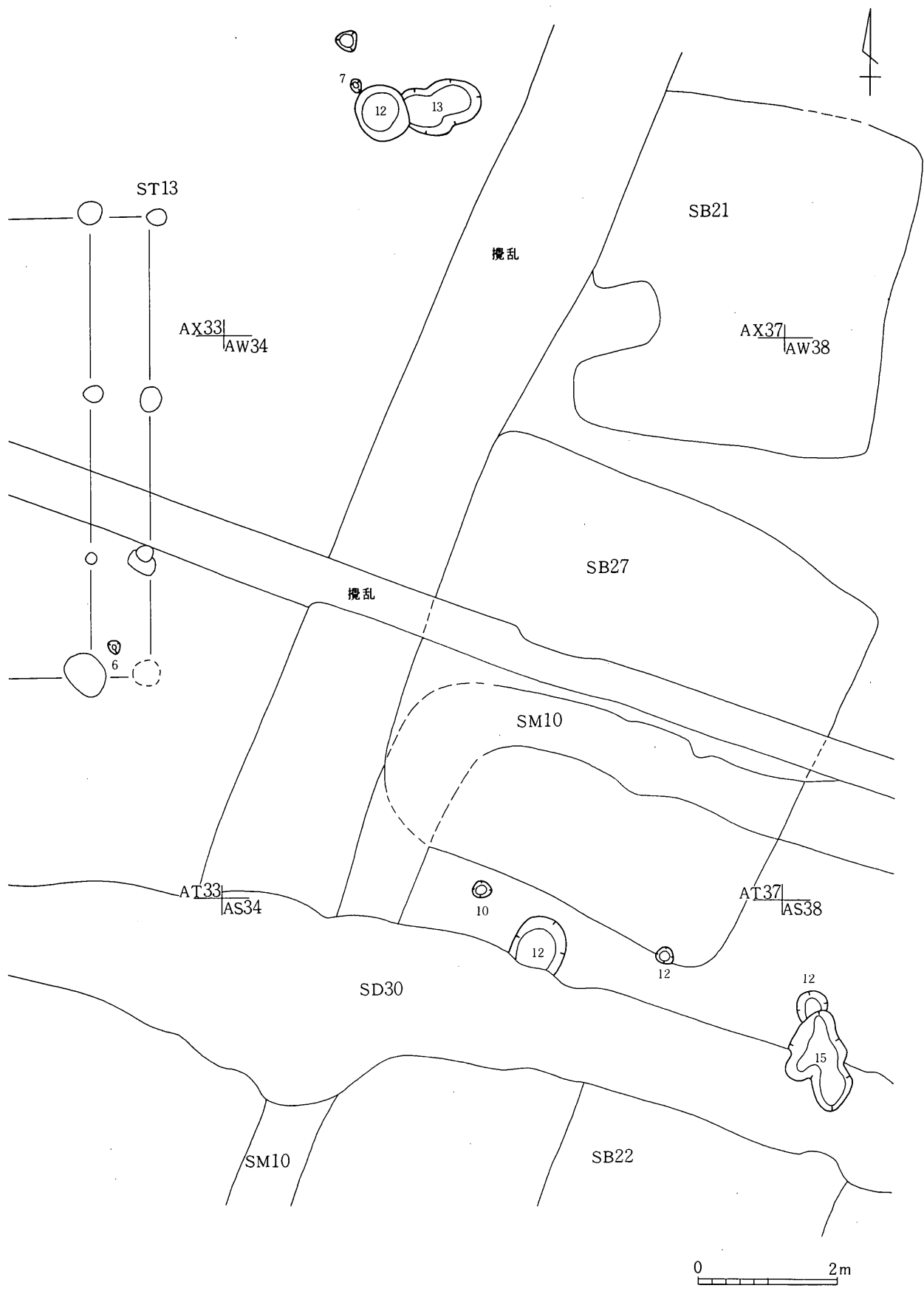
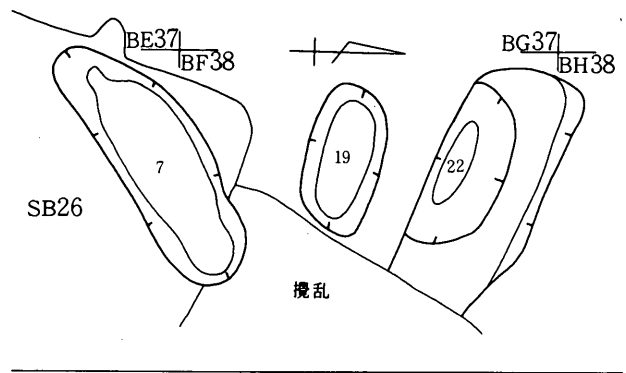


插图 5 9 周边柱穴平面图 (5)



11

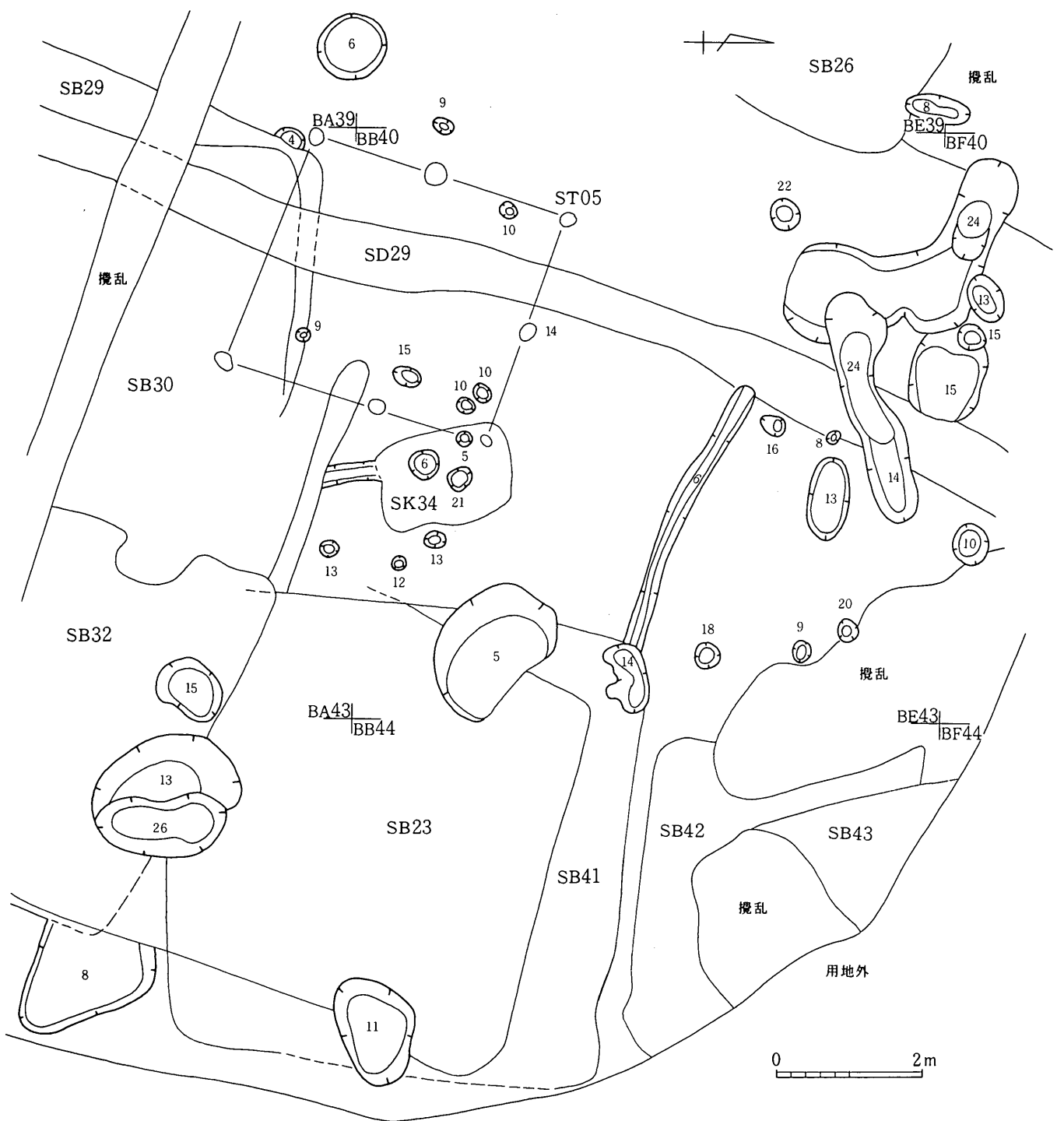


插图 60 周边柱穴平面图 (6)

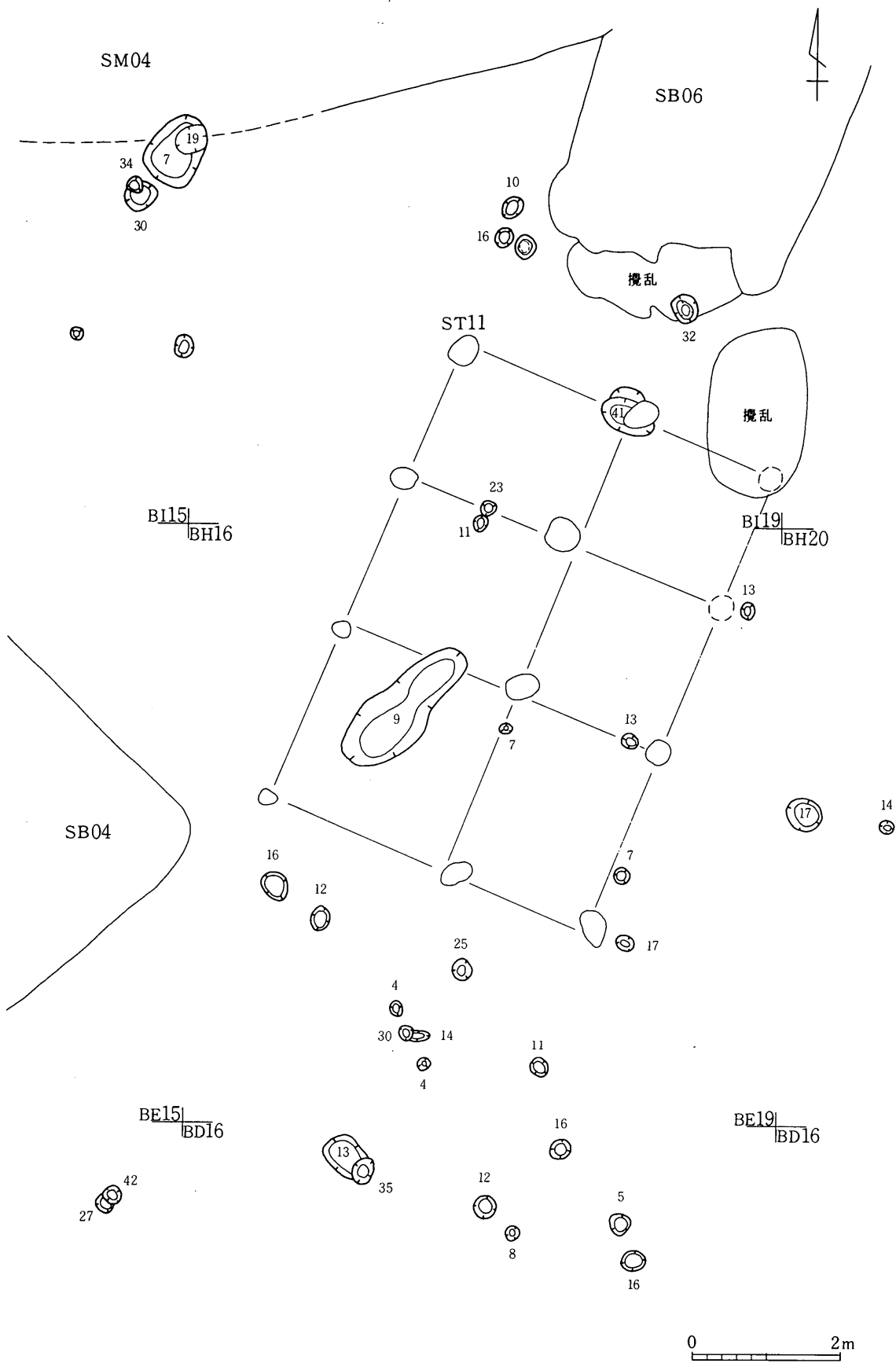


插图 6 1 周边柱穴平面图 (7)

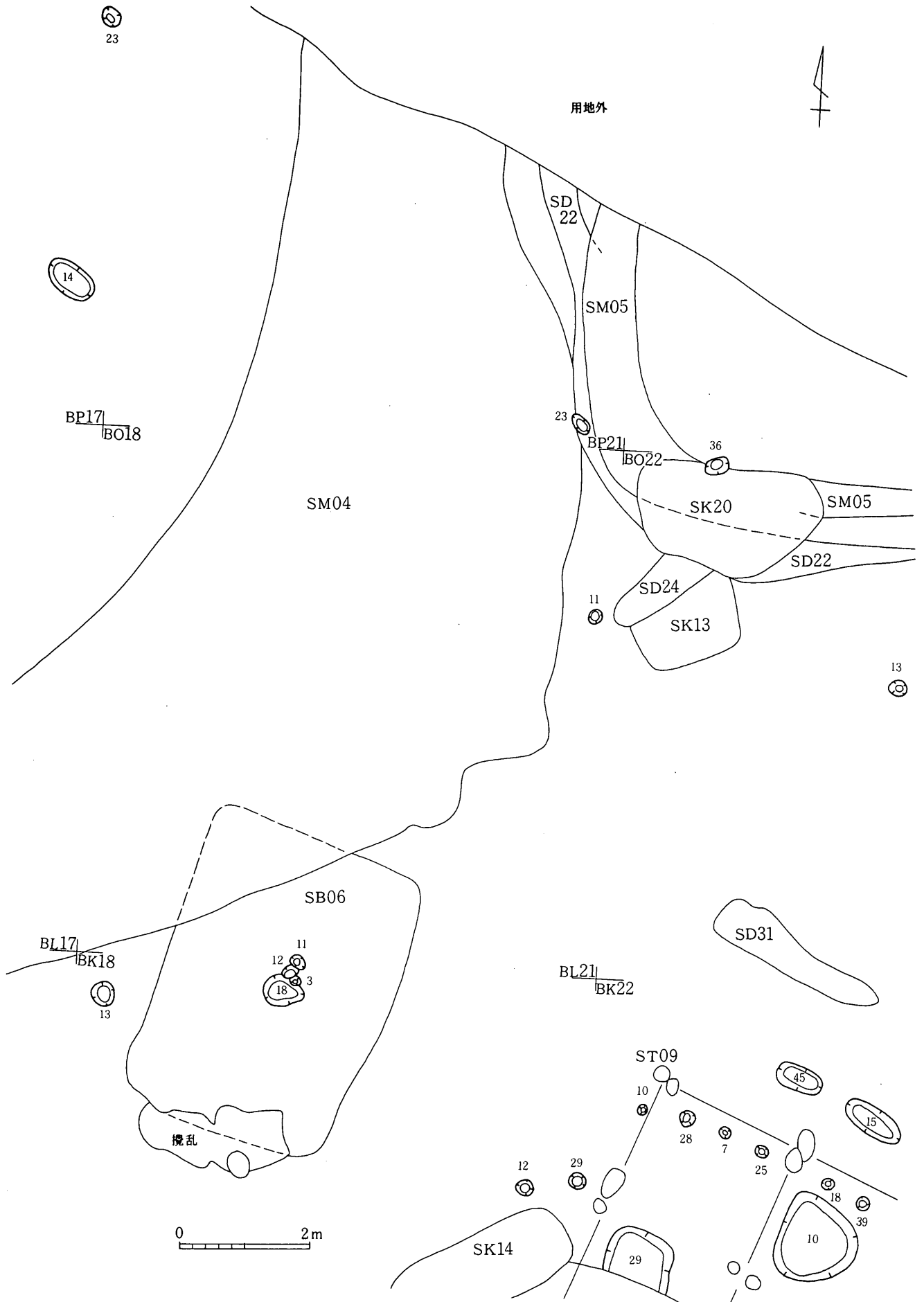


插图 6 2 周边柱穴平面图 (8)

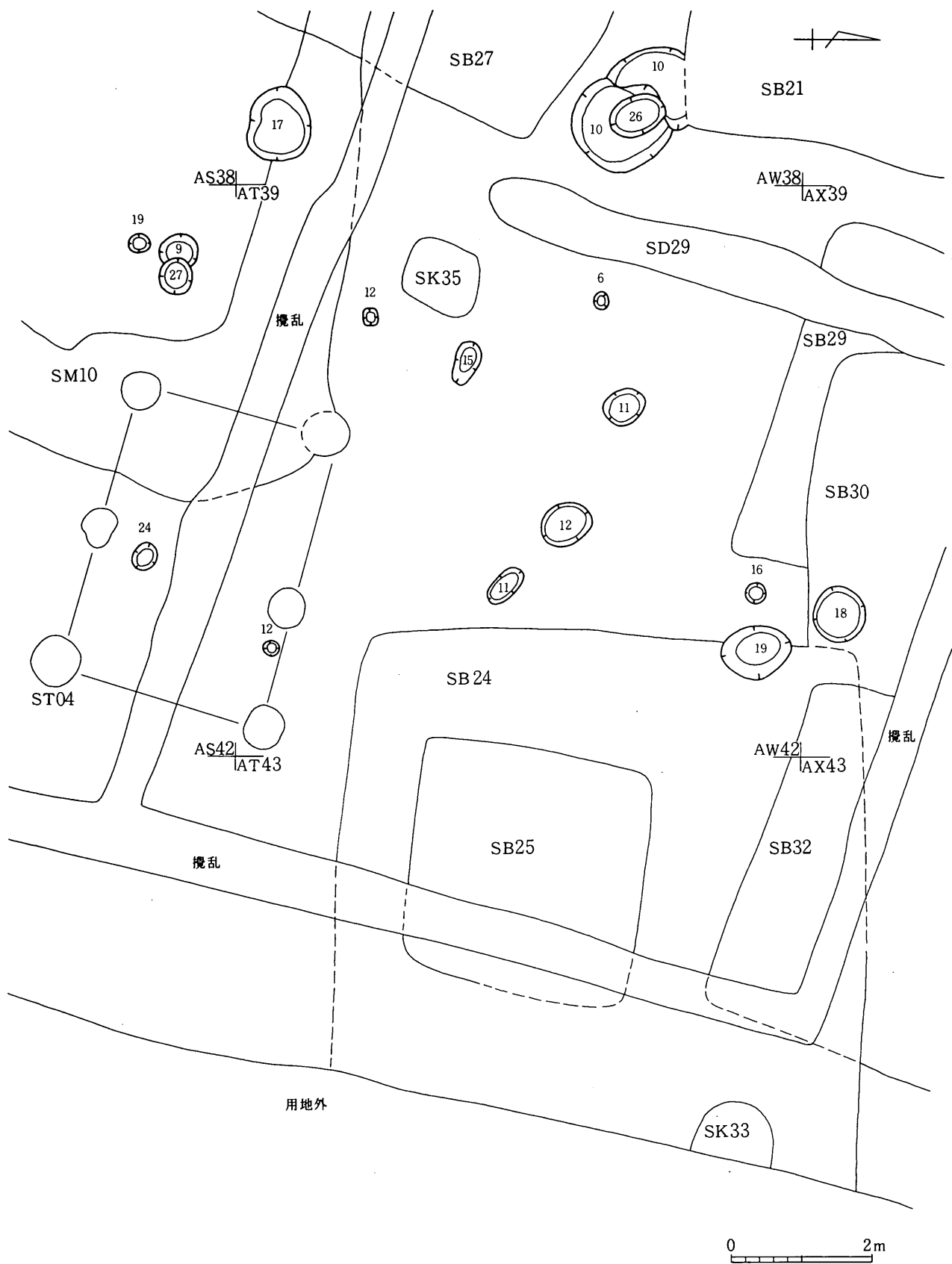
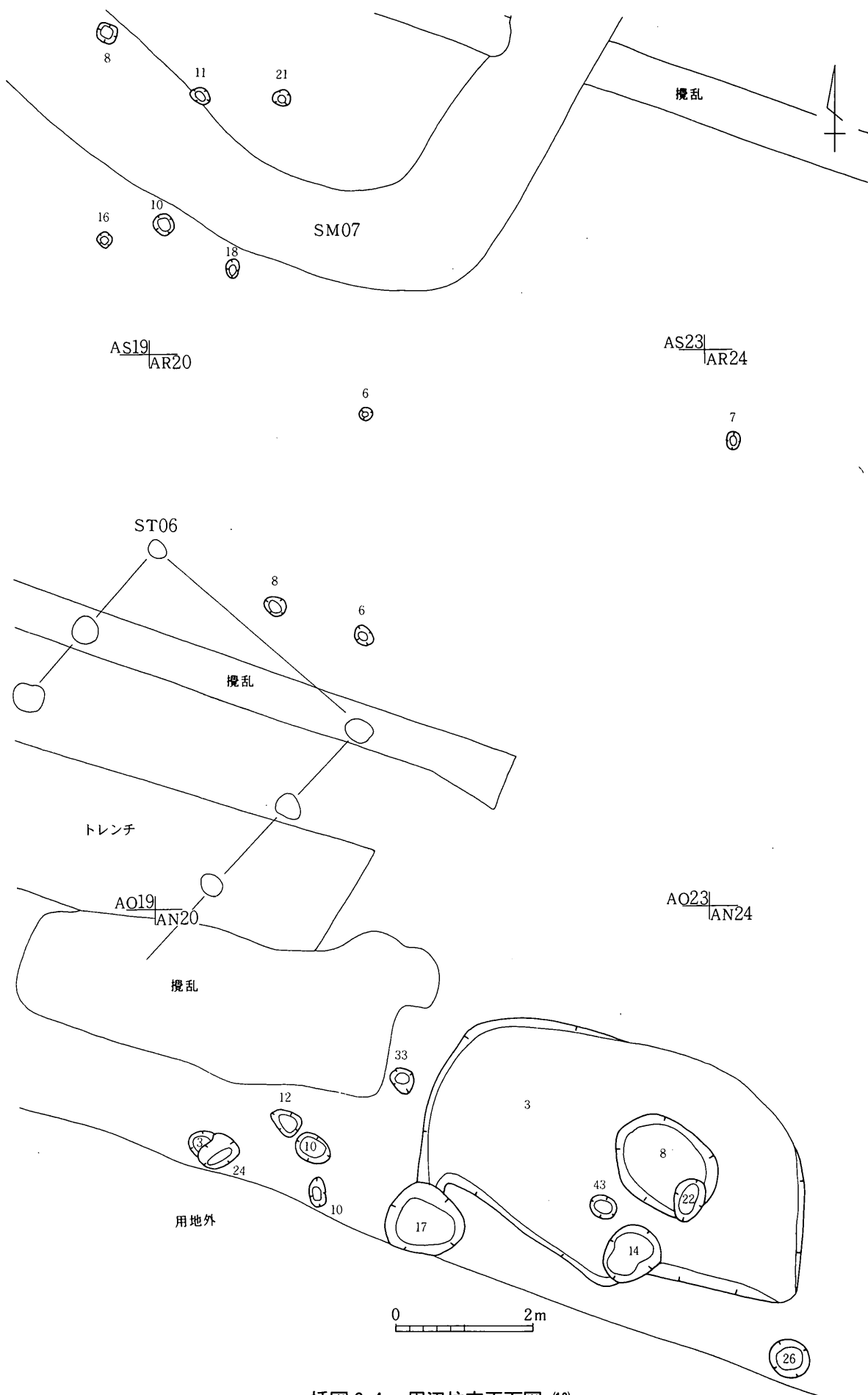


插图 6 3 周边柱穴平面图 (9)



挿図 6 4 周辺柱穴平面図 (10)



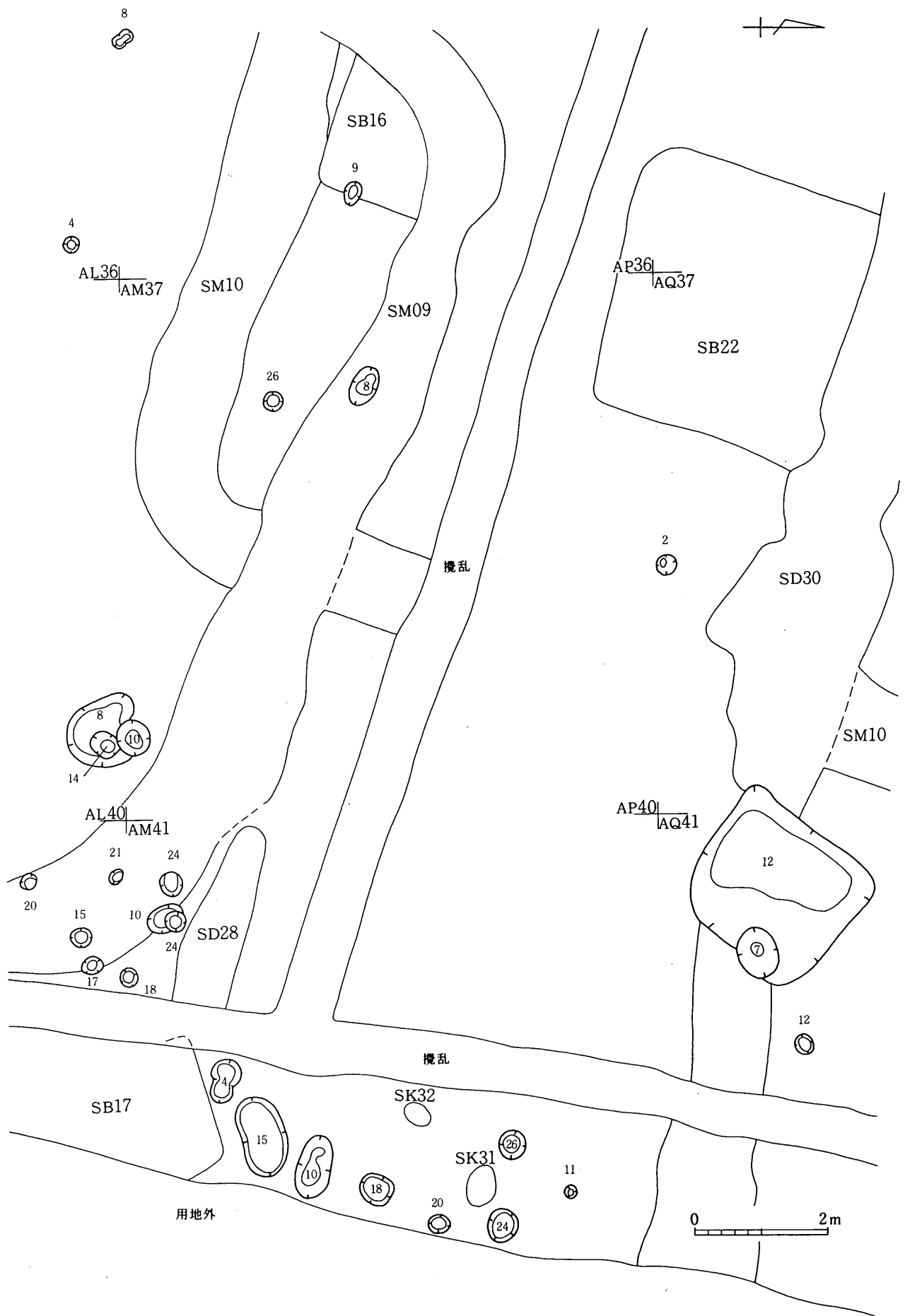


插图 6 5 周边柱穴平面图 (11)

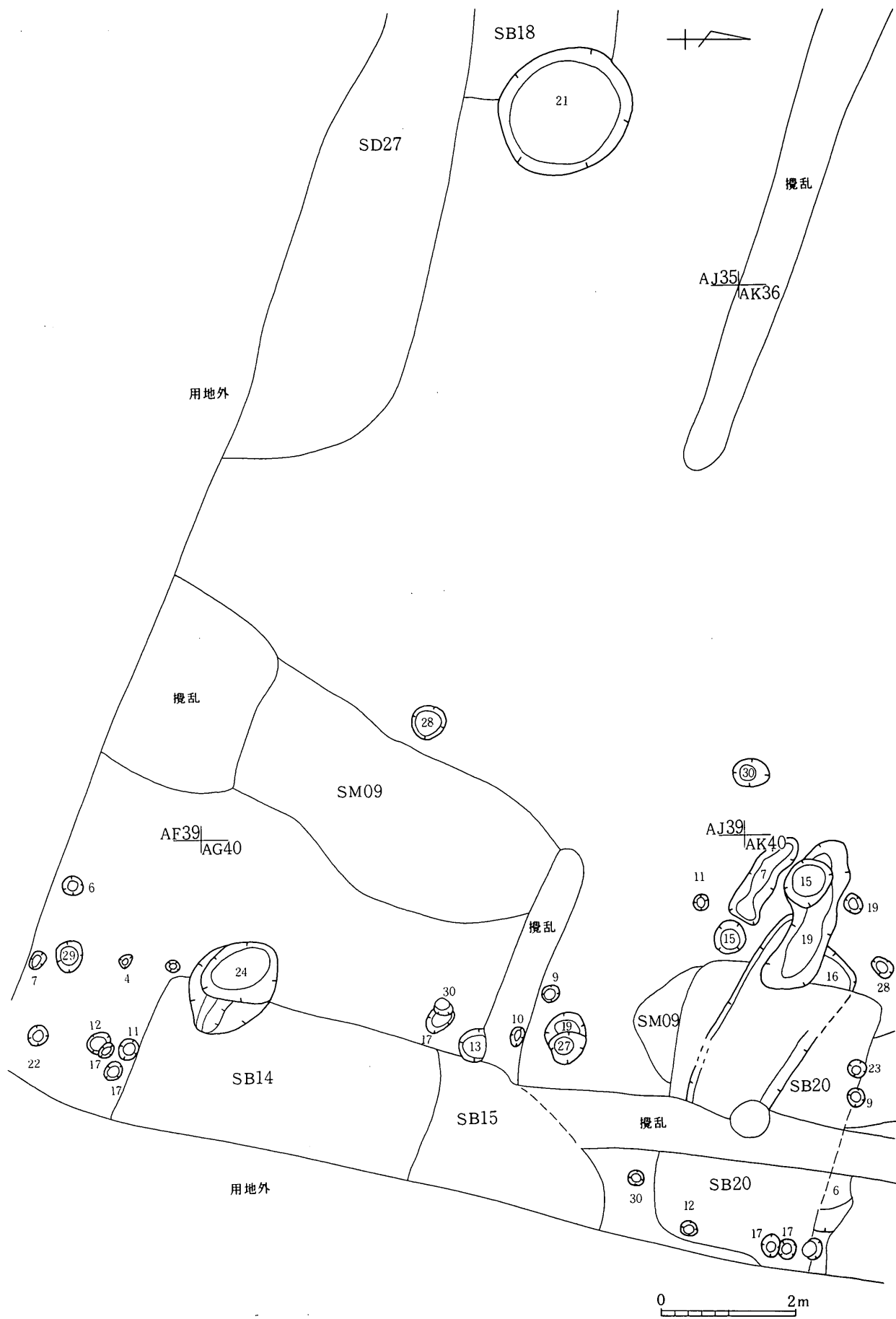


插图 6 6 周边柱穴平面图 (12)



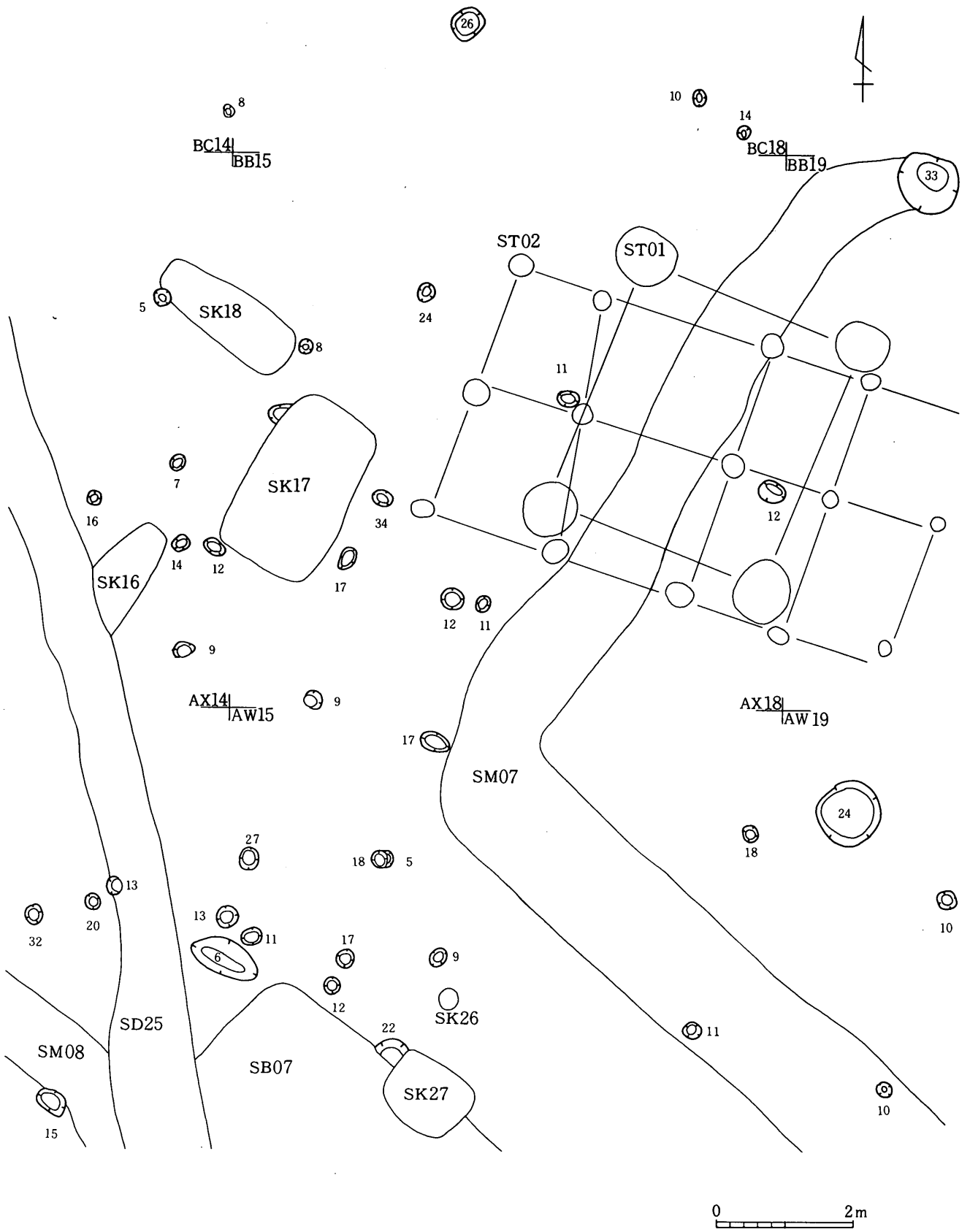


插图 6 8 周边柱穴平面图 (14)

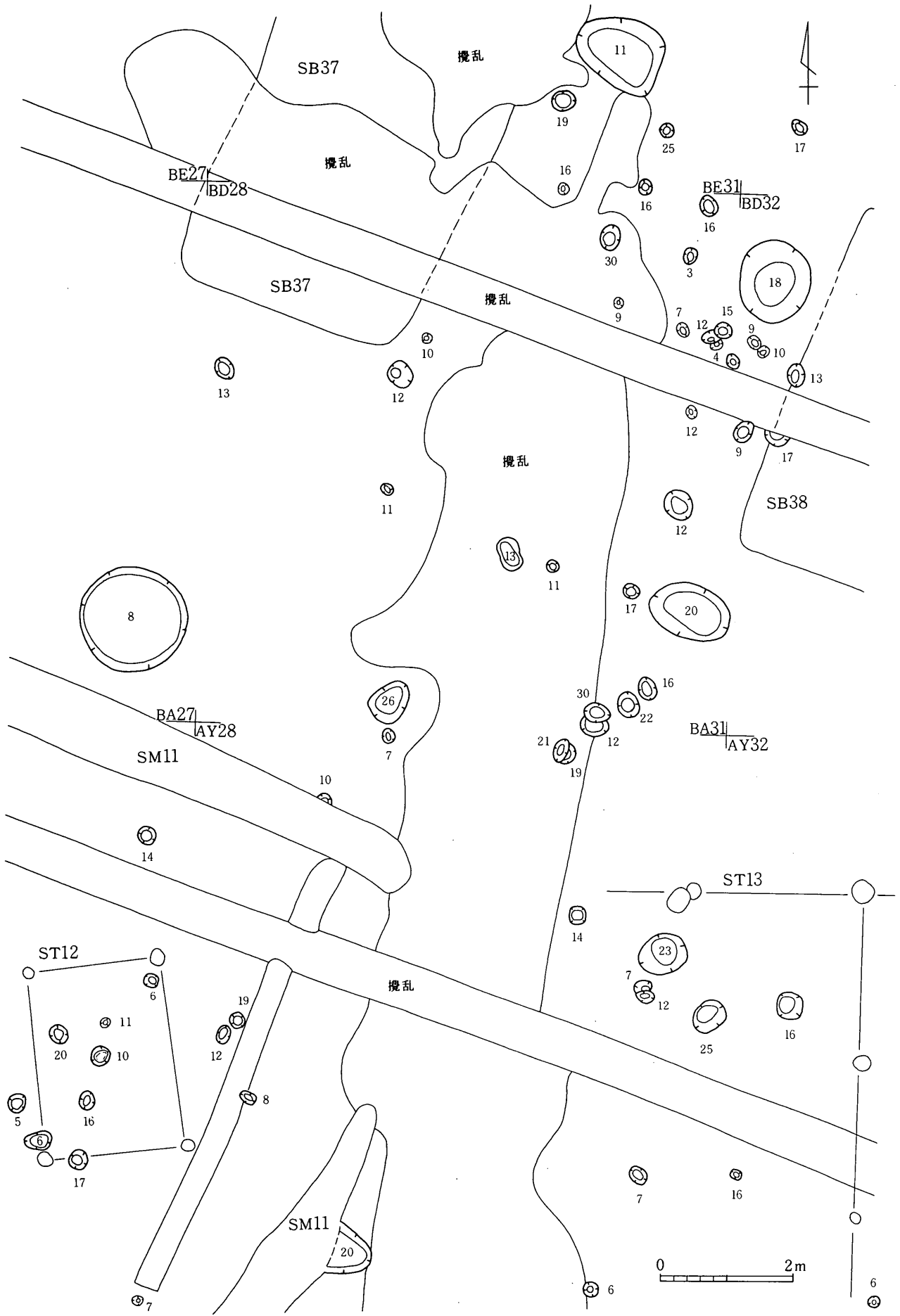


插图 6 9 周边柱穴平面图 (15)

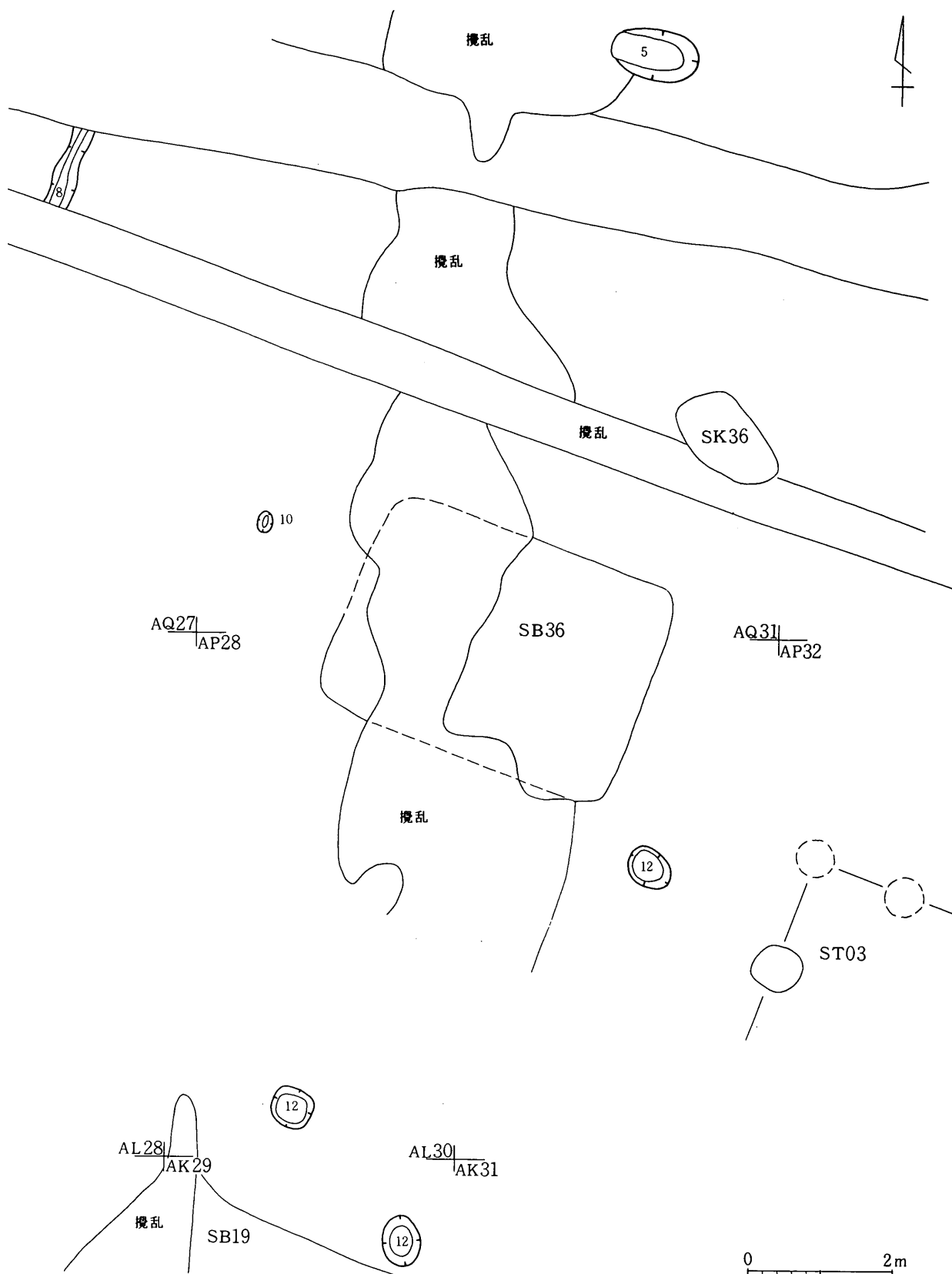


插图 7 0 周边柱穴平面图 (16)

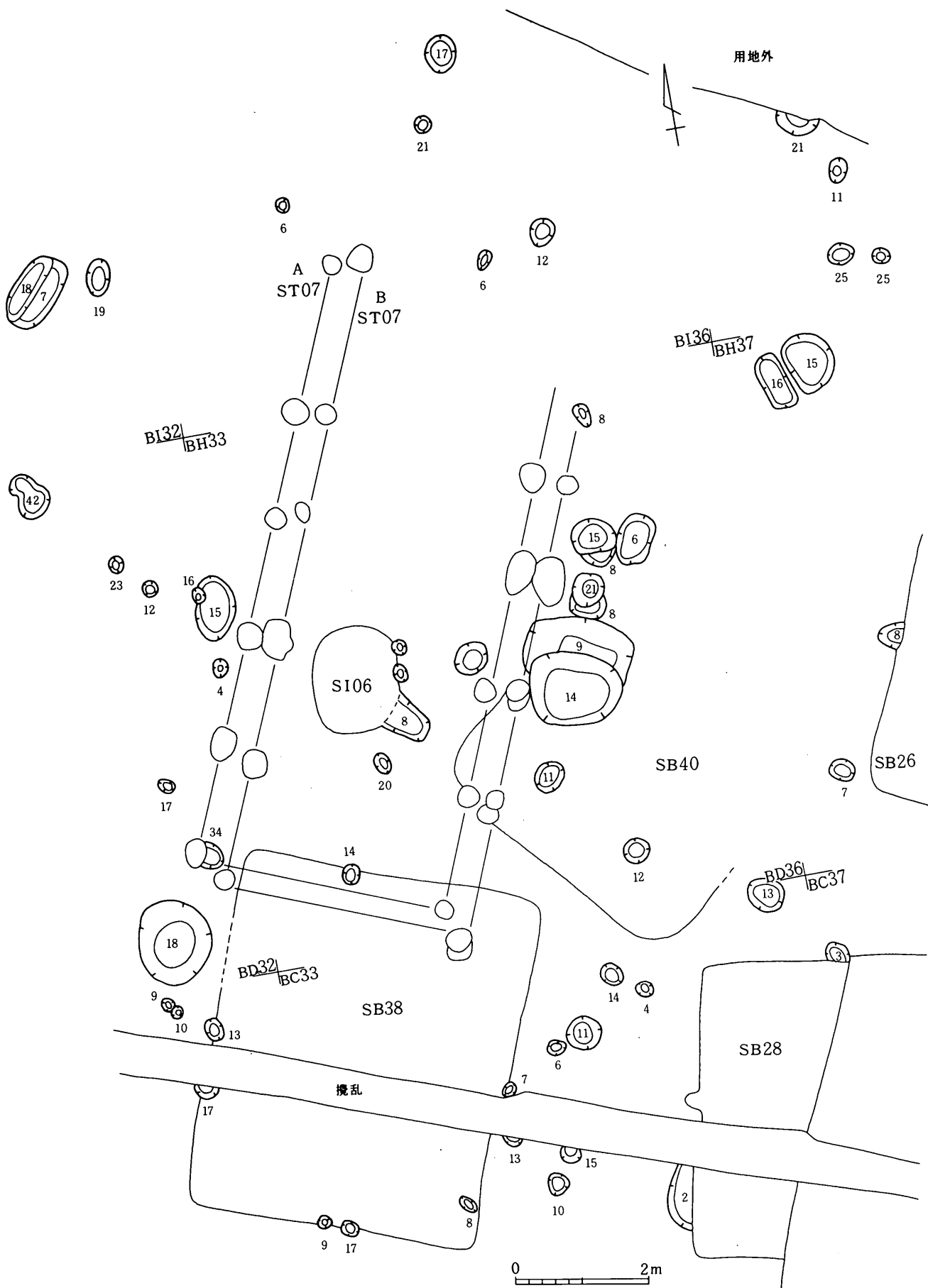


插图 7 1 周边柱穴平面图 (17)

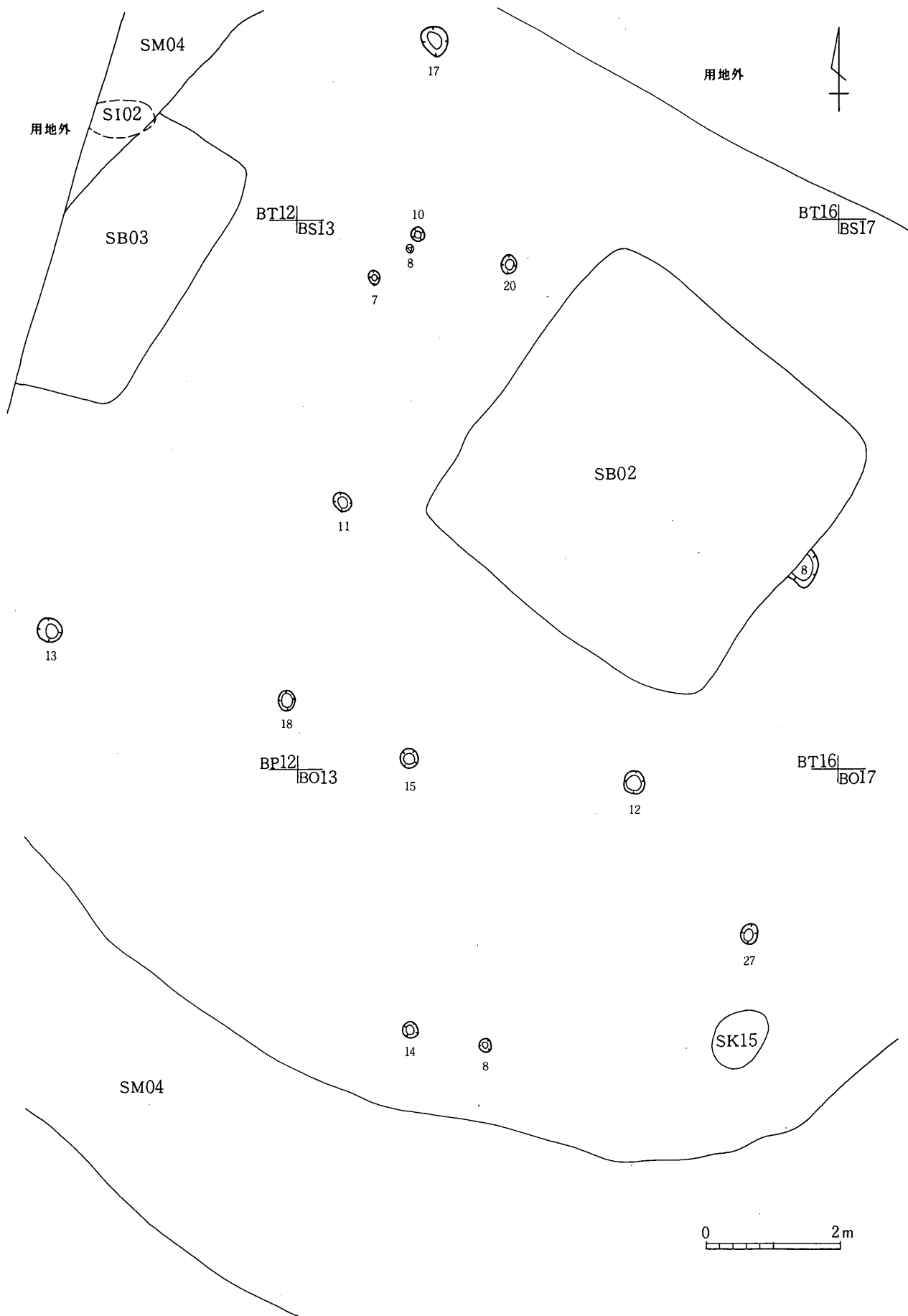


插图 7 2 周边柱穴平面图 (18)



## 第4節 第2地点の遺構と遺物

第2地点で調査された遺構は、

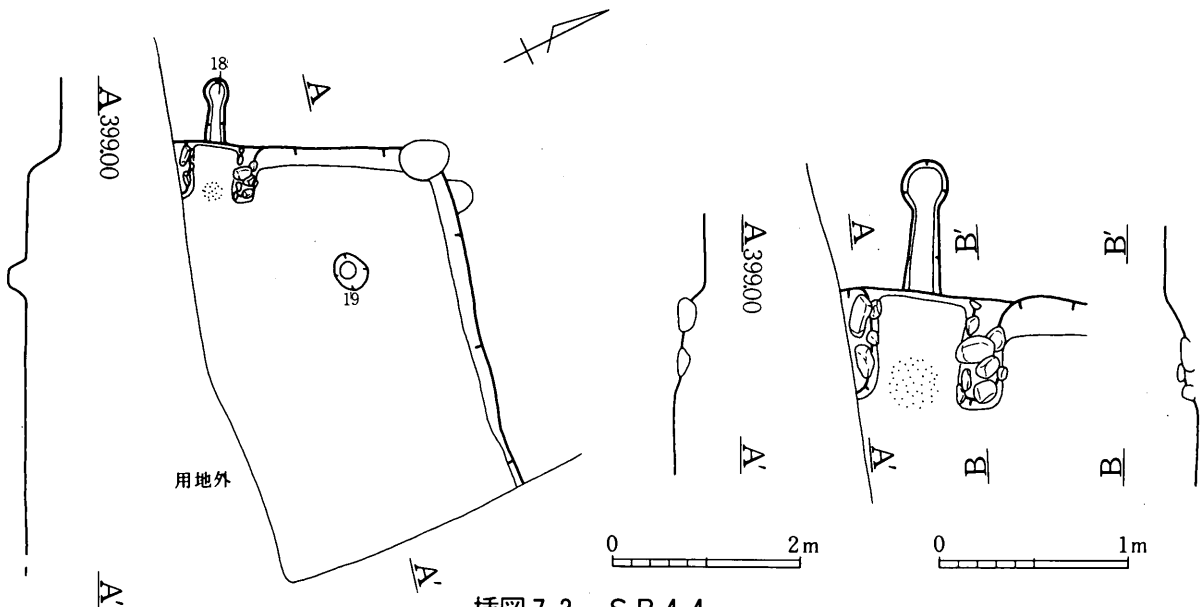
- 竪穴住居址 5棟
- 土坑 5基
- 溝址・溝状址 4条
- その他小柱穴 多数がある。

### (1) 竪穴住居址

#### 1) 古墳時代中期～後期

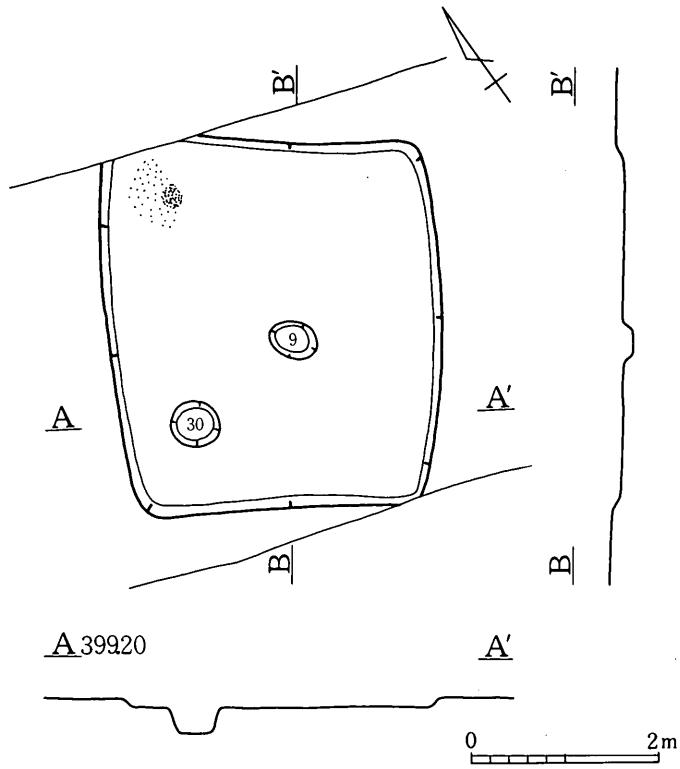
##### ① SB44

遺構番号	SB44	検出位置	第2地点 III区AA41		
規模	- × - × 35cm	長軸	N62.0° E	平面形	不整形形と考えられる。
検出状況	埋土が地山と異なり、耕土直下で明確に検出された。東半上部に攪乱がある。大半が調査区外にかかり、約1/4調査。				
重複関係	なし。				
壁	明確で、ほぼ垂直に緩やかな立ち上がりを示す。				
床	掘り方は礫層に達しており、不明確ながら貼床されたと考えられ、軟弱である。				
柱穴	主柱穴1本確認。				
カマド	西壁の中央と考えられる位置に構築。石芯粘土カマドで煙道も検出された。支脚なし。				
付属施設	なし。				
遺物	埋土下層からの出土が多く、カマド左袖脇にほぼ完形の遺物が集中する。土師器壺・甕・坏・鉢・高坏・甑、須恵器坏、土製紡錘車。				
その他	自然埋没と考えられる。上層より礫が混じり、中央床直上は特に多い。				

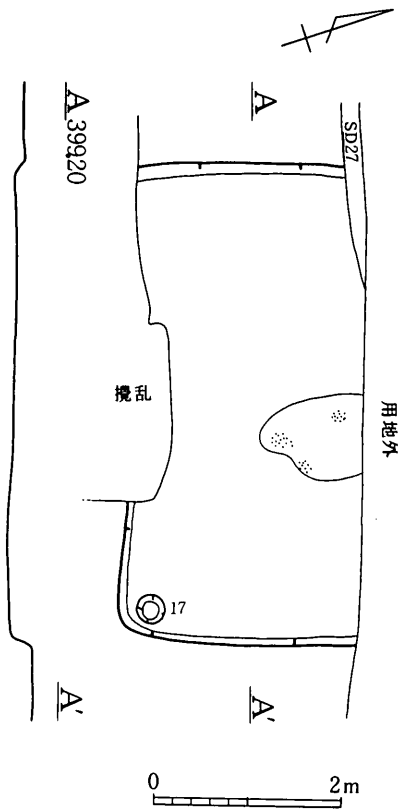


挿図73 SB44

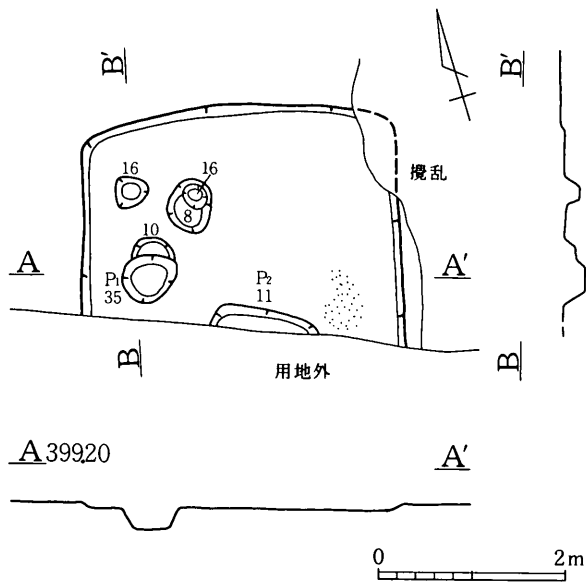
SB 45



SB 47



SB 46



SB 48

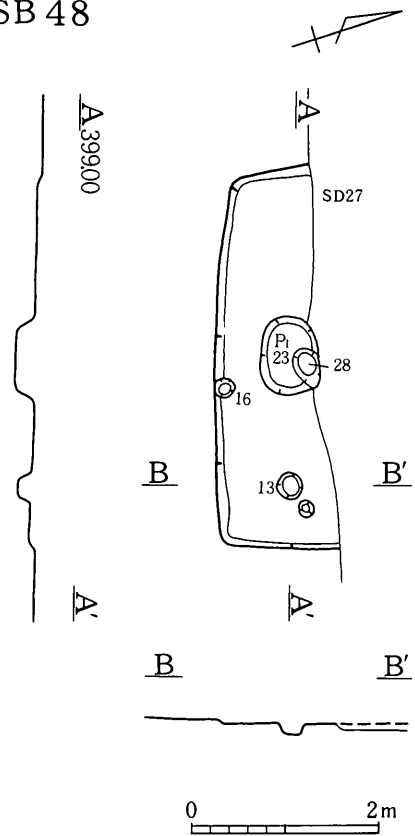


插图 7 4 SB 45 ~ 48

②S B46

遺構番号	S B46	検出位置	第2地点 III区A F27		
規 模	340× - × 5cm	長 軸	N 103.5° W	平 面 形	不整長方形と考えられる。
検出状況	埋土が地山と異なり明確に検出された。約1/2 が調査区外にかかる。				
重複関係	なし。				
壁	削平によりほとんど遺存していない。				
床	北東側が部分的に硬く、貼床はない。				
柱 穴	小柱穴あり。				
カ マ ド	東壁際に火床と考えられる焼土を検出。削平を受けて形態は不明。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物は埋土中にはほとんどなく、P1に多い。土師器甕・坏。				

2)平安時代後期

①S B45

遺構番号	S B45	検出位置	第2地点 III区A H24	床面積	(11.8㎡)
規 模	350× 380×10cm	長 軸	N56.5° W	平 面 形	不整長方形
検出状況	貼床上ないし貼床中で検出され、地山と明確に異なる。中央にロームマウンドあり。				
重複関係	なし。				
壁	削平されて遺存せず。掘り方のみ把握された。				
床	検出状況から、床面の状況は不明。				
柱 穴	小柱穴2基を検出。				
カ マ ド	北西隅に火床と考えられる部分が確認され、隅カマドと考えられる。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物はほとんどなく、破片が多い。土師器甕、須恵器坏。				

②S B48

遺構番号	S B48	検出位置	第2地点 III区A K18		
規 模	400× - × 5cm	長 軸	(N19.5° E)	平 面 形	不整方形と考えられる。
検出状況	耕土直下で検出した。貼床中で検出したと考えられ、明確に地山と異なる。 約2/3 が調査区外にかかる。				
重複関係	S D27に切られる。				
壁	削平を受け、立ち上がりの状態は不明である。				
床	検出状況から床面の状態は不明である。				
柱 穴	P1および小柱穴を検出。P1より焼土・炭・焼骨片出土。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量は僅少だが、P1より土師器甕、灰釉陶器碗等あり。				

## 3) 時期不明

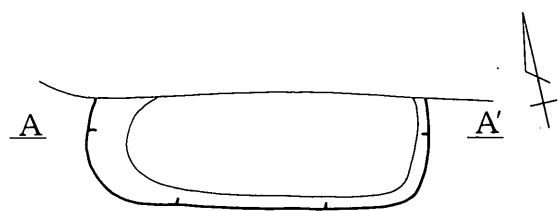
## ① S B 47

遺構番号	S B 47	検出位置	第 2 地点 III 区 A J 21		
規 模	510× - ×20cm	長 軸	(N19.0° E)	平 面 形	不整形と考えられる。
検出状況	埋土が明確に地山と異なり把握された。約1/2 が調査区外にかかる。南西側を攪乱に壊される。				
重複関係	S D 27 に切られる。				
壁	明確でやや緩やかに立ち上がる。				
床	貼床されており、軟弱である。				
柱 穴	不明。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量は僅少で、土師器甕・坏等あり。				
そ の 他	中央部床面に焼土・炭の集積あり。				

## (2) その他の遺構

遺構名	挿図№	検出位置	規模(長×短×深cm)	形 態	長 軸	時代	重複遺構	出土遺物	備 考
S K 40	75	III A C 40	180× - × 25	長楕円形	N77.0°W	-	-	-	調査区外にかかる
41	75	III A C 39	- × 70 × 40	長楕円形	N40.0°E	-	-	土師器甕	調査区外にかかる
42	75	III A B 39	120 × 95 × 8	不整形	-	奈良	-	土師器甕、須恵器甕・坏	
43	75	III A B 38	160 × 85 × 20	不整楕円	N69.0°E	-	-	-	
44	75	III A C 34	105 × 90 × 27	不整円形	N 0.0°W	-	-	-	
S D 33	76	III A E 32	- × 105 × 10	蛇行	N44.0°W	-	-	土師器甕	調査区外にかかる
34	76	III A I 17	- × - × -	直線状	N66.0°W	-	-	-	調査区外にかかる
35	76	III A G 25	- × 65 × 5	直線状	N33.0°E	-	-	-	調査区外にかかる
51	76	III A D 35	- × 60 × 15	直線状	N18.0°E	-	-	-	調査区外にかかる

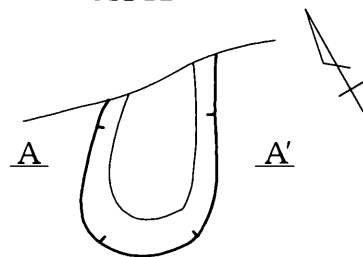
SK40



A 399.00 A'



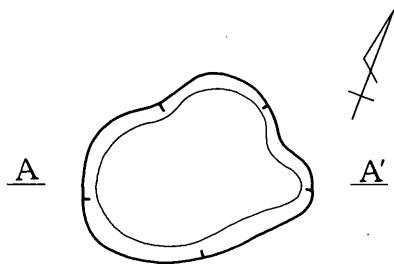
SK41



A 399.00 A'



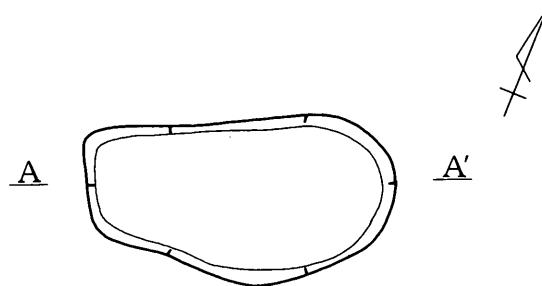
SK42



A 399.00 A'



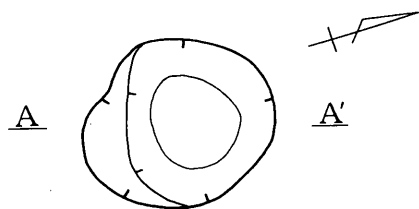
SK43



A 399.00 A'



SK44



A 399.00 A'



0 1m

插图75 SK40~44

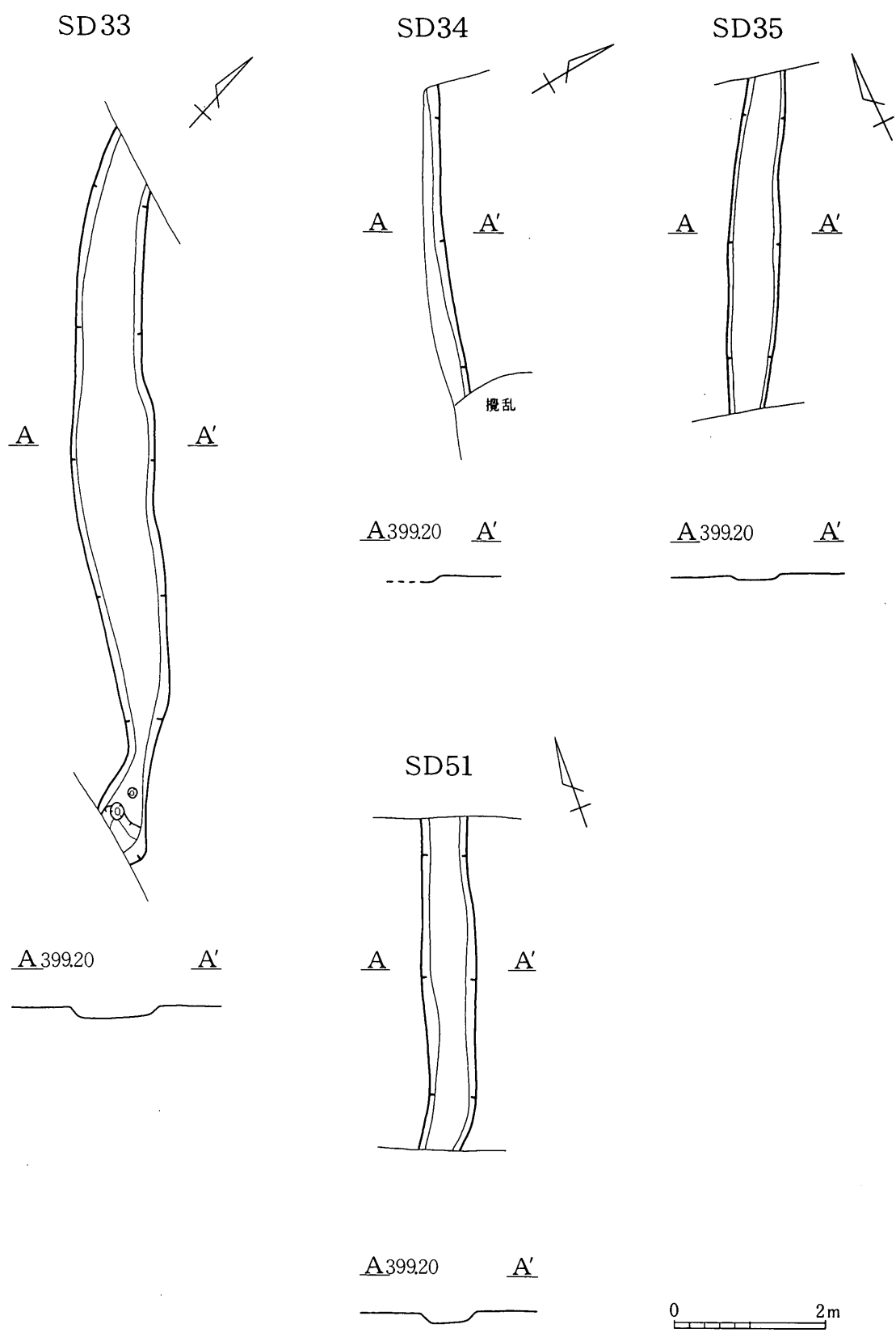


插图76 SD33~35·51

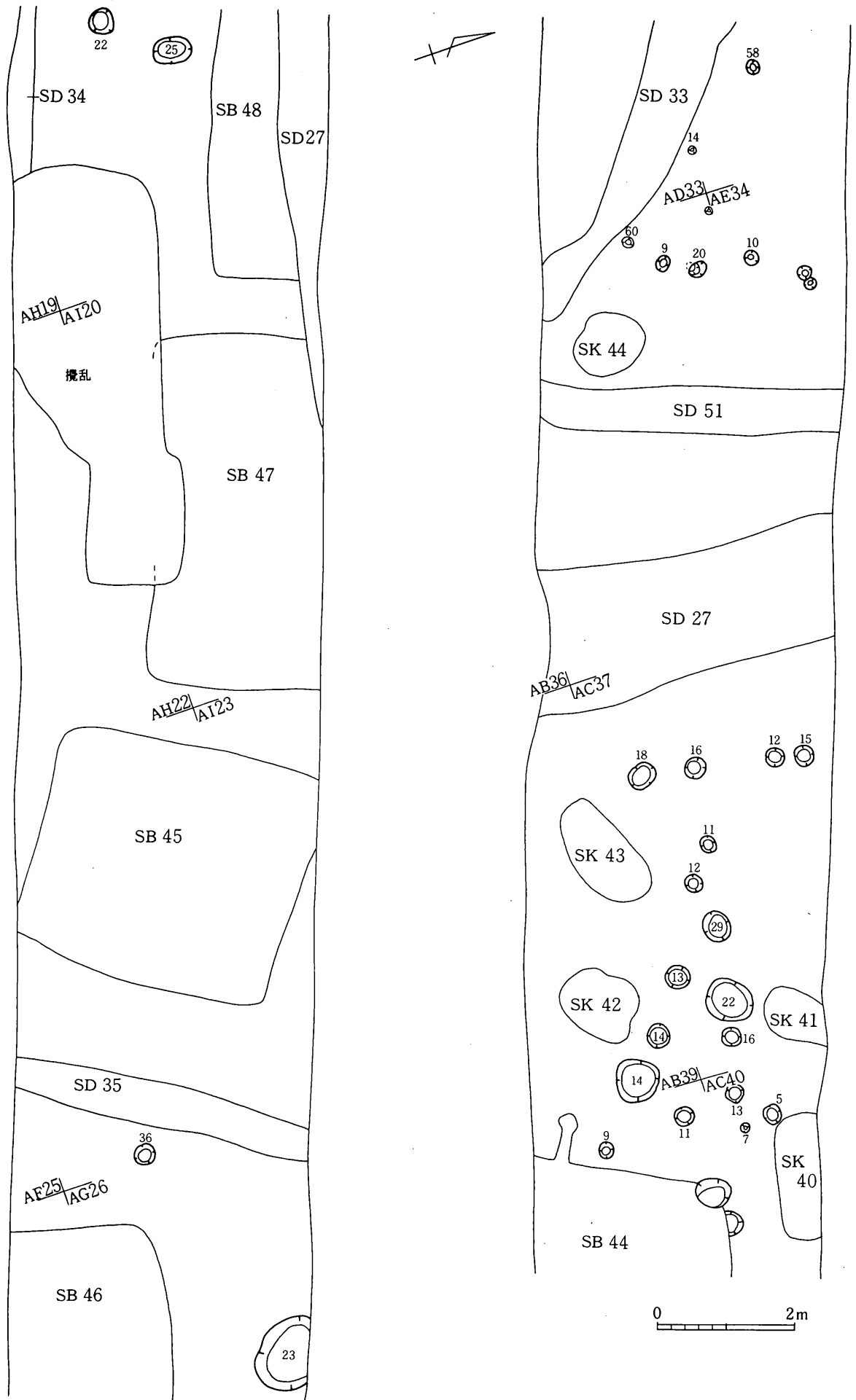


插图 7 7 周边柱穴平面图 (19)

## 第5節 第3地点の遺構と遺物

第3地点で調査された遺構は、

竪穴住居址	11棟
方形周溝墓	3基
土坑	10基
溝址・溝状址	7条
集石	1基
その他小柱穴	多数がある。

### (1) 竪穴住居址

#### 1) 奈良時代～平安時代前期

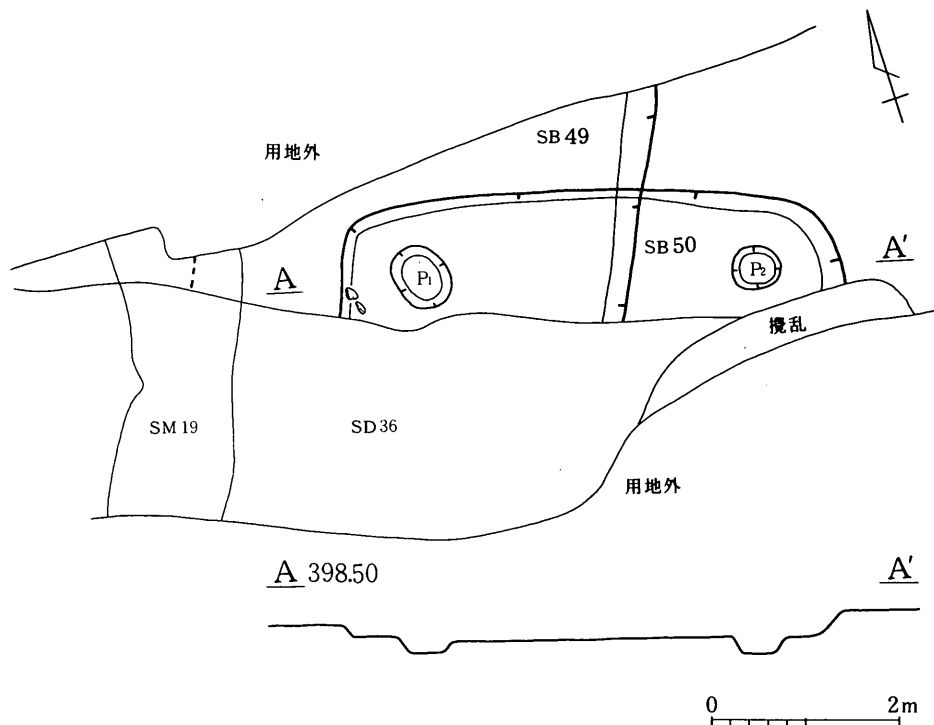
##### ① S B 49

遺構番号	S B 49	検出位置	第3地点 IV区B G7		
規 模	(460)× - × 5cm	長 軸	(N26.0° E)	平 面 形	方形と考えられる。
検出状況	埋土が地山と異なり、明確に検出された。				
重複関係	S B 50・S M 19を切り、S D 36に切られる。				
壁	明確で、緩やかな立ち上がりを示す。				
床	床面は貼床されており、軟弱である。				
柱 穴	不明。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	埋土全般からの出土が多く、破片が多い。土師器甕、須恵器壺・甕・坏・蓋。				
そ の 他	自然埋没と考えられる。				

##### ② S B 50

遺構番号	S B 50	検出位置	第3地点 IV区B G7		
規 模	530× - × 25cm	長 軸	(N74.5° W)	平 面 形	不整形と考えられる。
検出状況	他遺構との重複がない部分から推定。S B 49貼床部分は不明確である。				
重複関係	S B 49・S D 36に切られる。				
壁	一部は明確に把握され、ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	明確で、貼床される。P1・P2の中間P2寄りの床面に焼土分布。				
柱 穴	主柱穴P1・P2の2 基を検出。それほど深くない。				
カマド等	確認できず。				
遺 物	遺物はやや多く、全般から出土している。土師器甕・坏、須恵器甕・坏・蓋・盤、鉄滓。				
そ の 他	西壁際に礫あり。				





挿図78 SB49・50

③SB59

遺構番号	SB59	検出位置	第3地点 IV区BF18			床面積	(9.9㎡)
規模	360×350×50cm	長軸	N63.5°W	平面形	隅丸方形。		
検出状況	SB58調査中に床面でプランを確認。						
重複関係	SB58に切られる。SD40との新旧関係は不明である。						
壁	明確でほぼ垂直に立ち上がる。						
床	明確で、全体に硬い。貼床はない。						
柱穴	小柱穴あり。						
カマド	西壁中央に袖石2対の石芯粘土カマドが構築される。土製支脚。カマド焚き口に土師器甕が使用時の状態で遺存する。煙道の立ち上がり部分はピットに切られる。						
付属施設	壁下に周溝。						
遺物	遺物は南壁寄りからカマド脇にかけて多く、土師器甕3個体ほどがカマド右袖脇に良好な状態で遺存する。土師器甕・坏・高坏、須恵器壺・甕・坏・蓋、鉄滓。						
その他	埋土中西半に床面より浮いた状態で礫(20~30cm大の河原礫)が含まれる。自然埋没と考えられる。						

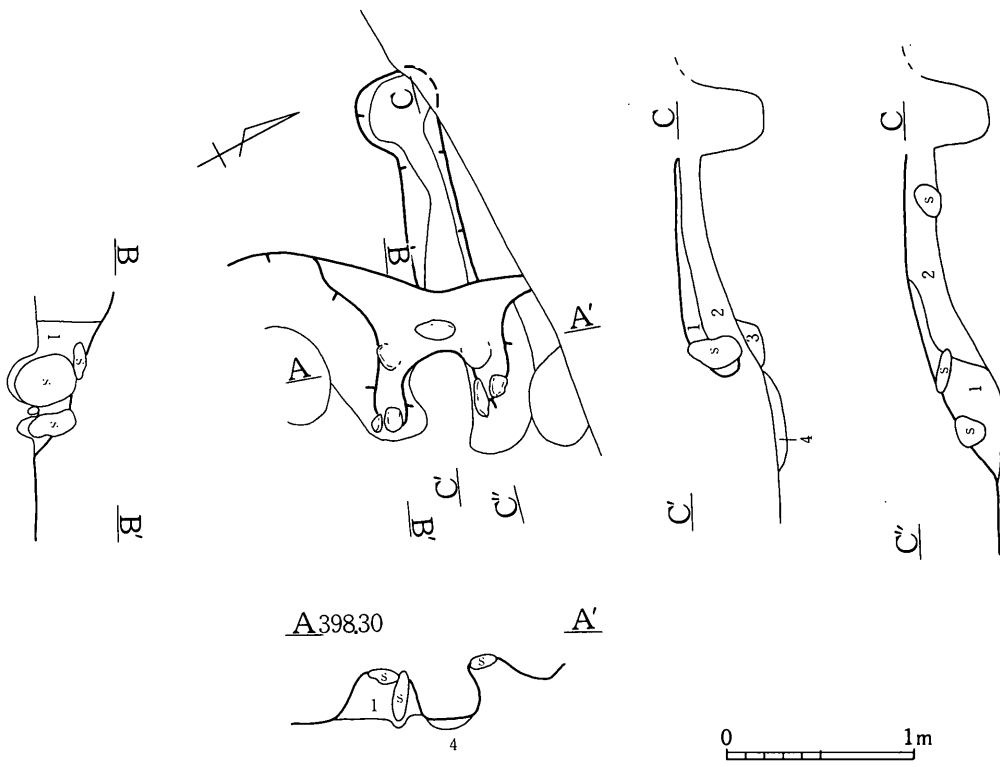
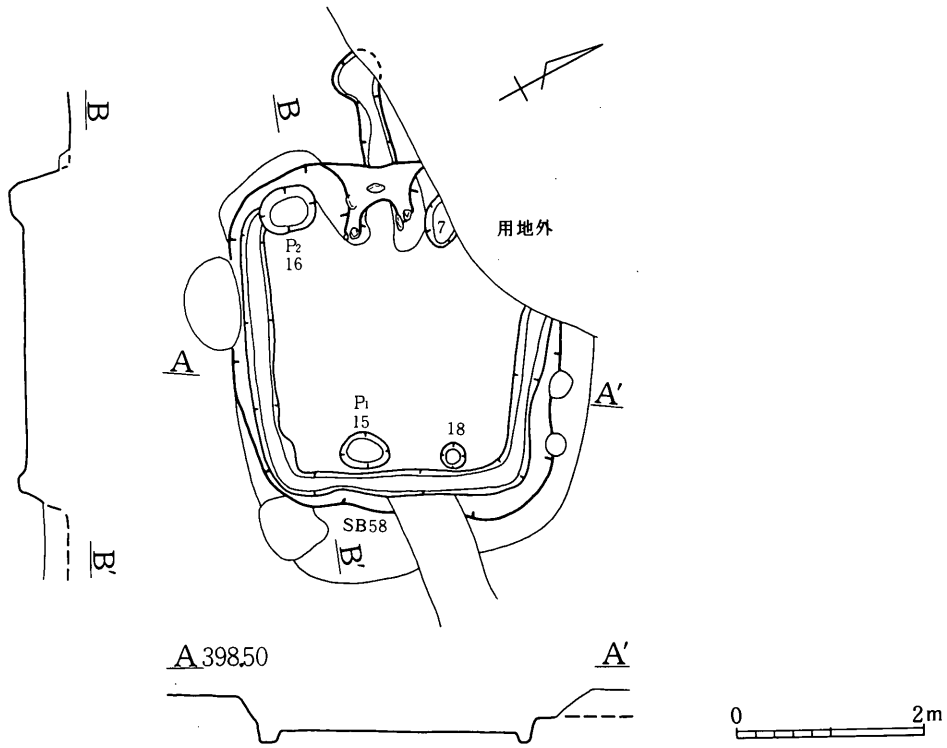
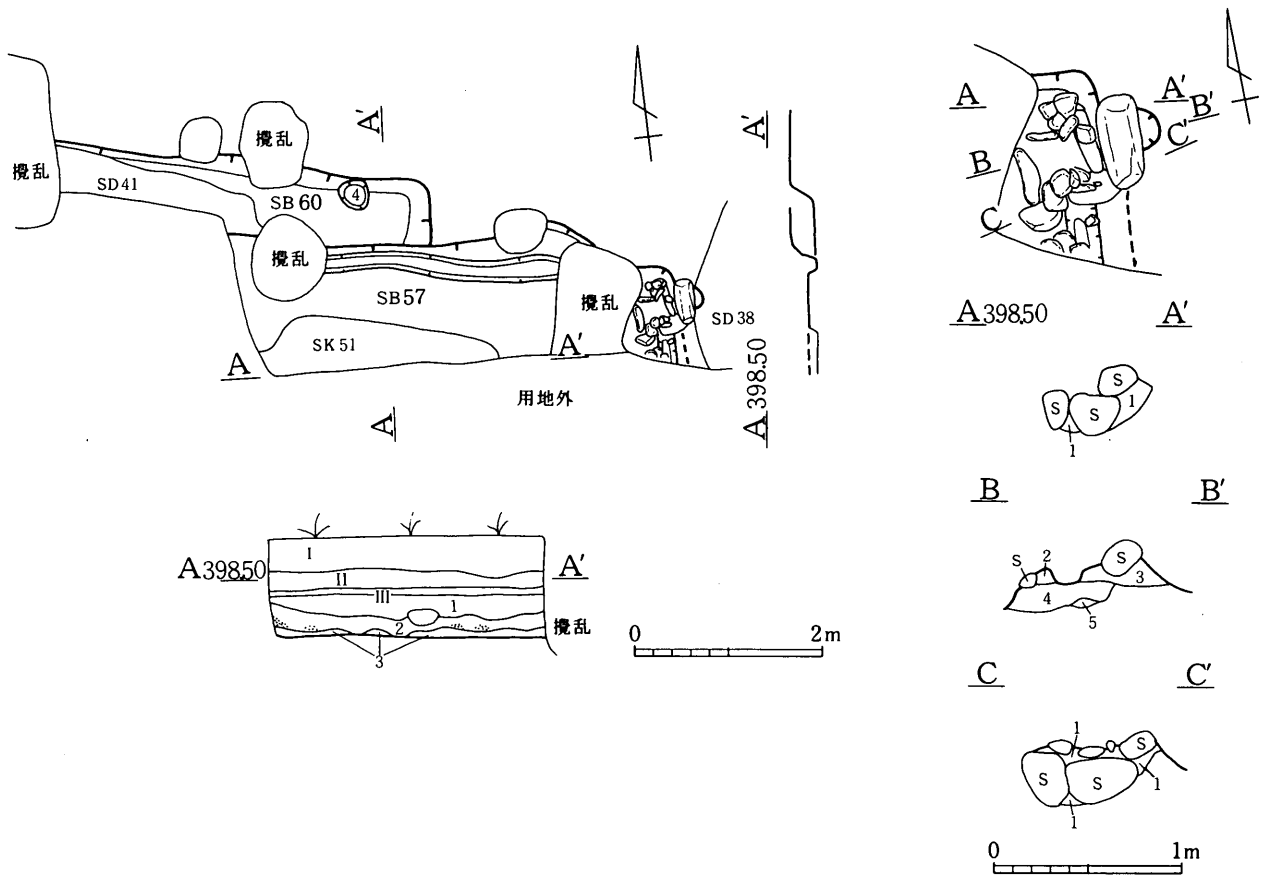


插图79 SB59

2)平安時代後期

①SB57

遺構番号	SB57	検出位置	第3地点 IV区BC19		
規模	- × - × 20cm	長 軸	N 102.0° E	平面形	隅丸方形であろうか。
検出状況	埋土が明確に他遺構・地山と異なり、把握された。大半が調査区外にかかる。攪乱が多い。				
重複関係	SB60・SK51・SD41を切る。				
壁	明確でほぼ垂直に立ち上がる。				
床	明確で、中央が部分的に硬い。床直上に炭化材や焼土が分布。				
柱 穴	不明。				
カマド	北東隅にカマドが構築される。袖石2対、天井石を備えた石芯粘土カマドである。				
付属施設	壁下に周溝。				
遺 物	遺物は少なく、破片が多い。土師器甕・碗、須恵器甕・蓋。カマド上部に鉄滓が置かれる。				
そ の 他	炭化材・焼土の状況から焼失住居で、その後自然埋没したと考えられる。				

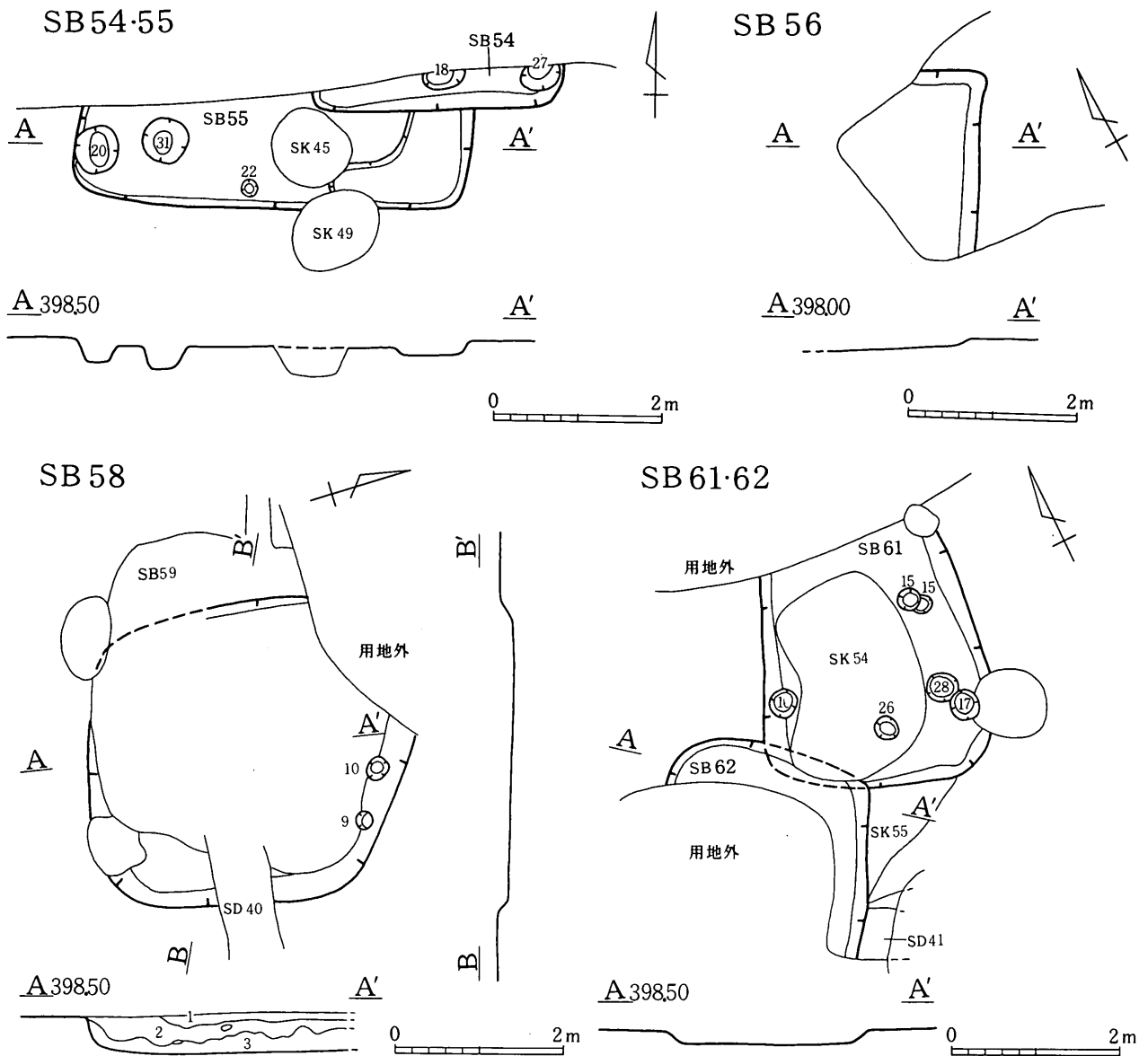


挿図80 SB57・60

3) 時期不明

① SB54

遺構番号	SB54	検出位置	第3地点 IV区BG12		
規模	290× - ×13cm	長軸	(N90.0° W)	平面形	方形と考えられる。
検出状況	埋土が地山と明確に異なり検出された。大部分が調査区外にかかる。				
重複関係	SB55を切る。				
壁	不明。				
床	硬い部分はなく、貼床もない。				
柱穴	柱穴2基。				
カマド等	不明。				
付属施設	床面が平坦でないので、あるいは周溝状の部分にあたるかもしれない。				
遺物	遺物僅少。				



挿図81 SB54~56・58・61・62

②S B55

遺構番号	S B55	検出位置	第3地点 IV区B G11		
規 模	460× - ×10cm	長 軸	(N88.5° W)	平 面 形	方形と考えられる。
検出状況	埋土が明確に地山と異なり、把握された。多くが調査区外にかかる。				
重複関係	S B54・S K49に切られる。S K50との新旧関係は不明である。				
壁	削平されて不明である。				
床	軟弱で、貼床はないと考えられる。				
柱 穴	柱穴2基あり。				
カマド等	調査された範囲では確認できず。				
付属施設	南東隅に周溝状の部分あり。				
遺 物	遺物は僅少で、土師器甕あり。				
そ の 他					

③S B56

遺構番号	S B56	検出位置	第3地点 IV区B G3		
規 模	- × - ×15cm	長 軸	(N72.0° W)	平 面 形	不整隅丸方形。
検出状況	埋土がS D36・地山と異なり検出された。				
重複関係	S D36を切る。				
壁	明確でやや緩やかに立ち上がる。				
床	硬く、貼床はない。				
柱 穴	不明。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量は少なく、埋土全般から出土。土師器甕・碗、須恵器甕・坏・蓋。				
そ の 他					

④S B58

遺構番号	S B58	検出位置	第3地点 IV区B F19	床面積	(9.8㎡)
規 模	360× 370×15cm	長 軸	(N72.0° W)	平 面 形	不整隅丸方形。
検出状況	埋土が明確に他遺構・地山と異なり、把握された。ほとんど削平されている。				
重複関係	S B59を切る。				
壁	明確でやや緩やかに立ち上がる。				
床	明確でなく、軟弱である。				
柱 穴	不明。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物はほとんどない。土師器甕・坏。				

## ⑤ S B 60

遺構番号	S B 60	検出位置	第3地点 IV区BD18		
規 模	— × — × 25cm	長 軸	(N75.5° W)	平 面 形	方形と考えられる。
検出状況	埋土が明確に他遺構・地山と異なり、把握された。大半が調査区外にかかる。攪乱が多い。				
重複関係	S B 57に切られ、S D 41を切る。新旧関係の根拠は、平面及び断面による。				
壁	明確でやや緩やかに立ち上がる。				
床	検出部分が限られるが、全体に軟弱である。				
柱 穴	小柱穴1基以外不明。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物はほとんどない。土師器甕、須恵器甕・蓋。				
そ の 他					

## ⑥ S B 61

遺構番号	S B 61	検出位置	第3地点 IV区BF16		
規 模	260× — × 10cm	長 軸	(N15.0° E)	平 面 形	隅丸長方形と考えられる。
検出状況	埋土が地山と明確に異なり検出された。一部調査区外にかかる。				
重複関係	S K 54に切られる。S B 62・S K 55と重複するが、新旧関係は不明である。				
壁	不明。				
床	重複遺構のため、床面の状態は不明である。				
柱 穴	小柱穴6基。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物僅少。土師器甕。				
そ の 他	竪穴状。				

## ⑦ S B 62

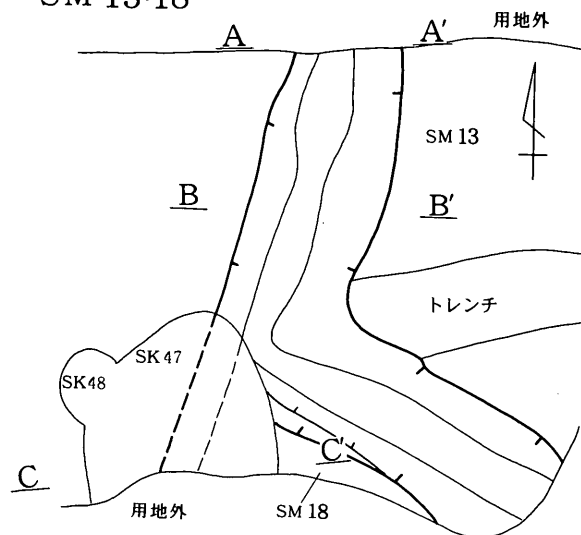
遺構番号	S B 62	検出位置	第3地点 IV区BG15		
規 模	240× — × 20cm	長 軸	(N28.0° E)	平 面 形	隅丸長方形と考えられる。
検出状況	埋土が明確に地山と異なり、把握された。多くが調査区外にかかる。				
重複関係	S B 61・S K 55・S D 41と重複する。				
壁	やや緩やかな立ち上がりを示す。				
床	軟弱である。				
柱 穴	不明。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物は僅少で、土師器甕あり。				

(2) 方形周溝墓

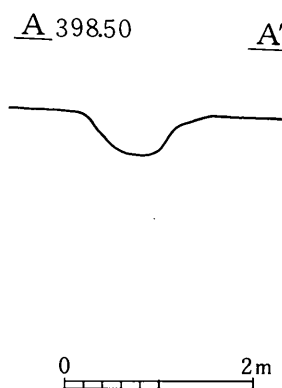
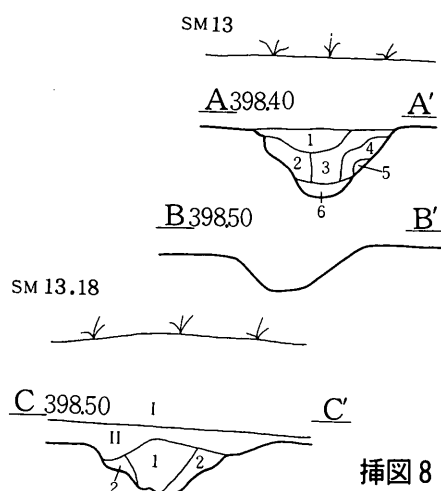
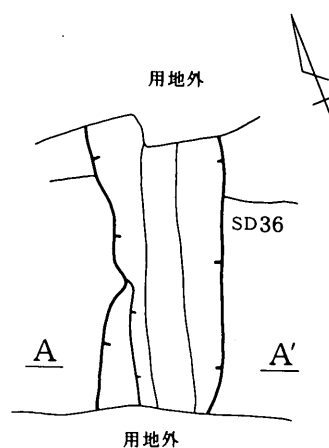
① SM13

検出位置	第2地点 IV区BG14他	主	規模m	調査された範囲では確認できず。
重復	切る	SK47	主軸	—
	新旧不明	SM18	形態	—
周溝規模・形状	規模m	—	覆土	—
	主軸	(N15.5° E)	施設	—
	形態	方形と思われる。	土橋	—
	覆土	別表のとおり	墳丘	直上に旧水田面あり。確認できず。
	幅cm	120~140	その他	
	深さcm	70		
断面形	逆台形			
出土遺物	土師器甕 須恵器甕	特記事項・SM18と周溝を共有すると考えられる。 東側周溝は確認できなかったが、あるいはSB61・SB62と重複するか。		
時期	古墳時代後期?	根拠	出土遺物及び形態から推測。	

SM 13・18



SM 19



挿図82 SM13・18・19

②SM18

検出位置	第2地点 IV区BF14他	主	規模m	削平されて遺存せず。
重切る	SK47		主軸	—
複	新旧不明	体	形態	—
	規模m		覆土	—
周溝	主軸	部	施設	—
	形態		土橋	—
規模・形状	覆土	そ	墳丘	—
	幅 cm		の	
	深さcm	他		
	断面形			
出土遺物 SM13と共有する周溝から土師器小片		特記事項		
時期	古墳時代後期?	根拠	周溝の共有からSM13と近接した時期であろう。	

③SM19

検出位置	第2地点 IV区BG5他	主	規模m	—
重切る			主軸	—
複	切られる	体	形態	—
	規模m		覆土	—
周溝	主軸	部	施設	—
	形態		土橋	—
規模・形状	覆土	そ	墳丘	—
	幅 cm		の	
	深さcm	他		
	断面形			
出土遺物 土師器甕 須恵器		特記事項・溝の形態や埋土から方形周溝墓と判断したが、他の辺は検出できず。東側の遺構分布から周溝の東辺にあたると考えられる。		
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物による。	



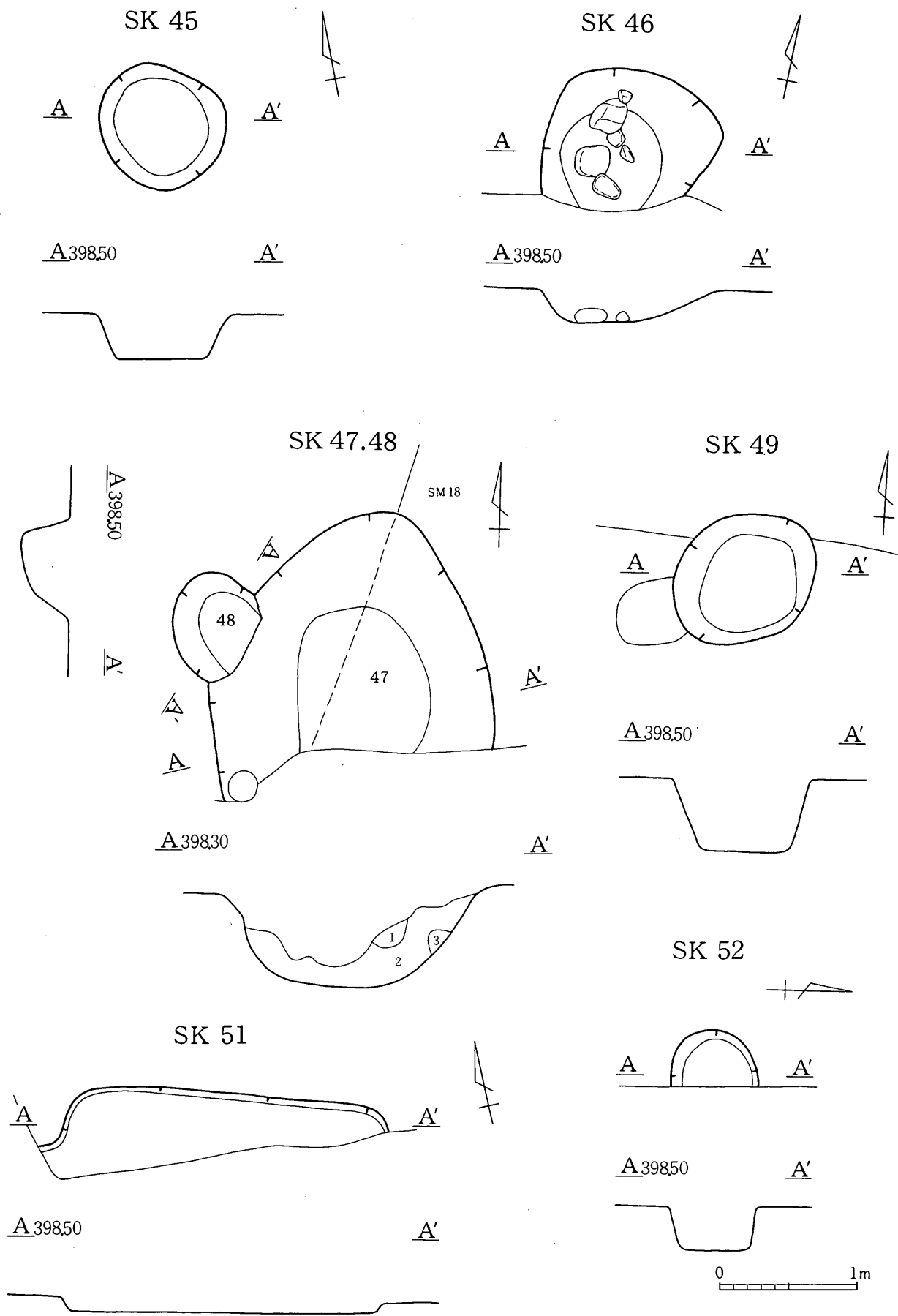


插图83 SK 45~49·51·52

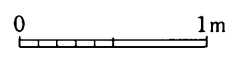
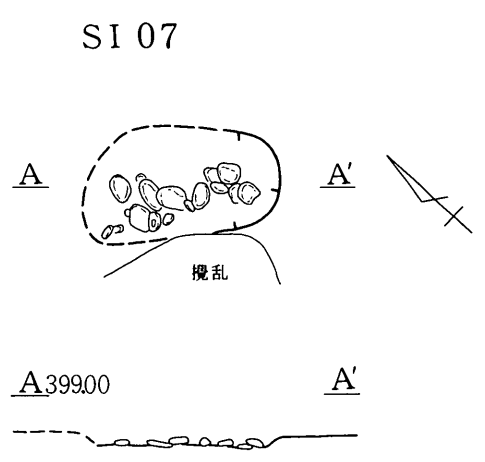
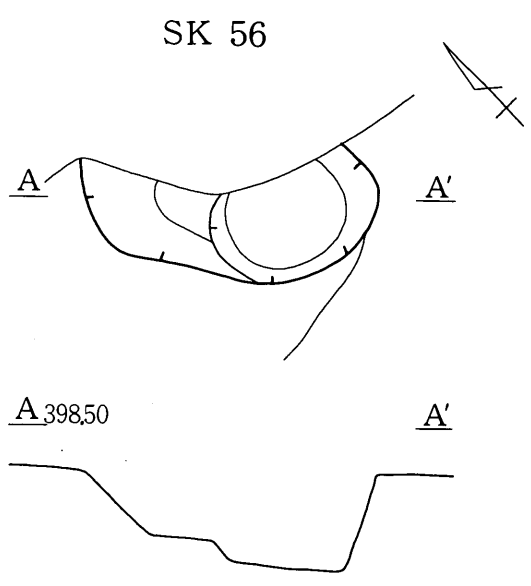
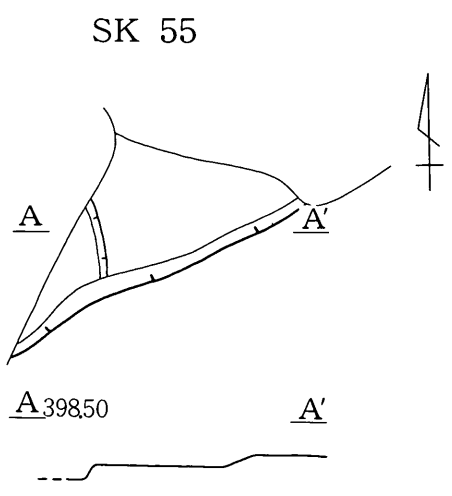
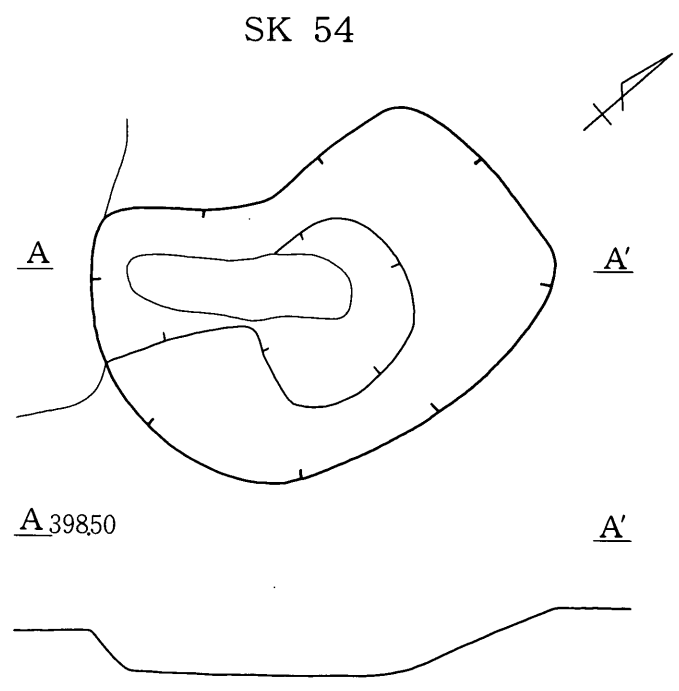
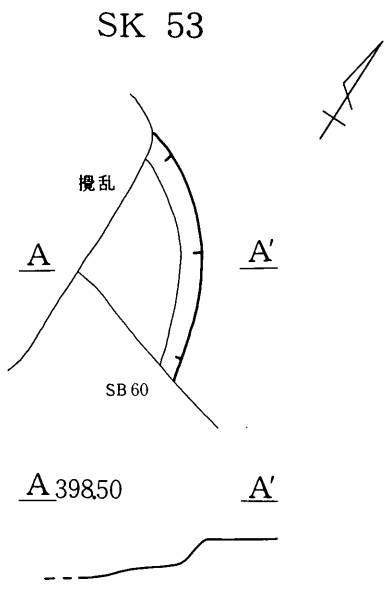
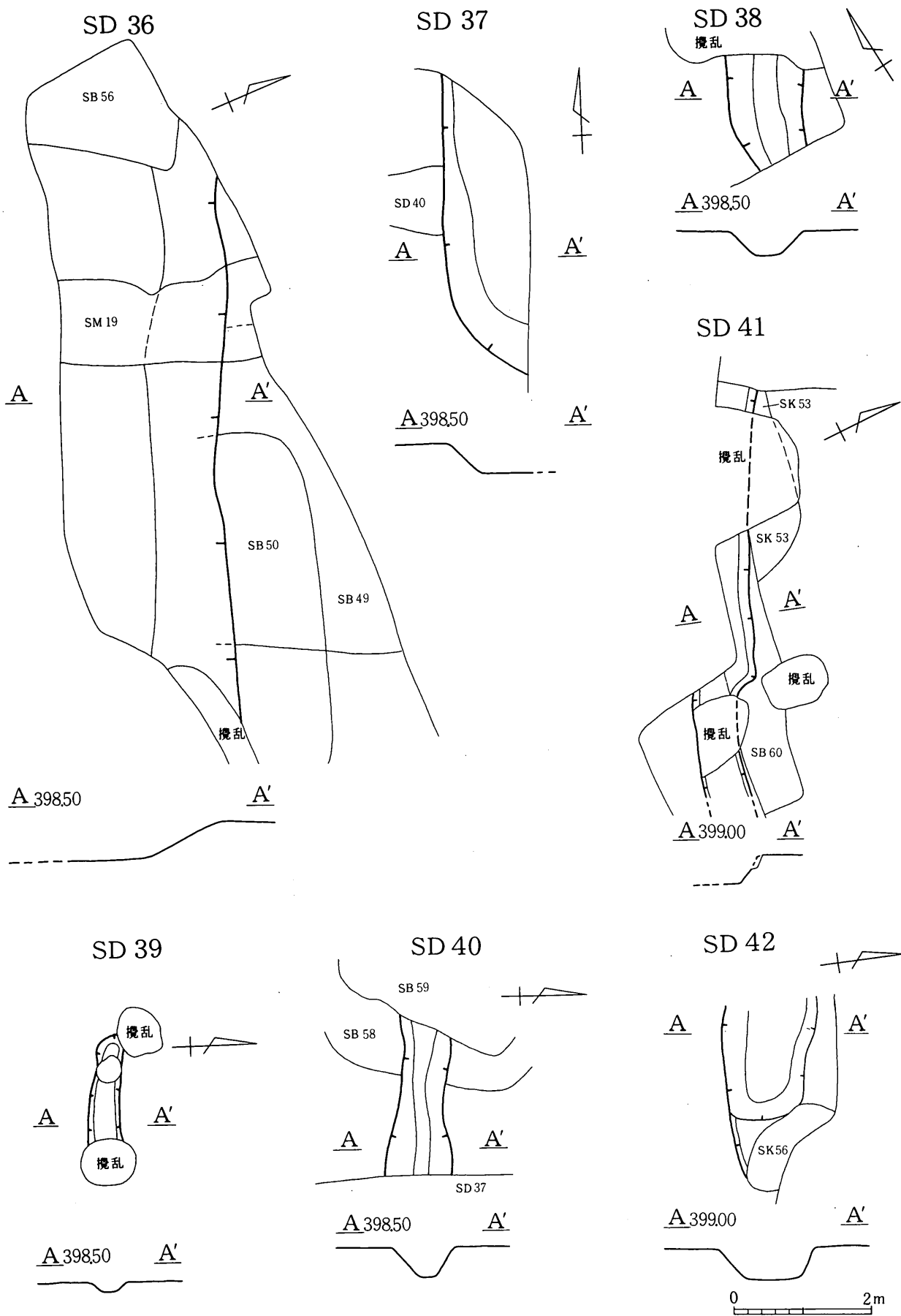


插图84 SK 53~56、SI 07



挿図 8 5 SD 3 6 ~ 4 2



## (3) その他の遺構

遺構名	挿図No	検出位置	規模(長×短×深cm)	形態	主 軸	時代	重複遺構	出土遺物	備 考
S K 45	83	IV B G 11	90× 85× 32	円形	—	弥生中期	SB55	弥生壺片	
46	83	IV B G 14	135× — × 25	不整形	—	中世	—	陶器鉢	径10~25cm程度の碟
47	83	IV B F 12	— × 205× 75	不整形	—	—	SM18、SK48	土師器甕、須恵器蓋	
48	83	IV B F 11	— × 70× 35	不整形円形	—	—	SK47	土師器甕、須恵器甕	
49	83	IV B G 11	113× 93× 52	不整形楕円	—	—	SB55	土師器、須恵器甕	
51	83	IV B C 18	— × — × 10	不整形	—	—	SB57	須恵器蓋	
53	84	IV B E 17	— × — × 20	不整形	—	—	SB60、SD41	須恵器甕・坏	
54	84	IV B F 16	245× 165× 35	不整形	—	—	SB61・62	土師器甕、須恵器	
55	84	IV B E 16	— × — × 28	—	—	—	SB61・62	—	
56	84	IV B G 15	145× — × 50	不整形	—	—	SD42	土師器甕、須恵器甕	他に縄文中期土器片
S D 36	85	IV B F 6	— × — × 50	直線状	N68.0°W	平安後期	SB49・50・56 SM19	土師器甕・坏・碗、須恵器 甕・壺・坏・蓋・鉢、灰釉 陶器碗・青磁碗	区画施設と考えられる
37	85	IV B F 20	— × — × 45	—	—	中世	SD40	土鍋	他に縄文・弥生等土器片
38	85	IV B C 20	— × 105× 35	直線状	N26.5°E	—	SB57	土師器甕・坏	
39	85	IV B E 19	— × 50× 15	直線状	N86.0°W	—	—	—	
40	85	IV B F 20	— × 95× 40	直線状	N87.0°W	—	SB58、SD37	—	
41	85	IV B D 18	— × 90× 40	やや蛇行	N64.0°W	中世	SB57・60・62 SK53	土師器甕、須恵器甕・坏 蓋、灰釉陶器碗・皿、陶器	
42	85	IV B G 15	— × 130× 45	—	N81.0°W	—	SK56	土師器甕	
S I 07	84	IV B C 18	(110× 70× 15)	不整形楕円	N42.5°W	—	—	—	径10~30cmの碟

## 第6節 第4地点の遺構と遺物

第4地点で調査された遺構は、

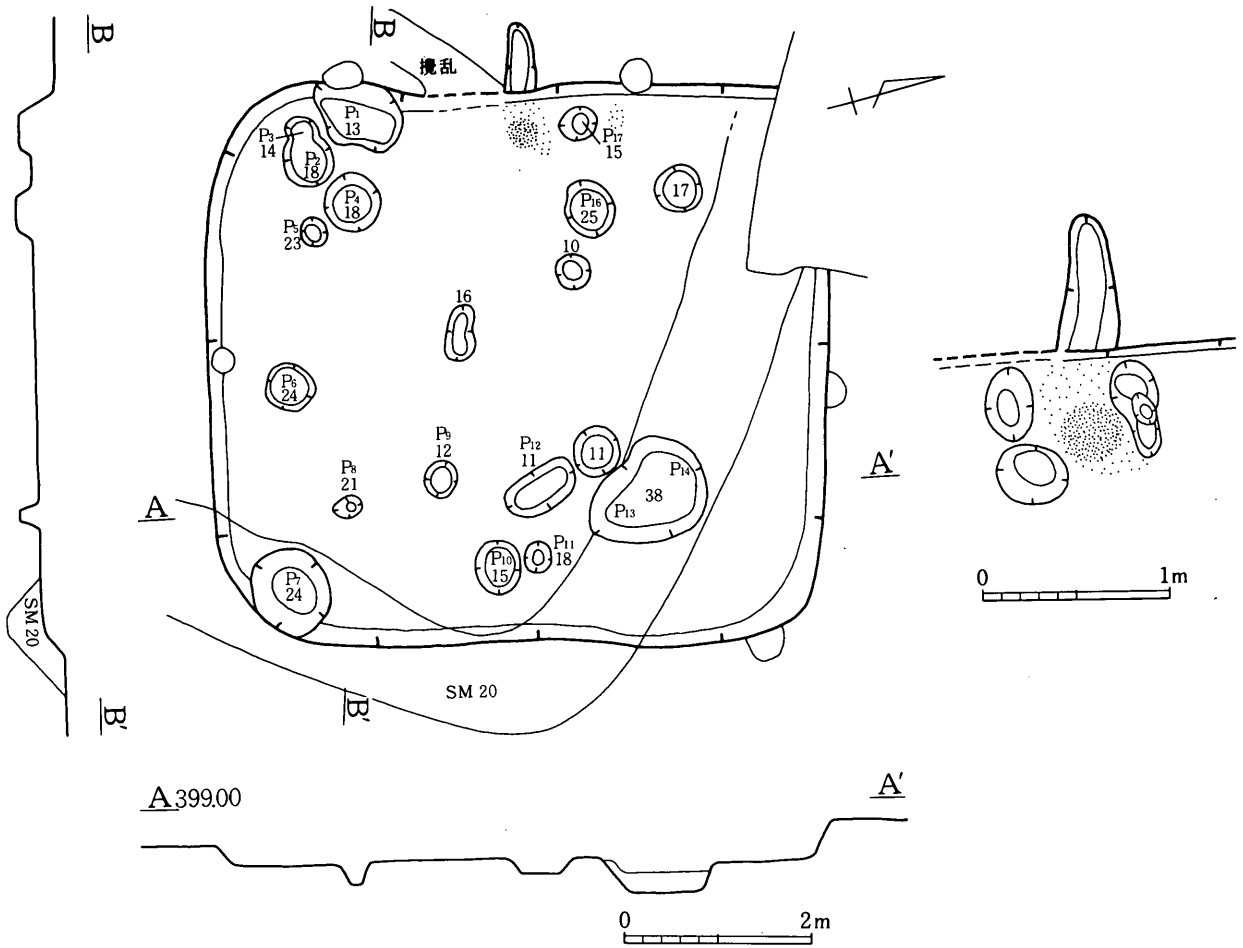
- 竪穴住居址 17棟
- 方形周溝墓 2基
- 土坑 29基
- 溝址・溝状址 7条
- 集石 1基
- その他小柱穴 多数がある。

(1) 竪穴住居址

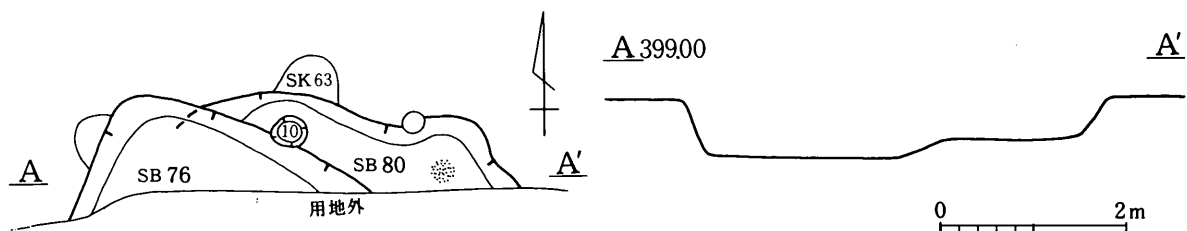
1) 古墳時代中期～後期

① S B 74

遺構番号	S B 74	検出位置	第4地点 IV区B R3	床面積	33.4㎡
規模	600×660×35cm	長軸	N76.0° W	平面形	隅丸方形
検出状況	埋土が明確に地山及び重複他遺構と異なり、把握された。				
重複関係	S M 20を切る。				
壁	明確でほぼ垂直に立ち上がる。				
床	軟弱で不明確である。				
柱穴	主柱穴不明、小柱穴あり。				
カマド	西壁ほぼ中央に火床・煙道及び袖石抜取痕が検出された。石芯粘土カマドと考えられる。				
付属施設	なし。				
遺物	遺物は全体から破片で出土しており、量が多い。土師器甕・坏・高坏、須恵器・甕・坏・高坏・長頸瓶・盤等あり。				
その他					



挿図 87 S B 7 4



挿図 8 8 S B 7 6 ・ 8 0

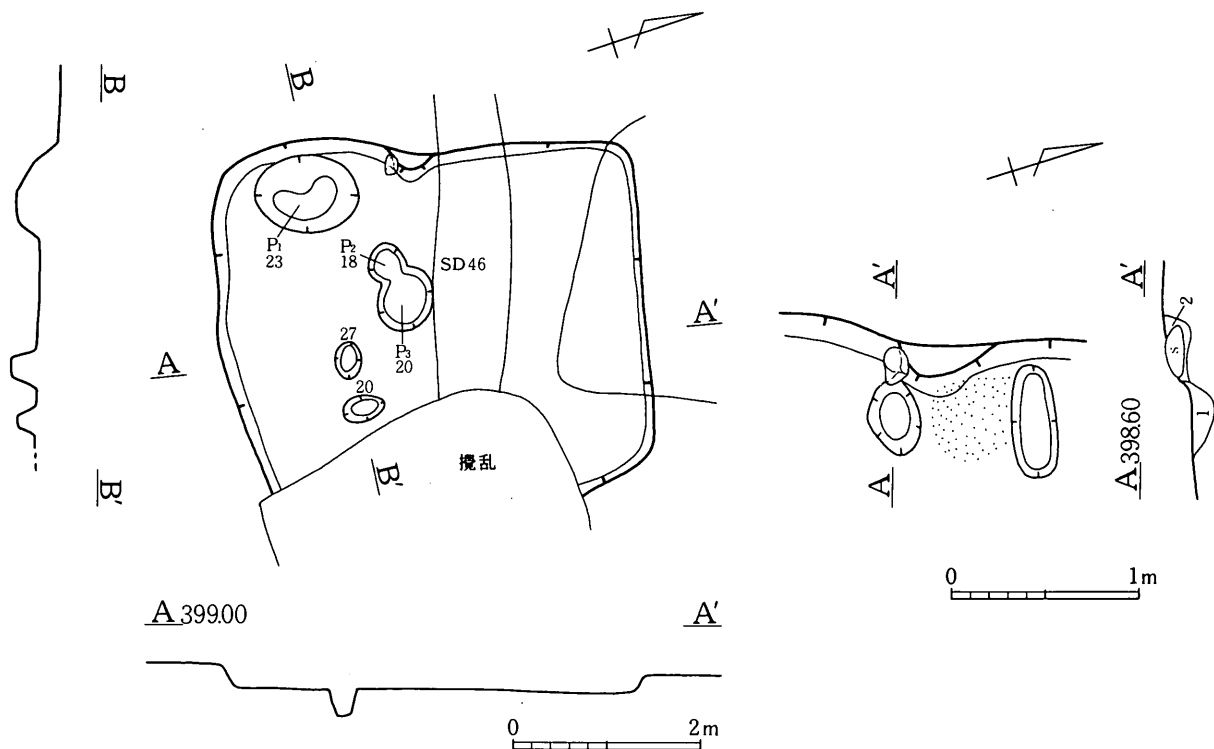
② S B 7 6

遺構番号	S B 7 6	検出位置	第 4 地点 IV区 B O 4		
規 模	- × - × 60cm	長 軸	(N23.0° E)	平面形	方形を呈すると思われる。
検出状況	埋土が地山とやや異なり、不明確ながら検出された。大部分が調査区外にかかる。				
重複関係	S B 80に切られる。新旧関係の確認は調査区際の壁面観察、及び本址上部に S B 80床面が検出されたことによる。				
壁	明確で、ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	硬い部分はなく、不明確である。				
柱 穴	不明。				
カマド等	不明。				
付属施設	不明。				
遺 物	壁際からの出土が主体であるが遺物量は少ない。土師器甕・坏、須恵器甕・坏・蓋・器台。				
そ の 他					

2) 奈良時代～平安時代前期

① S B 6 8

遺構番号	S B 6 8	検出位置	第 4 地点 IV区 B P 1 2	床面積	(14.7㎡)
規 模	450 × 380 × 25cm	長 軸	N76.5° W	平面形	不整長方形
検出状況	埋土が地山と明確に異なり検出された。攪乱に一部壊される。				
重複関係	平面では S B 70を切ると判断されたが、S B 70のカマド位置や遺物から新旧関係は逆であると考えられる。S D 46上部に貼床され、これよりは新しい。				
壁	明確でほぼ垂直に立ち上がる。				
床	ほぼ全体が貼床されており、軟弱である。				
柱 穴	小柱穴を検出。				
カ マ ド	西壁ほぼ中央に構築され、火床及び右袖の袖石 1 個が残る。袖石抜き取り痕から袖石 2 対の石芯粘土カマドと考えられる。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物は全般に少ない。土師器甕・坏、須恵器甕・坏・蓋。				
そ の 他					

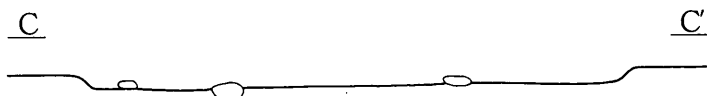
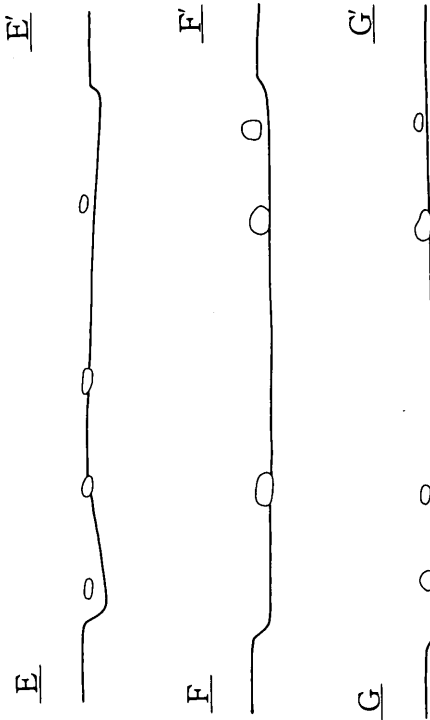
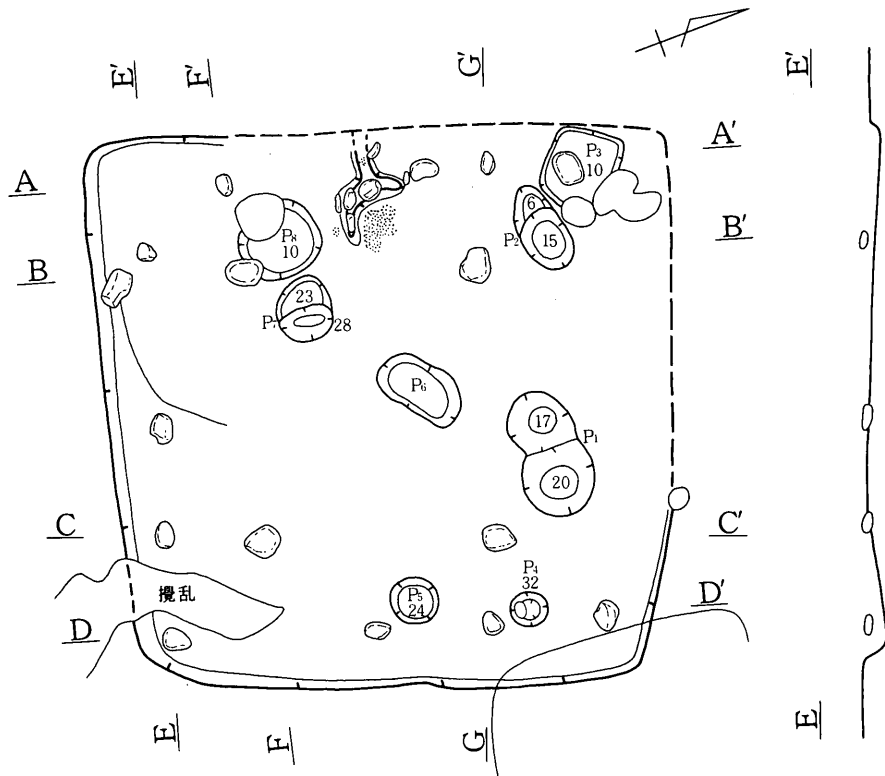


挿図89 SB68

②SB72

遺構番号	SB72	検出位置	第4地点 IV区BR9			床面積	(31.7㎡)
規模	580×600×20cm	長軸	N70.5°W	平面形	不整形と考えられる。		
検出状況	埋土は地山とは異なるが、SB69を除く他遺構の埋土と大差なく、同時に掘り下げを行った。						
重複関係	カマドの遺存状況からSB73を切り、SB75重複部分で礎石を欠くことからSB75に切られる。埋土の差からSB69に切られる。						
壁	部分的に把握され、ほぼ垂直に立ち上がる。						
床	掘り方を埋め戻しただけと考えられ、部分的に硬い。						
柱	主柱及び支柱は礎石建ち。4本主柱。						
カマド	西壁中央に構築され、袖石2対の石芯粘土カマドである。右袖には袖構築材として土師器甕が用いられる。						
付属施設	なし。						
遺物	全般に多い。火床奥に土師器甕。土師器甕・坏、須恵器壺・甕・坏・蓋・盤・高坏・器台。						
その他	南西隅に礫がまとまって分布。						





0 2m

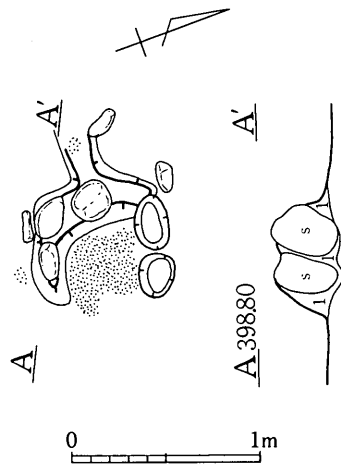
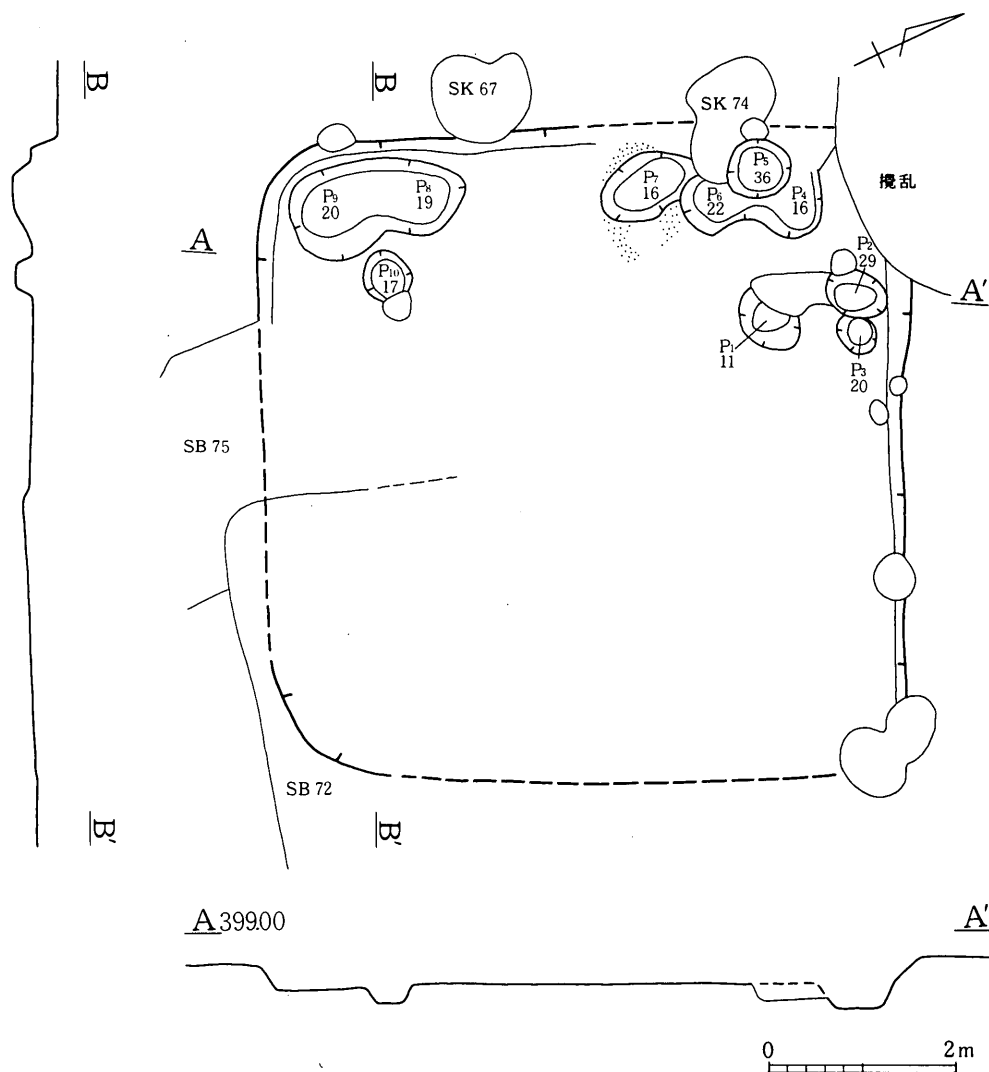


插图90 SB72

③SB73

遺構番号	SB73	検出位置	第4地点 IV区BR7		床面積	(40.7㎡)
規模	680×670×25cm	長軸	N66.5°W	平面形	不整形	
検出状況	地山とは明確に異なるが、他遺構との差は把握できず。					
重複関係	SB72・SB75・SI08に切られる。SK67・SK74と重複するが、新旧関係不明である。					
壁	明確でほぼ垂直に立ち上がる。					
床	貼床はなく、SB72の重複部分を除きほぼ全面硬い。					
柱穴	主柱穴は不明で、小柱穴あり。					
カマド	西壁ほぼ中央に構築されているが、SI08に切られて遺存状態は悪い。石芯粘土カマドと考えられるが、袖石遺存せず。					
付属施設	なし。					
遺物	遺物は全体から多く出土し、特にカマド左袖脇に集中する。破片が多い。土師器甕・坏、須恵器壺・甕・坏・蓋、不明鉄製品・鉄滓。					
その他						



挿図91 SB73

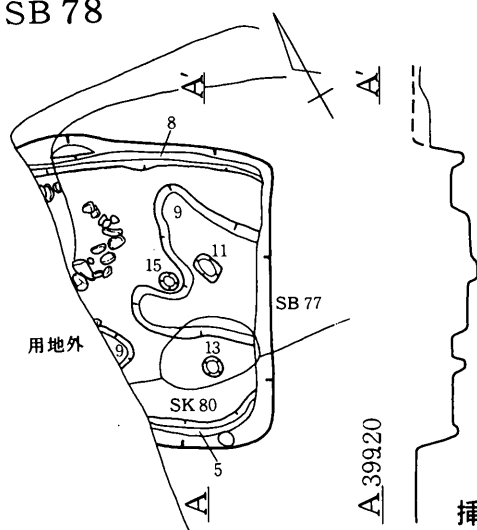
④SB78

遺構番号	SB78	検出位置	第4地点 III区BS46		
規模	- × 320×40cm	長 軸	(N67.0° W)	平面形	不整形と考えられる。
検出状況	埋土が地山・他遺構と異なり明確に検出された。約1/3 が調査区外にかかる。				
重複関係	SB77・SK80に切られる。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	床面は軟弱で、掘り方を埋め戻しただけと考えられる。北西寄り床面に礫集中。				
柱 穴	小柱穴あり。				
カマド	調査された範囲では確認できず。西壁に構築されたと考えられる。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量は少なく、破片が多い。土師器甕、須恵器甕・坏・蓋、不明鉄製品、鞆羽口。				
その他	東半ほぼ全面に、床面より10~30cm浮いて径20~70cmの円礫が出土。				

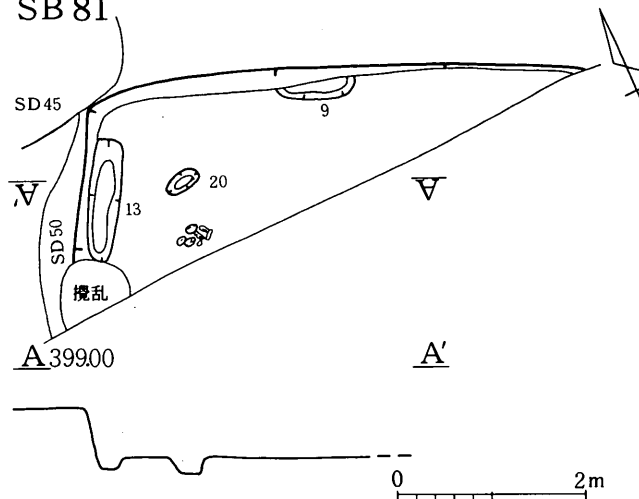
⑤SB80

遺構番号	SB80	検出位置	第4地点 IV区BO5		
規模	- × - × 45cm	長 軸	N25.0° E	平面形	不整形偶丸方形と考えられる。
検出状況	埋土が不明確ながら地山と異なり、把握された。				
重複関係	SB76を切る。				
壁	明確でほぼ垂直に立ち上がる。				
床	明確で、カマド右袖脇に硬い部分が検出された。				
柱 穴	小柱穴あり。				
カマド	北壁ほぼ中央と考えられる位置に火床及び煙道の一部を検出。火床西側に袖石抜き取り痕と考えられる僅かなくぼみがあり、石芯粘土カマドと考えられる。				
付属施設	不明。				
遺 物	遺物量は僅少である。土師器甕、須恵器甕・蓋。				
その他	自然埋没と考えられる。				

SB78



SB81



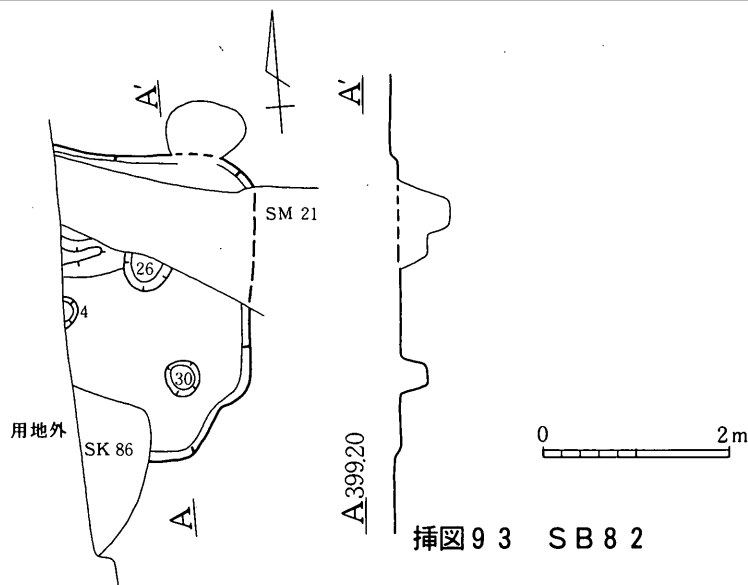
挿図92 SB78・81

⑥ S B 81

遺構番号	S B 81	検出位置	第4地点 IV区B O 0		
規 模	— × — × 50cm	長 軸	(N67.5° W)	平面形	方形と考えられる。
検出状況	埋土が地山と明確に異なり、把握された。				
重複関係	なし。				
壁	明確で、ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	軟弱である。				
柱 穴	小柱穴あり。				
カ マ ド	調査された範囲では確認できず。				
付属施設	部分的に周溝がある。				
遺 物	埋土中全般から出土したが遺物量は少ない。破片が多い。土師器甕・高坏、須恵器甕・坏、不明鉄製品。				
そ の 他	調査区端床面に編物石の集積あり。自然埋没と考えられる。				

⑦ S B 82

遺構番号	S B 82	検出位置	第4地点 III区B Q 46		
規 模	320× — × 5cm	長 軸	(N 7.0° E)	平面形	不整形
検出状況	埋土が地山と明確に異なり、把握された。約1/2 は調査区外にかかる。				
重複関係	S K 86・S K 87・S M 21を切る。				
壁	削平されて状態は不明である。				
床	明確だが、軟弱である。				
柱 穴	小柱穴あり。				
カマド等	調査された範囲では確認できず。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物は少ない。土師器甕・坏・高坏、須恵器甕・坏・蓋。				
そ の 他					



## 3)平安時代後期

## ①S B70

遺構番号	S B70	検出位置	第4地点 IV区BR13		床面積	9.4㎡
規模	300×390×20cm	長軸	N61.5° W	平面形	不整長方形	
検出状況	埋土が地山や他の遺構と明確に異なり、把握された。					
重複関係	カマドの遺存状況・他のS B床面の状況・出土遺物から、S B68を切りS B69・S K70に切られる。S K71と重複する。					
壁	明確で緩やかに立ち上がる。					
床	軟弱でなんとなく貼床された感じである。					
柱穴	小柱穴あり。					
カマド	南西隅寄りに構築される。火床及び煙道を検出。石芯粘土カマドであろうか。					
付属施設	南東半中央に溝状の部分あり。間仕切りと考えられる。					
遺物	遺物は全般に少なく、土師器甕・坏、須恵器甕・坏・蓋、灰釉陶器あり。					
その他	中央及び小柱穴南側に、床面よりやや浮いて礫あり。					

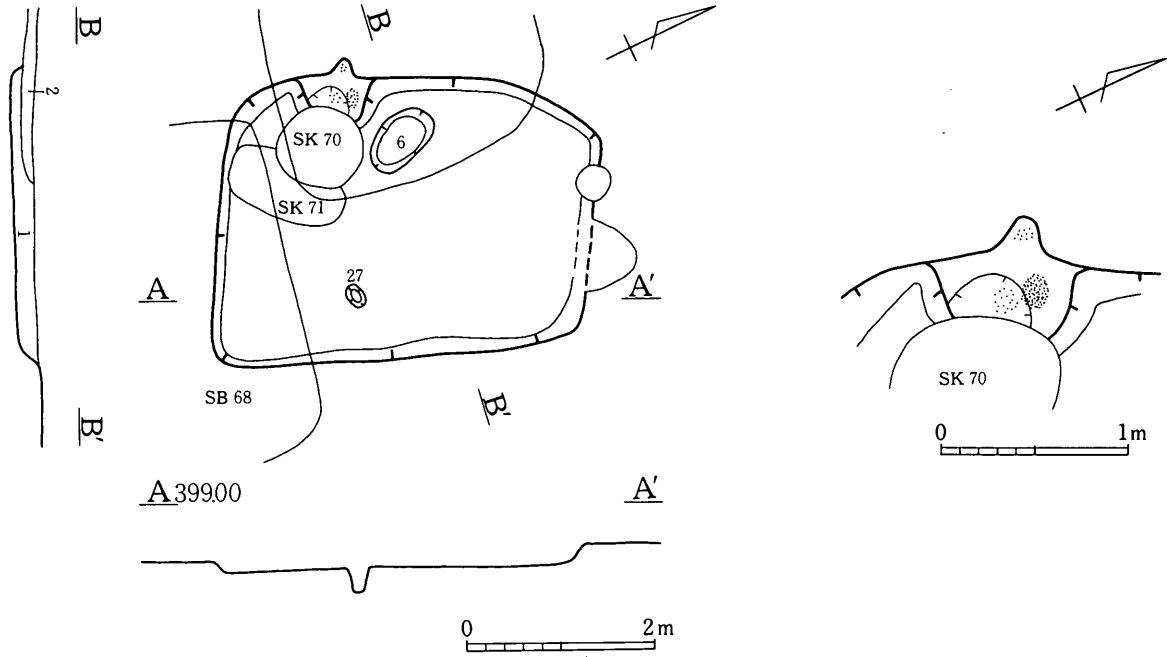
## ②S B71

遺構番号	S B71	検出位置	第4地点 IV区BT11			
規模	— × — ×10cm	長軸	(N76.5° W)	平面形	不明。	
検出状況	埋土が地山と明確に異なり検出された。大部分が調査区外にかかる。					
重複関係	S B83重複部分に攪乱があるが、S B83カマドの遺存状況からS B83を切ると考えられる。					
壁	明確で、検出面から浅いがほぼ垂直に立ち上がると考えられる。					
床	軟弱で、不明瞭ながら貼床されているようである。					
柱穴	不明。	カマド等	不明。	付属施設	不明。	
遺物	埋土中全般から出土したが遺物量は僅少である。土師器甕、須恵器甕、灰釉陶器碗。					
その他	床面に焼土・炭化材があり、焼失住居と考えられる。					

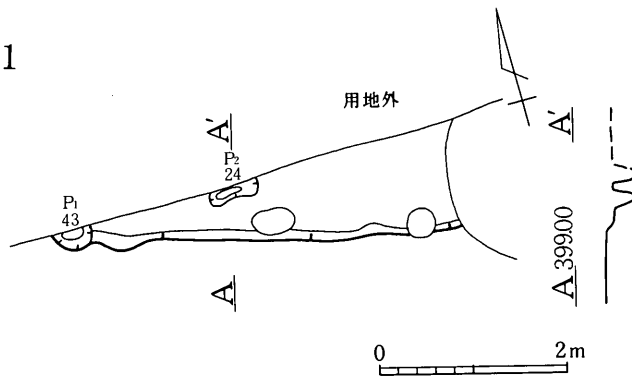
## ③S B75

遺構番号	S B75	検出位置	第4地点 IV区BP7			
規模	250×—×25cm	長軸	N87.0° W	平面形	不整長方形	
検出状況	埋土がやや不明確ながら地山と異なり、把握された。他遺構とは、平面で埋土の差は把握できなかった。					
重複関係	S B72・S B73を切る。S D47と重複する。					
壁	不明確でやや緩やかに立ち上がる。					
床	明確であるが、軟弱である。					
柱穴	主柱穴不明、小柱穴あり。					
カマド	西壁中央やや南寄りに石芯粘土カマドが構築される。袖石2対、天井石を欠く。					
付属施設	なし。					
遺物	遺物は全体から破片で出土し、量は少ない。土師器甕・坏、須恵器・甕・坏、灰釉陶器壺。					
その他	南西隅に礫の集積がある。					

SB 70



SB 71



SB 75

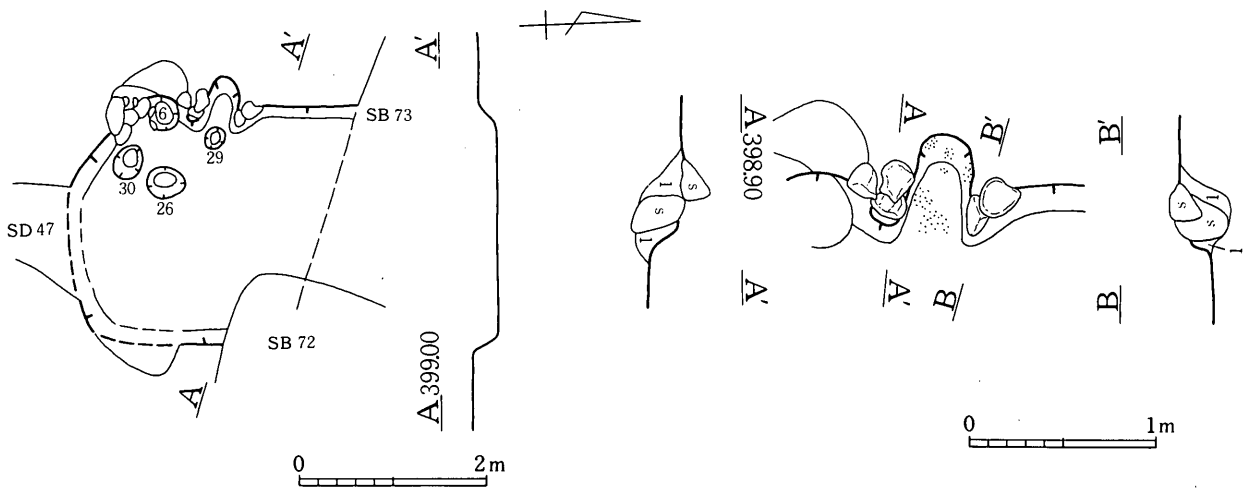
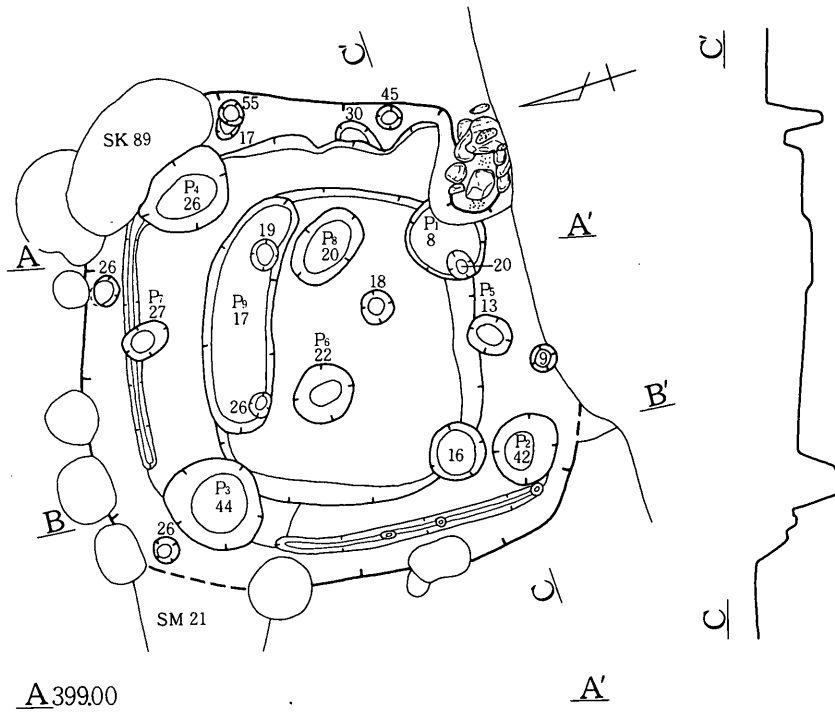
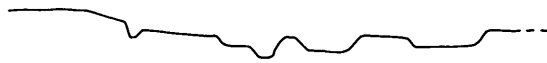


插图94 SB70·71·75



A39900

A'

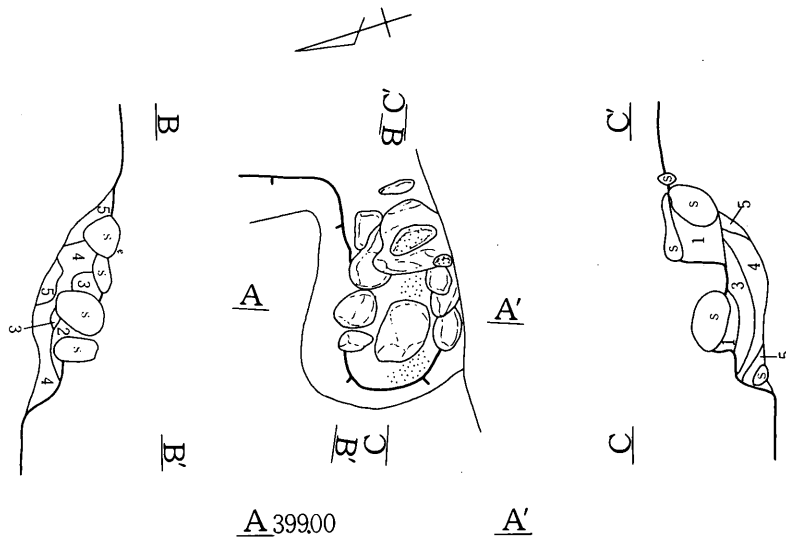


B

B'



0 2m



A39900

A'



0 1m

插图95 SB79

## ④ S B77

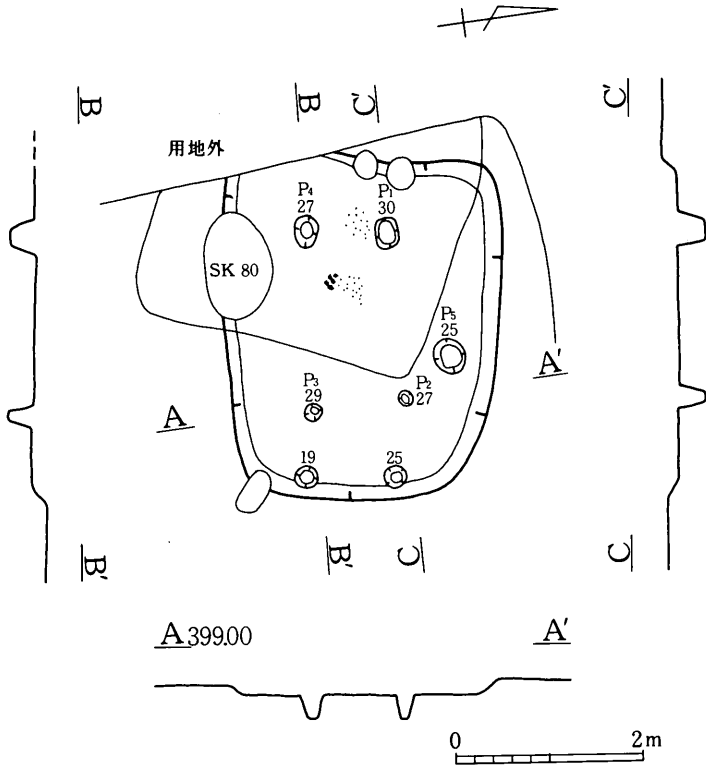
遺構番号	S B77	検出位置	第1地点 Ⅲ区B S47			床面積	8.1㎡
規 模	360× 290×15cm	長 軸	N83.0° W	平 面 形	不整隅丸長方形		
検出状況	埋土が地山・他遺構と明確に異なり、把握された。						
重複関係	S B78を切る。新旧関係は平面及びS B78上面に貼床が検出されたことによる。S K80と重複するが、新旧は不明である。						
壁	明確で、緩やかな立ち上がりを示す。						
床	掘り方・貼床があり、床面は軟弱である。床面に焼土が2箇所ある。						
柱 穴	主柱穴P1～P4、入り口支柱を検出。						
カ マ ド	P1・P4の間で検出された焼土が火床と考えられる。						
付属施設	入り口施設。						
遺 物	遺物は全体から破片の状態で出土したが、量は少ない。土師器甕、須恵器甕・坏、灰釉陶器壺・碗、不明鉄製品。						
そ の 他							

## ⑤ S B79

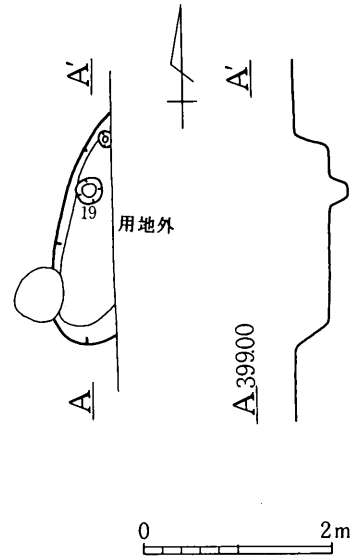
遺構番号	S B79	検出位置	第4地点 Ⅲ区B P48			床面積	(17.9㎡)
規 模	500× 520×45cm	長 軸	N 107.0° W	平 面 形	不整隅丸方形		
検出状況	埋土が地山と明確に異なり、把握された。						
重複関係	S M21を切る。S K89と重複するが、新旧関係は不明である。						
壁	明確で緩やかに立ち上がる。						
床	周溝内側に硬い部分が検出された。中央は一段低く掘り凹められ、周りと同じ高さまで貼床される。P8・P9上部床面に焼土が分布。						
柱 穴	主柱穴P2～P4の3基、小柱穴あり。周溝外壁面に斜めに掘り込まれた穴が本址に伴うか。						
カ マ ド	南壁南東隅寄りに石芯粘土カマドが構築される。袖石4対ほど。煙道は石で蓋される。天井石はあるが燃焼部に転落している。						
付属施設	西・北壁下に幅約15cmの周溝あり。						
遺 物	遺物量は多く、全体から完形に近いものが出土。土師器壺・甕・坏・碗、須恵器壺・甕・坏・蓋、灰釉陶器壺・碗・皿・段皿、鉄鏝・鉄滓あり。						
そ の 他	東半に床面より20～30cm浮いて、径20～50cm程度の円礫の投棄あり。						



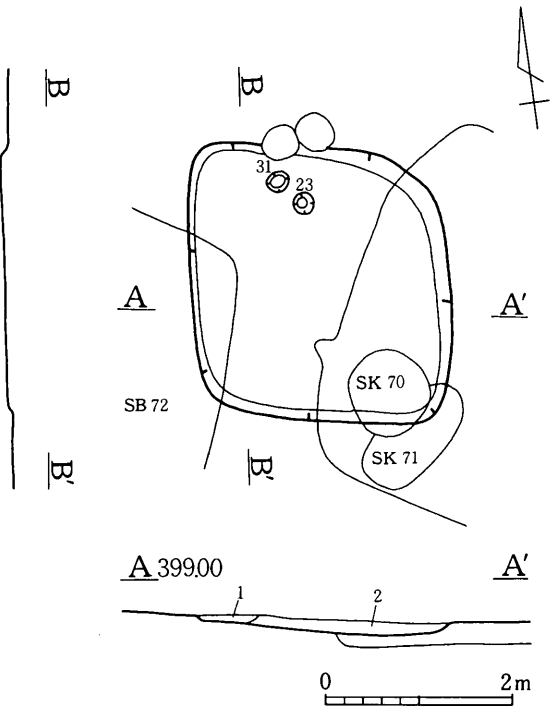
SB 77



SB 67



SB 69



SB 83

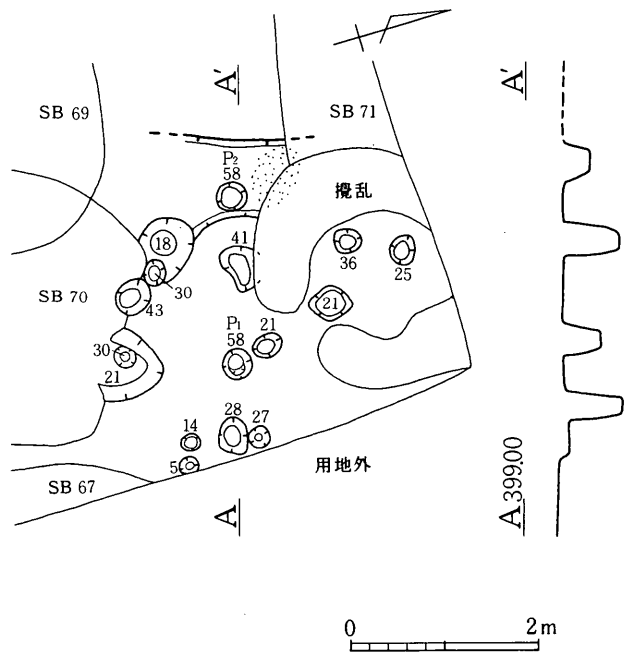


插图96 SB 67·69·77·83

## 4)中世

## ①S B69

遺構番号	S B69	検出位置	第4地点 IV区BR12			床面積	6.2㎡
規 模	290×270×10cm	長 軸	(N 6.0° E)	平 面 形	不整隅丸方形		
検出状況	埋土が地山と異なり明確に検出された。						
重複関係	S B70・S B72を切る。						
壁	上部を削平されるが、緩やかに立ち上がると考えられる。						
床	貼床はなく、北西隅が部分的に硬い。						
柱 穴	不明。						
カマド等	不明。						
付属施設	不明。						
遺 物	遺物量は全般に少ない。土師器甕、須恵器壺・甕・坏、白磁、陶器播鉢・土鍋・皿。						
そ の 他	自然埋没と考えられる。						

## 5)時期不明

## ①S B67

遺構番号	S B67	検出位置	第4地点 IV区BR13				
規 模	- × - ×35cm	長 軸	(N13.0° E)	平 面 形	不整形		
検出状況	埋土が地山と異なり明確に検出された。大部分が調査区外にかかる。						
重複関係	なし。						
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。						
床	不明。	柱 穴	不明。	カマド等	不明。		
付属施設	不明。						
遺 物	遺物量僅少。土師器甕・坏、須恵器・坏。						

## ②S B83

遺構番号	S B83	検出位置	第4地点 IV区BS12				
規 模	- × - ×5cm	長 軸	N69.0° W	平 面 形	不明		
検出状況	火床が検出され、把握された。						
重複関係	S B69・S B70・S B71に切られる。						
壁	削平により不明である。						
床	カマド前面に部分的に硬い部分あり。						
柱 穴	小柱穴あり。						
カ マ ド	攪乱に壊されており、構造は不明。						
付属施設	周溝状に掘り凹む。						
遺 物	遺物量僅少。						

## (2) 方形周溝墓

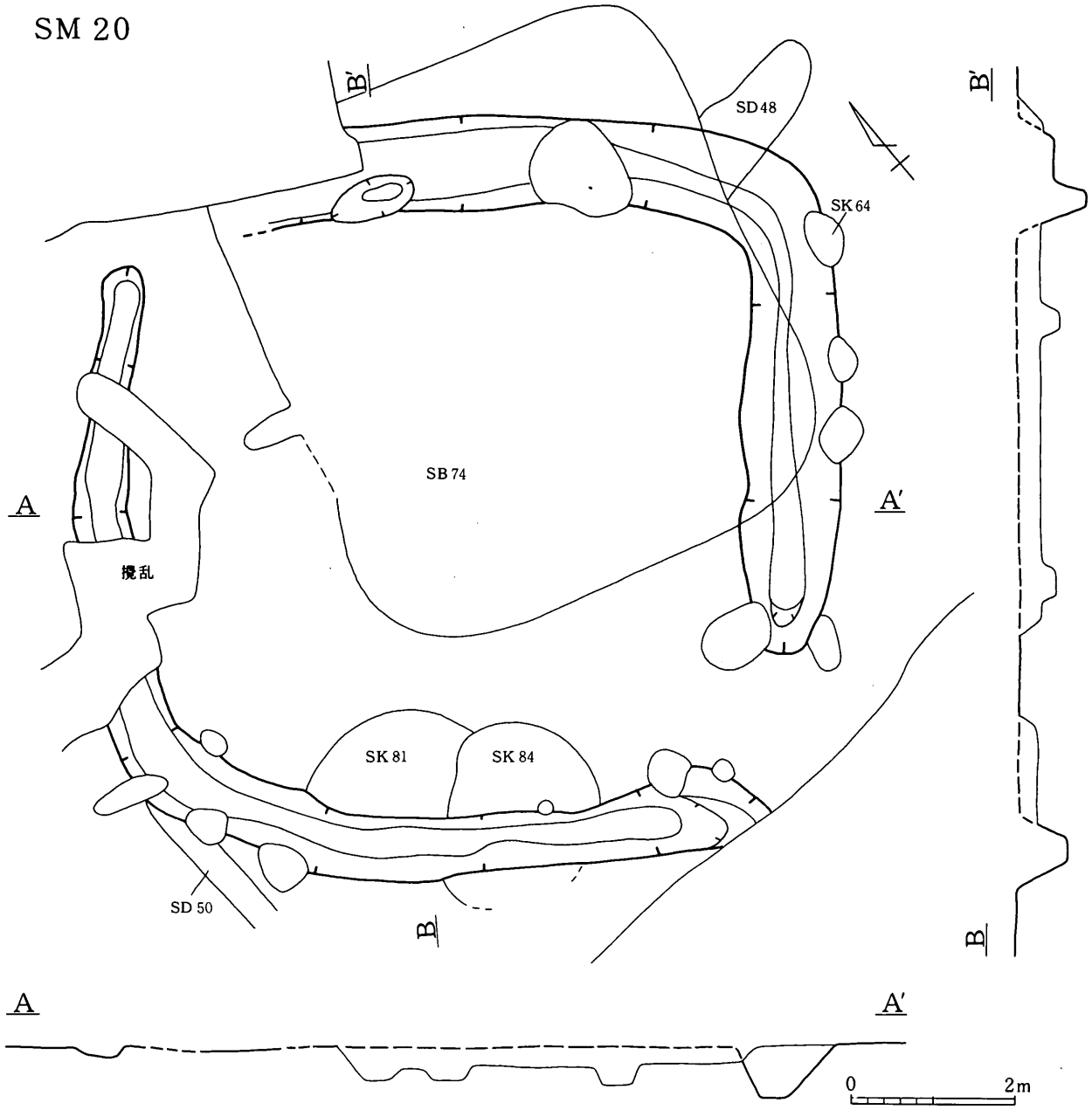
## ①SM20

検出位置	第4地点 IV区BQ2他	主 部 の 他	規模m	重複遺構のため確認できず。	
重複	切られる		SB74・SD48・SK66・SK68	主軸	—
	新旧不明		SD49・SD50・SK81・SK84	形態	—
周溝	規模m		周溝内側 7.6×7.2、外側 9.3×9.0	覆土	—
	主軸		N51.0° W	施設	—
規模・形状	形態		方形	土橋	北隅は明確に把握できなかったが、南隅にあり。
	覆土		別表のとおり	墳丘	—
	幅 cm		60~120		
	深さ cm		10~85		
断面形	逆台形		他		
出土遺物	弥生土器器台 土師器甕・鉢 須恵器甕・坏	特記事項			
時期	5世紀代	根拠	出土遺物および重複関係による。		

## ②SM21

検出位置	第4地点 III区BP47他	主 部 の 他	規模m	区外か、重複遺構のため不明	
重複	切られる		SB79・SB82	主軸	—
	新旧不明			形態	—
周溝	規模m		—	覆土	—
	主軸		(N18.0° E)	施設	—
規模・形状	形態		方形と考えられる。	土橋	—
	覆土		別表のとおり	墳丘	—
	幅 cm		70~100		
	深さ cm		40		
断面形	逆台形		他		
出土遺物	土師器甕	特記事項・埋土から周溝墓の周溝と判断。			
時期	古墳時代	根拠	出土遺物による。		

SM 20



SM 21

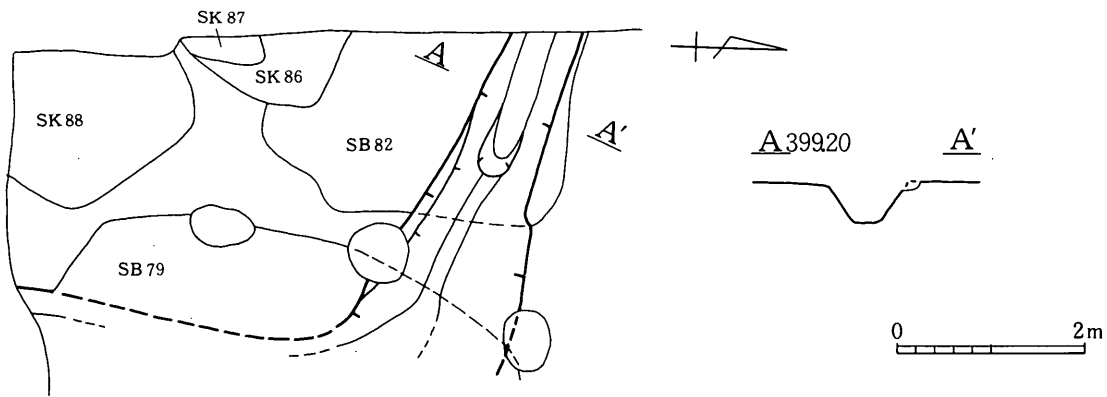


插图97 SM 20 · 21

## (3) その他の遺構

遺構名	挿図№	検出位置	規模(長×短×深)cm	形態	主軸	時代	重複遺構	出土遺物	備考
S K60	98	IV B T 5	140× 95× 27	不整形	N63.5°W	奈良	SK61	土師器甕・坏・須恵器甕・ 坏・蓋	
61	98	IV B T 5	122×100× 20	不整形	—	平安後期	SK60	土師器甕・須恵器甕・坏・ 蓋、灰釉陶器皿	
62	98	IV B S 5	115× 95× 40	不整形	—	平安後期	—	土師器甕・坏・須恵器甕・ 坏、灰釉陶器碗	
63	98	IV B O 5	65× — × 35	—	—	—	SB80	土師器甕・須恵器甕	
64	98	IV B P 6	50× 40× 23	不整楕円	N68.5°W	—	—	土師器甕・須恵器壺	
65	98	IV B P 5	60× 55× 36	不整円形	—	—	—	須恵器坏	
66	98	IV B O 4	67× 40× 22	不整楕円	N19.5°E	—	SM20	土師器甕・須恵器甕・坏	
67	98	IV B S 6	100× 90× 50	不整形	—	—	SB73	—	
68	98	IV B Q 5	70× — × 25	—	—	—	SM20	土師器甕・須恵器甕	
69	99	IV B P 6	65× 55× 42	不整円形	—	—	—	土師器甕	
70	99	IV B Q12	90× 85× 30	不整円形	—	中世	SB69・70、SK71	土鍋	
71	99	IV B Q12	125× 65× 15	不整楕円	N49.0°E	—	SB68~70、SK70	土師器甕・須恵器	
72	99	IV B P11	90× 75× 97	不整形	—	奈良	SB72、SD46	土師器甕・須恵器坏・蓋	
73	99	IV B O 9	— ×120× 15	—	—	中世	—	陶器	
74	99	IV B T 7	130× 90× 20	不整形	—	平安後期	SB73、SK82	土師器甕・坏・碗・須恵器 甕・坏・蓋	
75	99	IV B Q 6	80× 72× 35	不整円形	—	—	—	土師器甕	
76	99	IV B P 6	70× 60× 25	不整円形	—	—	—	須恵器坏	
77	99	IV B Q 5	67× 55× 42	不整円形	—	—	—	土師器甕	
78	100	IV B O 3	65× 45× 15	不整楕円	N40.5°E	—	—	土師器甕・須恵器坏	
79	100	IV B O 3	75× 35× 27	不整楕円	N43.0°E	—	—	土師器甕・須恵器	
80	100	III B S 46	110× 70× 35	不整楕円	N90.0°W	—	SB77・78	土師器甕・坏・須恵器甕・ 坏・蓋	・径10~25cmの碟
81	100	IV B P 1	— × — × 30	不整形	—	平安後期	SB81、SM20、SK 84、SD45	土師器甕・坏・須恵器甕・ 壺・坏・蓋、灰釉陶器碗	
82	99	IV B T 6	— × 75× 20	不整楕円	N16.0°W	—	SK74	土師器甕	
84	100	IV B P 2	— ×185× 33	不整楕円	N51.0°E	—	SB81、SM20、 SK81	土師器甕・須恵器蓋	
85	100	III B R 48	— × 80× 15	不整形	N11.0°E	—	—	須恵器甕	
86	100	III B P 46	— × — × 20	—	—	—	SB82、SK87	土師器甕・須恵器甕・蓋	
87	100	III B P 46	85× — × 35	—	—	—	SK86	土師器甕	
88	101	III B O 46	210× — × 10	—	N53.0°E	—	—	土師器甕・須恵器坏	

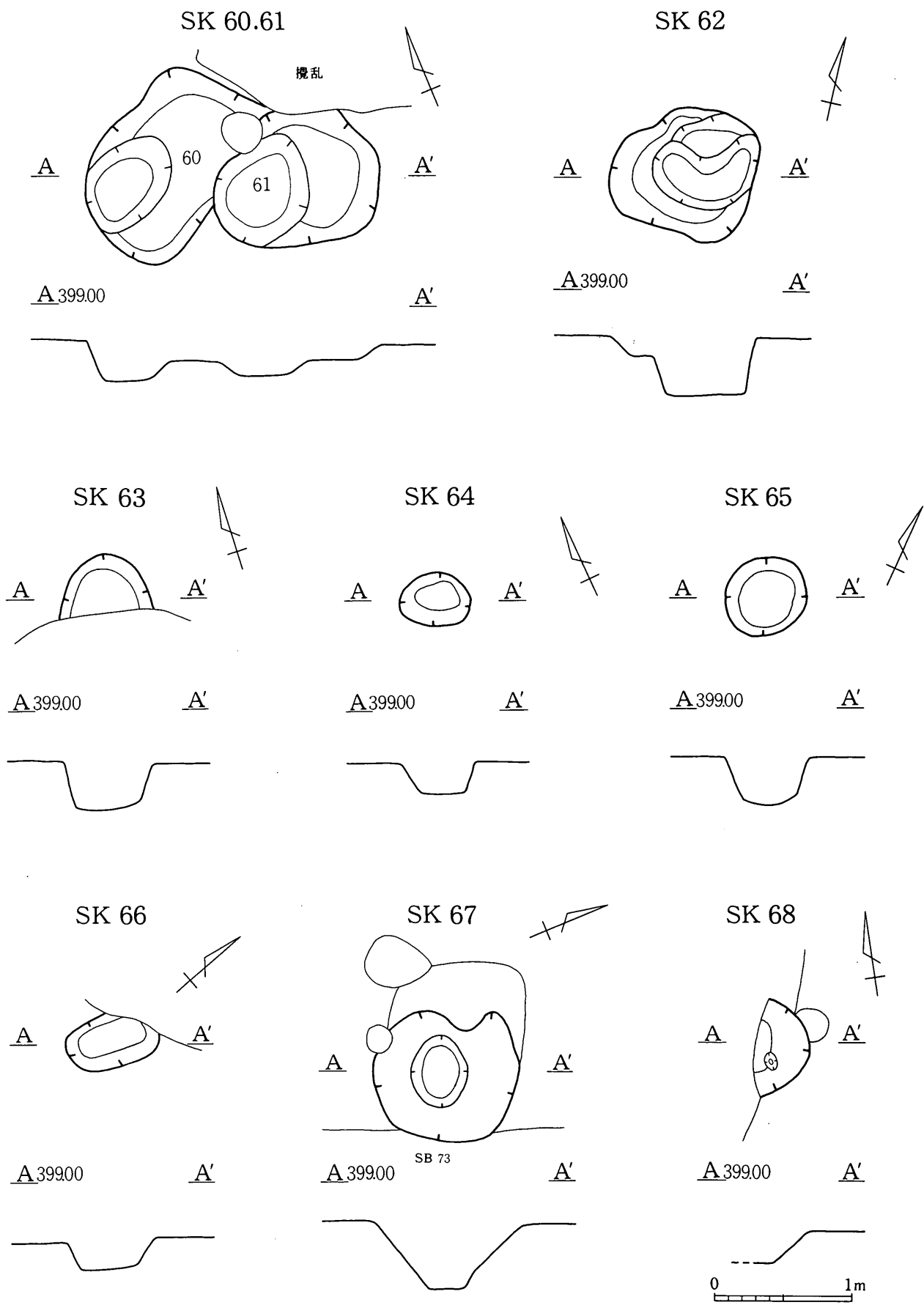


插图98 SK 60~68

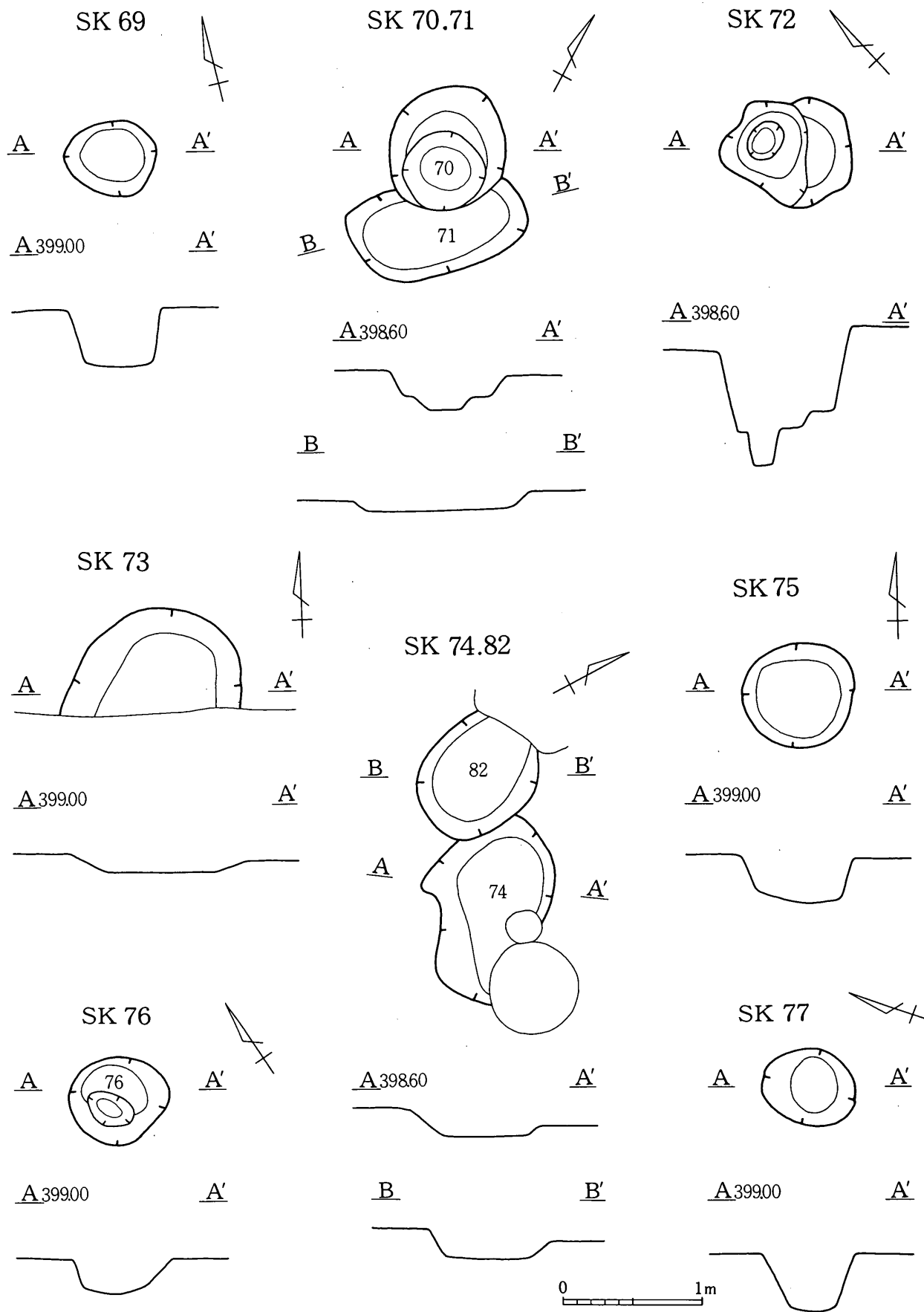
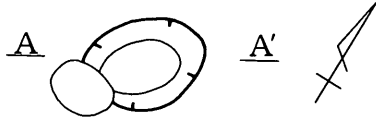


插图99 SK 69~77·82

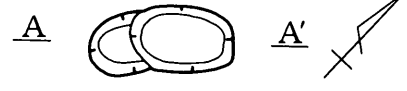
SK 78



A399.00 A'



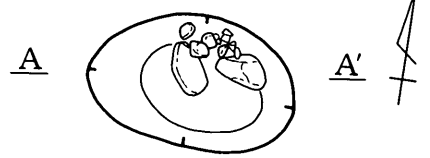
SK 79



A399.00 A'



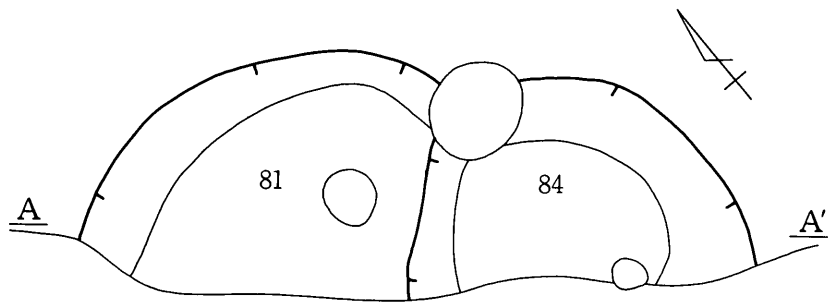
SK 80



A399.00 A'



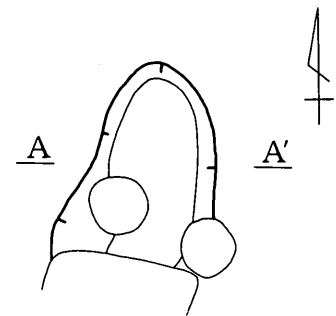
SK 81.84



A399.00 A'



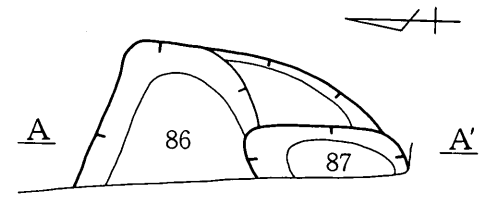
SK 85



A399.00 A'



SK 86.87



A399.00 A'

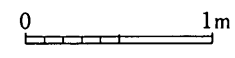
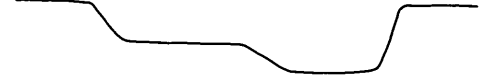
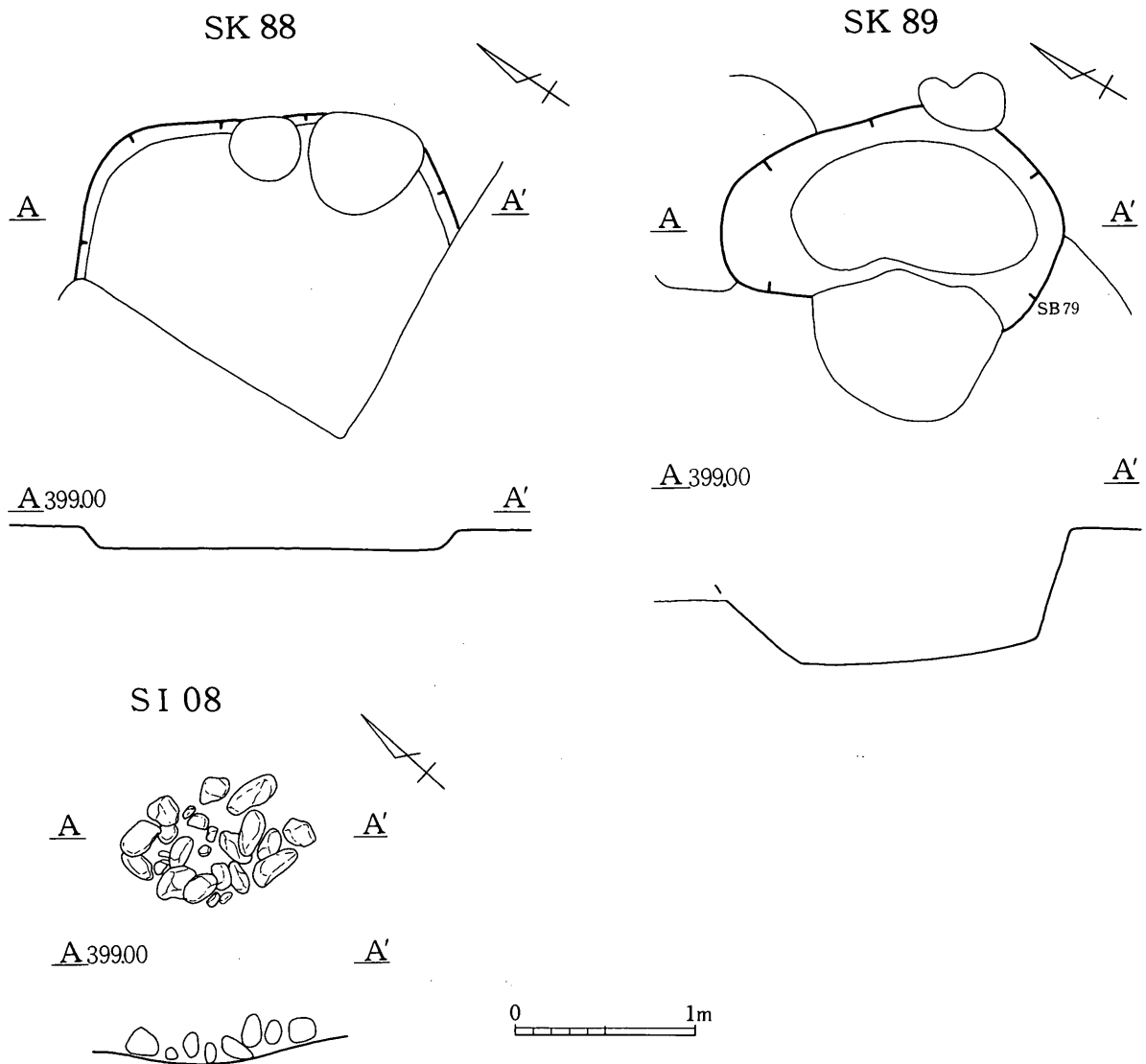


插图100 SK78~81·84~87



遺構名	挿図No	検出位置	規模(長×短×深)cm	形態	主軸	時代	重複遺構	出土遺物	備考
S K 89	101	Ⅲ B P 49	185×130× 70	不整楕円	N33.5°W	—	SB79	土師器甕・須恵器甕	
S D 44	102	Ⅳ B S 6	— × 85 × 15	やや湾曲	N10.0°E	平安後期	SB74、SK62	土師器甕、須恵器甕 灰釉、陶器碗	
45	102	Ⅳ B P 0	— × 70 × 20	蛇行	—	—	SB79、SM20、 SD50	土師器甕、須恵器甕	
46	102	Ⅳ B P 11	— × 80 × 20	直線状	N73.5°W	—	SB68・72、SK72	—	
47	102	Ⅳ B O 7	— × 120 × 27	—	—	—	SB75	—	
48	102	Ⅳ B R 5	— × 70 × 10	—	N81.0°E	—	SB74、SM20	土師器甕、須恵器甕・蓋	
49	102	Ⅳ B T 1	— × 50 × 25	直線状	N 6.0°E	—	SM20	—	
50	102	Ⅳ B S 0	— × 70 × 20	蛇行	—	—	SB81、SM20、 SD45	土師器甕、須恵器甕・坏	
S I 08	101	Ⅳ B R 7	110 × 70 × 25	楕円形	N47.0°W	—	SB73	—	



挿図101 SK 88・89、SI 08

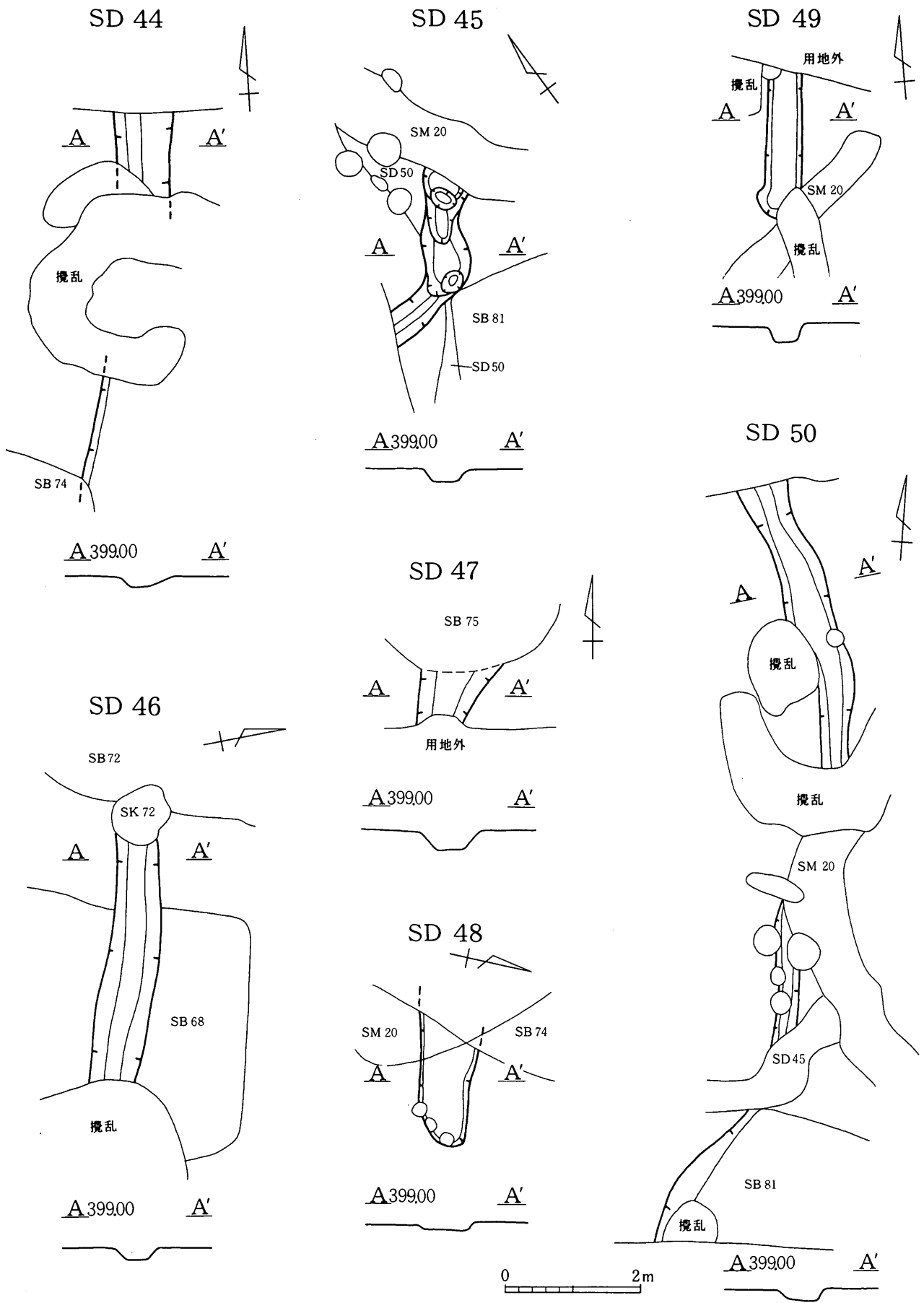


插图 102 SD 44~50

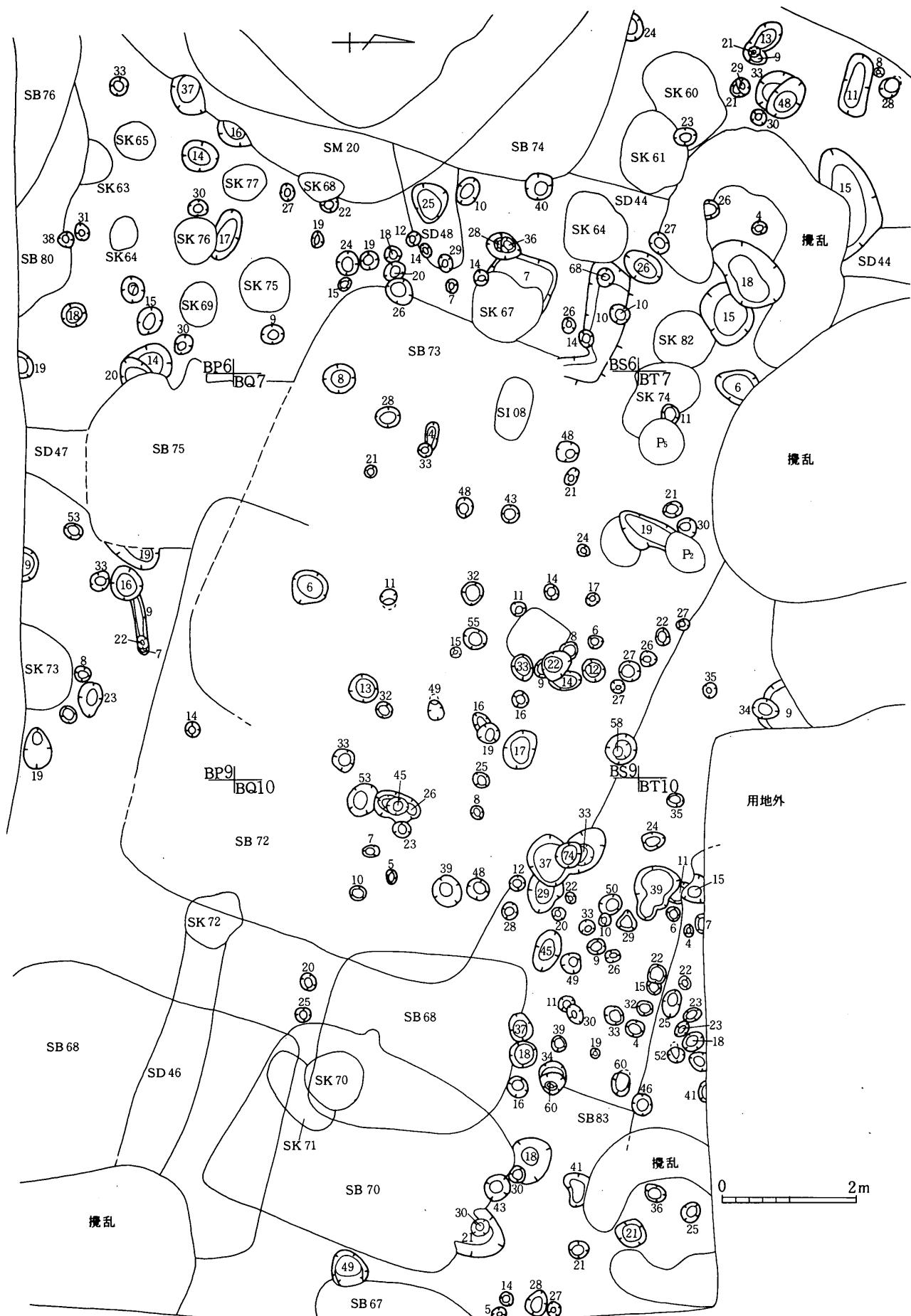


插图 103 周边柱穴平面图 (2)

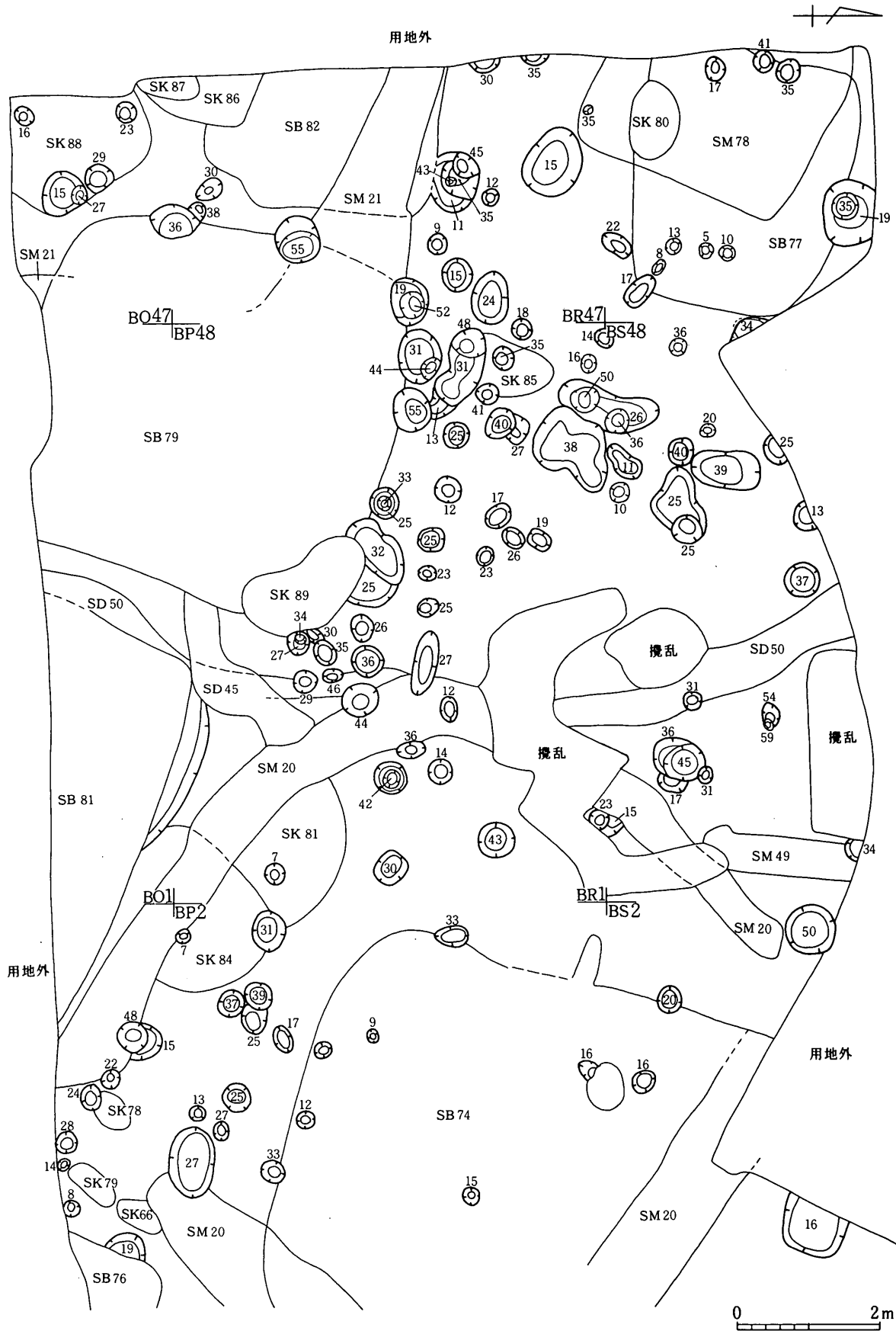


插图 104 周边柱穴平面图 (2)

## 第7節 第5地点の遺構と遺物

第5地点で調査された遺構は、

竪穴住居址 6棟  
 方形周溝墓 4基  
 土坑 3基  
 溝址・溝状址 4条  
 その他小柱穴 多数がある。

### (1) 竪穴住居址

#### 1) 平安時代後期

##### ① S B51

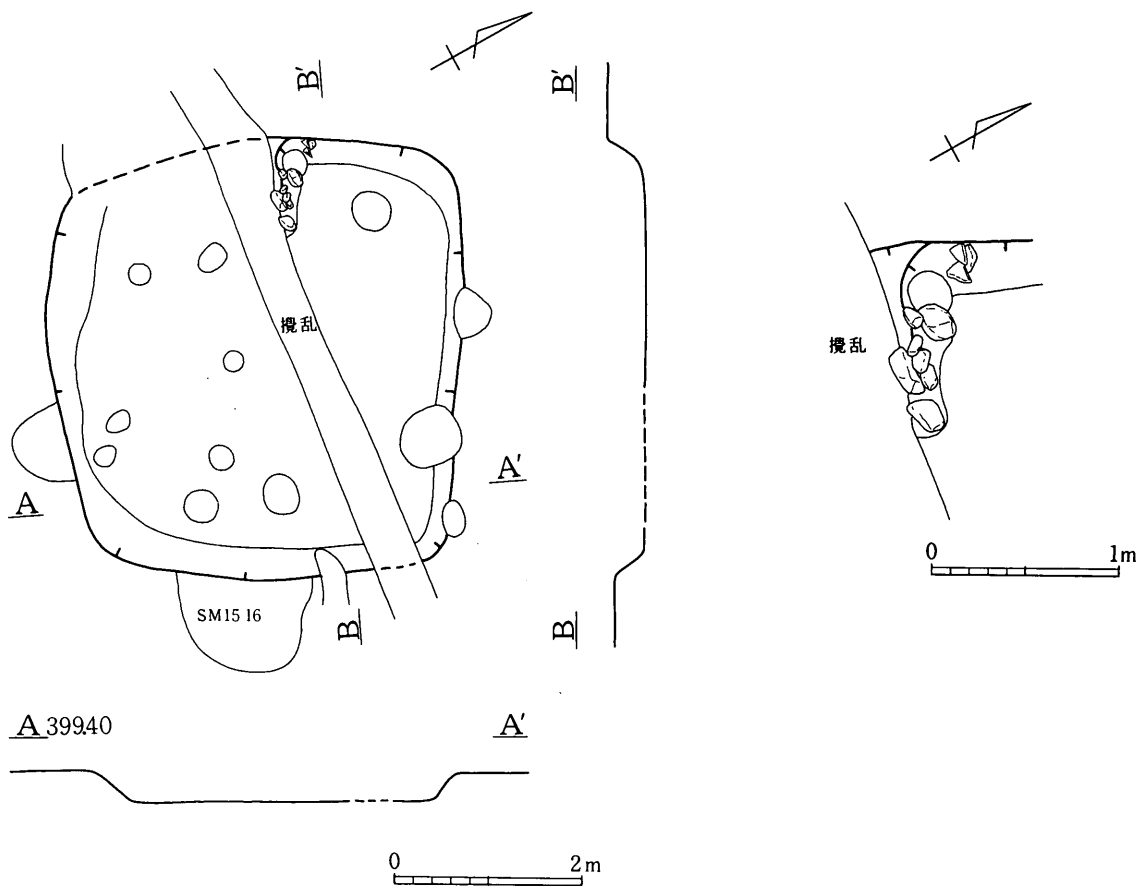
遺構番号	S B51	検出位置	第5地点 I区A I 49			床面積	14.0㎡
規模	460×440×30cm	長軸	N62.5° W	平面形	隅丸方形		
検出状況	埋土が地山と明確に異なり、検出された。中央を水道敷設に伴う攪乱が壊す。						
重複関係	S M15・16を切る。						
壁	明確で、緩やかな立ち上がりを示す。						
床	部分的に堅固で、貼床される。						
柱穴	不明。						
カマド	西壁中央にカマドが構築されるが、破壊されて遺存状態は悪い。石芯粘土カマドと考えられる。						
付属施設	なし。						
遺物	埋土上層中央を中心に破片が出土。土師器甕・坏、須恵器壺・甕・坏・蓋、灰釉陶器壺・碗・皿、不明鉄製品・鉄滓。						
その他	埋土上層黒褐色土・下層暗褐色土のレンズ状堆積で、自然埋没と考えられる。カマド前面を中心に埋土中に礫が含まれる。						

##### ② S B64

遺構番号	S B64	検出位置	第5地点 II区A H7				
規模	- × - ×15cm-	長軸	(N14.5° W)	平面形	不整形とされる。		
検出状況	埋土が地山と明確に異なり、把握された。約1/2は調査区外にかかる。						
重複関係	S B63・S D43・S D52と重複する。攪乱等のため新旧関係は不明である。						
壁	緩やかな立ち上がりを示す。						
床	平坦で、軟弱。			柱穴	不明。		
カマド	調査された範囲では確認できず。			付属施設	不明。		
遺物	遺物は少ない。土師器甕・坏、須恵器壺・坏、灰釉陶器碗、不明鉄製品。						

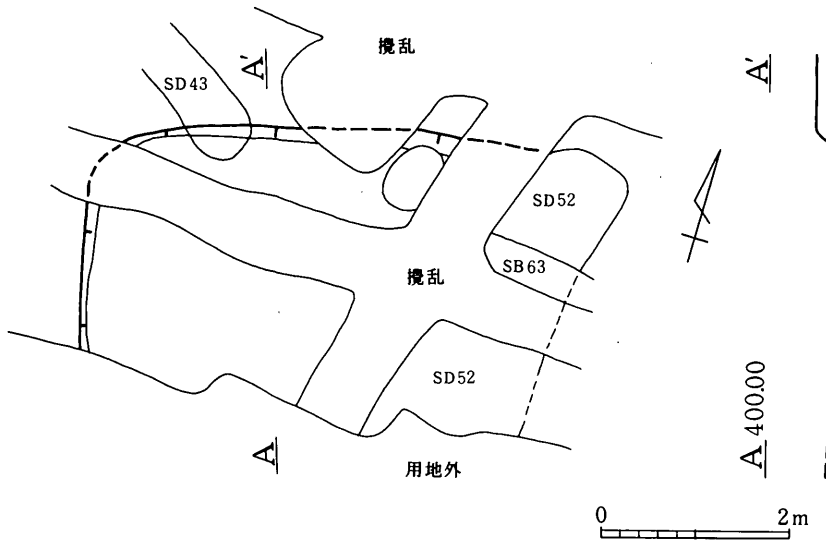
③ S B 65

遺構番号	S B 65	検出位置	第 5 地点 II 区 A G 4		
規 模	— × — × 20cm	長 軸	(N 4.5° E)	平 面 形	方形と考えられる。
検出状況	北西隅のプランを把握したのみ。約1/2 が調査区外にかかると考えられる。攪乱に壊され詳細は不明である。				
重複関係	S K 58 と重複するが、新旧関係は不明である。				
壁	確認された部分では、ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	平坦であるが、重複遺構・攪乱等のため状態は不明である。				
柱 穴	小柱穴あり。	カマド	不明。	付属施設	不明。
遺 物	遺物量は少ない。土師器甕、須恵器甕・坏、灰釉陶器壺・碗。				

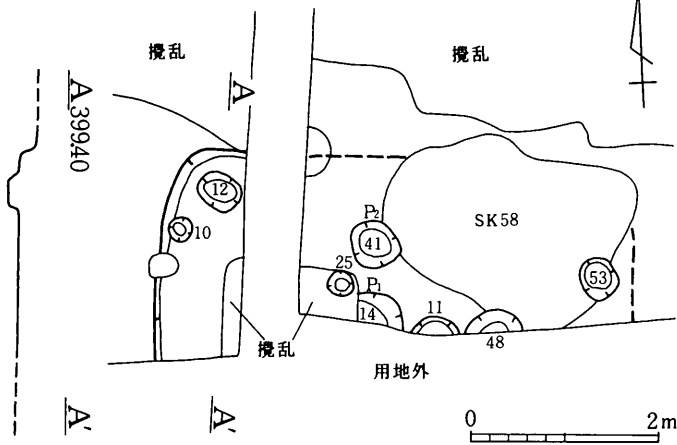


挿図105 SB51

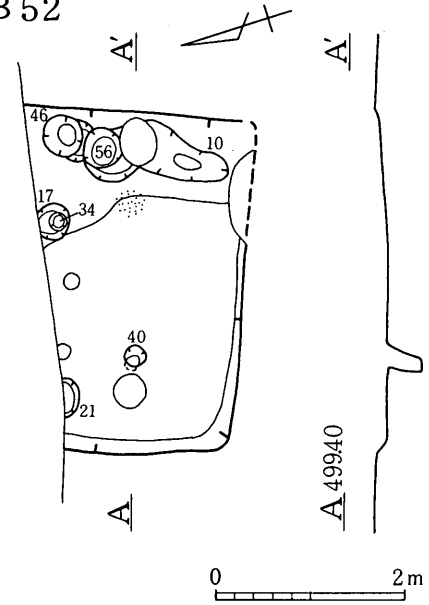
SB 64



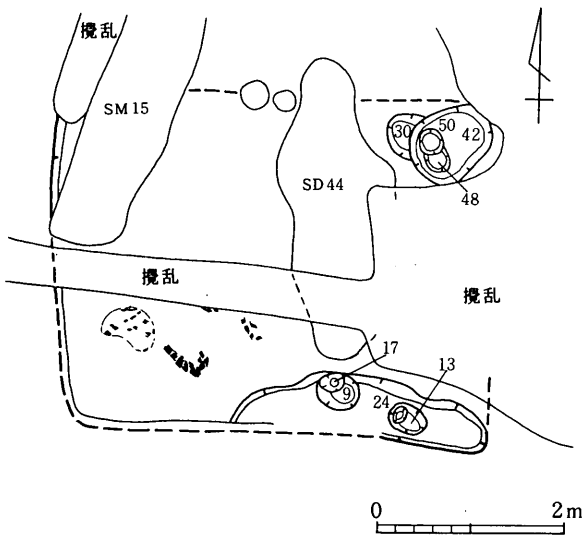
SB 65



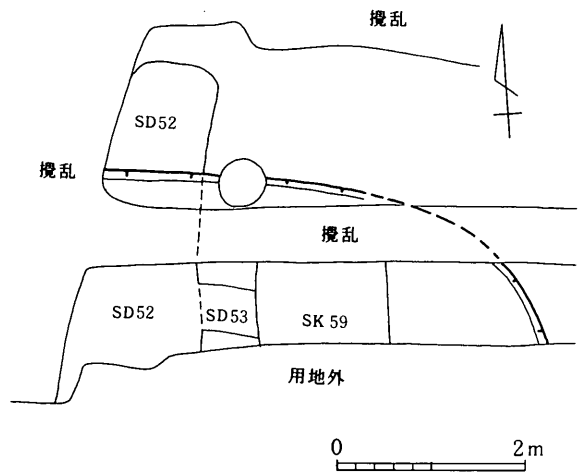
SB 52



SB 53



SB 63



挿図106 SB52・53・63~65

## 2) 時期不明

## ① S B 52

遺構番号	S B 52	検出位置	第1地点 I区A K 49		
規 模	360× - ×10cm	長 軸	(N 111.0° E)	平 面 形	方形
検出状況	貼床が検出され、把握された。約1/2は調査区外にかかる。				
重複関係	なし。				
壁	削平されて遺存せず。掘り方のみ把握された。				
床	貼床中で検出されたため、床面の状況は不明。				
柱 穴	小柱穴あり。				
カマド等	東壁寄りの床面に若干の焼土あり。その北側に地山を掘り残した部分があることから、火床の可能性もありと判断した。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物はほとんどない。土師器甕、須恵器甕・坏、不明鉄製品。				

## ② S B 53

遺構番号	S B 53	検出位置	第1地点 III区B F 14		
規 模	(460)×(350)×5cm	長 軸	(N 1.0° E)	平 面 形	不整長方形と考えられる。
検出状況	貼床が検出され、プランが推定された。多く攪乱が及ぶ。				
重複関係	S M 15周溝上部に貼床が検出され、S M 15より新しい。S D 44と重複するが、新旧関係は不明である。				
壁	削平により不明である。				
床	貼床され、部分的に硬い。				
柱 穴	柱穴あり。	カマド等	不明。		
付属施設	南壁際に50~60cm程度周溝状に掘り込む。				
遺 物	遺物量僅少。土師器甕、須恵器甕。				
そ の 他	南西側床直上に炭化材が多く遺存しており、焼失住居と考えられる。				

## ③ S B 63

遺構番号	S B 63	検出位置	第5地点 II区A H 9		
規 模	- × - ×10cm	長 軸	(N 81.5° W)	平 面 形	不整形
検出状況	埋土が地山と異なり、明確に検出された。				
重複関係	S B 64・S K 59・S D 52・S D 53と重複する。大半が調査区外にかかり、攪乱により新旧関係やプランの把握も困難である。				
壁	検出面から浅く、立ち上がりの状態は不明である。				
床	平坦で、軟弱である。				
柱 穴	不明。	カマド等	不明。	付属施設	不明。
遺 物	遺物量僅少。土師器甕。				



## (2) 方形周溝墓

## ①SM14

検出位置	第5地点 I区AG45他	主	規模m	調査区外にかかり確認できず。	
重切る	SM16	体	主軸	—	
	新旧不明		SM17	形態	—
周溝	規模m	部	覆土	—	
	主軸		(N11.0° E)	施設	—
規模・形状	形態	その他	土橋	北東隅	
	覆土		墳丘	—	
	幅cm		85		
	深さcm		30		
断面形	(逆台形)				
出土遺物 SM16と共有する周溝から 弥生土器 須恵器甕		特記事項			
時期	不明	根拠			

## ②SM15

検出位置	第5地点 I区AJ49他	主	規模m	重複遺構のため遺存せず	
重切る	SM17	体	主軸	—	
	新旧不明		SM16	形態	—
周溝	規模m	部	覆土	—	
	主軸		N24.0° E	施設	—
規模・形状	形態	その他	土橋	南東隅	
	覆土		墳丘	—	
	幅cm		100~160		
	深さcm		50~120		
断面形	ややV字状				
出土遺物 弥生土器壺・土師器甕 SM16と共有する周溝から 弥生土器壺		特記事項			
時期	古墳時代後期	根拠	重複関係による。		

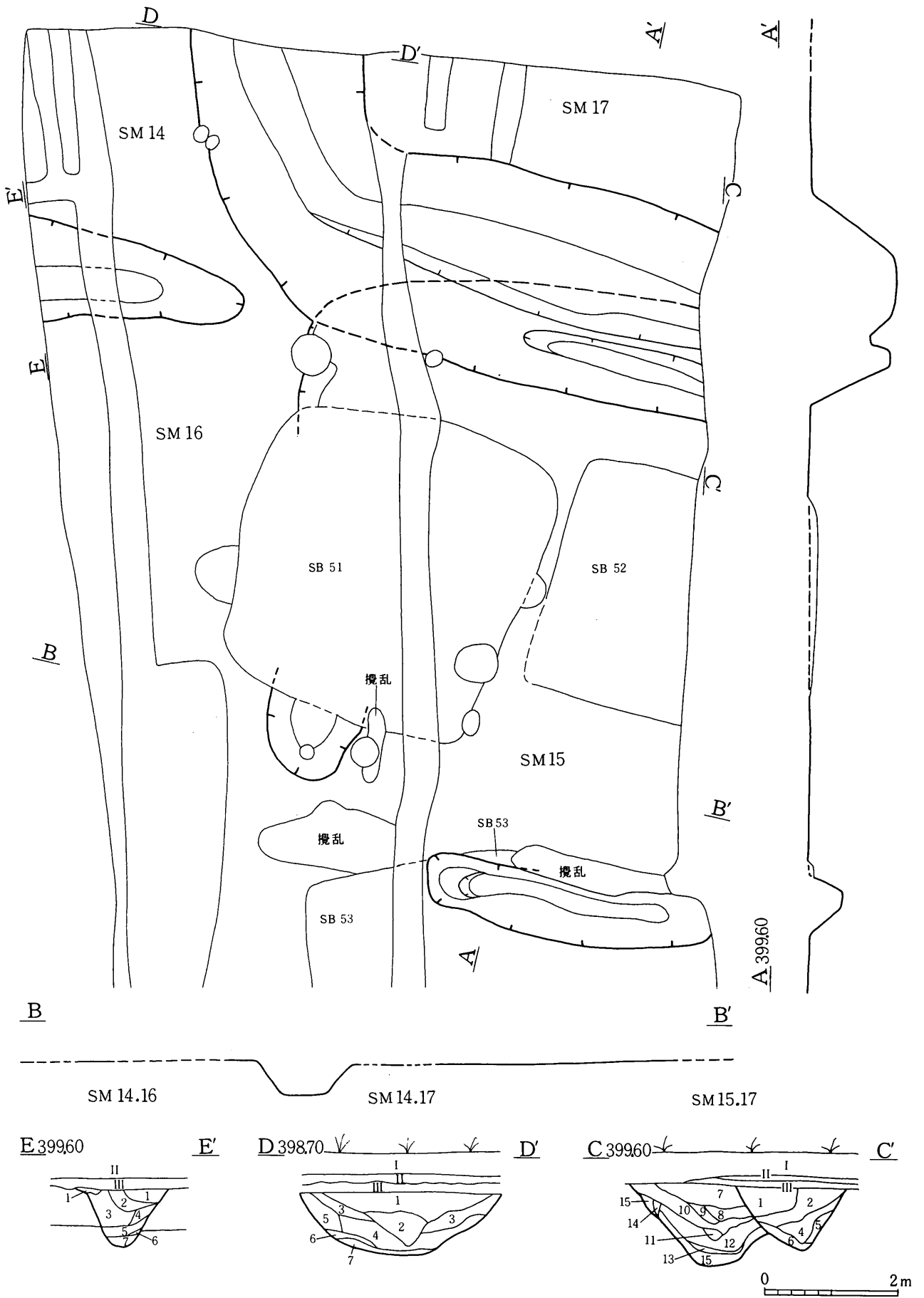


插图 107 SM 14~17

③SM16

検出位置	第5地点 I区AG48他	主	規模m	確認できず。	
重複	切られる	体	主軸	—	
	新旧不明		形態	—	
周溝規模・形状	規模m	部	覆土	—	
	主軸		施設	—	
	形態	その他	土橋	北西隅・北東隅	
	覆土		墳丘	—	
	幅 cm				
	深さ cm				
	断面形				
出土遺物 SM16と共有する周溝から 弥生土器壺		特記事項			
時期	古墳時代後期?	根拠	SM15と周溝を共有することから。		

④SM17

検出位置	第5地点 I区AJ45他	主	規模m	調査区外にかかり不明。	
重複	切られる	体	主軸	—	
	新旧不明		形態	—	
周溝規模・形状	規模m	部	覆土	—	
	主軸		施設	—	
	形態	その他	土橋	北東隅	
	覆土		墳丘	—	
	幅 cm				
	深さ cm				
	断面形				
出土遺物 土師器甕 須恵器甕・坏・蓋		特記事項・周溝の規模は他と隔絶しており、SM04 やSM06との関連が注目される。			
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物による。		

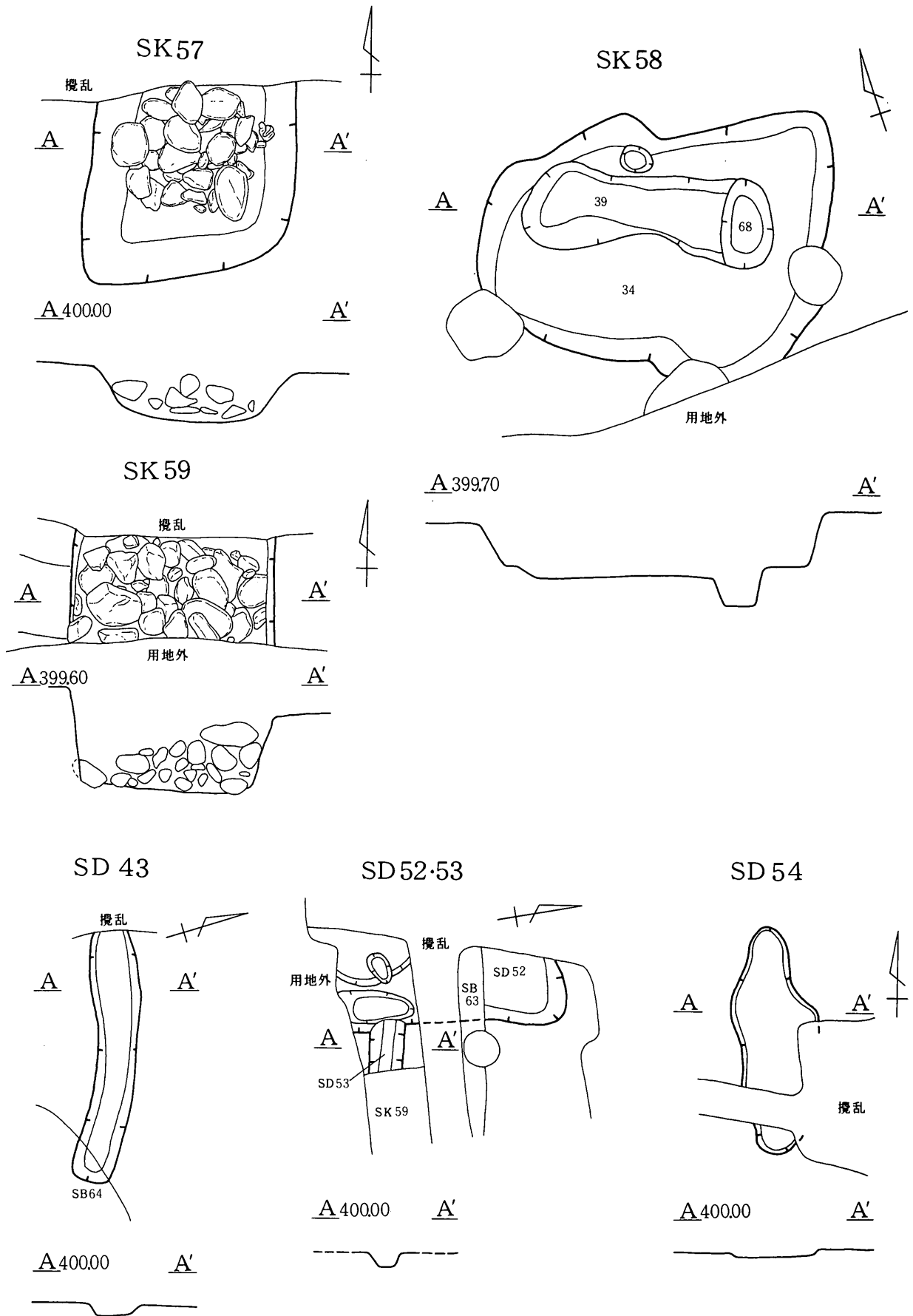


插图108 SK57~59、SD43·44·52·53·54

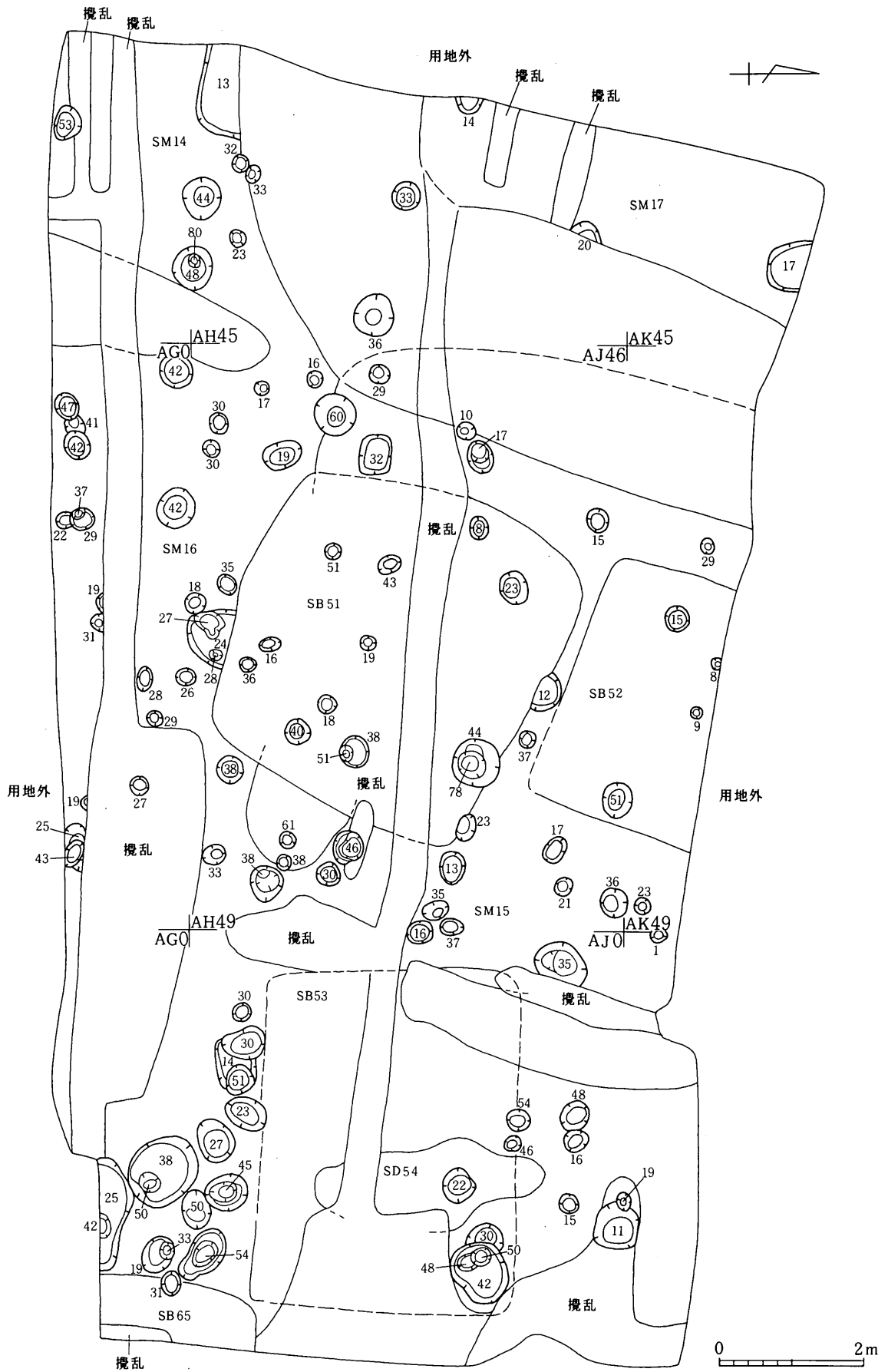


插图 109 周边柱穴平面图 (23)

(3) その他の遺構

遺構名	挿図No	検出位置	規模(長×短×深)	形態	主軸	時代	重複遺構	出土遺物	備考
SK57	108	II AH11	— × 150 × 40	長方形?	N 7.0°E	—	—	土師器甕、須恵器甕径	10~40cm大の礫
58	108	II AG 5	275 × — × 65	不整形	—	—	SB65	土師器甕、須恵器甕	
59	108	II AG 9	— × 145 × 75	長方形?	N 0.0°W	—	—	—	径10~40cm大の礫
SD43	108	II AI 6	— × 70 × 15	やや湾曲	N66.5°W	—	SB64	土師器甕、須恵器甕	
44	108	II AI 2	315 × — × 5	不整形	—	平安後期	—	土師器甕・須恵器甕、 灰釉陶器碗	
52	108	II AG 8	— × — × 46	不整形	N 8.0°E	—	—	—	
53	108	II AG 9	— × 50 × 22	直線状	N76.5°W	—	—	—	

第8節 遺構外出土遺物

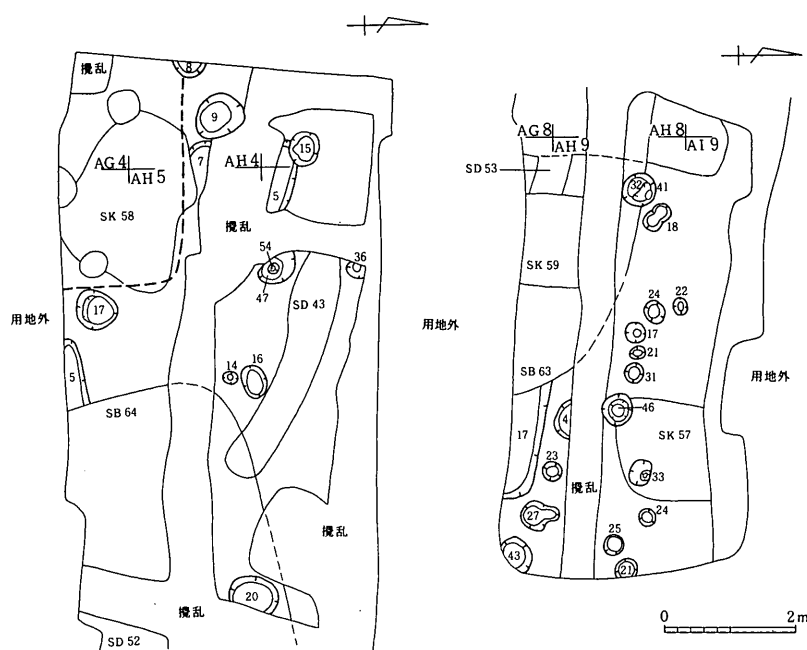
縄文時代以降各時期の遺物が出土しており、古墳時代から平安時代にかけての遺物が多い。

縄文時代の遺物は、断片的であるが、早期後葉（絡条体圧痕文）・前期後葉・前期末葉（大歳山式）  
・中期前半・中期後半・中期末葉～後期初頭・晩期前葉・晩期後葉の土器、打製石斧・磨製石斧・横刃型石器・石鏃・搔器・石錘・磨石等の石器がある。

弥生時代は中期から後期後半にかけての遺物があり、壺・甕、磨製石庖丁・打製石庖丁等が出土している。

古墳時代から平安時代にかけての遺物は、土師器甕・坏・甑、須恵器壺・甕・坏・蓋、灰釉陶器壺・碗・皿等が出土している。

中世の遺物として、青磁碗・白磁碗、鉄釉碗（第10図17・18）・播鉢（同21・22）をはじめとする陶器類がある。



挿図 1 1 0 周辺柱穴平面図 (24)

遺構名	層	JIS標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
第1地点							
SB 02	1	10YR2/1	黒	SiL	良	なし	炭、焼土含む
	2	10YR2/2	黒褐	SiCL	良	なし	炭、黄褐色ロームブロック含む
	3	攪乱					
SB 05	1	7YR4/6	褐	SiC	良	有	少量の焼土と炭が混じる
	2	5YR4/8	赤褐				焼土
	3	10YR5/4	にぶい黄褐	SiC	良	有	貼床
SB 05炉	1	7.5 YR3/3	暗褐	SiC	良	有	焼土と炭が混じる
SB 07	1	10YR3/4	暗褐	SiCL	良	なし	SD25埋土
(SM08)	2	10YR5/8	黄褐	SiCL	良	なし	SM08埋土
(SD25)	3	10YR3/3	暗褐	SiCL	良	なし	SM08埋土
	4	10YR3/2	黒褐	SiCL	良	なし	SM08埋土
	5	10YR4/2	灰黄褐	SiCL	良	なし	SM08埋土
	6	YR5/3	にぶい黄褐	SiCL	良	なし	SM08埋土
	7	10YR4/4	暗褐	SiCL	良	なし	SM08埋土
	8	10YR4/1	灰暗褐	SiCL	良	なし	SM08埋土
	9	10YR5/6	黄褐	SiCL	良	なし	SB07埋土
	10	10YR3/2	黒褐	SiCL	良	なし	SB07埋土 炭が僅かに混じる
SB 09	1	10YR5/4	にぶい黄褐	SiC	良	有	鉄分含む
(SD25)	2	2.5 Y7/2	灰黄	CL	良	やや有	鉄分含む 砂が小ブロック状で混じる
	3	2.5 Y3/3	暗オリーブ褐	SiC	良	有	鉄分含む
	4	2.5 Y5/3	黄褐	SL	不良	やや有	鉄分含む
	5	10YR3/3	暗褐	SiC	良	有	鉄分含む
	6	10YR4/3	にぶい黄褐	SiC	良	やや有	
	7	10YR5/4	にぶい黄褐	SiC	良	有	鉄分と微量の炭化物含む
	8	10YR4/2	灰黄褐	HC	良	有	鉄分と微量の炭化物含む 砂が小ブロック状で混じる
SB 12炉	1		褐		良	なし	炭、ロームがまばらに混じる
SB 14・15	1	7.5 YR5/4	にぶい褐	SiC	良	有	焼土、炭化物微量に混じる
	2	7.5 YR4/3	褐	SiC	良	有	焼土、炭少量混じる
	3	10YR5/3	にぶい黄褐	HC	良	有	礫混じる
	4	7.5 YR4/3	褐	SiC	良	有	焼土、炭微量混じる
SB 17	1	7.5 YR4/3	褐	SiC	良	有	大小の礫を20%含む混じり
	2	2.5 Y5/4	黄褐	SiL	不良	なし	炭化物混じる
	3	10YR4/2	灰黄褐	SiC	良	有	大小の礫、土器小片少量含む 焼土、炭混じる
SB 18	1	10YR5/3	にぶい黄褐	HC	良	有	焼土混じる
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	SC	不良	なし	大小の礫を70%含む

表1 遺構土層観察表(1)

遺構名	層	JIS 標準色票	土 壤 色	土 性	しまり	粘性	備 考
S B 19カマド	1	5 Y R4/6	赤褐	S i C	良	やや有	
	2	10Y R4/4	褐	S i L	良	やや有	
	3	10Y R3/4	暗褐	S i C	良	有	
	4	10Y R4/3	にぶい黄褐	S i C	良	やや有	
S B 21カマド	1	10Y R6/4	にぶい黄橙	S i C	良	有	粘土ブロック、微量の焼土炭を含む
	2	10Y R4/3	にぶい黄褐	S i C	良	有	やや大きな固まり径20~50mm炭、焼土及び細かい骨のかけら微量を含む
	3	7.5 Y R6/2	灰褐	H C	良	有	
	4	10Y R6/6	明黄褐	S C	不良	なし	粘土ブロック含む
	5a	10Y R3/4	暗褐	S i C	良	有	焼土多量に含む 炭含む
	5b	10Y R3/4	暗褐	S i C	良	有	炭多量に含む 焼土含む
	6	5 Y R5/6	明赤褐		良		火床
	7	10Y R4/3	にぶい黄褐	H C	やや良	やや有	10Y R7/4にぶい黄橙がブロック状に混じる
S B 24・25	1	10Y R4/4	褐	S i C	良	有	少量の土器片を含む
	2	10Y R3/4	暗褐	S i C	良	有	若干の焼土と炭が混じる礫少量含む 土器片微量を含む
S B 24カマド	1						
	2	10Y R3/3	暗褐	S i C L	良	やや有	焼土炭が多量に含まれる
	3	5 Y R4/6	赤褐	S i C L	良	やや有	
	4	10Y R3/4	暗褐	S i C	良	有	
	5	10Y R3/4	暗褐	S	良	なし	
	6	10Y R4/3	にぶい黄褐	S i C L	良	やや有	
	7	10Y R3/4	暗褐	S i C L	良	やや有	
	8	10Y R3/3	暗褐	S i C	良	やや有	
	9	10Y R3/3	暗褐	S i C		やや有	炭が2%含まれる
S B 25	1	10Y R4/4	褐				焼土混じる
	2	10Y R4/6	褐				
	3	10Y R5/6	黄褐				焼土、炭混じる
	4	10Y R3/1	黒褐				
	5	10Y R2/1	黒				
	6	10Y R5/1	褐灰	砂			
	7						
S B 27カマド	1	5 Y R5/6	明赤褐				火床
	2	10Y R6/4	にぶい黄橙		良	やや有	貼床
S B 28カマド	1	10Y R5/4	にぶい黄褐	S i C	良	有	少量の焼土、炭混じる
	2	10Y R4/4	褐	S i C L	良	やや有	焼土10%、炭5%、灰5%混じり微量の土師片含む
	3	10Y R4/3	にぶい黄褐	S C	不良	有	砂と粘土が均一に混じり合っている

表2 遺構土層観察表(2)



遺構名	層	JIS 標準色票	土 壌 色	土 性	しまり	粘性	備 考
S B 28カマド	4	10Y R5/6	黄褐	S i C L	良	やや有	少量の焼土、炭混じる
	5	10Y R3/3	暗褐	S i C	良	やや有	少量の焼土、炭混じる
	6	7.5 Y R3/4	暗褐	S i C	良	やや有	少量の焼土、炭混じる
	7	5 Y R4/4	にぶい赤褐	H C	不良		火床 炭と灰少量含む
	8	10Y R6/4	にぶい黄橙	H C	良	有	
	9	10Y R4/2	灰黄褐	H C	不良	やや有	砂と粘土がブロック状に混じる
S B 29カマド	1	10Y R4/4	褐	S i C	良	やや有	焼土、炭あり
	2	10Y R4/3	にぶい黄褐	S i C	良	やや有	焼土、炭あり
	3	10Y R3/2	黒褐	S i C	不良	有	
	4	10Y R3/4	暗褐	S i C	良	やや有	
	5	10Y R4/6	褐	S i L	不良	やや有	
	6			焼土			火床
S B 32カマド	1	10Y R4/3	にぶい黄褐	H C	良	有	焼土、炭、少量の土器片を含む
	2	10Y R3/4	暗褐	S i C	良	有	炭、焼土多量に含む
	3	5 Y R6/8	橙				火床 良く焼けている ぼろぼろとした感じ
	4	10Y R6/4	にぶい黄橙	H C	良	やや有	
	5	10Y R4/6	褐	S i C	良	やや有	
	6	10Y R5/6	黄褐	S i C L	良	やや有	
	7	10Y R4/2	灰黄褐	S i C L	良	やや有	炭、灰混じる
	8	10Y R6/4	にぶい黄橙	S C	良	やや有	
	9	攪乱					
S T 01P1	1	10Y R4/4	褐	S i C L	良	なし	
	2	10Y R4/6	褐	S i C L	良	なし	
P2	1	10Y R3/4	暗褐	S i C L	良	なし	
	2	10Y R4/4	褐	S i C L	良	なし	
	3	10Y R3/3	暗褐	S i C L	良	なし	
	4	10Y R2/3	黒褐	S i C L	良	なし	
	5	10Y R4/3	にぶい黄褐	S i C L	良	なし	
	6	10Y R3/2	黒褐	S i C L	良	なし	
P3	1	10Y R4/6	褐	S i C L	良	なし	
	2	10Y R5/6	黄褐	S i C L	良	なし	
	3	10Y R3/4	暗褐	S i C L	良	なし	
	4	10Y R3/1	黒褐	S i C L	良	なし	
	5	10Y R3/3	暗褐	S i C L	良	なし	
	6	10Y R3/2	黒褐	S i C L	良	なし	
	7	10Y R4/3	にぶい黄褐	S i C L	良	なし	

表 3 遺構土層観察表 (3)

遺構名	層	JIS 標準色票	土 壌 色	土 性	しまり	粘性	備 考
ST 01P3	8	10Y R5/8	黄褐	SiCL	良	なし	
	9	10Y R5/6	黄褐	SiCL	良	なし	
	10	10Y R4/2	灰黄褐	SiCL	良	なし	
	11	10Y R3/2	黒褐	SiCL	良	なし	
	12	10Y R5/6	黄褐	SiCL	良	なし	
	13	10Y R4/2	灰黄褐	SiCL	良	なし	
	14	10Y R4/4	褐	SiL	不良	なし	
	15	10Y R6/6	明黄褐	SiL	不良	なし	
	16	10Y R5/4	にぶい黄褐	SiL	良	なし	
P4	1	10Y R4/2	灰黄褐	SiCL	良	なし	
	2	10Y R4/3	にぶい黄褐	SiCL	良	なし	
	3	10Y R5/8	黄褐	SiCL	良	なし	
	4	10Y R4/6	褐	SiCL	良	なし	
	5	10Y R4/4	暗褐	SiCL	良	なし	
	6	10Y R3/3	暗褐	SiCL	良	なし	
	7	10Y R3/4	暗褐	SiCL	良	なし	
	8	10Y R3/2	黒褐	SiCL	良	なし	
	9	10Y R3/3	暗褐	SiCL	良	なし	
	10	10Y R2/2	黒褐	SiCL	良	なし	
	11	10Y R3/2	黒褐	SiCL	良	なし	
	12	10Y R2/3	黒褐	SiCL	良	なし	
ST 03P3	1	10Y R4/3	にぶい黄褐	SiC	良	有	微量の炭化物を含む
P5	1	10Y R4/6	褐	HC	良	有	
P6	1	10Y R5/6	黄褐	SiC	良	有	
	2	10Y R4/3	にぶい黄褐	HC	良	有	
P7	1	7.5 YR4/6	褐	HC	良	有	
	2	10Y R5/6	黄褐	SiC	良	有	少量の小礫を含む
P8	1	7.5 YR4/6	褐	HC	良	有	
	2	10Y R5/6		SiL	良	やや有	
P9	1	10Y R5/3	黄褐	S	不良	なし	
P10	1	10Y R4/6	褐	HC	良	有	
ST 04P2	1	10Y R4/3	にぶい黄褐	SiC	良	有	礫40%含む
P3	1	10Y R4/4	褐	SiC	良	有	少量の炭化物含む 礫30%含む
P4	1	10Y R4/3	にぶい黄褐	SiC	良	有	礫10%含む
P6	1	10Y R5/4	にぶい黄褐	SiC	良	有	小礫含む
	2	10Y R4/3	にぶい黄褐	SiL	良	やや有	

表 4 遺構土層観察表 (4)

遺構名	層	JIS 標準色票	土 壌 色	土 性	しまり	粘性	備 考
SM 04D-D'	1	7.5 YR3/2	黒褐	S i L	良	なし	炭僅かに含む 斑鉄少々
	2	10YR4/2	灰黄褐	L i C	良	やや有	炭少量含む 斑鉄あり
	3	10YR3/3	暗褐	S i C L	不良	有	斑鉄あり
	4	10YR4/4	褐	L i C	不良	有	暗褐色土ブロック状に入る 斑鉄あり
	5	7.5 YR3/2	黒褐	L i C	良	有	マンガン粒含む 斑鉄あり
	6	10YR4/4	褐	L i C	良	有	斑鉄あり
	7	10YR3/4	暗褐	S i C L	良	有	褐色土ブロック含む 炭少量 斑鉄あり
	8	10YR4/4	褐	L i C	良	有	暗褐色土ブロック状に入る 斑鉄あり
	9	10YR2/3	黒褐	L i C	良	有	褐色土ブロック混 炭少量 斑鉄あり
	10	10YR3/4	暗褐	S i C L	良	なし	斑鉄あり
	11	10YR4/4	褐	L i C	不良	有	暗褐色土ブロック状に入る 斑鉄あり
	12	10YR1.7/1	黒	S i C L	良	なし	金雲母含む 斑鉄あり
	13	10YR4/3	にぶい黄褐	S i C L	良	有	マンガン粒 斑鉄あり
	14	10YR3/3	暗褐	S i C	良	なし	斑鉄あり
SM 04C-C'	1	10YR3/4	暗褐	H C	良	なし	斑鉄あり
	2	10YR5/3	にぶい黄褐	L i C	良	なし	斑鉄あり 炭含む
	3	10YR4/4	褐	S i C	良	有	斑鉄あり
	4	10YR5/4	にぶい黄褐				ブロック 斑鉄あり
	5	10YR5/4	にぶい黄褐	S i C	良	やや有	斑鉄あり
	6	10YR4/3	にぶい黄褐	S i C L	やや良	なし	斑鉄あり
	7	10YR6/6	明黄褐				ブロック 斑鉄あり
	8	10YR4/4	褐				ブロック 斑鉄あり
	9	7.5 YR5/4	にぶい褐				ブロック 斑鉄あり
	10	10YR3/3	暗褐				ブロック 斑鉄あり
	11	10YR4/4	褐	S i C	良	有	斑鉄あり
	12	10YR3/4	暗褐				ブロック 斑鉄あり
	13	10YR4/4	褐				ブロック 斑鉄あり
	14	10YR5/4	にぶい黄褐	S i C	不良	有	斑鉄あり
	15	10YR4/2	灰黄褐	S i C	不良	有	斑鉄あり
	16	10YR3/2	黒褐				ブロック 斑鉄あり
	17	10YR4/4	褐	S i C	不良	有	斑鉄あり
	18	10YR5/4	にぶい黄褐	S i C	不良	有	斑鉄あり
	19	10YR2/3	黒褐				ブロック 斑鉄あり
	20	10YR3/2	黒褐	S i C L	不良	有	斑鉄あり
	21	10YR1.7/1	黒	S i C L	やや良	有	斑鉄あり
	22	10YR3/4	暗褐	S C L	やや良	有	斑鉄あり

表5 遺構土層観察表 (5)

遺構名	層	JIS 標準色票	土 壌 色	土 性	しまり	粘性	備 考
SM 04	23	10 YR5/4	にぶい黄褐	S i C	不良	有	斑鉄あり
SM 04	1	10YR4/3	にぶい黄褐	L i C	良	なし	
E-E'	2	7.5 YR3/2	黒褐	S i C L	良	なし	
	3	10YR4/3	にぶい黄褐	S i C L	良	やや有	
	4	10YR3/3	暗褐	H C	やや良	やや有	10YR5/6黄褐ブロック混 炭混じる
	5	10YR4/3	にぶい黄褐	H C	やや良	やや有	暗褐色ブロック混
	6	10YR3/4	暗褐	S i C L	やや良	なし	
	7	10YR3/2	黒褐	S i L	良	なし	オリーブ褐ブロック混
	8	10YR3/2	黒褐	L i C	良	有	炭混じる
	9	10YR2/1	黒	L i C	良	やや有	炭混じる
	10	10YR3/3	暗褐	S i C	やや良	やや有	炭混じる
	11	10YR3/3	暗褐	S i C	やや良	やや有	10YR4/4褐ブロック混 炭混じる
	12	10YR3/2	黒褐	L i C	良	やや有	炭混じる
	13	10YR3/4	暗褐	S i C	良	やや有	
	14	10YR4/4	褐	S i C	やや良	有	
	15	2.5 YR3/3	暗オリーブ褐	S	不良	やや有	
SM 05	1	10YR4/2	灰黄褐	L	不良	なし	多数の土器片及び炭化物を含む
A-A'	2	7.5 YR4/4	褐	S i L	良	やや有	炭化物を含む
	3	10YR4/6	褐	S i L	不良	やや有	多数の土器片を含む
	4	7.5 YR5/6	明褐	S i L	良	やや有	炭化物含む
	5	10YR5/6	黒褐	S	良	なし	粘土ブロック若干含む
B-B'	I						グラント 造成土
(SD22)	1	10YR2/3	黒褐	S i C L	良	なし	SD22埋土 炭混じる
	2	10YR3/4	暗褐	S i C L	良	有	SD22埋土
	3	10YR3/3	暗褐	S i C L	やや良	有	SD22埋土
	4	7.5 YR4/3	褐	S i C L	やや良	なし	SM05埋土
C-C'	1	10YR3/3	暗褐	S i C	良	なし	SD22埋土
(SD22)	2	10YR3/4	暗褐	S i C	良	なし	SM05埋土
(SM12)	3	10YR4/3	にぶい黄褐	S i C	良	なし	SM12埋土 ロームブロックを全体に含む
	4	攪乱					
SM 06	1	7.5 YR4/4	褐	S i C	良	やや有	土師小片含む 鉄分混ざり
B-B'	2	10YR2/3	黒褐	S i L	良	やや有	土師小片含む 朱微量に混じる 鉄分混ざり粘土がブロックで少量混じる
	3	10YR4/2	灰黄褐	S i C	良	有	鉄分混ざり
	4	10YR5/4	にぶい黄褐	H C	良	有	鉄分混ざり
	5	2.5 Y5/4	黄褐	H C	良	有	鉄分混ざり 土師小片含む 砂が小ブロック状に少量混じる

表 6 遺構土層観察表 (6)

遺構名	層	JIS 標準色票	土 壌 色	土 性	しまり	粘性	備 考
SM 06 (SD25) C-C'	1	10Y R4/3	にぶい黄褐	S i C	良	有	
	2	10Y R4/4	褐	S i C	良	やや有	
	3	2.5 Y5/4	黄褐	S i L	良	有	
	4	10Y R5/6	黄褐	S i C	良	有	
	5	10Y R3/4	暗褐	S i L	良	やや有	微量の炭、微量の土器片を含む
	6	10Y R3/2	黒褐	S i C L	良	やや有	
	7	10Y R6/6	明黄褐	H C	良	有	
	8	2.5 Y6/3	にぶい黄	S C L	不良	やや有	
	9	10Y R4/3	にぶい黄褐	S i C	良	有	
	10	10Y R3/4	暗褐	S i C	良	有	微量の土器片を含む
	11	10Y R2/3	黒褐	S i L	良	有	礫、微量の炭、微量の土器片を含む
	12	10Y R4/4	褐	S i L	良	やや有	小礫を若干含む
	13	10Y R5/6	黄褐	S i L	良	やや有	
	14	10Y R4/2	灰黄褐	S C	良	やや有	
	15	2.5 Y4/3	オリーブ褐	H C	不良	やや有	
D-D'	1	10Y R4/3	にぶい黄褐	S i L	良	なし	細砂を5%、鉄分を10%含む
	2	10Y R6/4	にぶい黄橙	S i L			細砂を5%、鉄分を7%含む 1層と交り合った感じ
	3	10Y R4/2	灰黄褐	S i C	良	やや有	粗砂を7%、鉄分20%、微量な炭化物含む
	4	10Y R3/3	暗褐	S i C	良	やや有	径2mm位の礫+粗砂5%含む 20mm程度の土器片微量の炭化物鉄分10%
	5	10Y R2/2	黒褐	S i C	良	有	径2mm位の礫+粗砂を7%含む 微量の炭化物鉄分5%
	6	10Y R4/2	灰黄褐	S i C	良	なし	細砂5%、鉄分10%含む
	7	10Y R5/2	灰黄褐	L i C	良	なし	鉄分5%
	8	10Y R4/3	にぶい黄褐	H C	良	有	微量の炭化物 鉄分10%
	9	10Y R4/2	灰黄褐	H C	良	有	径2mm位の礫+粗砂を10%含む 鉄分15%
	10	2.5 Y5/2	暗灰黄	S C	不良	やや有	微量の鉄を含む
	11a	10Y R6/4		L S	不良	なし	鉄をおびて6/4に見えるがもう少し色は薄いかもしれない
	11b	10Y R4/4	褐	S i L	良	やや有	鉄分20%
	12	10Y R4/2	灰黄褐	S i C	良	有	粗砂10% 全体に鉄をかぶった感じ
13	10Y R5/2	灰黄褐	S C	良	やや有		
SM 07 C-C'	1	10Y R4/4	褐	S i C	良	有	混じり小さなロームブロックを少量含む
	2	10Y R3/4	暗褐	S i C	良	有	
	3	10Y R4/3	にぶい黄褐	L i C	良	やや有	
	4	10Y R3/4	暗褐	S i C	良	やや有	
	5	10Y R4/3	にぶい黄褐	S i L	良	やや有	
D-D'	1	10Y R3/4	暗褐	S i C L		やや有	
	2	10Y R4/4	褐	S i C		やや有	

表7 遺構土層観察表 (7)

遺構名	層	JIS 標準色票	土 壤 色	土 性	しまり	粘性	備 考
SM 07 E-E'	1	10Y R4/4	褐				
	2	10Y R2/3	黒褐				
	3	10Y R3/4	暗褐				
	4	10Y R4/6	褐				
	5	10Y R5/4	にぶい黄褐				
F-F'	1	10Y R3/4	暗褐	S i C L	良	なし	
	2	10Y R3/3	暗褐	S i C L	良	なし	
	3	10Y R4/4	褐	S i C L	良	なし	
	4	10Y R4/6	褐	S i C L	良	なし	
SM 08 C-C'	1	10Y R4/4	褐	S i L	良	なし	
	2	10Y R5/4	にぶい黄褐	S	不良	なし	
	3	10Y R5/3	にぶい黄褐	S	不良	なし	
D-D'	1	10Y R4/4	褐	S i L	良	なし	
	2	10Y R5/3	にぶい黄褐	S	不良	なし	
SM 09 B-B'	1	10Y R5/4	にぶい黄褐	H C	良	有	礫30%
	2	10Y R4/4	褐	H C	良	やや有	礫30%
	3	10Y R4/3	にぶい黄褐	S C	不良	なし	礫80%
C-C'	1	10Y R5/4	にぶい黄褐	S i C	良	やや有	微量の炭化物含む 粗砂～礫40%含む
SM 10	1	10Y R5/4	にぶい黄褐	H C	良	有	大小の礫50%
SM 11 C-C'	1	10Y R2/3	黒褐				炭混じり
	2	10Y R3/4	暗褐				
	3	10Y R4/3	にぶい黄褐				
	4	10Y R5/3	にぶい黄褐				
	5	10Y R3/4	暗褐				
	6	10Y R4/6	褐				
	7	10Y R3/4	暗褐				炭混じり
D-D'	1	10Y R3/4	暗褐				
	2	10Y R4/4	褐				
	3	10Y R6/4	にぶい黄橙				
SM 12 B-B'	1	10Y R3/4	暗褐	S i C	良	有	
	2	10Y R4/4	褐	S i C	不良	有	
C-C'	1	10Y R4/6	褐	S i C	良	有	
	2	10Y R4/4	褐	S i C L	良	有	
	3	10Y R4/3	にぶい黄褐	S L	不良	やや有	
SK 16	1	10Y R5/6	黄褐	S i C	良	やや有	
SK 17	1	10Y R4/3	にぶい黄褐	S i C	良	やや有	焼土、炭微量に混じる

表 8 遺構土層観察表 (8)

遺構名	層	JIS 標準色票	土 壌 色	土 性	しまり	粘性	備 考
SK 17	2	10YR5/6	黄褐	S i C	良	やや有	径2mm程度の粗砂を微量に含む 炭、焼土混入
	3	10YR6/4	にぶい黄橙	S i C	良	やや有	砂の小ブロックが10%位
SK 18	1	10YR4/3	にぶい黄褐	S i C	良	やや有	
	2	10YR5/6	黄褐	S i C	良	やや有	砂がブロック状に10%程混じる
SK 19	1	10YR3/4	暗褐	S i C L	良	なし	炭少々含む
SK 36	1	10YR4/4	褐	S i C	良	有	
	2	10YR6/6	明黄褐		良	やや有	ローム層
SK 37	1	10YR3/3	暗褐				
	2	10YR4/4	褐				
	3	10YR6/6	明黄褐				
SD 27	1	10YR4/3	にぶい黄褐	H C	良	有	土器片微量に含む 大小の礫30%含む
	2	10YR3/1	黒褐	S i C	良	有	焼土、炭混じる
	3	10YR3/3	暗褐	S	不良	なし	大小の礫20%含む 焼土微量に混じる
	4	10YR4/2	灰黄褐	S i C	良	有	大小の礫30%含む 焼土、炭混じる
SD 30	1	10YR4/4	褐	S i C	良	有	礫少量含む 炭化物微量に含む
S I 03・04	1	2.5 Y3/3	暗オリーブ褐	S i C	良	有	炭を含む
	2	10YR3/3	暗褐	S L	良	有	炭を含む 遺物若干含む
	3	2.5 Y3/2	黒褐	S C L	良	有	遺物若干含む
	4	10YR5/3	にぶい黄褐	S i C	やや良	有	
	5	10YR4/2	灰黄褐	S i C	やや良	有	炭を含む
	6	10YR3/2	黒褐	H C	やや良	有	
	7	2.5 Y5/2	暗灰黄	S	良	なし	
第3地点							
SB 49		7.5 YR3/4	暗褐	S i C	良	有	
SB 50		10YR2/3	黒褐	S i C	良	有	
SB 54		10YR2/2	黒褐	H C	良	有	
SB 55		7.5 YR3/4	暗褐	H C	良	有	
SB 56		10YR4/2	灰黄褐	H C	良	有	
SB 57 <sup>カマド</sup>	1	7.5 YR3/2	黒褐	S i C	良	有	暗黄褐色ブロック混
	2	7.5 YR2/2	黒褐	L i C	良	なし	炭、焼土混
	3	7.5 YR4/4	褐	S i C	良	有	炭、灰、焼土少量混
	4	7.5 YR2/3	暗暗褐	S i C	不良	有	焼土、炭、灰多量
	5	7.5 YR2/1	黒	S i C	不良	有	炭多い
SB 58・59	I	7.5 YR3/2	黒褐	L i C	良	なし	炭化物、焼土粒含む
	II	7.5 YR2/1	黒	S i C	良	有	炭化材、焼土含む 焼失住居
	III	7.5 YR4/4	褐	S i C	良	有	貼床

表9 遺構土層観察表(9)

遺構名	層	JIS 標準色票	土 壌 色	土 性	しまり	粘性	備 考
SB 58・59	1	7.5 YR4/4	褐	LiC	良	なし	貼床 SB58がSB59を切る
	2	7.5 YR3/2	黒褐	LiC	良	有	僅かに硬く締まった貼床あり
	3	7.5 YR3/4	暗褐	SiC	良	有	僅かに硬く締まった貼床あり
SB 59カト	1	10YR3/2	黒褐	砂			径数の礫もごくまばらに混ざる
	2	7.5 YR3/4	暗褐	砂			径数の礫もごくまばらに混ざる
	3	10YR6/4	にぶい黄橙	砂			径数の礫もごくまばらに混ざる
	4	焼土					径数の礫もごくまばらに混ざる
SB 60		7.5 YR3/2	黒褐	LiC	良	なし	
SB 61		7.5 YR3/4	暗褐	SiC	良	やや有	
SB 62		7.5 YR3/2	黒褐	LiC	良	やや有	
SM 13		耕土					
	1	10YR2/2	黒褐	LiC	良	有	
	2	10YR4/4	褐	LiC	不良	なし	
	3	10YR2/3	黒褐	SiC	良	有	
	4	10YR3/3	暗褐	SiC	良	有	
	5	10YR4/3	にぶい黄褐	SiC	不良	やや有	
	6	10YR3/2	黒褐	SiC	不良	やや有	
SM 18	I	耕土					
	II	10YR2/3	黒褐	HC	良	有	
	1	10YR2/1	黒	HC	良	有	
	2	10YR2/2	黒褐	HC	良	有	
SM 19		10YR2/2	黒褐	HC	良	有	
SK 45		10YR2/3	黒褐	LiC	良	やや有	
SK 46		10YR4/1	褐灰	HC	良	有	黄橙色粘土ブロック混 焼骨片入る
SK 47	1	10YR3/3	暗褐	HC	良	有	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	SiC	良	有	
	3	10YR4/4	褐	LiC	やや良	有	
SK 48			黒褐				
SK 49		10YR2/3	黒褐	HC	良	有	
SK 51			黒褐				
SK 53			黒褐				
SK 54			黒褐				
SK 55			褐				
SK 56		7.5 YR3/2	黒褐	LiC	良	有	
SD 36		10YR4/2	灰黄褐	HC	良	有	
SD 37		7.5 YR3/2	黒褐	SiC	良	やや有	

表10 遺構土層観察表 (10)



遺構名	層	JIS 標準色票	土 壤 色	土 性	しまり	粘性	備 考
SD 38		7.5 YR2/2	黒褐	S i C	良	有	
SD 39			褐				
SD 40		7.5 YR3/2	黒褐	S i C	良	有	
SD 41		7.5 YR4/3	褐	S i C	良	なし	
SD 42		7.5 YR3/2	黒褐	L i C	良	有	
第4地点							
SB 68		7.5 YR3/4	暗褐	S i C	良	やや有	
カマド	1	10YR3/2	黒褐	C L	良	有	焼土、炭混じる
	2	5 YR3/2	暗赤褐	C L	良	なし	焼土、炭混じる
SB 69	1	10YR3/4	暗褐	C L	良	やや有	径3mmほどの炭化物やや混入
	2	10YR4/2	灰黄褐	C L	良	やや有	径3~10mmほどの炭化物、黄色ブロックやや混入
SB 70	1	10YR4/3	にぶい黄褐	S C L	良	やや有	径3~10mmほどの炭化物、黄色ブロックやや混入
SB 72		7.5 YR3/3	暗褐	C L	良	やや有	
カマド	1	7.5 YR3/2	黒褐	C L	良	なし	
SB 73		7.5 YR3/4	暗褐	C L	良	やや有	
SB 74		7.5 YR3/3	暗褐	C L	良	やや有	
SB 75		7.5 YR3/3	暗褐	C L	良	やや有	
カマド	1	7.5 YR4/4	褐	S i C	良	有	焼土、炭混じる
SB 76		7.5 YR3/2	黒褐	L i C	良	有	炭を含む
SB 77		7.5 YR2/3	極暗褐	L i C	良	なし	
SB 78		7.5 YR3/4	暗褐	S i C	良	有	炭化物を含む
SB 79		7.5 YR2/2	黒褐	S i C	良	有	炭化物を多く含む
カマド	1	7.5 YR2/3	極暗褐	S i C	良	なし	焼土混じる
	2	7.5 YR3/2	黒褐	S i C	良	有	炭、焼土多量に含む
	3	5 YR4/4	にぶい赤褐	L i C	良	なし	焼土
	4	7.5 YR2/3	極暗褐	S i C	良	なし	炭、焼土少量含む
	5	7.5 YR4/3	褐	S i C	良	なし	7.5YR2/3黒褐ブロック30%混じる
SB 80		7.5 YR2/2	黒褐	L i C	良	有	
SB 81		7.5 YR4/3	褐	S i C	良	有	
SB 82		7.5 YR3/2	黒褐	S i C	良	有	
SM 20		7.5 YR3/2	黒褐	S i C	良	なし	
SM 21		7.5 YR2/2	黒褐	S i C	良	やや有	
SK 60			黒褐				
SK 61			黒褐				
SK 62			黒褐				
SK 70			黒褐				

表11 遺構土層観察表 (11)

遺構名	層	JIS 標準色票	土 壌 色	土 性	しまり	粘性	備 考
SK 71			灰褐				
SK 72			黒褐				
SK 73			黒褐				
SK 74			黒褐				
SK 77			黒褐				
SD 44			黒褐				
SD 46			褐				
SD 47			褐				
SD 48			黒褐				
SD 49		7.5 YR5/6	明褐	SiC	良	なし	40%
		7.5 YR2/3	極暗褐				60%
SD 50		7.5 YR2/3	黒褐	SiC	良	有	
第5地点							
SB 51		10YR2/3	黒褐	LiC	良	やや有	
SB 52		10YR2/3	黒褐	LiC	良	やや有	
SB 53		10YR2/3	黒褐	LiC	良	やや有	
SB 65		7.5 YR3/3	暗褐	SiCL	良	やや有	
SM 14・16	1	10YR4/1	褐灰	SiCL			地山ブロック少量
	2	10YR3/2	黒褐				径1cm位の小石少量入る
	3	10YR5/1	褐灰		良		
	4	10YR5/3	にぶい黄褐		良		
	5	10YR5/4	にぶい黄褐	SL	なし		
	6	10YR6/4	にぶい黄褐	SL			
	7	10YR2/1	黒	SL			
SM 14・17	I	10YR4/3	にぶい黄褐	SiC		やや有	径3~5mmの炭化物、礫やや多く混入
	II	10YR5/8	黄褐	SiC		やや有	径3~5mmの礫やや混入
	III	10YR4/2	灰黄褐	SiC		やや有	径3~5mmの炭化物やや多く混入
	1	7.5 YR4/1	褐灰	SiCL	やや良	有	
	2	10YR5/3	にぶい黄褐	SiCL	良	有	
	3	7.5 YR3/1	黒褐	SiCL	良	有	炭化物、径10cm位の礫入る
	4	10YR4/2	灰黄褐	SiCL	良	有	炭化物、径10cm位の礫入る
	5	10YR5/2	灰黄褐	SiCL			砂がやや多い
	6	10YR6/2	灰黄褐	SL		なし	砂がやや多い
7	10YR6/4	にぶい黄橙	SL		なし	砂がやや多い	
SM 15・17	I	10YR4/3	にぶい黄褐	SiC		やや有	径3~5mmの炭化物、礫やや多く混入
	II	10YR5/8	黄褐	SiC		やや有	径3~5mmの礫やや混入

表12 遺構土層観察表 (12)

遺構名	層	JIS 標準色票	土 壌 色	土 性	しまり	粘性	備 考
SM 15・17	Ⅲ	10Y R4/2	灰黄褐	S i C		やや有	径3~5mmの炭化物やや多く混入
	1	10Y R3/3	暗褐	S i C		やや有	
	2	10Y R4/3	にぶい黄褐	S i C		やや有	径3~20mmの炭化物やや混入
	3	10Y R4/6	褐	S C L		やや有	径5~10mmの礫少量混入 径3mmほどの炭化物少量混入
	4	10Y R4/4	褐	S i C		やや有	
	5	10Y R5/6	黄褐	S i C		やや有	径3mmほどの炭化物やや混入
	6	10Y R5/4	にぶい黄褐	S L		やや有	径3mmほどの炭化物やや多く混入
	7	10Y R5/8	黄褐	S C L		やや有	径3~5mmの炭化物、黄色ブロックやや多く混入
	8	10Y R4/3	にぶい黄褐	S L		有	径3~5mmの炭化物やや混入
	9	10Y R4/2	灰黄褐	S i C		有	
	10	10Y R4/2	灰黄褐	S L		有	
	11	10Y R5/3	にぶい黄褐	S		やや有	
	12	10Y R3/2	黒褐	S i C		やや有	
	13	10Y R2/3	黒褐	S i C		やや有	径3~5mmの黄色ブロックやや多く混入
SK 57		7.5 Y R3/2	黒褐	S i C L	良	有	
SK 58		7.5 Y R3/2	黒褐	S i C L	良	やや有	
SD 43		7.5 Y R3/3	暗褐	S i C L	良	やや有	

表13 遺構土層観察表 (13)

## 第Ⅳ章 総 括

平成7・8年度の調査は、第1・2地点は農業構造改善やグラウンド造成のために遺構・遺物の遺存状態があまり良好でなく、また、第3～5地点は既存校舎間の部分的調査のために断片的な遺構検出にとどまったという点で、あまり条件に恵まれなかったという感がある。こうした制約のために、各遺構の詳細時期を把握することが十分にできず、集落の様相も明確にし得ない部分が多いが、各時代・時期について平成3年度の調査結果と併せて概観し、総括としたい。

### 1. 縄文時代

松尾地区における縄文時代集落の調査例として、本遺跡より一段低い段丘上に立地する妙前遺跡で中期後半の集落址の調査例がある。

本遺跡で確実に縄文時代の遺構と捉えられるものは、今次調査地点にはなく、該期の様相を示すものとしては、第3～5地点からの断片的な遺構外出土遺物があるのみである。平成3年度調査地点でも該期の遺構・遺物があり、流れ込みとは考えられない遺物の状態から、縄文時代の集落は今次調査地点北側に展開していた可能性が指摘できよう。

### 2. 弥生時代後期～古墳時代前期（挿図 111）

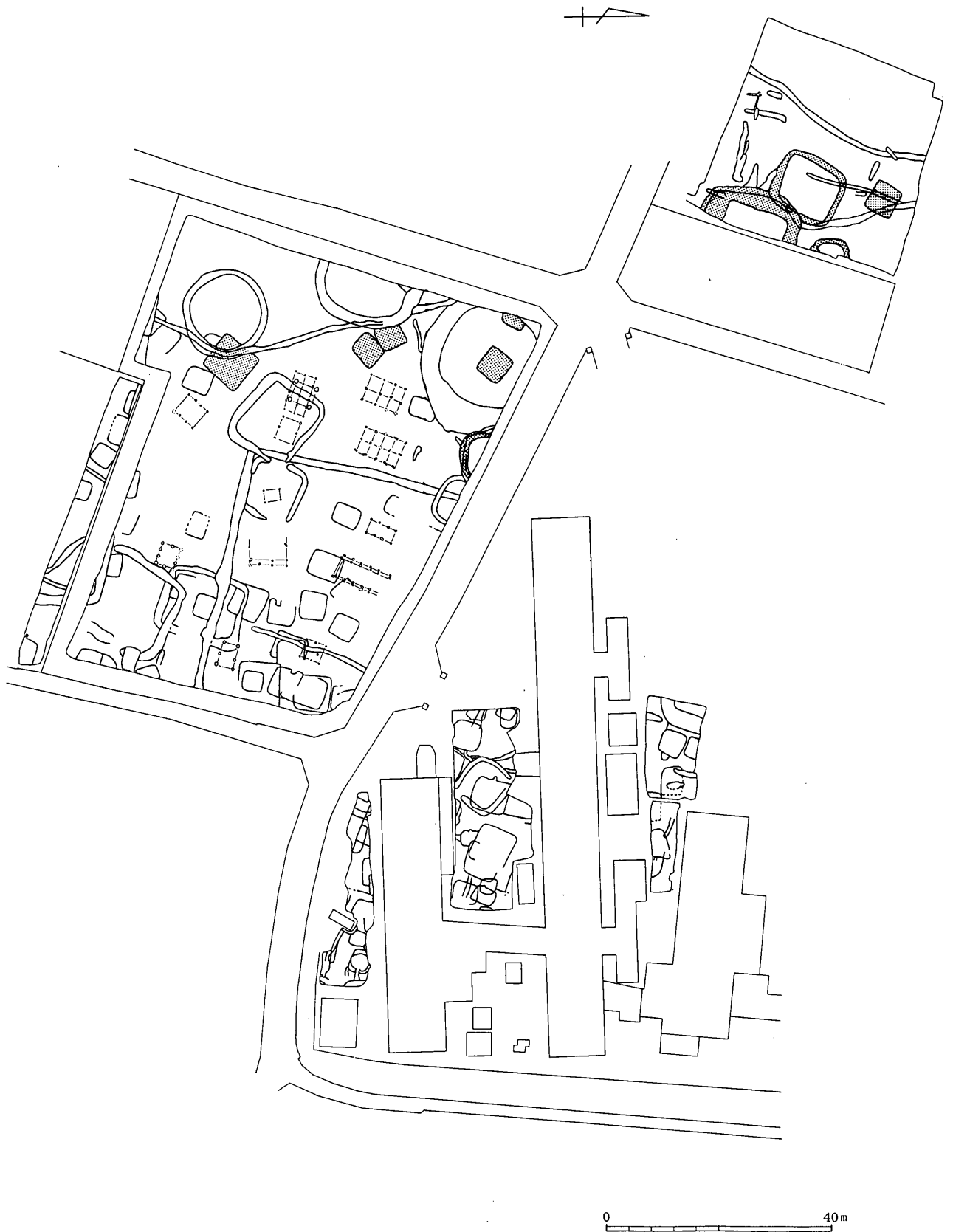
まず、遺構分布についてみると、住居群（SB02～05・07・12）と方形周溝墓群（方形周溝墓1～3・SM05）のまとまりが看取される。平成3年度調査地点北側は建替え前のプールによって破壊されており状況が不明であるものの、方形周溝墓1～3北側に1号住居址があり、住居群が展開すると考えられる。居住域と墓域とが明確に分かれるわけではないが、住居群と墳墓群が繰り返し連続していく集落景観は、市内鼎田井座遺跡（飯田市教委 1988・1991a・1991b・1992a・1995a・1996a）・一色遺跡（同 1991a・1996b）、恒川遺跡群等でもみられる。

該期は、平成3年度調査区東半および第1地点西半に遺構が分布し、段丘の中央部分を中心に集落が営まれている。SB65から遺物の混入出土がある以外、東側の段丘縁辺部から遺構・遺物は検出されておらず、この部分まで居住域は広がっていない。こうした集落の占地から、この時代の集落を支えた生産基盤は、JR飯田線付近の上位段丘崖下に広がる湿地帯が考えられ、下位の段丘上に展開する湿地帯は別の集落が利用していた可能性が示唆される。

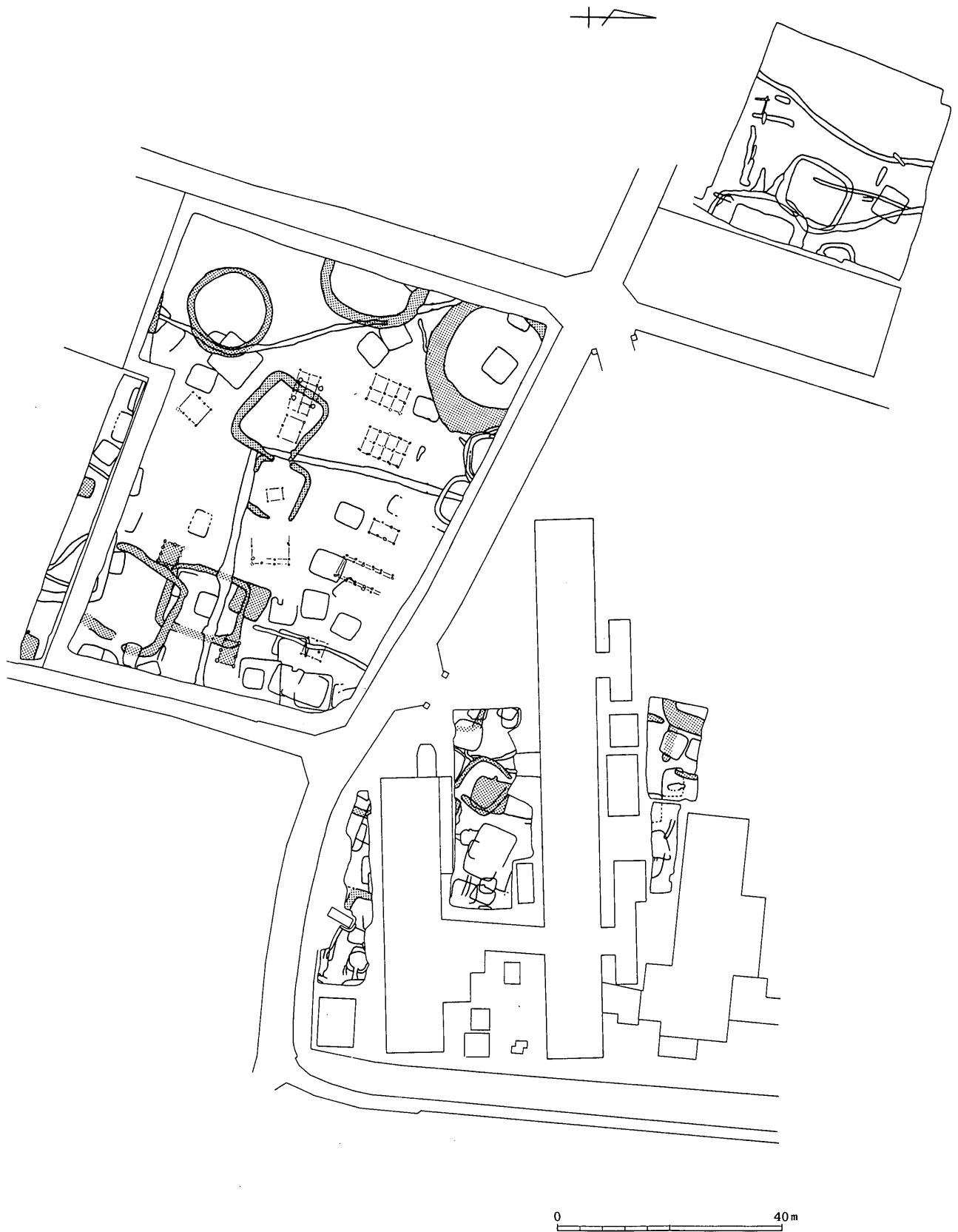
### 3. 古墳時代中期～後期（挿図 112）

この時期は、確実に時期が判る住居址がほとんどなく、居住域はあまり明確ではない。とはいうものの、前半はほぼ全面に墓域が広がるのに対し、後半は居住域へと変貌すると考えられる。

SM04は、全体および周溝の規模が他とは隔絶しており、周辺には煙滅した下毛賀1～3号古墳があったとされるため、当初古墳とも考えた。グラウンド整地層直下で検出され、墳丘は確認されなかったが、埋土中ににぶい黄褐色土の堆積が認められることから、本来は墳丘を有していたと考えられる。しかし、周溝の形状は周溝墓に近く、埋葬施設は不明で、また、葺石やその転落石がなく外表施設はないと考え



挿図111 時期別遺構変遷図(弥生時代後期~古墳時代前期)



挿図 1 1 2 時期別遺構変遷図（古墳時代中期～後期）

られることから、最終的に周溝墓に含めている。同様な墳墓群が調査された寺所遺跡（飯田市教委 1999）では、「立地・平面形や墓域の形成等定型化した古墳の影響下に成立したとは考えにくく、弥生時代からの伝統によって築造された様相が強い」ことから『墳丘墓』の名称を使用しているが、（おそらく墳丘をもつと考えられるが）現実には墳丘をもっていたか否か判断がつかない墳墓が多い中で、『墳丘墓』を用いることは混乱を助長するだけのようと思われる。

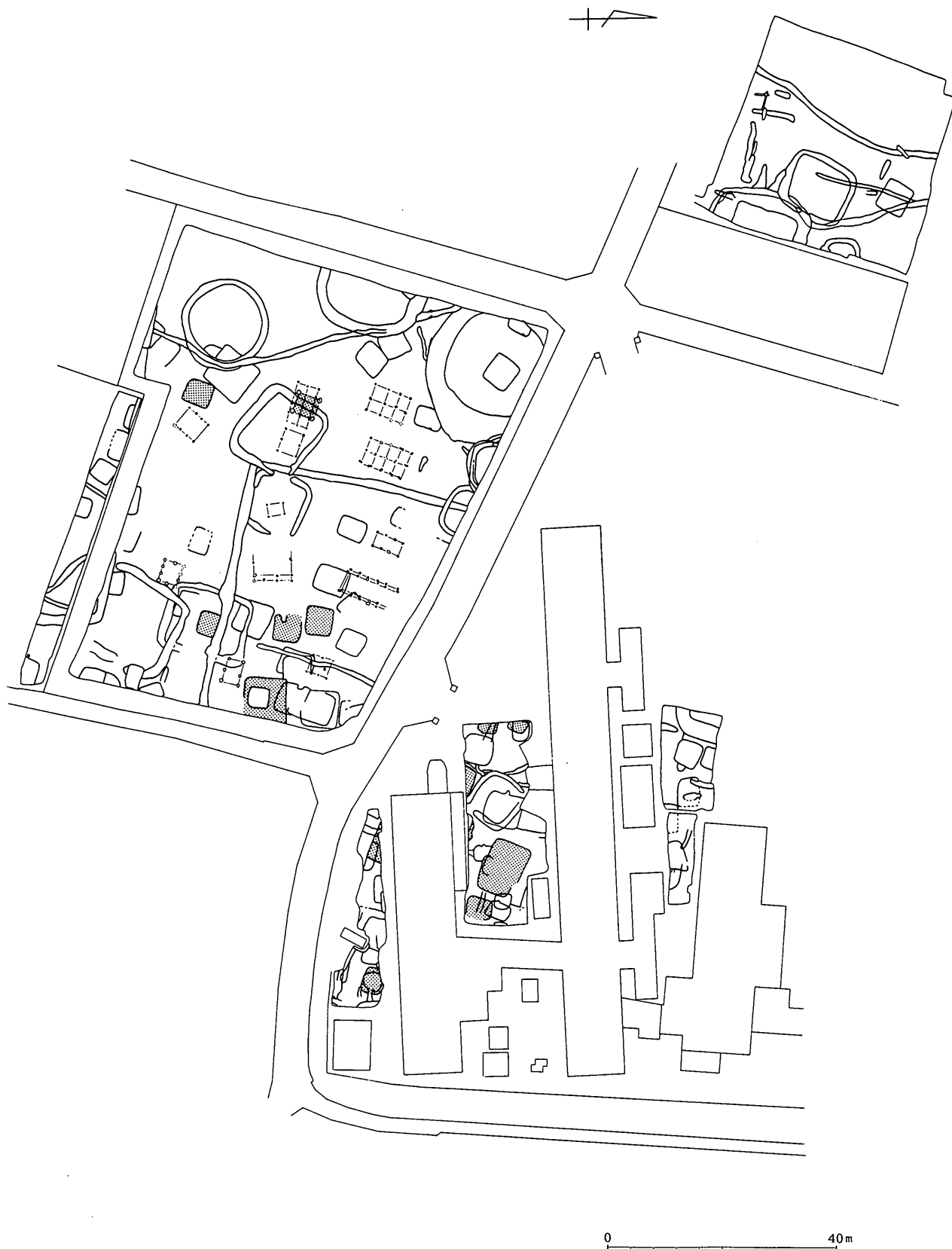
寺所遺跡では、墓域の形成が古墳の影響下に行なわれたとは考え難いとされた。しかし、市内上川路上の坊遺跡（未報告）では、長野県史跡馬背塚古墳に近接して貼り石をもつ方形周溝墓が検出されているし、本遺跡でも内容は不明であるものの、煙滅した下毛賀1～3号古墳と近接する。また物見塚古墳（飯田市教委 1992b）や溝口の塚古墳をめぐる墳墓群（未報告）等を考慮すると、墓域の形成過程も「弥生時代からの伝統」と古墳の影響といった2相では捉えきれないように思われる。

SM04・SM06・SM08の3基の墓は、その年代観から、一面では5世紀中葉～6世紀初頭にかけての墳墓形態の変遷（方形→円形）を示すとも考えられる。本遺跡で平成3年に調査された貼り石をもつ方形周溝墓の場合には、弥生時代後期後半～古墳時代中期に築造されたことが明らかにされつつあり、形態が時代につれて変化するのではなく、多様な形態が同時併存していたと考える方が良いのではないかと考えられる。一概にはいえないが、方形周溝墓3→方形周溝墓1→SM06→SM04の変化として、時代が下るにつれて大型化する傾向が指摘できよう。SM09・SM10は、周溝の底面を検出したのみで、詳細時期ははっきりしないが、規模からみて本期に位置づくと考えたい。

#### 4. 奈良時代～平安時代前期（挿図 113）

第1・3・4地点を中心に、居住域が展開する。SD25に連続すると考えられる平成3年度に調査された溝址3では、平安時代後期まで周溝墓の周溝が埋まりきらず、これに重ねて溝址が開削されたと考えられている。こうした状況から、SM04とSM08を結ぶ線より西側は墳墓群が残り、墓域としての意識が継続していた可能性が高い。

この時代を代表する遺構として、礎石を伴うSB24・SB72がある。礎石を伴う類例として、飯田市上郷堂垣外遺跡52号住居址・66号住居址（飯田市教委 1994）、松本市下神遺跡SB78・SB97（長野県埋蔵文化財センター 1990b）、南栗遺跡SB565（同 1990c）、北栗遺跡SB23・SB78（同 1990d）、三の宮遺跡SB151（同 1990e）、北方遺跡SB15（同 1989）、南栗・北栗遺跡75号住居址（松本市教委 1985）、佐久市芝宮遺跡群46号竪穴住居跡・175号竪穴住居跡、同上聖端遺跡H21号住居址（佐久市教委 1993）、群馬県渋川市若宮遺跡6～9号住居址（渋川市教委 1998）等がある。他に可能性があるものとして、庭木の移植を挟んで調査を別けて行なったため、関連性が十分に把握できなかった、恒川遺跡群田中・倉垣外地籍240号住居址・掘立柱建物址30（飯田市教委 1991c）がある。以上の諸遺跡の各例を概観すると、支柱に礎石が据えられるAタイプ（若宮遺跡6～9号住居址）、壁のやや内側に礎石が配列されるBタイプ（堂垣外遺跡52・66号住居址、下神遺跡SB78、南栗遺跡SB565、北栗遺跡SB23・SB78、北方遺跡SB15、南栗・北栗遺跡75号住居址、芝宮遺跡群46号竪穴住居跡・175号竪穴住居跡、上聖端遺跡H21号住居址）、それに両者が併用されるCタイプ（田圃遺跡SB24・SB72、下神遺跡SB97、三の宮遺跡SB151）がある。望月 映氏はBタイプについて、掘立柱建物を竪穴内に据えた礎石上に構築したと考えているが（長野県埋蔵文化財センター 1990a）、



挿図 1 1 3 時期別遺構変遷図（奈良時代～平安時代）



Cタイプの例から住居の支柱に伴う礎石と考える方が妥当だろう。また、北方遺跡S B15や、下神遺跡S B97の新旧2時期のうち古い施設では、壁下約70cm離れて80～150cm間隔に列石があり、列石上に壁が作られたことが推定されており、この部分に壁があったことが想定される。下神遺跡S B97例は、恒川遺跡群田中・倉垣外地籍76号住居址（飯田市教委 1986）との関連でも注目される。この他、B・Cタイプの、礎石間に溝状の掘り込みがある例として、堂垣外遺跡52号住居址・下神遺跡S B78・三の宮遺跡S B151 例がある。列石と同様、支柱間に壁が伴うと考えてよからう。

各例の時期については、北栗遺跡S B23は11世紀代まで下るが、それ以外は概ね8世紀後半～9世紀代とされる。8世紀後半という時期から想起されることとして、8世紀後半以降、郡衙の正倉において礎石建物の比率が増すことがある（山中 1994）。望月氏が『伝統的な住居址構築法が解体し、また、（中略）掘立柱建物址との融合も指摘でき、住居址の構造の総体の変貌をとげた』と指摘するとおり（長野県埋蔵文化財センター 1990a）、地方官衙への礎石建物の導入を契機として、竪穴住居に礎石が導入されたと考えることができるだろう。各例に共通して規模が大きいことや、出土遺物の内容（三彩・緑釉・円面硯等出土の堂垣外遺跡66号住居址、転用硯出土の北方遺跡S B15、銅鏡出土の三の宮遺跡S B151 等）からは、集落の中で有力な家であったことが窺える。

これまで飯田市では、竜丘安宅遺跡（飯田市教委 1995b）・久井遺跡（同 1993）・堂垣外遺跡・恒川遺跡群で官衙的遺構・遺物が調査されており、また、これに先立つ前方後円墳や古瓦出土地の分布が川路・竜丘・松尾・上郷・座光寺地区にある等、古代東山道の通過地を推定させる材料が揃いつつある。本遺跡でも、官衙的遺物の出土はないが、上述の礎石を伴う竪穴住居址があり、また、柱間や柱穴の規模が大きい掘立柱建物址S B01があり、古代東山道との関連を十分示唆するものと考えられる。

## 5. 平安時代後期（挿図 114）

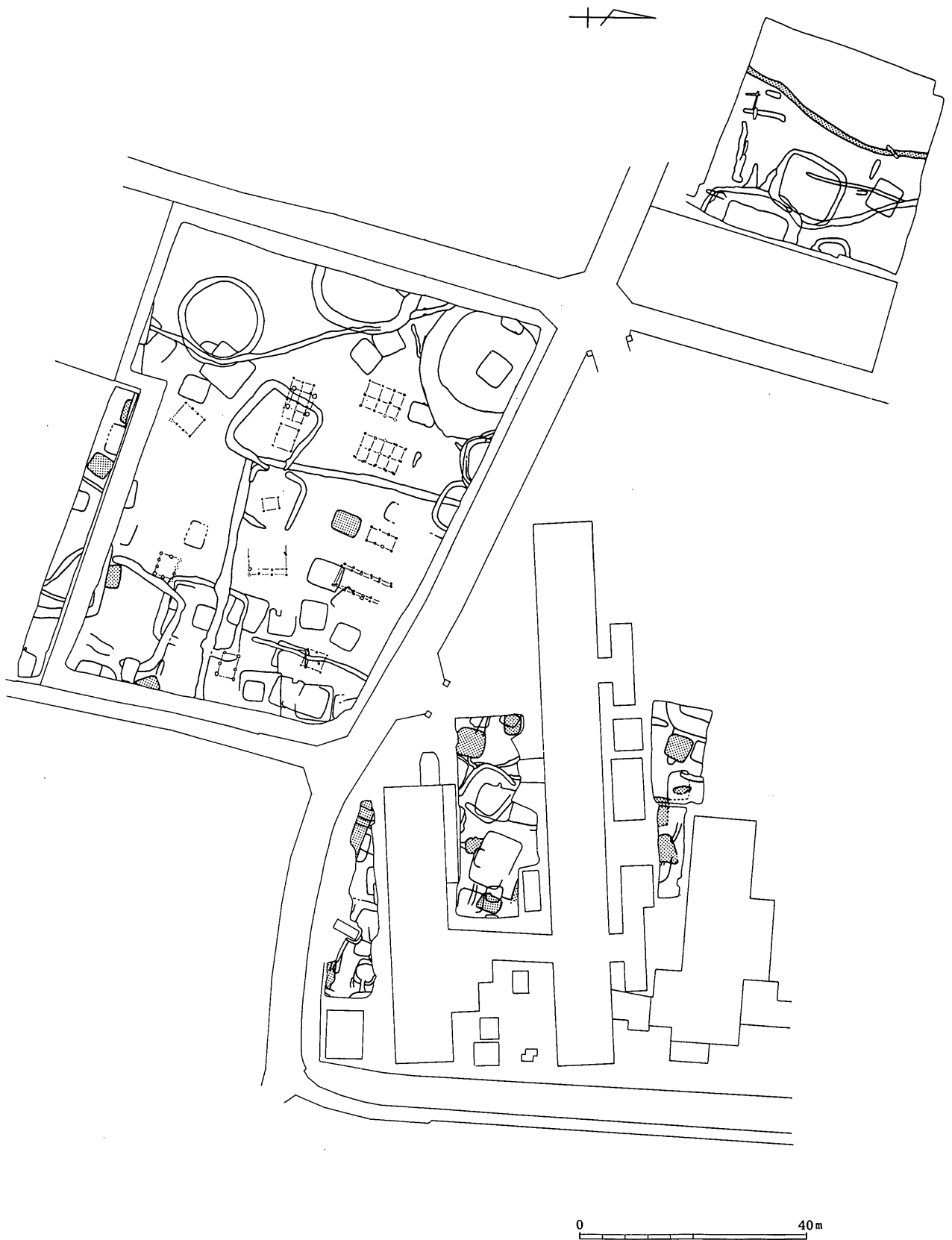
前代と同じく、墳墓群に対する意識の継続がみられ、集落は同様の展開をとる。遺構の中で第3地点で調査されたS D36が特に注目される。調査はごく一部分のみなされたにすぎず、全体形や規模等不明な点が多い。底部は平坦で鉄分・マンガンの沈澱がみられ、水の流れた痕跡はない。壁は緩やかな立ち上がりを示し、1辺がほぼ直線状に延びていることから区画施設と判断したが、その機能等についてもなお不明である。

## 6. 中世（挿図 115）

主に、第1地点を中心に掘立柱建物址群・溝址等が検出されているが、第3～5地点でも組み合う柱穴は確認できなかったものの、多数の小柱穴があり、該期の建物等があった可能性がある。

掘立柱建物址は棟方向を揃えた2棟程度が1単位で4以上の群がある。S T07A・B、S T09A・Bは同位置で建て替えられていることから、長期に亘る占有が考えられよう。共伴する遺物がないため、詳細な時期の把握は困難である。

溝址は直交方向を意識して配されており、建物群とはやや軸方向を異にするが、屋敷を区画していた可能性もある。



挿図 1 1 4 時期別遺構変遷図（平安時代後期）

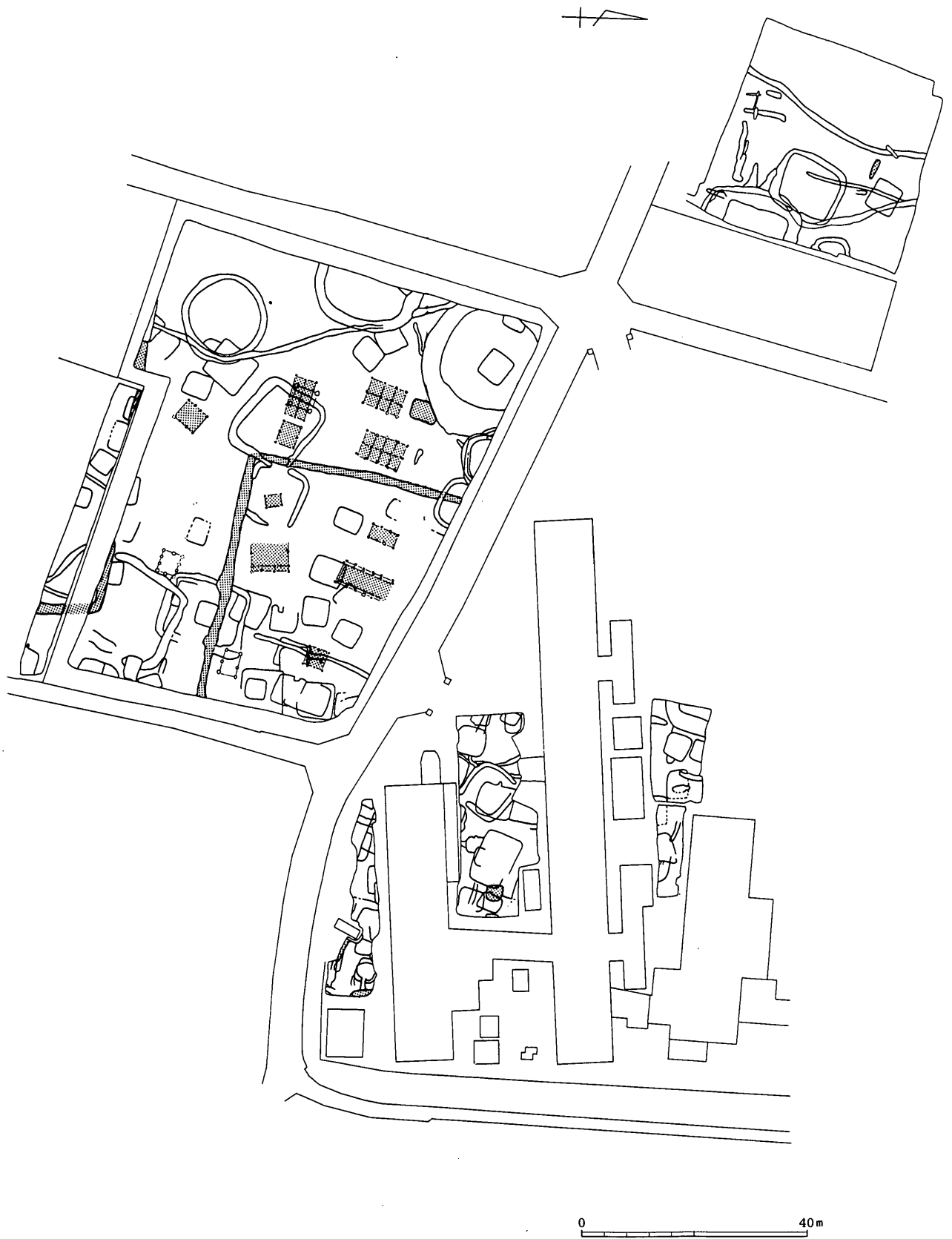


插图 115 时期别遺構変遷図 (中世)

## 7. 近世

前述の小柱穴の中には、該期のものも多数含まれるものとみられるが、規模・構造等詳細は不明である。中世以降今日に至るまで、連綿と生活・生産の場であったことが考えられる。

以前行なわれた圃場整備事業やグラウンド造成、そして今次学校校舎建設により、記録保存されたものを含め多くの考古資料が失われている。そうした中で、平成10年度に実施された第5地点北側のグラウンド整備事業では、良好な遺存状況が確実視されている遺構・遺物に配慮して、盛り土してそれらを残すこととなった。今次調査結果が活かされた形である。しかし、本遺跡周辺では宅地開発等が急速に進展しており、今後とも、文化財保護の弛まぬ努力が求められている。

### 《引用・参考文献》

#### 第II章関係

- 飯田市教育委員会 1971 『妙前大塚(3)号古墳』  
飯田市教育委員会 1972・74 『南の原遺跡』  
飯田市教育委員会 1976 『清水遺跡』  
飯田市教育委員会 1978 『毛賀御射山遺跡』  
飯田市教育委員会 1980 『猿小場遺跡』  
飯田市教育委員会 1991 『城遺跡』  
飯田市教育委員会 1991 『清水遺跡』  
飯田市教育委員会 1992 『八幡原遺跡 物見塚古墳』  
飯田市教育委員会 1992 『八幡原遺跡』  
飯田市教育委員会 1992 『八幡原遺跡』  
飯田市教育委員会 1992 『猿小場遺跡』  
飯田市教育委員会 1993 『田圃遺跡』  
飯田市教育委員会 1993 『久井遺跡』  
飯田市教育委員会 1994 『長野県飯田市代田山狐塚古墳の測量調査』  
神村 透 1967 「飯田市寺所遺跡とその他の遺跡」『長野県考古学会誌』 4  
佐藤甦信 1982 「寺所遺跡と寺所式土器」『中部高地の考古学』 II  
下伊那誌編纂會 1955 『下伊那史』 第二卷  
下伊那誌編纂會 1955 『下伊那史』 第三卷  
下伊那誌編纂會 1991 『下伊那史』 第一卷  
下伊那地質誌編集委員会編 1976 『下伊那の地質解説』  
長野県史刊行会 1981 『長野県史 考古資料編 全一卷(一) 遺跡地名表』

長野県史刊行会 1983 『長野県史 考古資料編 全一卷 (三) 主要遺跡 (南信)』

松尾村誌編纂委員会 1982 『松尾村誌』

八幡一郎 1972 『日本中部山地に於ける縄文早期文化の研究 (上)』

#### 第IV章関係

飯田市教育委員会 1986 『恒川遺跡群』

飯田市教育委員会 1988 『田井座遺跡』

飯田市教育委員会 1991a 『田井座遺跡・一色遺跡・名古熊下遺跡』

飯田市教育委員会 1991b 『田井座遺跡』

飯田市教育委員会 1991c 『恒川遺跡 田中・倉垣外地籍』

飯田市教育委員会 1992a 『田井座遺跡』

飯田市教育委員会 1992b 『八幡原遺跡 物見塚古墳』

飯田市教育委員会 1993 『久井遺跡』

飯田市教育委員会 1994 『堂垣外・橋爪・藪上・長橋遺跡』

飯田市教育委員会 1995a 『田井座遺跡』

飯田市教育委員会 1995b 『安宅遺跡』

飯田市教育委員会 1996a 『田井座遺跡』

飯田市教育委員会 1996b 『一色遺跡』

(財)長野県埋蔵文化財センター 1989 『南中遺跡 北中遺跡 北方遺跡 上手木戸遺跡』 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書10

(財)長野県埋蔵文化財センター 1990a 『総論編』 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4

(財)長野県埋蔵文化財センター 1990b 『下神遺跡』 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書6

(財)長野県埋蔵文化財センター 1990c 『南栗遺跡』 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書7

(財)長野県埋蔵文化財センター 1990d 『北栗遺跡』 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書8

(財)長野県埋蔵文化財センター 1990e 『三の宮遺跡』 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書9

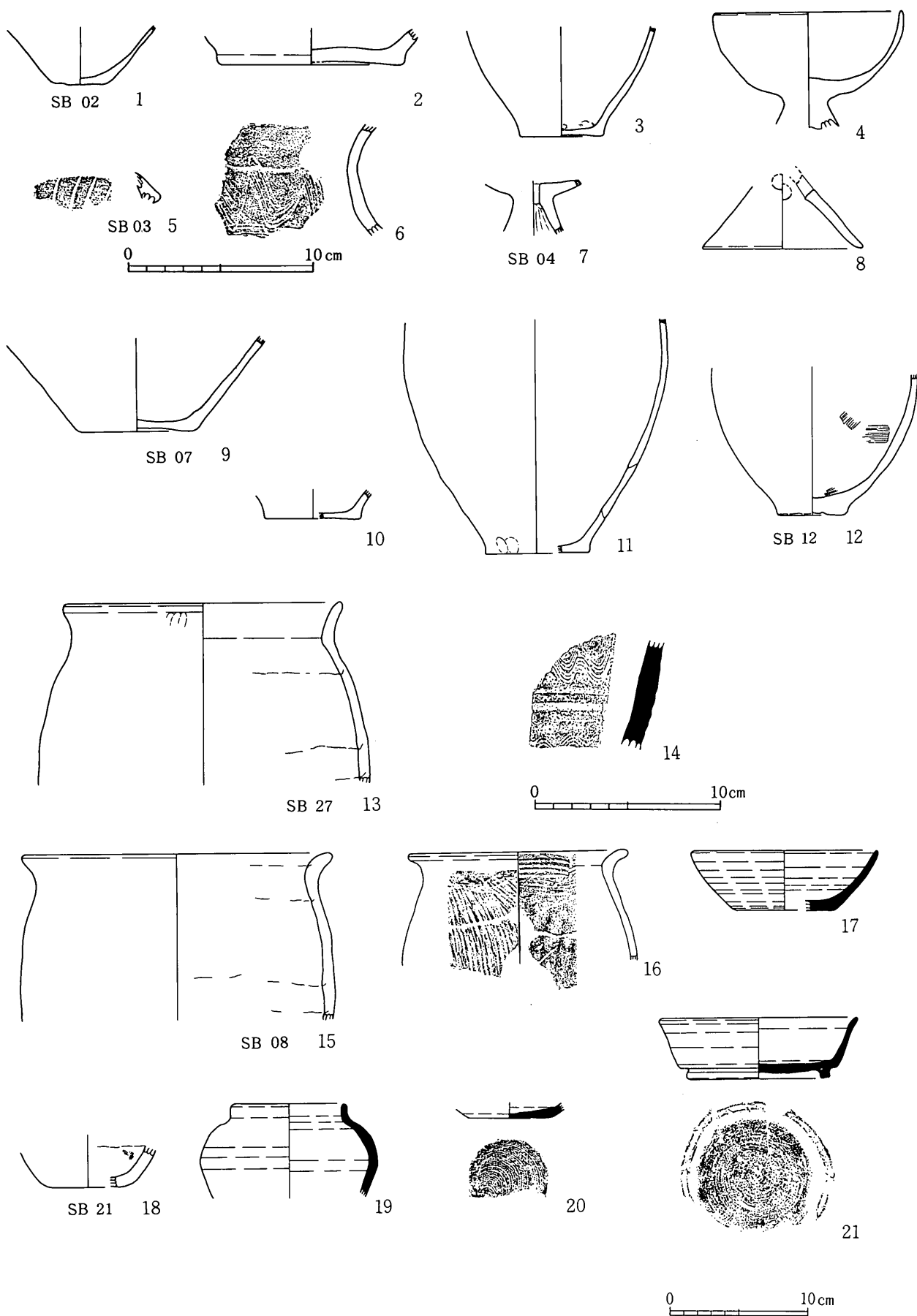
(財)長野県埋蔵文化財センター 1999 『芝宮遺跡群 中原遺跡群』 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書18

佐久市教育委員会 1993 『上聖端遺跡』 佐久市埋蔵文化財調査報告書第24集

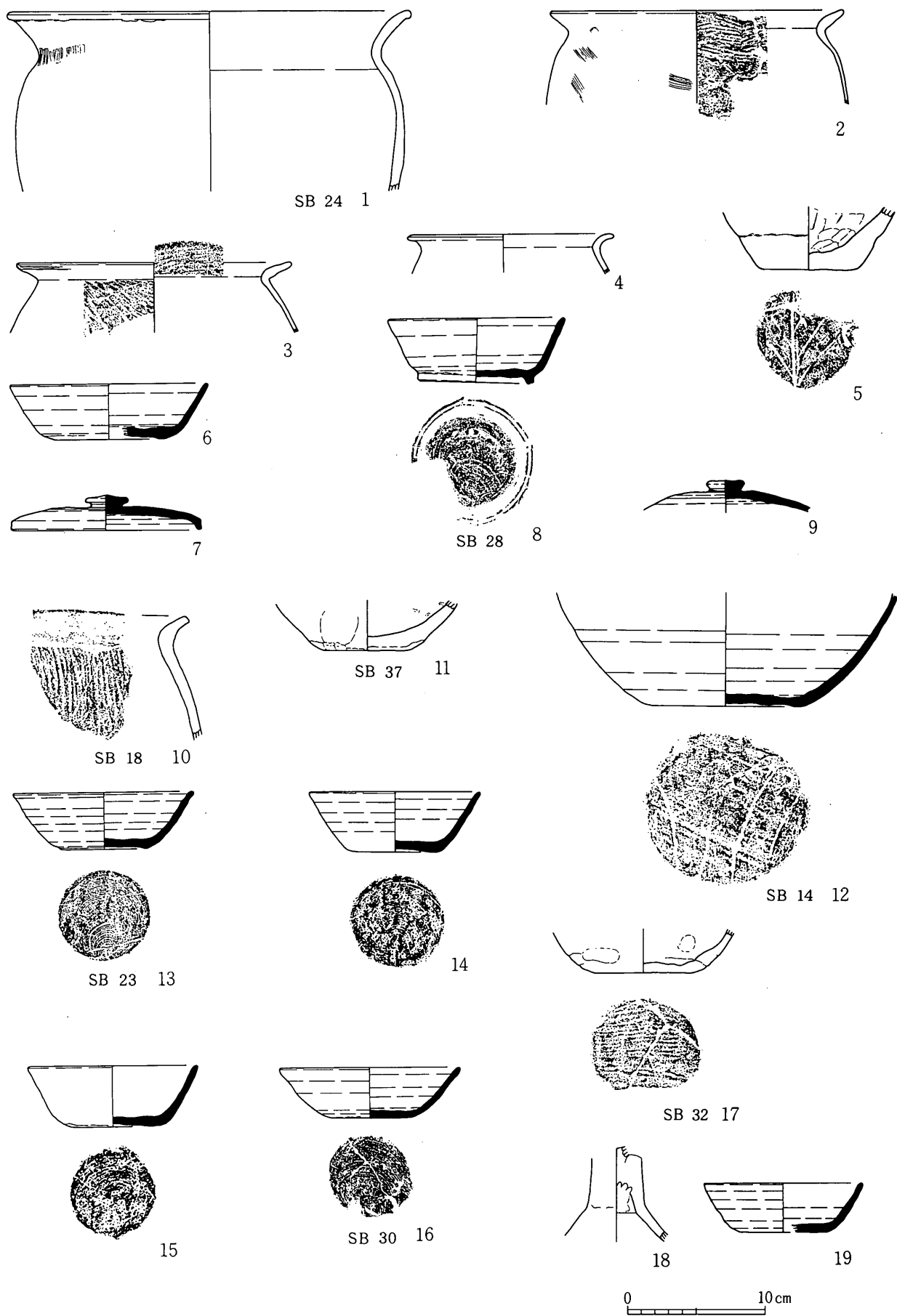
渋川市教育委員会 1998 『若宮遺跡』

松本市教育委員会 1985 『松本市島立南栗・北栗遺跡 高綱中学校遺跡、条里的遺構』

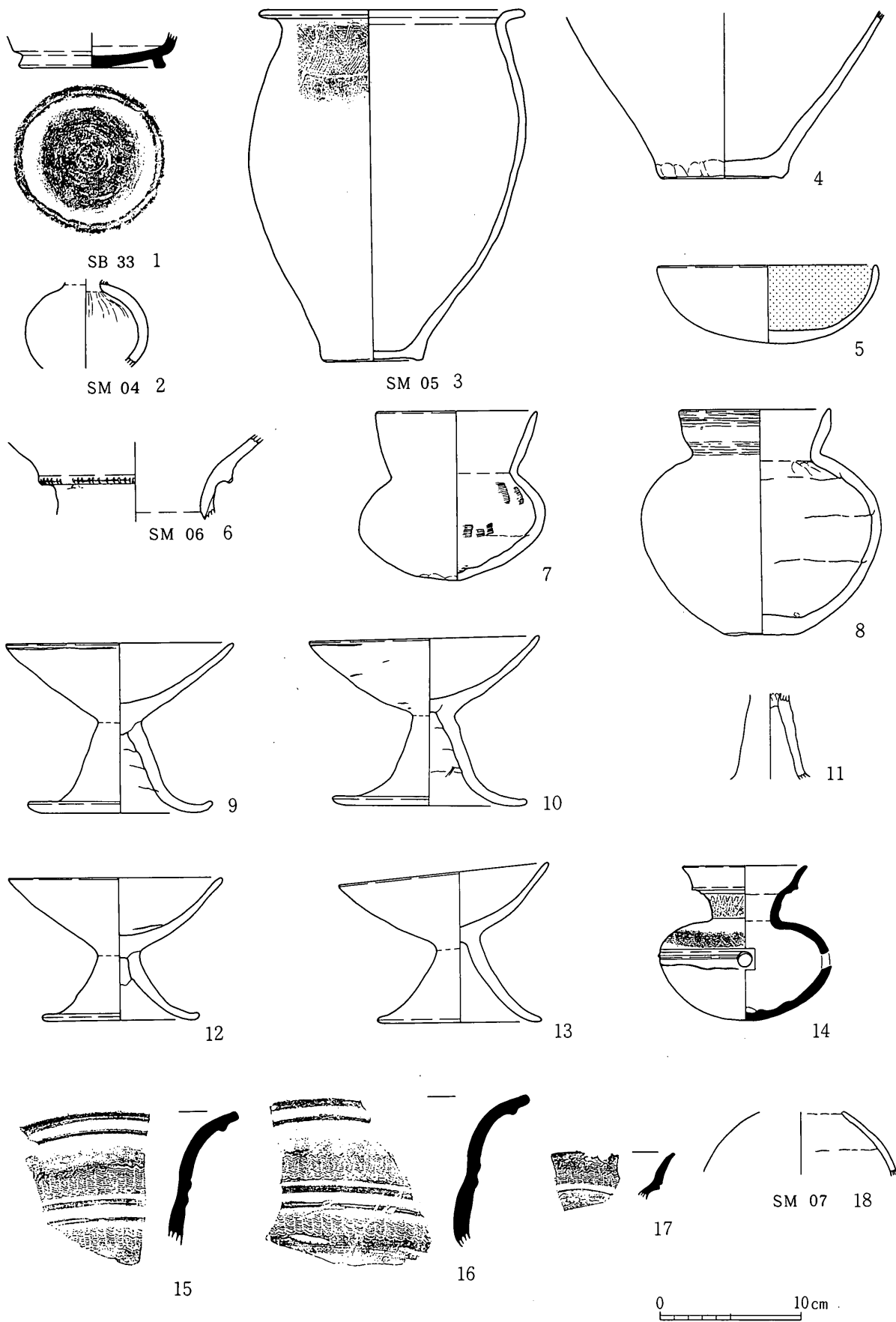
山中敏史 1994 『古代地方官衙遺跡の研究』



第1図 SB02~SB04 SB07 SB12  
SB27 SB08 SB21

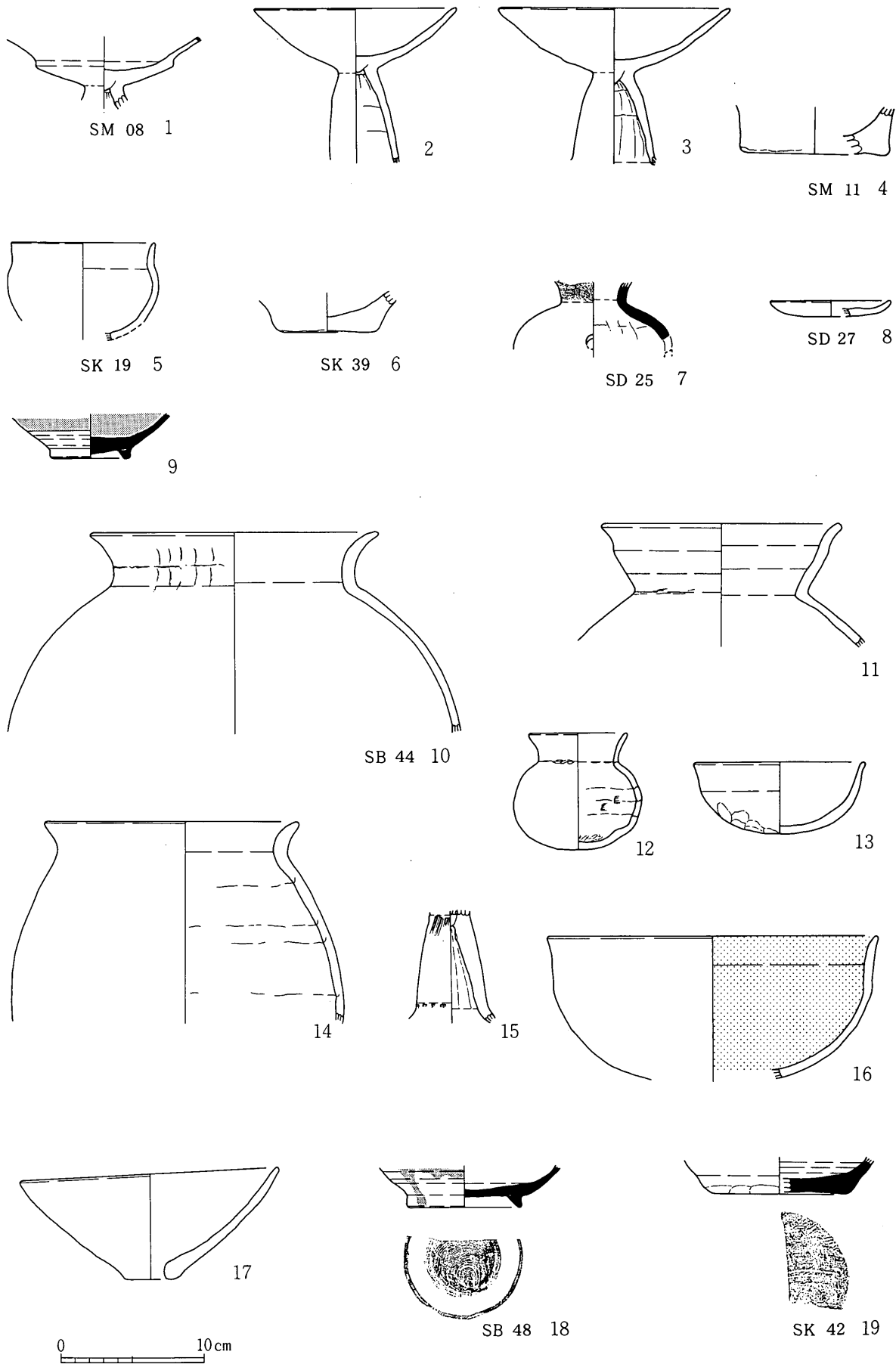


第2図 SB24 SB28 SB18 SB37  
SB14 SB23 SB30 SB32

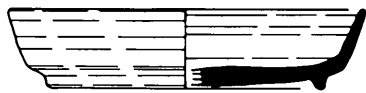


第3図 SB33 SM04~SM07

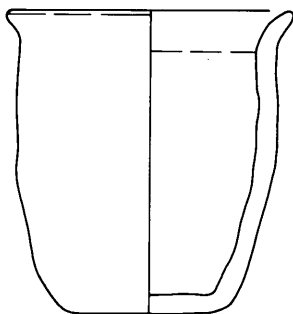




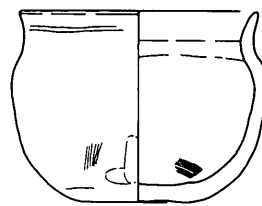
第4图 SM08 SM11 SK19 SK39  
SD25 SD27 SB44 SB48  
SK42



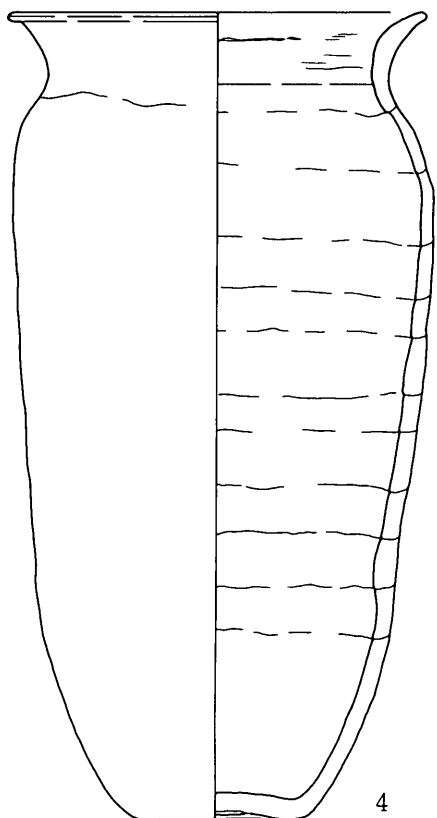
SB 50 1



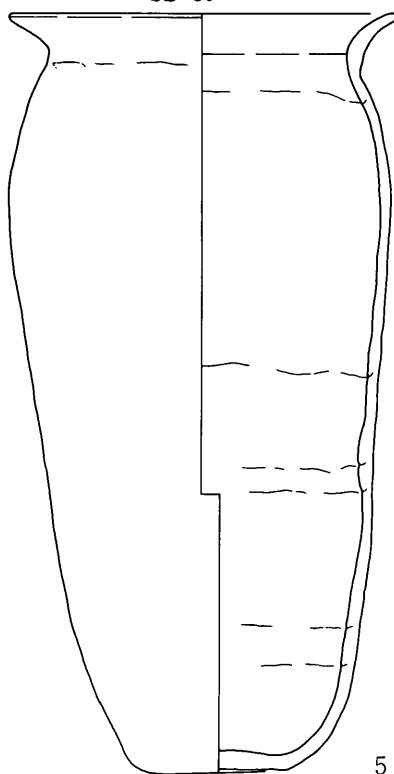
SB 59 2



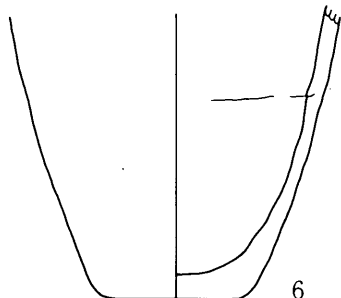
3



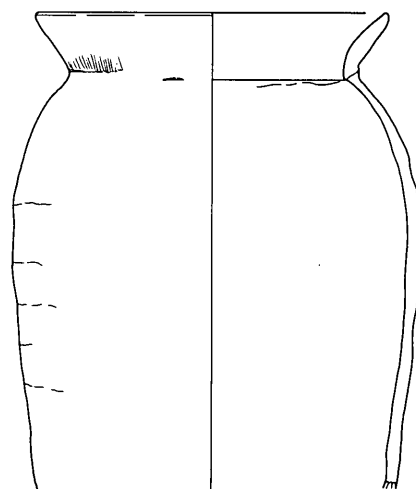
4



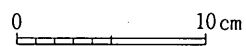
5



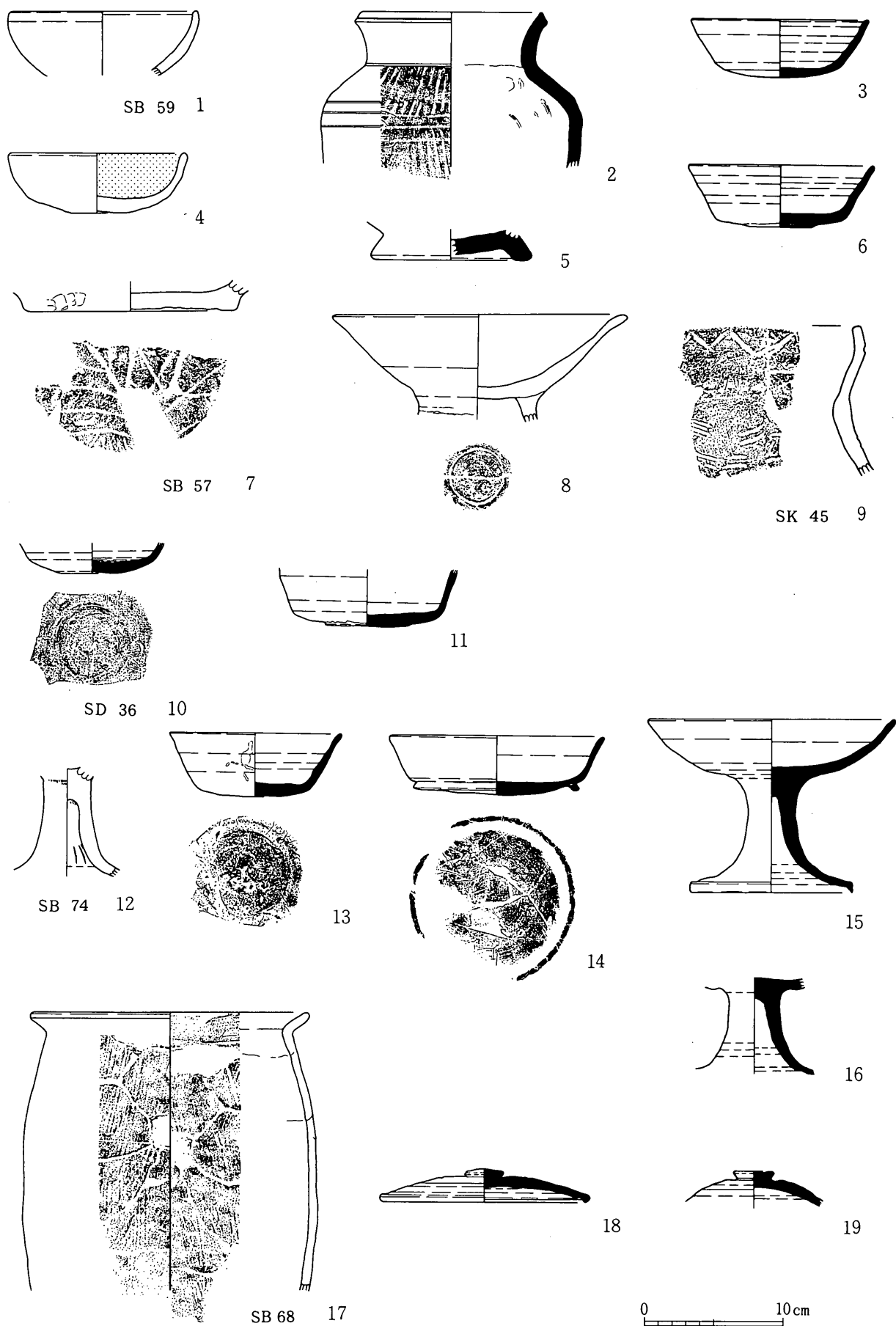
6



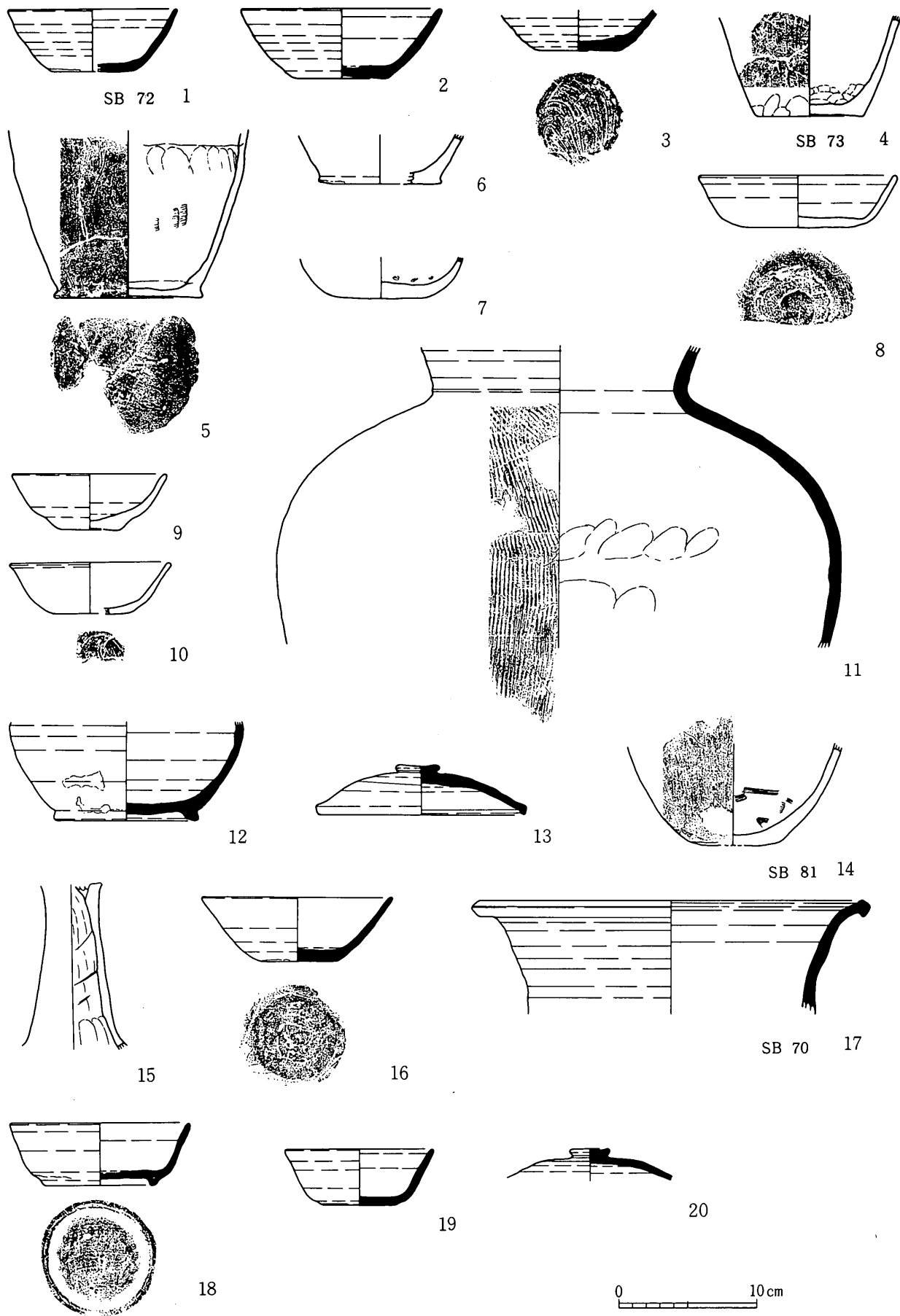
7



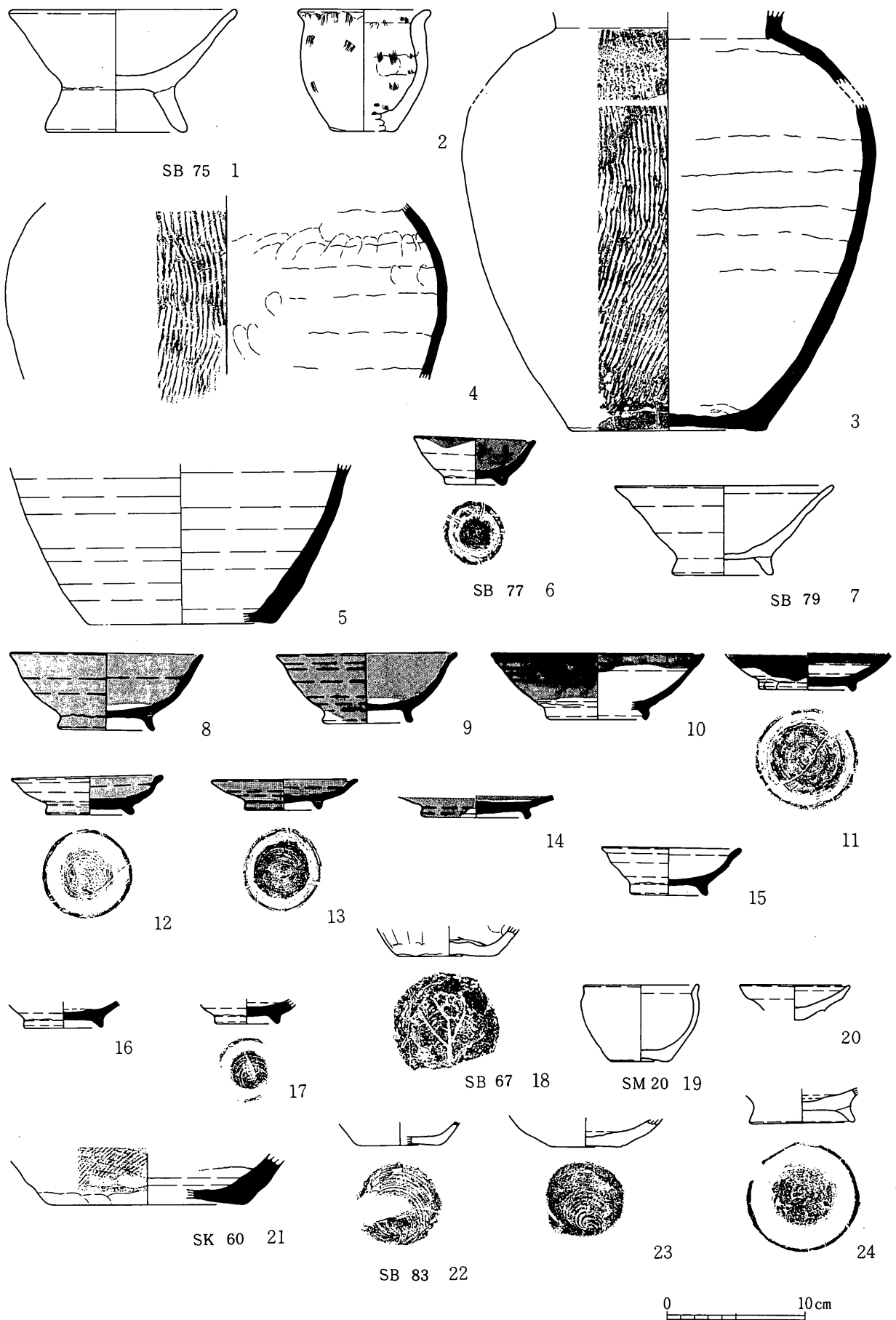
第5図 SB50 SB59



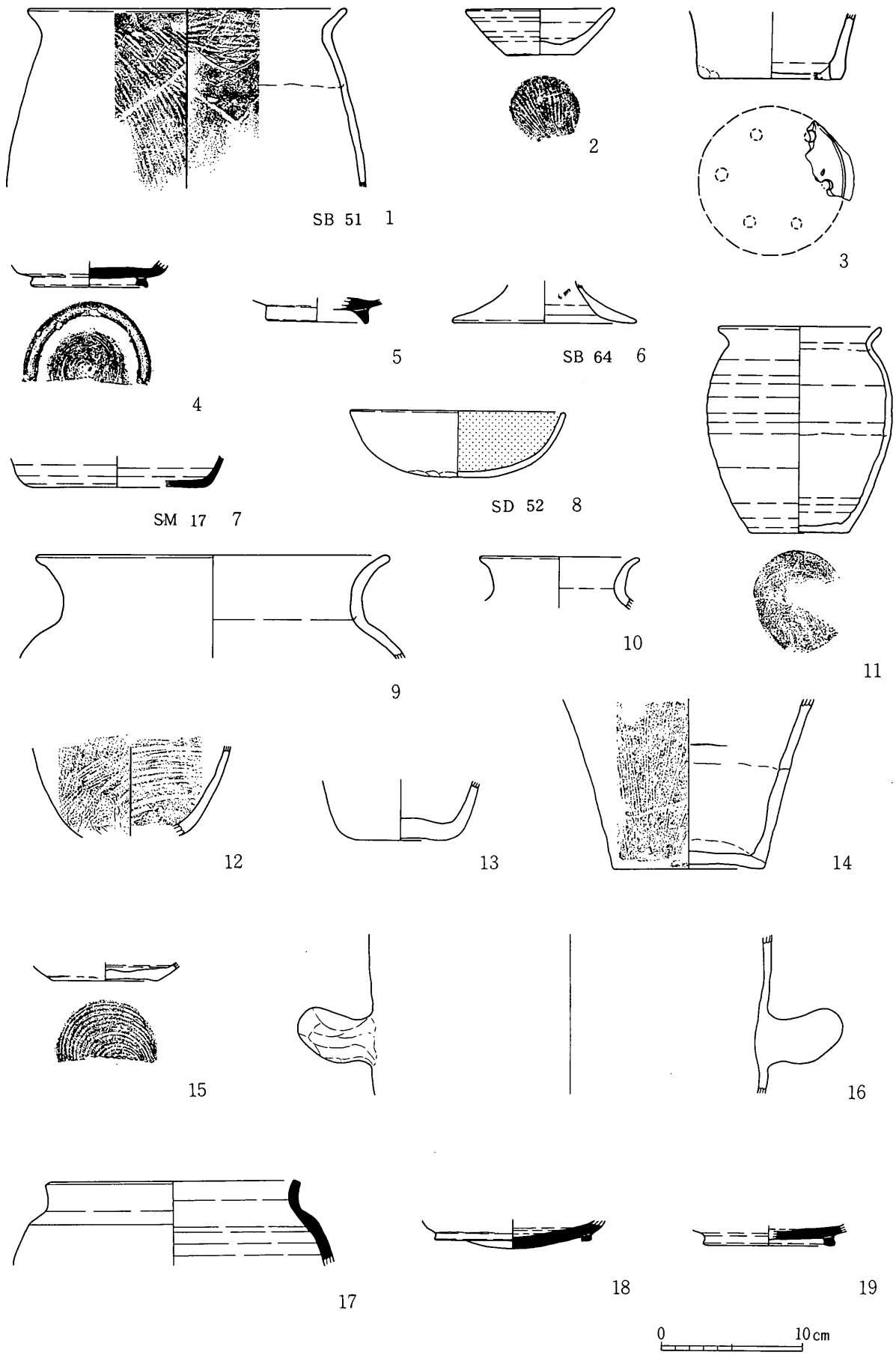
第6图 SB59 SB57 SK45 SD36  
SB74 SB68



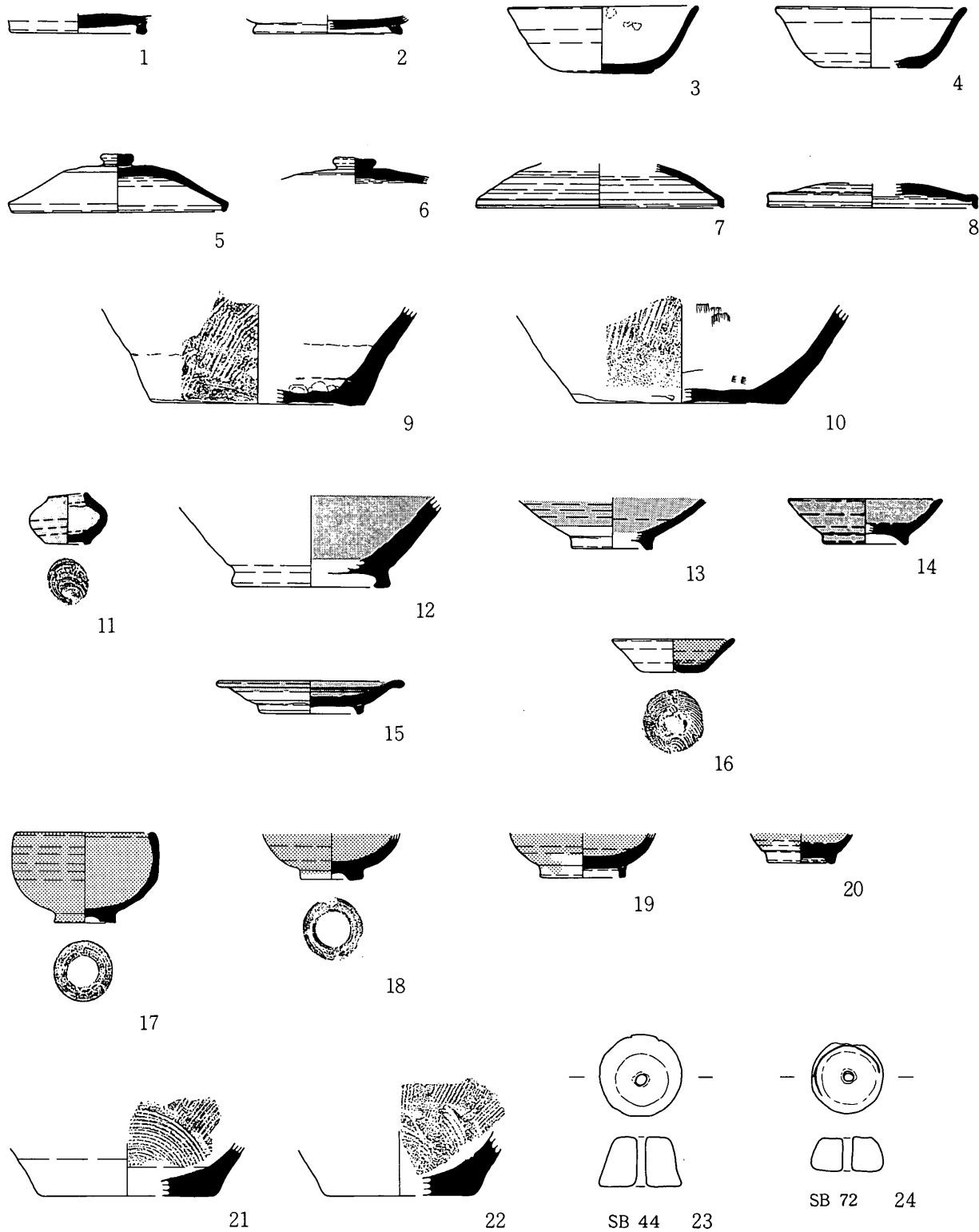
第7图 SB72 SB73 SB81 SB70



第8图 SB75 SB77 SB79 SB67  
SM20 SK60 SB83

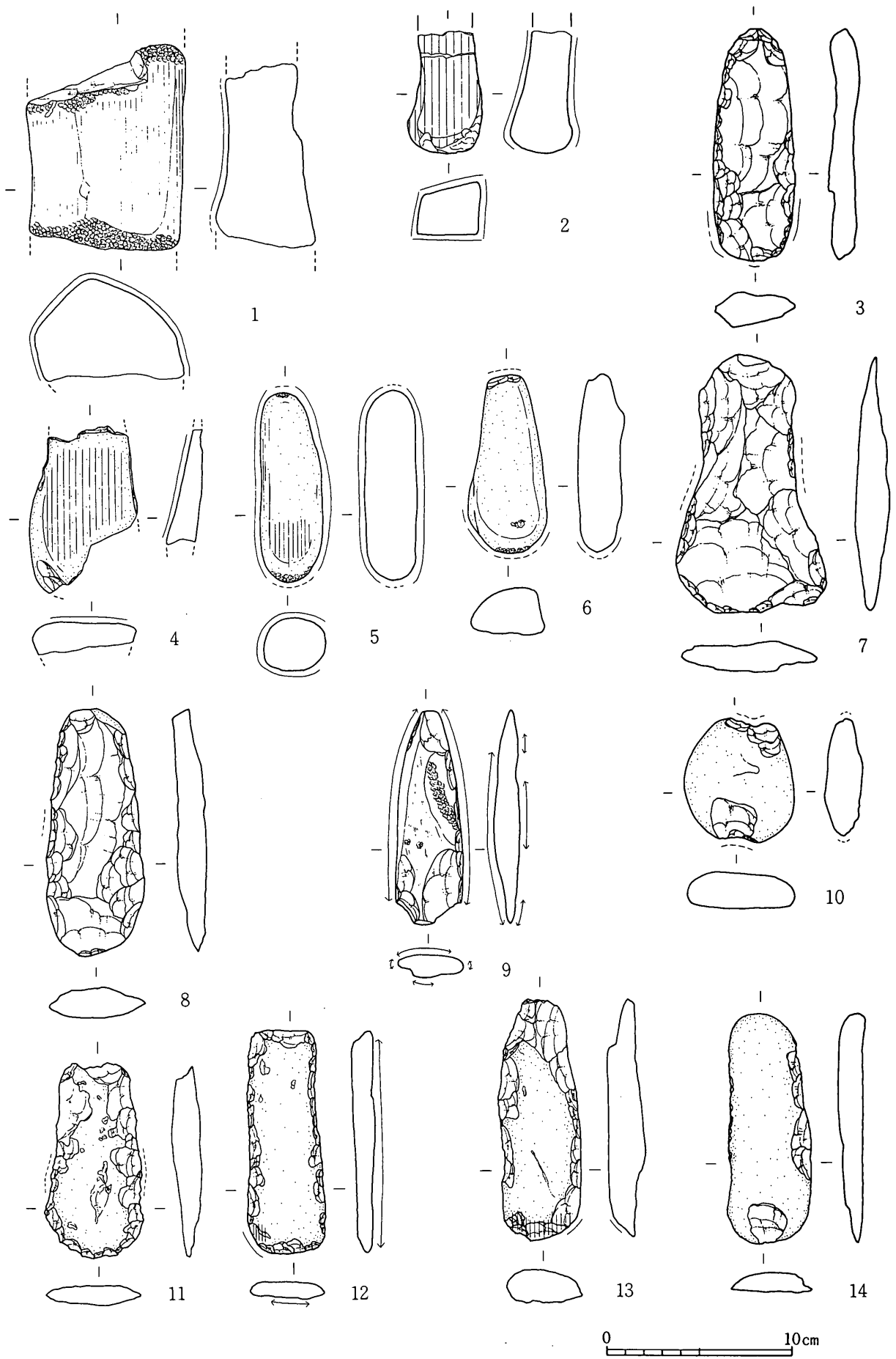


第9図 SB51 SB64 SM17 SD52  
遺構外出土遺物 (1)



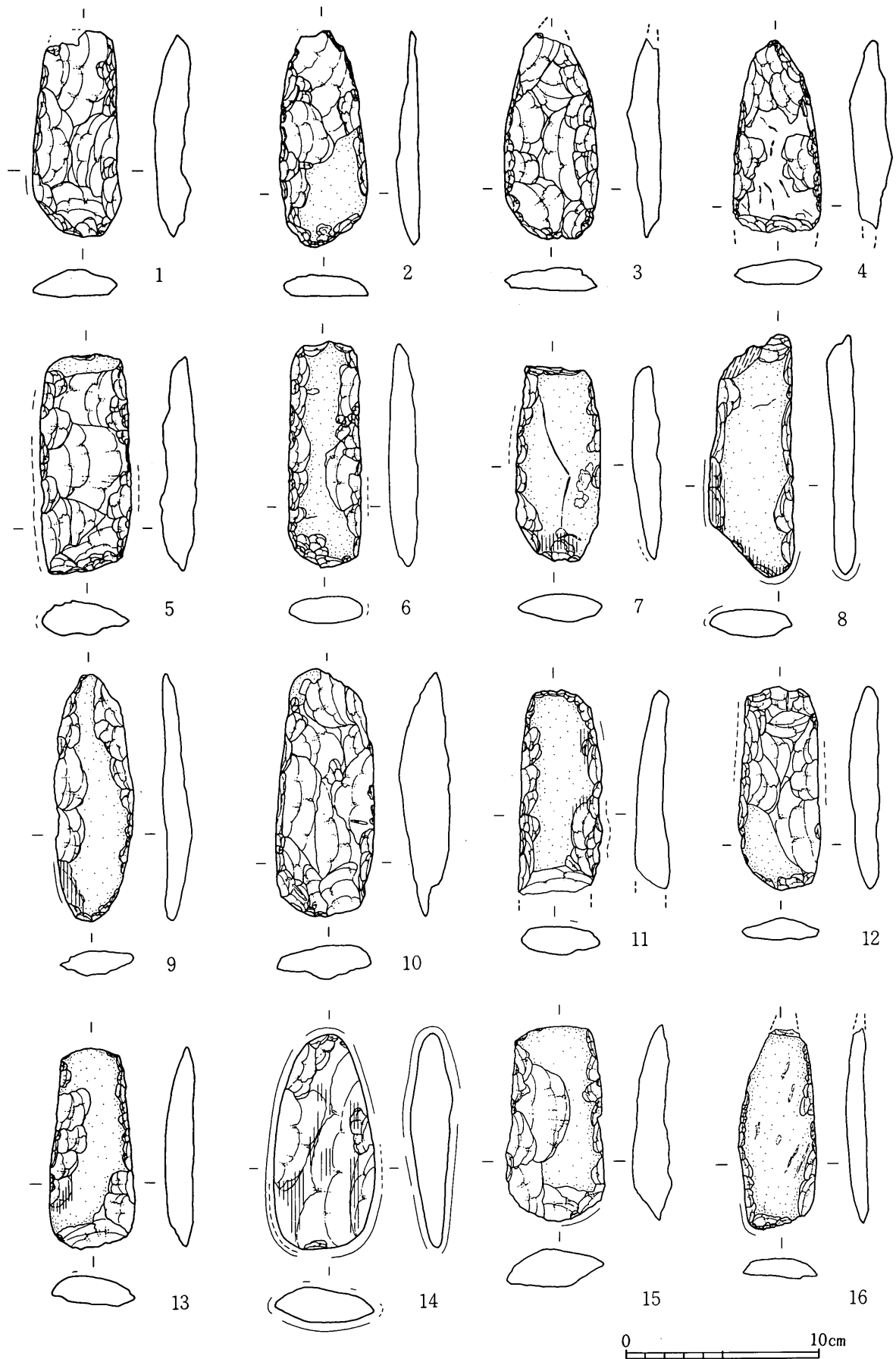
0 10 cm

第10图 遺構外出土遺物 (2)  
SB 44 SB 72

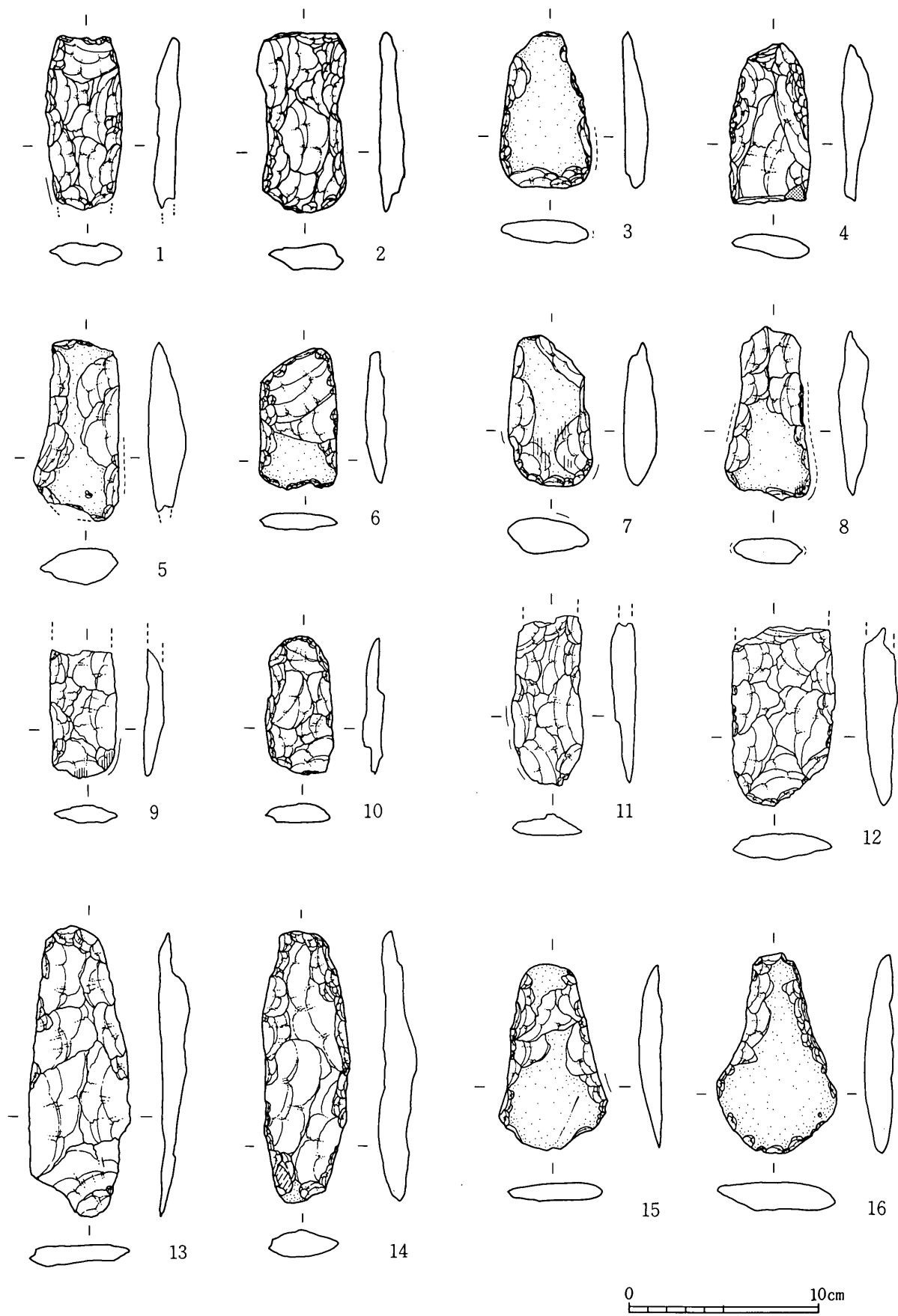


第 11 図 遺構外出土遺物 (3)

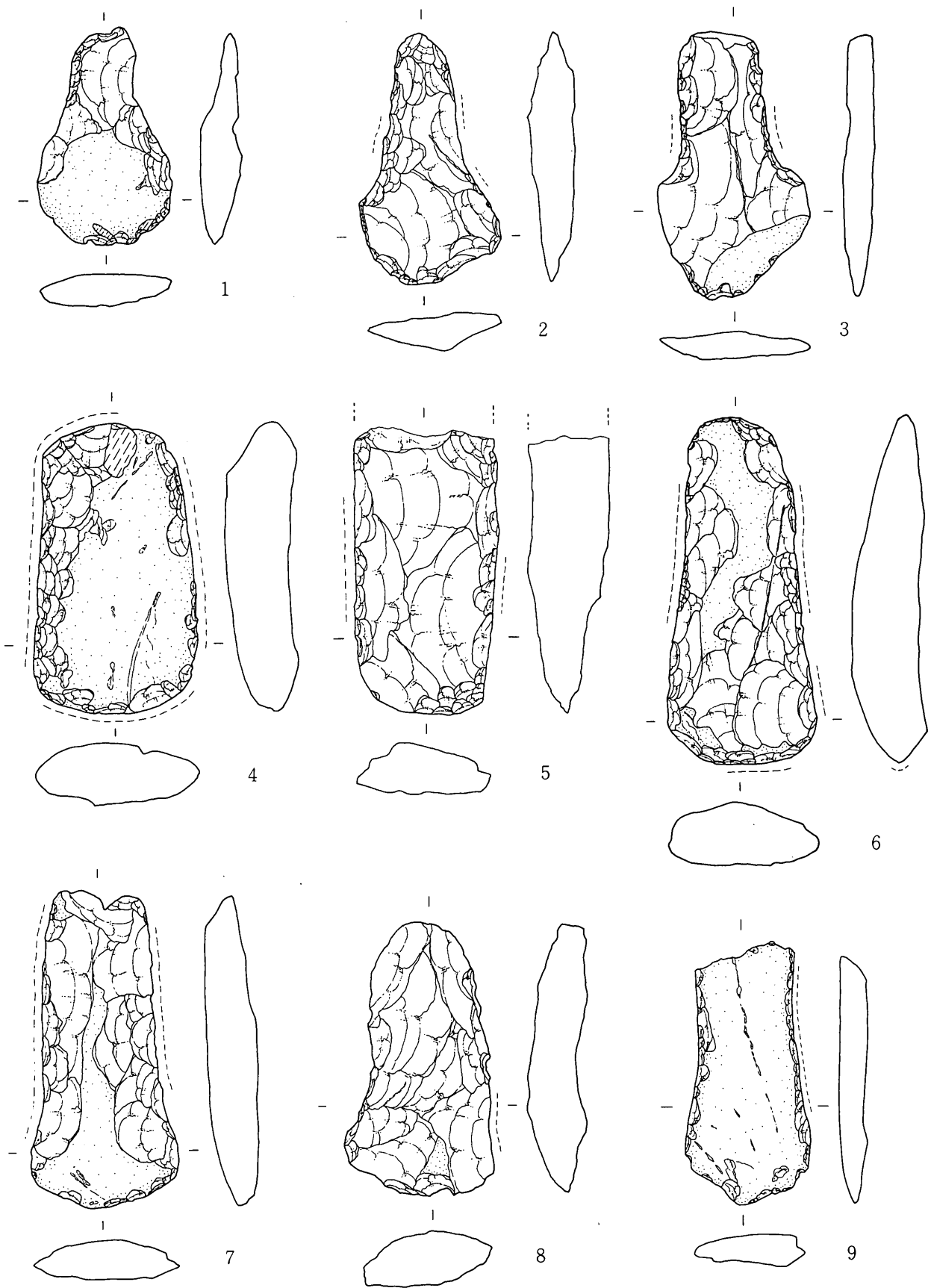




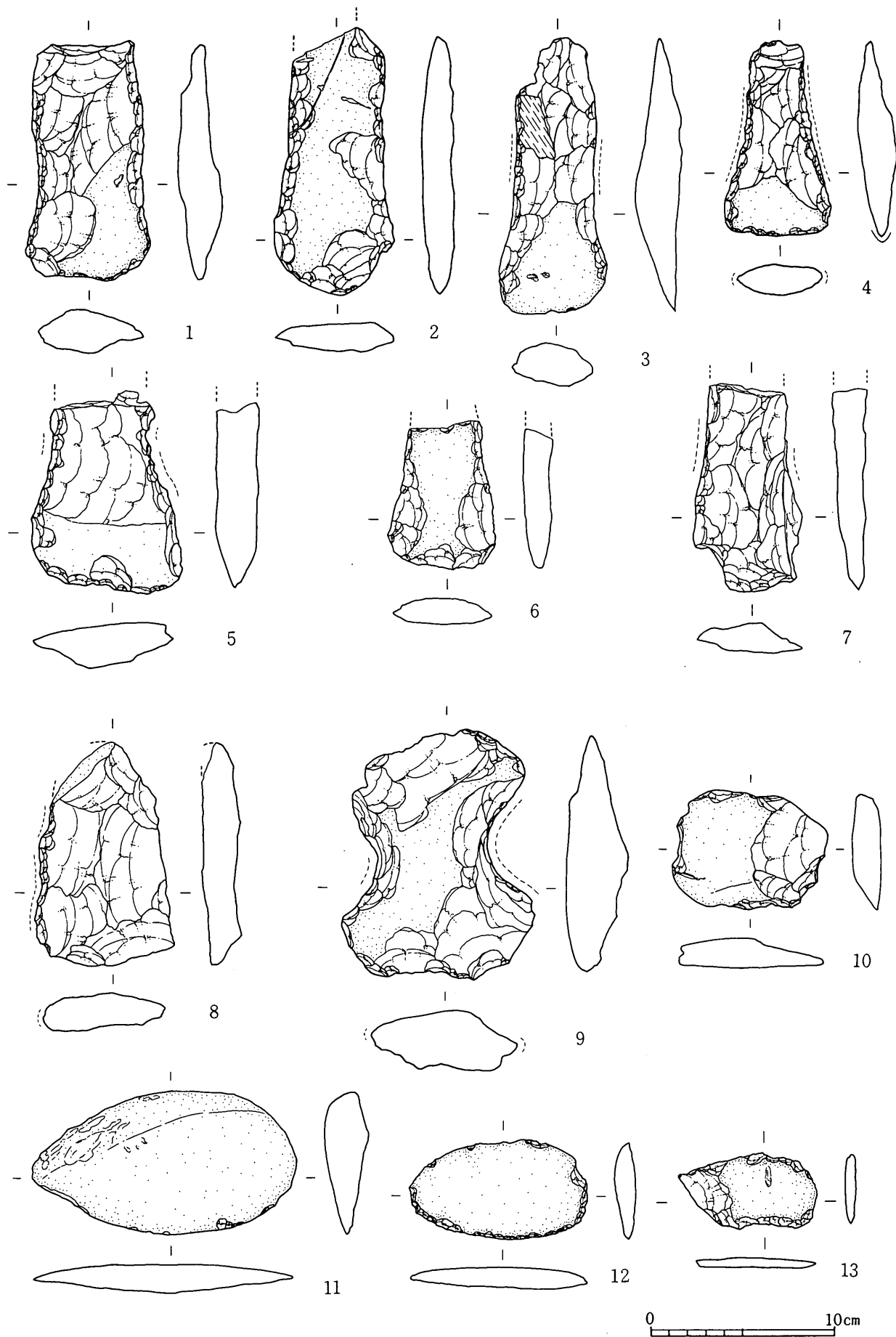
第 1 2 図 遺構外出土遺物 (4)



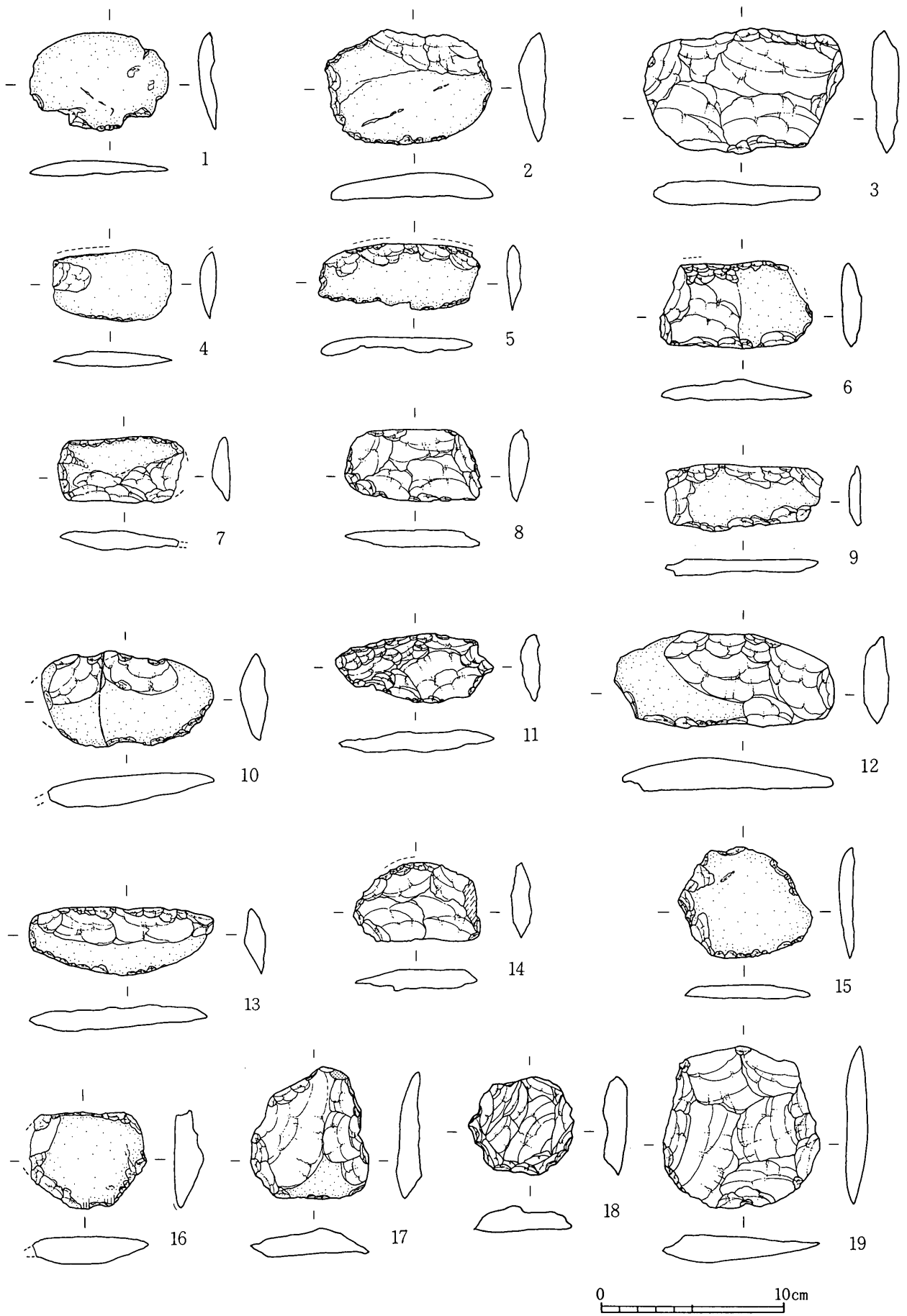
第 1 3 图 遺構外出土遺物 (5)



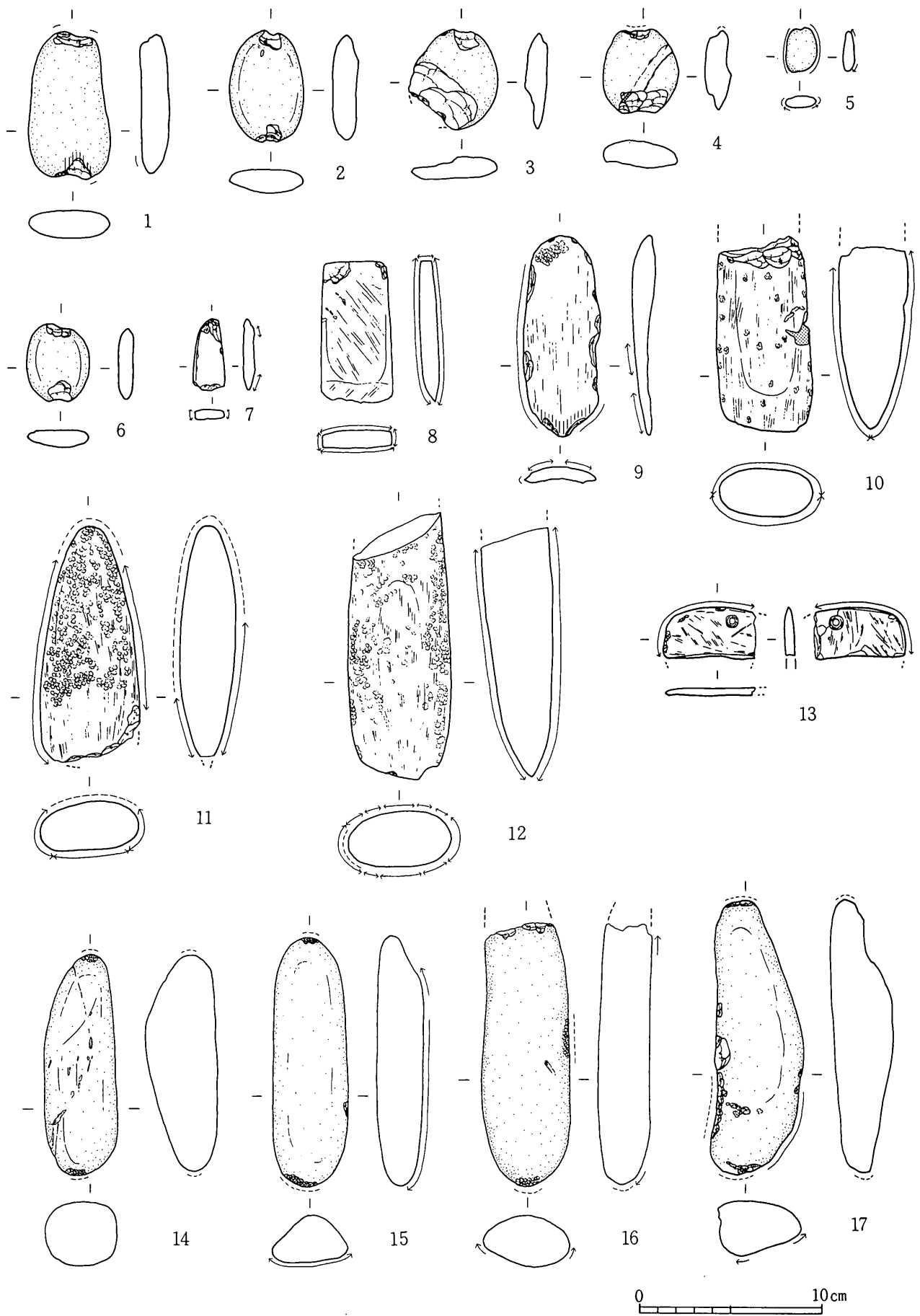
第 1 4 図 遺構外出土遺物 (6)



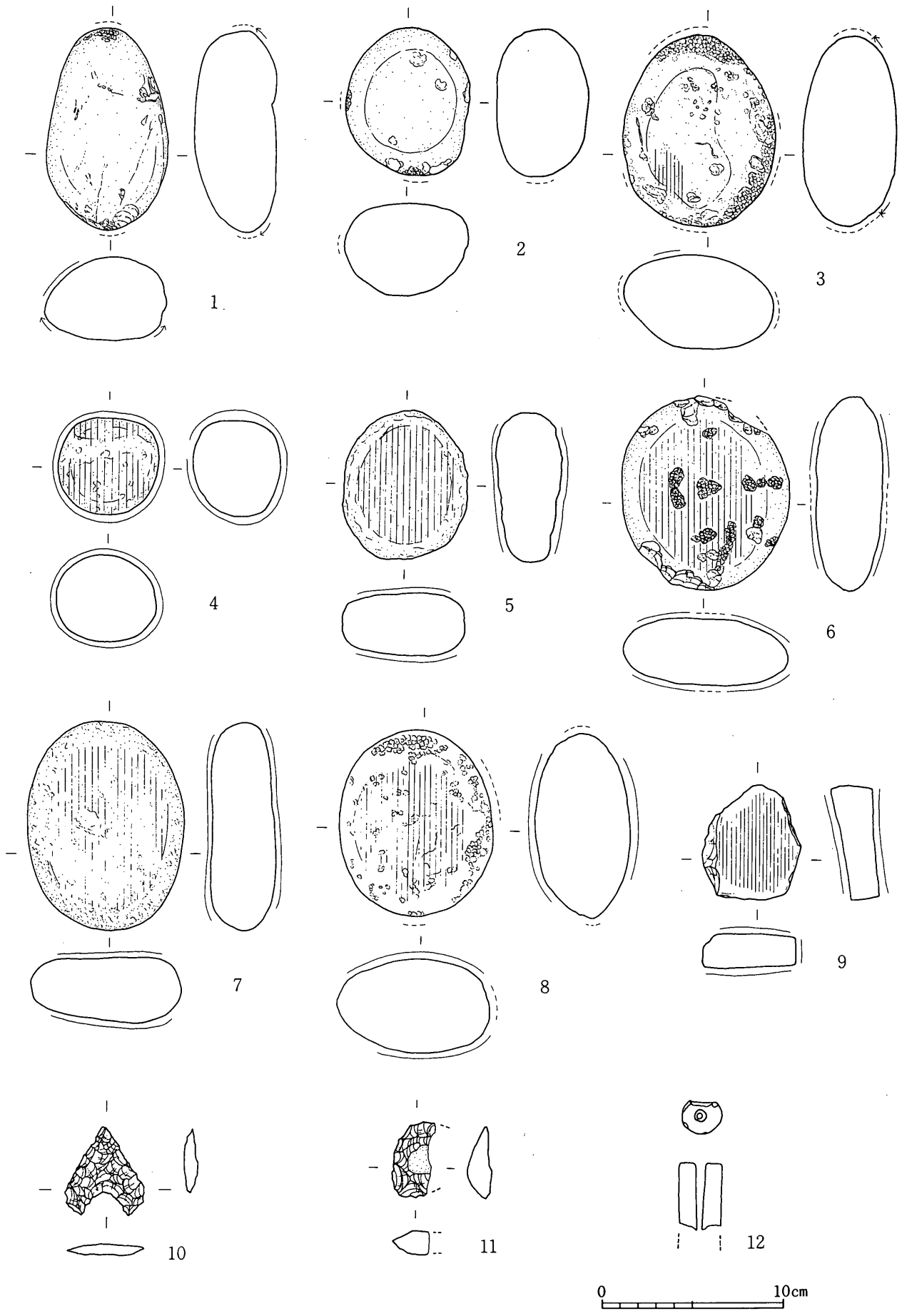
第15図 遺構外出土遺物 (7)



第16図 遺構外出土遺物 (8)

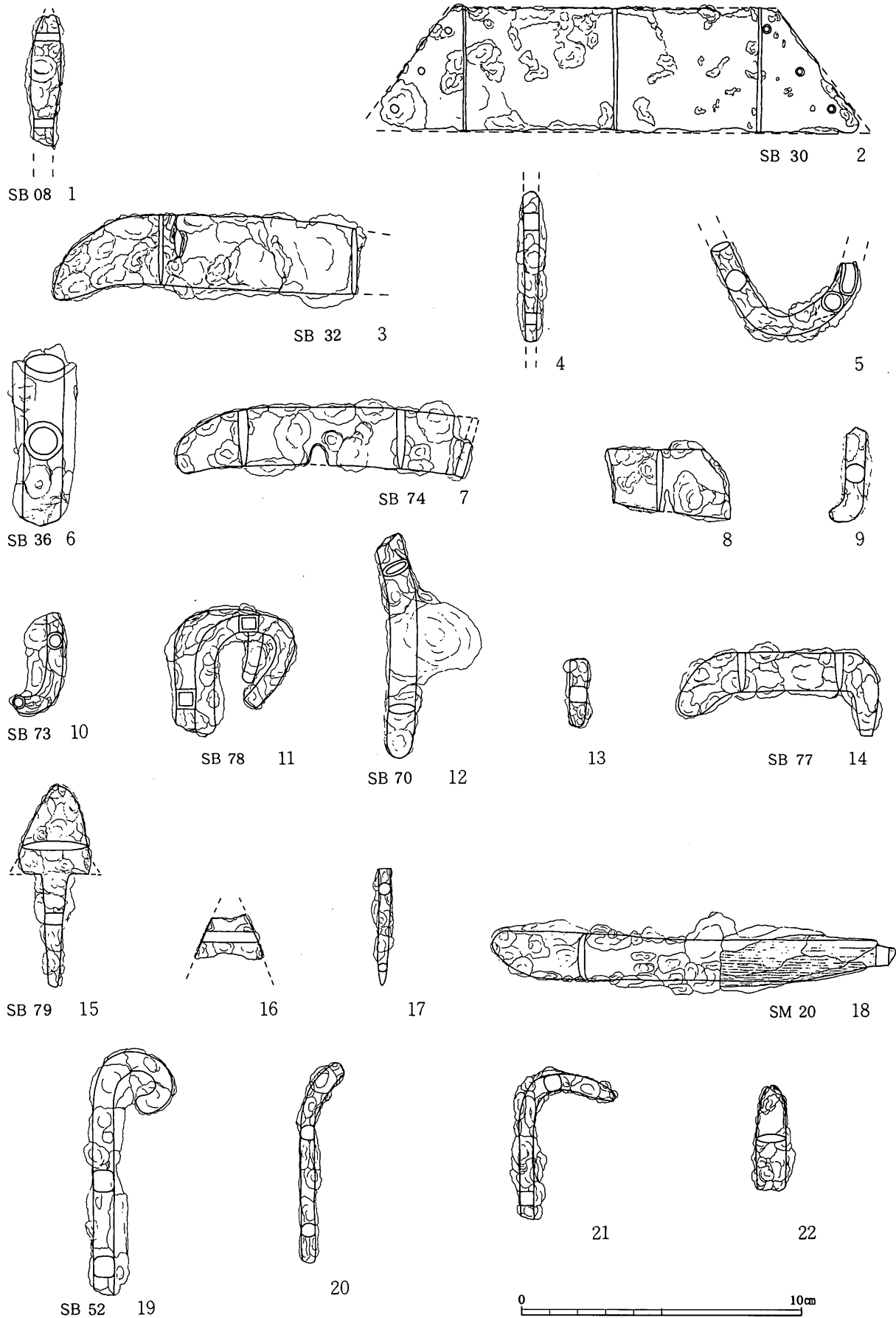


第 17 図 遺構外出土遺物 (9)



0 10cm

第18図 遺構外出土遺物 (10)

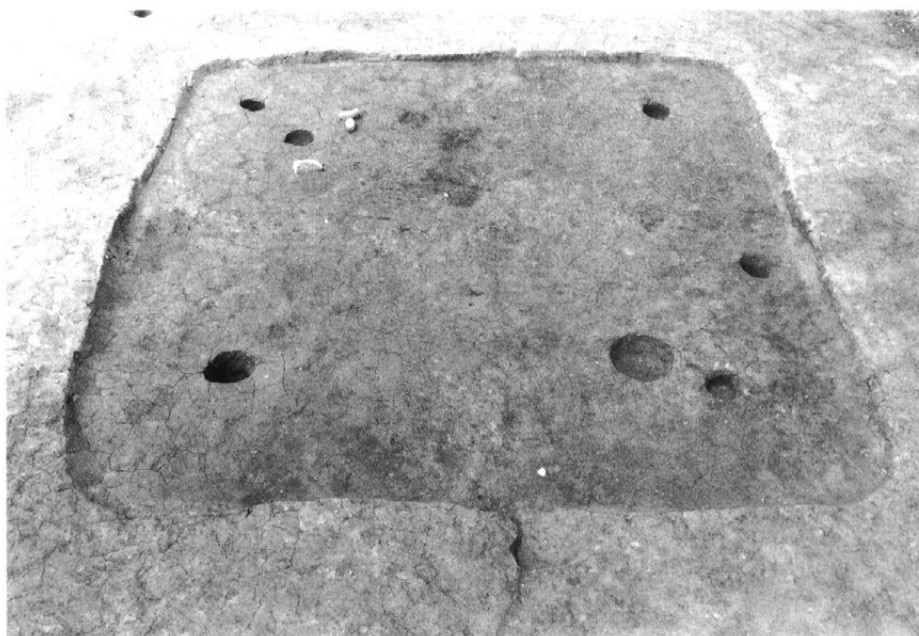


第19図 SB08 SB30 SB32  
 SB36 SB74 SB73  
 SB78 SB70 SB77  
 SB79 SM20 SB52 遺構外出土遺物 (11)

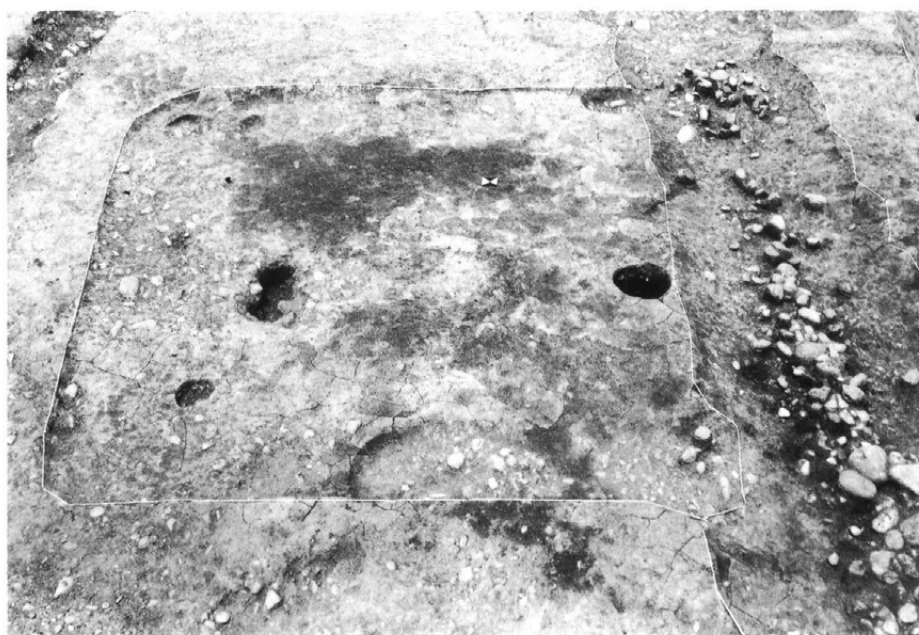




SB 0 2



SB 2 2

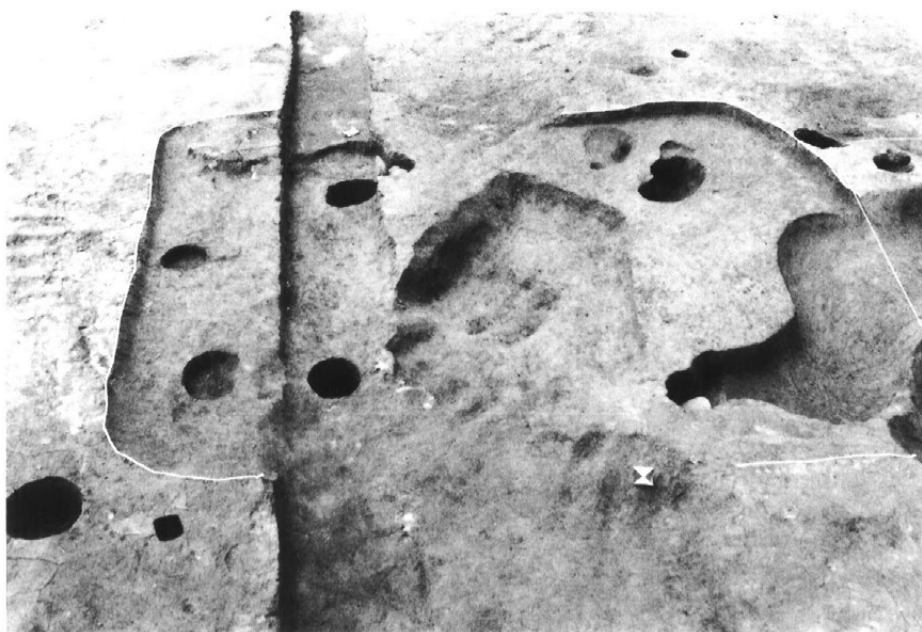


SB 2 4 · 2 5





SB 28



SB 37



SB 26

SB 3 8



SB 3 9

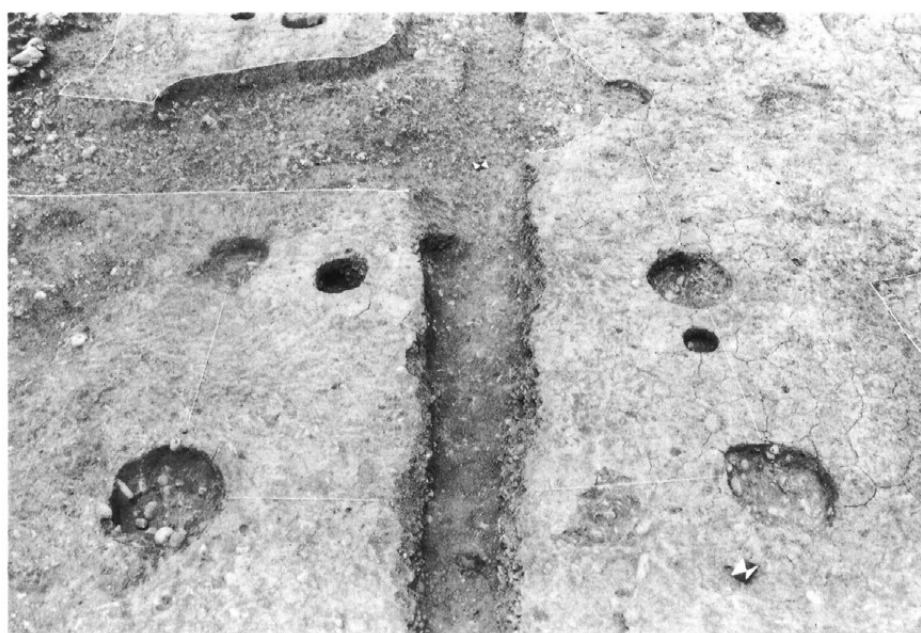


ST 0 1





ST03



ST04



ST05

ST06



ST09



ST10





SM04



SM05

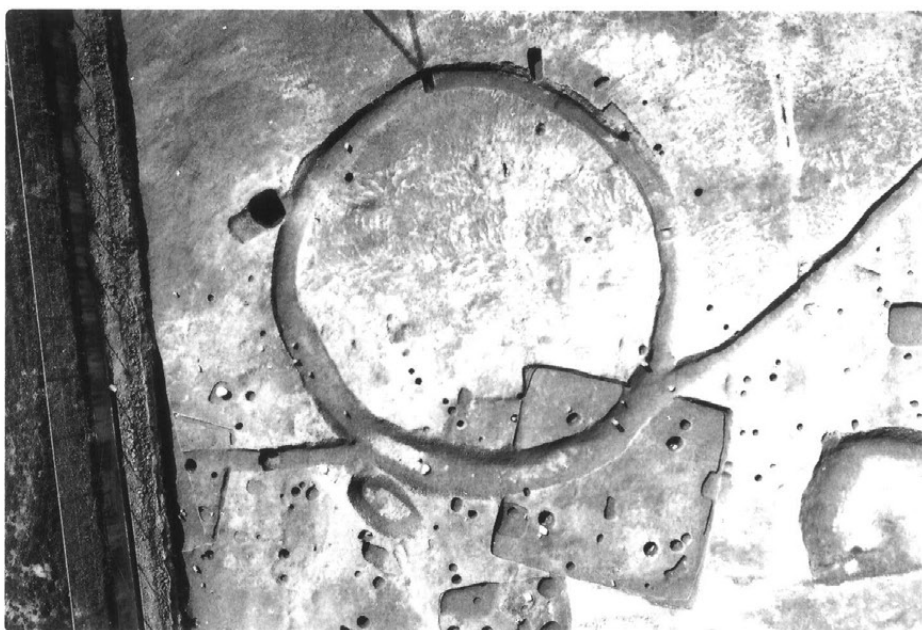


同土器棺

SM06



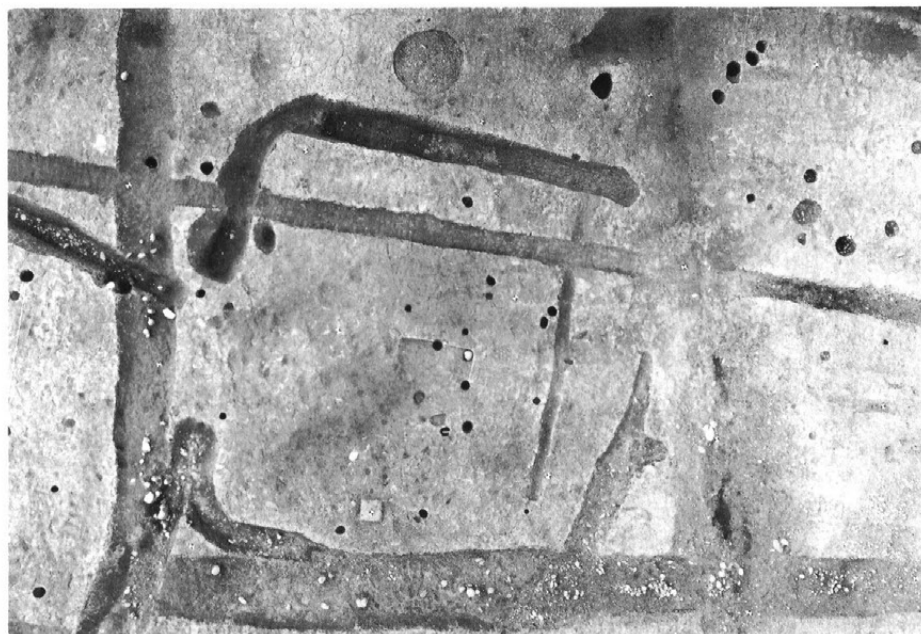
SM08



SM09







SM 1 1



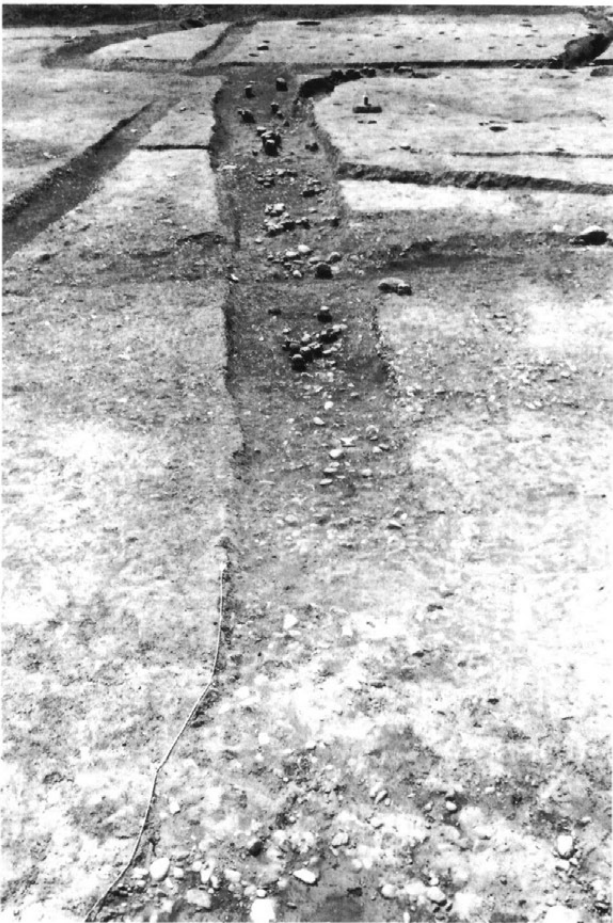
SK 1 9



SD 2 5



SD 3 0





第1地点全景

SB 4 4

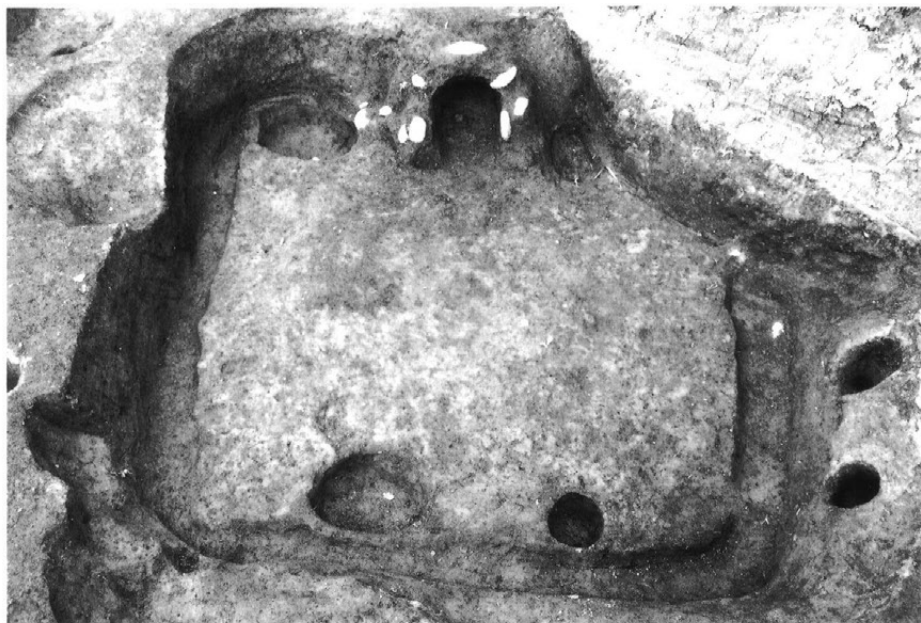


SB 4 5



第 2 地点 全 景





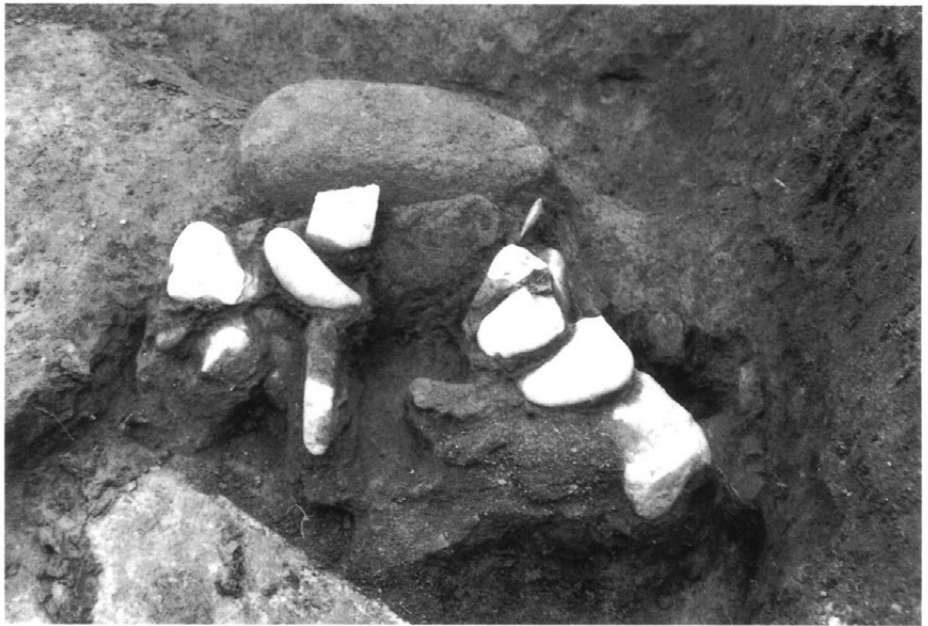
SB59



同カマド



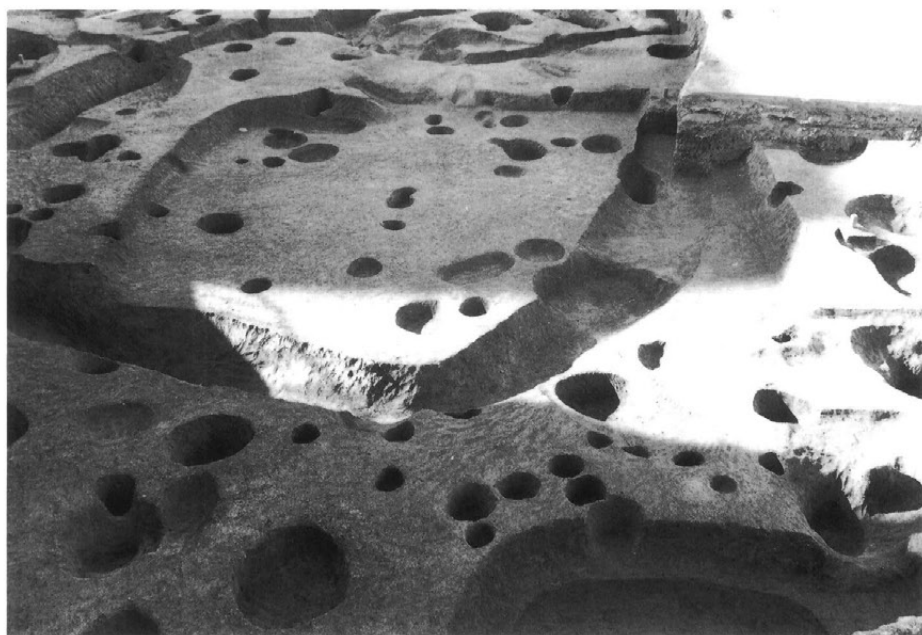
同遺物出土状況



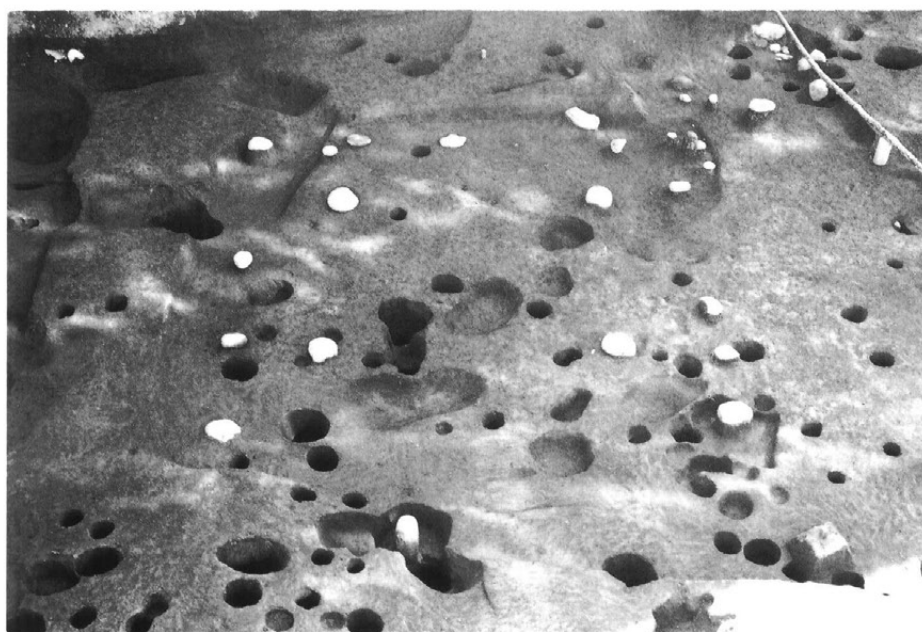
SB57カマド



第3地点全景



SB 7 4

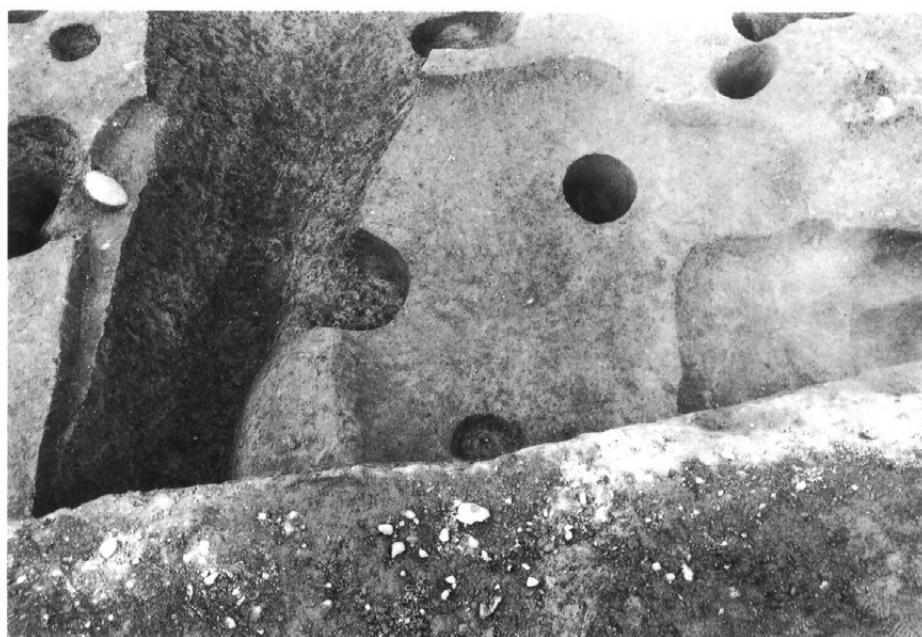


SB 7 2



SB 7 8

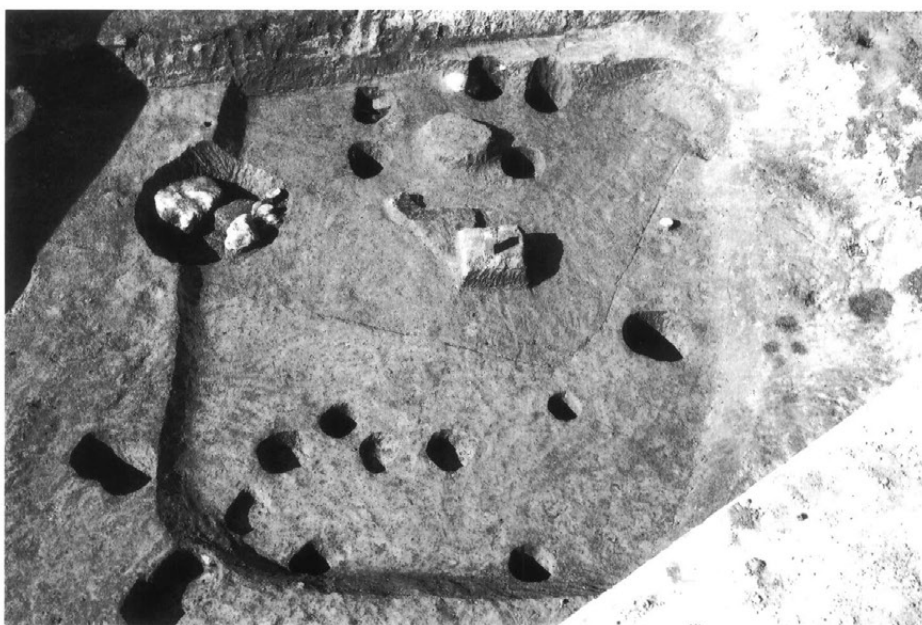
SB 82



SB 70



SB 77







SB79



同カマド



第4地点 全景

SB 5 1



SB 5 2



SM 1 4





SM17



SK57



SK59



第5地点 全景



重機作業風景



同上



発掘作業風景

発掘作業風景



同上



現地見学会

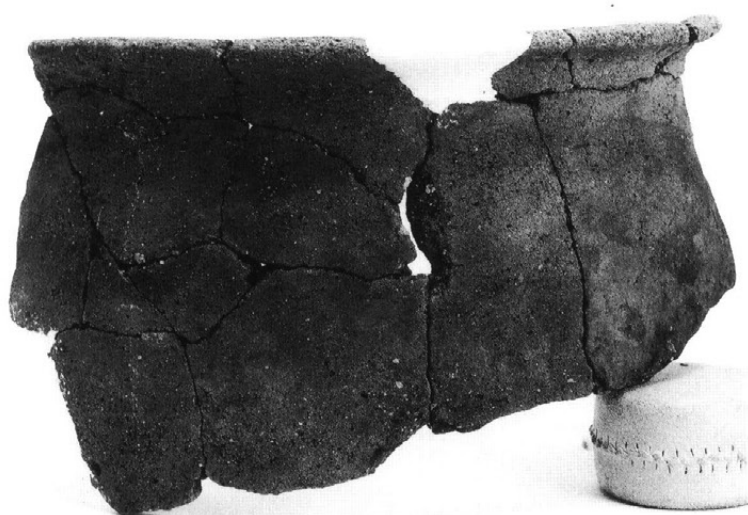




SB 0 2



SB 0 7



SB 0 8



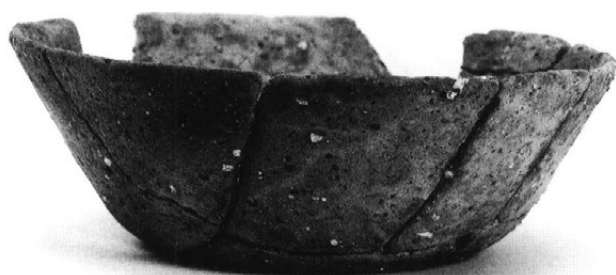
SB 2 1



SB 2 4



SB 23



SB 23

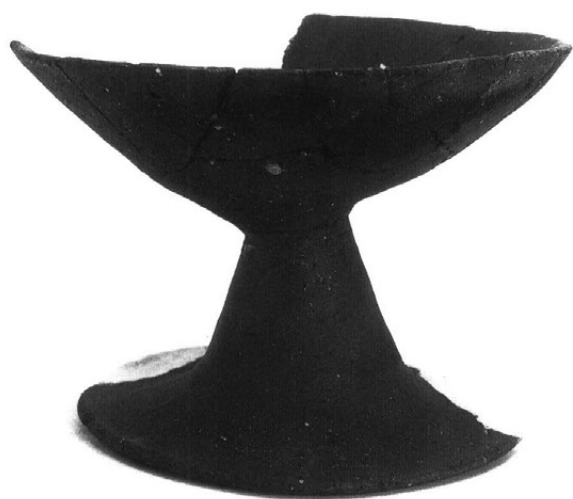


SB 33



SM 05

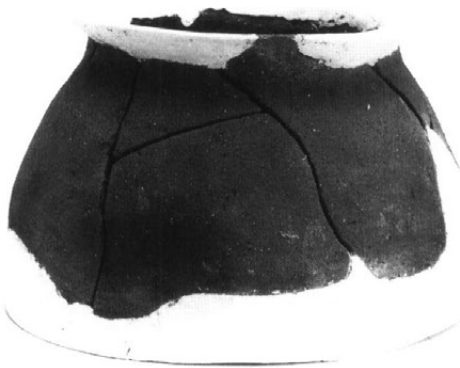




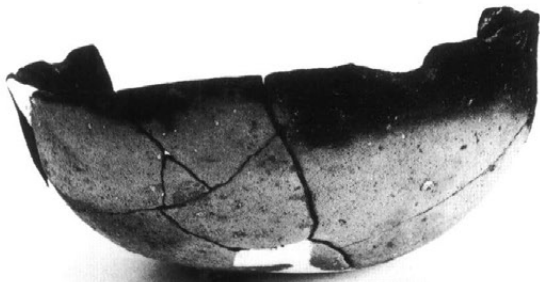
SM 0 6



SM08

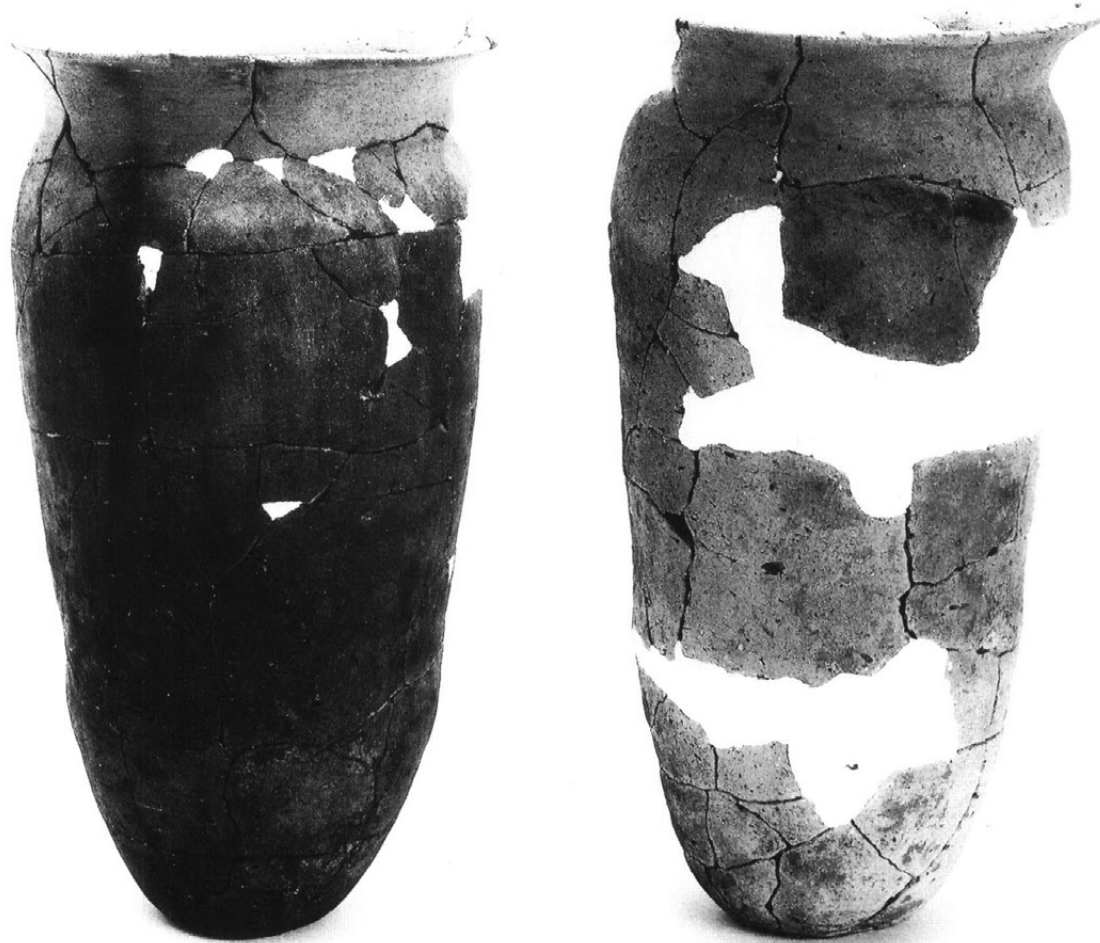


SB44





SB 59

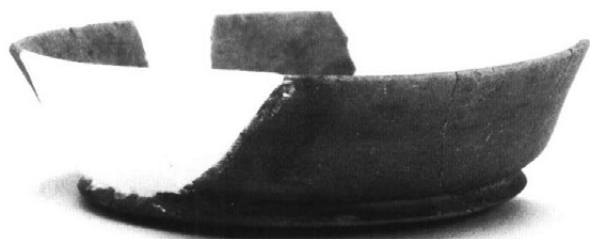




SB 59



SB 59



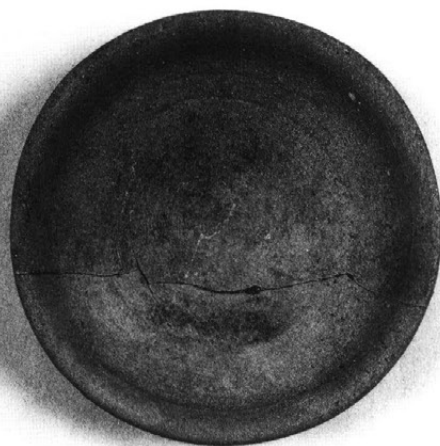
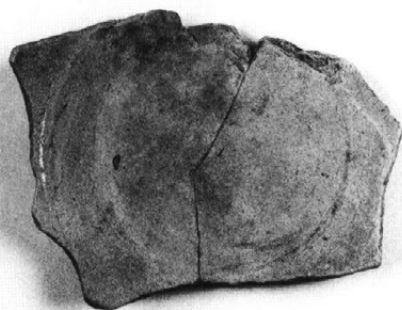
SB 74



SB 68



SB77



SB79



SM20



遺構外

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	たんばいせき							
書名	田圃遺跡（Ⅱ）							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬場保之							
編集機関	長野県飯田市教育委員会							
所在地	〒395-0002 長野県飯田市上郷飯沼3145番地 ☎0265-53-4545							
発行年月日	西暦1999年 12月 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				m <sup>2</sup>	
たんばいせき 田圃遺跡	飯田市毛賀 470他	2053		35° 29' 05"	137° 50' 40"	平成7年 4月3日～ 平成9年 2月12日	5,630m <sup>2</sup>	学校建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
田圃遺跡	集落址	弥生時代 後期 古墳時代 奈良時代 平安時代 中世	竪穴住居址 79棟 掘立柱建物址 13棟 周溝墓 18基 土坑 73基 溝址・溝状址 33条 集石 7基 その他		弥生時代 土器・石器 古墳時代 土師器 須恵器 平安時代 土師器 須恵器 灰釉陶器 中世 陶器	主に弥生時代から中世にかけての集落変遷が把握された。 弥生時代後期から古墳時代中期の墳墓群、奈良時代から平安時代前期の礎石を伴う住居址が特筆される。		



---

---

## 田 圃 遺 跡 (Ⅱ)

1999年12月 発行

編集・発行 長野県飯田市上郷飯沼3145番地

飯 田 市 教 育 委 員 会

印 刷 杉 本 印 刷 株 式 会 社

